

◆ 古典古代から受験英語へ…

ラテン語・ギリシャ語・聖書に学ぶ英単語

<2021/07/07>

## ◆はじめに・・

本書はタイトルの通り、「ラテン語・ギリシャ語にまで遡って語源から英単語を一気に覚えてしまおう・・」という試みだ。しかし最初に断っておきたいのは、これが「単語集ではない」ということだ。あくまで単語暗記の「補助教材」として、暇な時に肩の力を抜いて、興味の湧いた箇所から、週刊誌でも読むようにして利用してほしい。筆者の実体験も含めて面白おかしく読めるようにしてある。正規の単語集としては世の中に素晴らしいものが多数で回っているのであるから、そちらを利用してほしい。また勘違いしてもらっては困るのだが、単語暗記の「王道」は、あくまで「丸暗記」だ。ちょっと見ただけでスラスラ覚えられてしまうのであれば、それが一番いいのである。しかし中学英語であればいざ知らず、高校英語も大学入試が近くなれば、そうそう都合よくは行かないものだ。何回やっても覚えられない単語も沢山ある。そんな時この本を利用して欲しい。最初から何の努力もしないで口を開けて、「一日で 1000 個覚えられる方法、何かないの？」という人がいるが、そんな人のための本ではないことは予めお断りしておきたい。

さて筆者がどのようにしてこの着想を得たかについては巻末に述べたのでそちらを参照してほしいのだが、この方法に最初に気づいたのは、かの文豪「森田太郎（鷗外）」だと言われている。彼はご存知のように医師でもあり、日清戦争にも従軍しているのだが、医学生だった頃、難解な専門用語に四苦八苦する先輩たちを、「何と非効率的な！」と、冷ややかに見下していたようだ。最近ではやっとこの「語源から類推する」という手法が、受験界でも認知されつつあるようだ。しかし筆者がこの著書の前身となる本（といっても冊子だが・・）を著した 12 年前は、語源学の専門の先生方の著書が、しかも「受験参考書」の棚ではなく、社会人向けの一般教養書の棚に散見される程度であった。

流石にあれから 12 年の歳月を経て、受験生用の単語集にも若干の変化が見られる。徐々にではあるが、「語源を紹介して暗記の一助とする」という手法が導入されつつあるのだ。しかしそれとて到底「十分」とは言い難い。何故か？それは英語を教えていらっしゃる先生方のほとんどが、「英語しか知らない」からだ。故にラテン語・ギリシャ語にまでは「自信をもって踏み込めない」のだ。さらに語源に言及している単語集でもせいぜい「ラテン語止まり」であって、「ギリシャ語」にまで踏み込んだ記述は筆者の知る限り「皆無」である。「ギリシャ語」となると、「ラテン語」よりさらに数段難しい。英語・ラテン語・ギリシャ語の難易度を比べれば、おそらく 1 : 3 : 10 くらいになるだろうか。言語学の高名な先生方の「知の財産」が、子供たちにまで届いていないのだ。この困難な試みに、敢えて挑戦したのが筆者の著書と考えていただいていいだろう。とはいえ筆者のラテン語・ギリシャ語も無論完璧からは程遠い。昨年で筆者も還暦を迎えたが、「日暮れてなお道遠し <Vita Brevis, Ars Longa.>」である。至らない点、ご不審な点があれば、どしどしご指摘頂きたい。時間が惜しい。さっそく本題に入ろう。

### (1) 「グリムの法則（第 1 次子音推移）」と「アブラウト（母音交替）」

ご存知「グリム童話」で知らぬ者のないあのドイツの「グリム兄弟（男 5 人兄弟だが、グリム兄弟と言えば長兄と次兄の 2 人を指す）」だ。兄は実は言語学者でもあった。そしてある音韻変化に気が付いた。例えば b が p に変化する・・などという規則だ。describe[ディスクリプト]「描写する」が description[ディスクリプション]「描写」と名詞になったとき、b が p に変化している。description[ディスクリプション]では確かに発音しづらい。他には pater「父親」が father に (p⇒f)。gno「知る」が know に (g⇒k)・・などがある。簡単に言えば p ⇔ f ⇔ g/t ⇔ th(θ) ⇔ d/k ⇔ h ⇔ g は相互に変換可能・・ということだ。細かい説明は本章に譲るが、「グリムの法則」と言ったら思い出してほしい。

子音が入れ替わるのが「グリムの法則」なら母音が入れ替わるのが「アブラウト<ablaut>」と呼ばれるものだ。原義は「音<laut>から離れる<ab>」でありドイツ語らしい。読み方は「アブラウト」でもいいらしいが、日本語でもよく見られる「木(ki) ⇒ 「木立(kodachi)」や「風(kaze) ⇒ 「風上(kazakami)」などである。また英語でも sing・sang・sung などがある。こちらも本編では極力詳（つまび）らかにするよう努めたが、最終的には「言語とはそういうものだ・・」と諦めて(?)ほしい。

### (2) 分類法について・・

夥しい数の英単語をどう分類したものか？と正直苦勞した。正確を期すれば細分化せざるを得ないが、それでは受験生諸君の暗記の妨げになる。そこで思い切って「大雑把なくくり」にすることにした。これは学術書ではないからだ。ありていに言えば、「ご先祖様が同じ」なら、「直系の子孫」だけでなく「いとこ」も「はとこ」も、さらに「遠縁の親戚」も、ドリフターズよろしくみんなに「全員集合！」をかけたのだ。例えば英語には「助動詞」の will という単語がある。volo「望む」というラテン語と同族語だ。しかし「古英語」にも willan という単語が、「現代ドイツ語」にも will/wollen という単語が存在する。古英語は現代英語の「親」であり、「現代ドイツ語」は「兄弟」。「ラテン語」はちょっと血縁が薄くなり「いとこ」といった関係だ。無論「インド・ヨーロッパ祖語（お爺さん）」から血を引いているから「顔」もよく似ている。そこでラテン語 volo の「親戚」の単語として全てまとめた・・ということなのだ。しかし「近縁」の単語でも、あまりに容貌が違いすぎている単語も見受けられる。そういった単語は混乱を避けるため排除しようかとも考えたが、一応載せることにした。拒絶反応を感じるようなら読み飛ばしていただいて構わない。一方「遠縁」であっても「顔が似ている」場合もある。そんな単語は積極的に登用した。かなり恣意的・主観的な分類法であることを、予めお断りしておく。

### (3) 表記の留意点

最後にこの単語集の使用上の注意点を書く。まずラテン語・ギリシャ語（ドイツ語・フランス語・含）はすべてイタリック（斜体字）の太字で表記し、発音は[ ]で示した。アクセントはこの両言語に関する限り、この際気にしないでいいだろう。またギリシャ語はローマン・

アルファベットに変換して表記したが、グreek・アルファベットも極力併記するよう努めた。対比して是非グreek・アルファベットでも読めるようになってもらいたいからだ。心配は無用だ。すぐに読めるようになる。筆者がこれを実感したのは、初めて海外を旅した時だ。旧ソ連を経由してギリシャに抜けた筆者だったが、ギリシャ国内は当然のことながら、すべてグreek・アルファベット表記だ。ローマン・アルファベットなど影も形もない。しかし読めなければ死活問題だ。旅を続けることができない。そこで物理や数学で習ったギリシャ文字を思い出し、見様見真似で読んでみたら、これが結構読めることに気が付いた。「π」は「パイ」だから「p」だな・・・とか、「γ」は「ガンマ」だから「g」かな？といった具合である。わからなければ併記してあるローマン・アルファベットと照らし合わせてくれればすぐに慣れる。ギリシャ文字の読み方も最初は載せてあったが、紙面の都合で割愛せざるを得なかった。一方ラテン語の読み方は受験生諸君は小学生で、つまり英語を学ぶよりも前にマスターしたのだから読めるはずだ。英語と違って「一つの文字には原則一つの読み方しかない」から有難い。

また動詞の活用は、「1人称・単数・現在形・直説法・能動態」の形、すなわち「I（私）を主語にしたとき」の活用を最初にもってきた。英語では動詞は「原形」つまり「原形不定詞」の形で辞書の見出し語となっているが、ラテン語・ギリシャ語ではこの「1人称・単数・現在形・直説法・能動態」の形で掲載されている。英語では「原形」が最も根本的な形だが、ラテン語・ギリシャ語ではそれほど重視されないからだ。一方「イタリック（斜体字）」になっていないものは「英語」と考えてもらって差し支えない。こちらも読み難いものは[ ]内に極力発音を表記した。日本語にない音を持つ英語をカタカナ表記するのはある種の「邪道」ではあるが、日本の学生は恥ずかしがって発音したがないので、カタカナ読みでも発音してくればその方がマシだと考えたからだ。「ネイティブの発音は・・・」などとカッコつける輩が最近多いが、日本人は日本人の発音をすればいいのだ。別にアメリカ人になるために英語を勉強しているわけではない。そもそも「英語の発音の方が間違っている」ことは、Great Vowel Shift「大母音転移」see⇒*sono* のところでも書いたとおりである。自信をもって発音してほしい。また「アクセント」だが、筆者の30年余にわたる指導経験から、学生諸君の「アキレス腱」は熟知しているので、そんな単語にはすべてブラインドをかけてある。とくに注意が必要なのは「日本語になっている単語」だ。「9割がたアクセントは間違っている」と考えていい。試験ではくれぐれも注意することだ。

**では健闘を祈る！**

# A

(1) **a** ギリシャ語の「否定」を表す。anにも変化する。英語のunと同根。

**atom** (「原子」・see⇒**tome** / **in**② / **ab**) / **apathy** (「無感動・無関心」 see⇒**pathos** / **in**②) / **anonymous** (「匿名の」 see⇒**in**② / **nomen**) / **Pteranodon** (「プテラノドン」・「翼はあっても歯のない<a>者」が原義。see⇒**dens** / **sauros**) / **anecdote** (「逸話・秘話」 see⇒**do** / **ex**) / **argon** (「アルゴン (原子の名前)」⇒**energeia**) / **amnesia** (「健忘症・記憶喪失」 see⇒**mens**) / **amnesty** (「恩赦」 see⇒**mens**) / **adamant** (「堅固な」・「ダイヤモンド」の語源となった。see⇒**domus** / **-ans**) / **enemy** (「敵」 see⇒**amicus** / **in**①) / **anarchy** (「無政府状態」 see⇒**archo**)

(2) **ab** ①「～無しで・・・」・「分離」を表す。ギリシャ語の **apo**=α π ο [アポ]を起源としラテン語の **ab**を経て英語の a / ab / of / off / after へと繋がった。ただし **atom**「原子 (これ以上切れない物)」などの a は同じくギリシャ語起源だが無関係だ。こちらは「否定」を意味する。see⇒**tome** / **a** / **in**②

**abduction** (「誘拐」 see⇒**duco** / **placeo**) / **abnormal** (「異常な」 see⇒**norma**) / **abolish** (「廃止する」 see⇒**altus**) / **aboriginal** (「土着の・原生の」 see⇒**orior** / **genus**) / **abort** (「生まれなくさせる。流産する (させる)」・またコンピューター用語で「プログラムを中止する」の意味もある。see⇒**orior**) / **abound** (「～に富む」 see⇒**sur** / **unda**) / **abruptly** (「突然」 see⇒**rumpo**) / **absent** (「欠席している」 see⇒**est**) / **absolute** (「絶対的な」 see⇒**latus** / **laxo**) / **abstract** (「抽象的な」 see⇒**traho**) / **abundant** (「豊富な」 see⇒**sur** / **unda** / **-ans**) / **abuse** (「乱用」 see⇒**utilis**) / **advance** (「進歩した」・ab + ante で「～から離れ<ab>て前に<ante>」だ。[アバン]⇒[アドバン]と変化した。see⇒**ante** / **medius**) / **advantage** (「利点・長所」・advance と理屈は同じ。「他人より進歩している点」という意味だ。see⇒**ante** / **Mercurius**) / **Apocalypse** (「アポカリプス (ヨハネ黙示録)」・**kalypto**=κ α λ υ π τ ω [カリュプト]が cover / hide「隠す」だから「隠されたものを開示すること」だ。旧約・新約聖書 66 巻の最後の 1 巻がこの「ヨハネ黙示録」である。「人類の滅亡」とその後の「キリスト再臨」までが記されていると言われる。無論普通の人間が読んでもわからないような表現で記されているのだが。筆者も何度読んでもわからない。) / **apology** (「謝罪」 see⇒**logos**) / **apoptosis** (「アポトーシス (細胞の自然死)」・「離れて<apo>落ちる<pto = **pipto**>」が原義。人間の体内では常にガン細胞が生まれている。そのままではガンで宿主が死んでしまうので、細胞は「自ら死を選ぶ」ことで、この癌化を阻止していると言うのだ。このアポトーシスの網目を潜り抜けたものが「ガン」になる・・・というのだ。これは「Hela (ヒーラ) 細胞」や「テロメア<telomere> see⇒**terminus**」、 「不老不死」とも関係してくるので、興味のある方は調べてみるといい。これは医学部用単語集ではないので深入りは避け、他日を期すこととした。**pipto**に関しては **symptom**「症状」を参照して欲しい。see⇒**sim**) / **avert** (「(目などを) そむける・(危険などを) 避ける」 see⇒**verto**) / **avoid** (「避ける」 see⇒**vaco**)

(3) **ad** ①「～の方向へ」・「～に向けて」・また後ろの単語に影響されて a / ac / ap / ab / af・・・など様々に変化する。

**ab**) **abbreviate** (「簡略化する・省略する」 see⇒**brevis**) / **abandon** (「捨てる」 see⇒**fabula**)  
**ac**) **access** (「接近」 see⇒**cedo**) / **accept** (「受け入れる」・前に進んで取る・・・が原義。receive「受け取る」と区別すること。see⇒**capio**) / **achieve** (「獲得する」・see⇒**capio**) / **accomodation** (「宿泊施設」 see⇒**modus** / **cum**) / **accomplish** (「達成する」 see⇒**plenus** / **cum**) / **accompany** (「同伴する」 see⇒**pan**) / **account** (「考慮・説明」 see⇒**puto**) / **acquire** (「獲得する」 see⇒**qui**) / **accustomed** (「慣れた」 see⇒**tome**) / **accident** (「事故・出来事」 see⇒**cado**) / **accent** (「アクセント」 see⇒**canto**) / **accuse** (「責める・告訴する」 see⇒**causa**) / **acknowledge** (「認める」 see⇒**cogito**) / **acquaint** (「知らせる」 see⇒**cogito**) / **accord** (「調和する・一致する」 see⇒**cor**) / **accurate** (「正確な」 see⇒**curo**)

**ad-af**) **adverb** (「副詞」 see⇒**jacio** / **vertum**) / **adjective** (「形容詞」 see⇒**jacio**) / **adjacent** (「隣接した」 see⇒**jacio**) / **advent** (「出現・襲来」 see⇒**venio**) / **admit** (「認める」 see⇒**mitto**) / **adopt** (「採用する・養子にする」 see⇒**opto** / **aptus**) / **adorn** (「飾る」 see⇒**ordo**) / **adore** (「崇拜する」 see⇒**oro**) / **adventure** (「冒険」 see⇒**venio**) / **advice** (「忠告」 see⇒**video**) / **advocate** (「提唱する」 see⇒**vox**) / **adhere** (「くっつく」 see⇒**haereo**) / **advertise** (「宣伝する」 see⇒**verto**) / **adult** (「大人・大人の」 see⇒**altus**) / **adapt** (「順応する・適応する」 see⇒**aptus** / **opto**) / **addict** (「中毒にさせる」 see⇒**dico**) / **add** (「加える」 see⇒**do** / **multus**) / **adjust** (「調整する」 see⇒**jus**) / **administration** (「行政・管理」 see⇒**minus**) / **admire** (「賞賛する」 see⇒**miror**) / **adequate** (「適切な・十分な」 see⇒**aequalis**) / **adolescence** (「青年時代」 see⇒**scando** / **altus**) / **adept** (「熟達した・名人」 see⇒**aptus**) / **address** (「住所・演説する・呼びかける」 see⇒**rex**) / **affirmative** (「肯定的・断定的な」 see⇒**firmus**) / **affliction** (「苦痛」 see⇒**fligo**) / **affect**① (「影響を与える」 see⇒**facio**) / **affair** (「事件・出来事」 see⇒**facio** / **energeia**)

**ag**) **aggressive** (「攻撃的な」 see⇒**gradus**) / **agree** (「同意する・賛成する」 see⇒**gratia**)

**al-am-an**) **allow** (「許す」 see⇒**laudo** / **mitto**) / **allocate** (「(土地などを) 割り当てる・分配する」 see⇒**locus**) / **allied** (「同盟した」 see⇒**longus**) / **allege** (「(根拠もなく) 断言する」 see⇒**lex**) / **amuse** (「楽しませる」 see⇒**mens**) / **amount** (「～に達する」 see⇒**mineo**) / **announce** (「発表する」 see⇒**nuntio**)

**ap**) **appease** (「なだめる」 see⇒**pax**) / **appeal** (「訴える」 see⇒**pello**) / **appendix** (「付録・盲腸」 see⇒**pendeo**) / **appoint** (「指名・任命する」 see⇒**penetro**) / **appetite** (「食欲」 see⇒**peto**) / **apprehend** (「理解する」 see⇒**prehendo**) / **approve** (「是認する」 see⇒**probo**) / **approximately** (「おおよそ」 see⇒**proximus**) / **approach** (「近づく」 see⇒**proximus**) / **apparatus** (「器具」 see⇒**para**) / **apart** (「離れ

て」 see⇒*par*) / **appear** (「現れる」 see⇒*porto/trans*) / **applause** (「拍手喝采」 see⇒*laudo*) / **appetizer** (「前菜」 see⇒*peto*) / **apply** (「適応させる・応用する・応募する」 see⇒*plico*)

**ar)** **arrive** (「到着する」 see⇒*rivus/rheuma*) / **arrest** (「逮捕する」 see⇒*sto*) / **arrogant** (「傲慢な」 see⇒*rogo*)

**as)** **ascend** (「上昇する」 see⇒*scando/trans*) / **assent** (「同意する」 see⇒*sensus*) / **assert** (「断言する」 see⇒*sero*) / **assessment** (「査定」 see⇒*sido*) / **assignment** (「宿題・割り当て」 see⇒*signum*) / **assemble** (「集める」 see⇒*sim*) / **associate** (「付き合う・連想する」 see⇒*socio*) / **aspire** (「熱望する」 see⇒*spiro*) / **assist** (「援助する」 see⇒*sto*) / **ascribe** A to B (「AはBのおかげ」 see⇒*tri/scribo*) / **assume** (「想定する・最初から決めてかかる」 see⇒*sumo*) / **assure** (「(人に対して) 自信をもって言う・保証する」 see⇒*curo*)

**at-av-aw)** **attempt** (「試み」 see⇒*tendo*) / **attention** (「注意」 see⇒*tendo*) / **attest** (「証明する」 see⇒*testa*) / **attorney** (「弁護士」 see⇒*torqueo*) / **attract** (「引き付ける」 see⇒*traho*) / **attribute** A to B (「AはBのおかげ」 see⇒*tri/scribo*) / **attain** (「達成する」 see⇒*tango*) / **attach** (「くっつける」 see⇒*tango*) / **avail** (「利用する」 see⇒*valeo*) / **avenue** (「通り」 see⇒*venio*) / **avid** (「熱心な」 see⇒*video*) / **award** (「賞を」授与する」 see⇒*verto*)

(4) **aequalis** - *aequalis* - *aequale* [アエクアーリス・アエクアーリス・アエクアーレ] <羅>=equal 「等しい」・a と is を取ってみてほしい。equal が現れる。また *prae* ⇒ *pre* など、ラテン語の *ae* は英語では e に変化する。

**equal** (「等しい」) / **equator** (「赤道」・南北を等しく分割する線。) / **Ecuador** (「エクアドル (国名)」・スペイン語で文字通り「赤道」の意だ。) / **equation** (「方程式」・確かに「左右が等しい」。また「方程式」と似ているのが「恒等式」だ。2x=8 など、「方程式」はある特定の数値においてしか成り立たないが、「恒等式」は文字 (ここでは  $\theta$ ) にどんな数値を代入しても成り立つ式。例えば  $\tan \theta = \sin \theta / \cos \theta$  などだ。 **simultaneous equations** 「連立方程式」については see⇒*sim*) / **equivalent** (「等しい」 see⇒*valeo*) / **equality** (「等しさ」) / **equilibrium** (「平衡・釣り合い」・「平衡」は「化学平衡」「力学的平衡」「熱平衡」などとして「物理」や「科学」で学習する。 *librium* は *libra* 「天秤」だ。 see⇒*libra*) / **equinox** (「春分点・秋分点」・昼と夜の長さが等しくなること。 see⇒*nox*) / **adequate** (「適切な・十分な」・もろに「平等」<equa>の方向へ<ad>・・・だ。分け方としては平等がやはり適切だ。またみんな平等に分配できるくらい十分な・・・との意から、この意味が出た。 see⇒*ad*)

(5) **ago** - *agere* - *egi* - *actus* [アゴー・アグレ・エーギー・アークトウス] <羅>=drive 「駆り立てる」 / lead 「導く」・またギリシャ語でもまったく同じで  $\alpha \gamma \omega$  [アゴー]だ。

**act** (「行動する・法律」・「行動」とは「駆り立てられた物」が原義。また「法律」は「議会の行為」に由来する。アメリカ独立戦争の直前に「ボストン茶会事件」というのがあった。この事件の引き金となったのが「茶法」<Tea Act>だ。) / **action** (「行動」) / **active** (「活発な」) / **actual** (「実際の」・「行動」とは「実際に行われたこと」だからだ。口先だけでは意味がない。) / **actually** (「実は」・この単語の訳には若干注意が要る。「(一見～のように見えるが) 実はそれとは反対に・それどころか」という訳し方もある。また *in fact* も同じだ。文脈から判断すること。翻訳の勉強をする際に、まず注意するように先生に教えられる訳語である。) / **agent** (「代理人」・また「スパイ・秘密諜報員」という意味もある。「あいつはCIAのエージェントだ!」などと言う。スパイ映画などでお馴染みだろう。 see⇒*ans*) / **agency** (「代理店」・また「～庁」や「～局」という機関を表す。有名なアメリカの諜報機関・CIA は the Central Intelligence Agency だ。 **intelligence** については see⇒*lego*② / *inter*) / **agitate** (「扇動する」・デマで人々を動かすのだ。 *ago* は *you* が主語の時は *agis* と変化する。) / **agitator** (「アジテーター・扇動者」) / **exaggerate** (「誇張する」・*ex* 「外に」開こえるくらいに・・・という意味だ。分解すれば *ex* 「外へ」 + *ago* 「追い立て」 + *gero* 「運ぶ」となる。無論「声」を運ぶのだ。 see⇒*gero/ex*) / **exaggeration** (「誇張」) / **enact** (「(法律などを) 制定する」・*en* がつくると動詞化される。 see⇒*en*) / **react** (「反応する」) / **reaction** (「反応・リアクション」 see⇒*re*) / **transaction** (「取引・(事務的な) 処理」 see⇒*trans*) / **exact** (「正確な」・天秤で重さを測った時代の名残り。分銅を徹底的<ex>に動かして<act>正確を期したことから・・・) / **exactly** (「正確に・まさに」・Exactly! 「まさにその通り!」などと会話文などで登場する。) / **interact** (「相互に作用する」) / **interaction** (「相互作用」 see⇒*inter*) / **ambiguous** (「曖昧な」・*i* に吸収されて *a* が消えている。「どちらにも動く」が原義。 see⇒*ambi/ -osus*) / **retroactive** (「法的に遡及(そきゅう) 効果のある」・*act* 「法律」から類推できる。ここで「法の不遡及の原則」という言葉について説明しよう。文字通り「時間を遡って法律を適用してはいけない」という意味だ。例えば将来「タバコを1本でも吸った奴は死刑!」という法律が施行された・・・としよう。しかしこんな法律ができたからと言って、今タバコを吸っている人間を死刑にすることはできない・・・ということだ。当たり前の話である。 see⇒*retro*)

(6) **albus** - *alba* - *album* [アルブス・アルバ・アルブム] <羅>=white 「白い」 / bright 「輝くような」・CM で有名なネスカフェの缶コーヒー「モンテ・アルバン」は「白い山」の意味だ。メキシコの古代遺跡のある地名から来ている。 see⇒*mineo*

**album** (「アルバム」・まんま・・・だ。写真を貼る前は確かに白い。) / **albumen** (「アルブミン」・ある一群の「タンパク質」をこう呼ぶ。「卵白」を構成するタンパク質から名付けられたが、これと構造の似た「血清アルブミン」などが知られている。肝臓で作られ、この血中濃度が低下すると肝疾患や栄養失調が疑われるとか。) / **albino** (「アルビノ」・遺伝子の突然変異によりメラニン色素が合成できなくなった人、動物、植物などを指す。「日本書紀」には「白髪皇子(しらかみのみこ)」という人物が登場する。第21代「雄略天皇」の子で後の「清寧(せいねい) 天皇(第22代)」のことだ。髪まで真っ白だったと言う。) / **Alps** (「アルプス山脈」・ケルト語の「岩」に由来する説と、ラテン語の「白い」に由来する説がある。雪で山が「白い」からだ。「アルプス」⇒「アルプス」となったということか。なるほど「グリムの法則」にもびたりとあてはまる。「山脈は複数形を取る」と文法書では書かれているが、こうなるとその説も怪しい。 *s* は最初からついているからだ。) /

**Albania** (「アルバニア (国名)」・石灰岩質の国土から名付けられた。考え方は「レバノン<Lebanon>」 see⇒**levis** と同じだ。因みに古代の国名・地名はすべて「女性名詞」だから・a で終わる (正確には・ia) ことも覚えておくといいだろう。ギリシャ語でもラテン語でも・・・だ。それを現在まで残している国も多い。「イタリア」「スペイン」「ゲルマニア (ドイツ)」「ルーマニア」「ユーゴスラビア」「ジョージア (旧グルジア)」「チェコスロバキア」「リビア」「サウジアラビア」「リトアニア」「ガリア (フランス)」「オーストラリア」「オーストリア」「コロンビア」「アルジェリア」「ナイジェリア」「ケニア」「タンザニア」「ブリタニア (イギリス)」「スコティア (スコットランド)」「ロシア」などだ。唯一「エジプト<Egypt>」は「アエギプトス<Aegyptos>」と「オス」で終わり、一見「男性名詞」に見える。だがこれは「男性名詞の形を取る女性名詞」というへんてこな国名だ。また「エジプト」は「エジブシャン」⇒「ジブシー (さすらいの民)」の語源となった。ジブシーはエジプト人だと考えられていたからだ。実は東ヨーロッパ系の人々で、現在では「ロマ<Roma>」と呼ぶようである。 see⇒**levis** )

(7) **alius**・**alia**・**aliud** [アリウス・アリア・アリウド] <羅>= other 「他の」/ different 「異なった」・またギリシャ語では **allos**=α λ λ ο ς [アッロス]となる。

**alibi** (「アリバイ」 [アリバイ]・英語にそのまま置き換えれば ali (= other) + ibi (= there / in that place) となる。「接頭辞は後ろにもどしてみてその単語の成り立ちを類推する」という手法に忠実に従うならば、**in the place other than** ~ 「～以外の場所に・・・」となるか・・・。また **ibi** [イビ]・**ubi** [ウビ] という言葉も覚えておく面白い。**ibi** = there 「そこ」/ **ubi** = where 「どこ」/ **ubique** = wherever 「どこ・どこでも」だ。筆者は「イビ・ウビ」でまとめて覚えた。日本語でも「どこそこ・・・」と言うのではないか。) / **ubiquitous** (「偏在する」・[ユービキトゥス]・「どこにでも<ubique>存在している」こと。神<God>を形容する際によく用いられる。**ubi**が出たついでに載せた。) / **alien** (「異星人・外国人」・「他の星から来た人々」だ。「外国人」という意味もあり成田空港ではこの表示が見られるが、普段は避けたほうが賢明だ。無論映画「エイリアン VS プレディター」の影響である。 see⇒**placeo**) / **alter** (「変わる」[オルター]・他のものになる・・・からきている。) / **else** (「他の」・「アリウス」⇒「アリス」⇒「エリス」⇒「エルス」となった。) / **alternate** (「2つのものが交互に替わる・交替するする」) / **alternation** (「交替」) / **alternation personality** (「二重人格」 see⇒**duo**) / **alternative** (「代わり・代わりとなる選択肢」・「フレデリック・フォーサイス」の小説「悪魔の選択」は Devil's Alternative だ。発音・アクセントは[オルターナティブ]となる。「新宿アルタ」はこっちらしい。 see⇒**altus**) / **parallel** (「平行の」・「相手<other>と並んで」が原義。 see⇒**para**) / **allergy** (「アレルギー」 [アラジー]・「他の物」が入ってくることに反抗すること。 see⇒**energeia**)

(8) **altus**・**alta**・**altum** [アルトウス・アルタ・アルトゥム] <羅>= old / high 「高い・年取った」・「年を取る」と「大きくなる」し、「背が高くなる」からだ。alt は olt や ult にも変化する。

**altitude** (「高度」・high altitude sickness で「高山病」となる。) / **adult** (「大人」・大きくなる方向へ<ad>・・・の意。ult = alt だ。 see⇒**ad**) / **alto** (「アルト・高音」・alto は altus の「対格・奪格 (目的格)」だ。) / **altar** (「祭壇」・高い所にあるから。また「笑っていいとも」の新宿「アルタ」は無関係。こちらは **alternative** 「代わりとなる選択肢 (何か新しいもの)」の頭文字らしい。何ともテキトーなネーミングだが・・・。 see⇒**alius**) / **adolescence** (「青春時代」 [アドゥレスンス]・ad + old + scence 直訳すれば「年<old>とる方向へ<ad>階段を登る<scence>」だ。これについては後述してある。 see⇒**ad** / **scando**) / **adolescent** (「青春時代・青春期の人」 see⇒**ans**) / **exalt** (「昇進させる」 [イグゾールトゥ] see⇒**ex**) / **abolish** (「廃止する」・古いもの<oli = old>を捨てること。ab = without see⇒**ab**) / adolescence や adolescent と似た単語で **juvenile** という単語がある。こちらも「青年期・青少年・青年の」などの意味があるが、「塩野七生」女史の「ローマ人の物語」の中では、**adolescentia** [アドゥレスケンティア] は「青年前期 (17~30 歳)」、**juventus** [ユウェントウス] は「青年後期 (31~40 歳)」としている。そこで調べてみたが、英語では特にこのような区別はないようだ。juvenile はそれほど使われることはなく、使われたとしても「法律用語」、つまり「未成年の」という意味だそう・・・。juvenile の発音は英語だと [ジュビナイル] となる。別段「ナイル川」とは関係ない。有名サッカー・クラブ「ユベントス」は後者から来ている。尚、teenager 「ティーンエイジャー」という単語もあるが、こちらは 13 歳から 19 歳までを指す。11~12 歳は teenager とは言わない。言うまでもなく eleven / twelve は teen が付かないからだ。ここを突いてくる問題もかつて出題されたことがあったので老婆心ながら・・・。 see⇒**senior**) / **haughty** (「高慢な」・[アルトウス] ⇒ [ハルトウス] ⇒ [ハルティー] ⇒ [ホーティー] となった。) / **enhance** (「高める」・hance = high で、さらに en で動詞化された。 see⇒**en**) / **Citius, Altius, Fortius** (「より速く、より高く、より強く」 [キティウス・アルティウス・フォルティウス]・言うまでもなく、近代オリンピックのモットー (標語) である。この **altius** は **altus** の「比較級」だ。今年はいよいよ東京オリンピックだ。世界中の選手たちには頑張つて欲しい。 see⇒**fortis**)

(9) **ambi** [アンビ] = around 「周囲に」 / **ambo** [アンボー] <羅>= both 「両方」・またこの 2 つの意味をギリシャ語の **amphi**=α μ φ ι [アンフィ] は持つ。おそらく同一起源であろう。また be ともつながりがある。 see⇒**be**

**amphibian** (「両生類」 see⇒**bios**) / **amphibious** (「両生類の」 see⇒**bios** / **-osus**) / **ambivalence** (「心の葛藤」・どちらとも決めがたい状態。 see⇒**valeo**) / **ambiguous** (「両義的な・どちらとも解釈できる」・「どちらにも動く<ago>」が原義。ag の a が ambi の i に吸収されて ag ⇒ ig となった。 see⇒**ago** / **-osus**) / **ambiguity** (「曖昧 (あいまい) さ」) / **ambition** (「野心」・もともとは古代ローマの政治家が投票依頼のために有権者のもとをあちこち<ambi>回って行った<it = eo>ことに由来する。政治家は古代から野心家だったわけだ。 see⇒**eo**) / **ambitious** (「野心のある」・Boys, be ambitious! 「青年よ、大志を抱け!」の「ウィリアム・スミス・クラーク博士」の言葉でありにも有名。 see⇒**-osus**) / **ambulance** (「救急車」・あちこち回ってからやってくるから。筆者がケニアのナイロビでマラリアに倒れたとき、救急車が待てど暮らせど来なかった。やっと来たと思ったら、中は病人でいっぱいだった。あちこちまわって病人を拾ってきたからだ。これなど

まさに元祖「アンビュランス」であろう。担ぎこまれた先はナイロビ・ホスピタル。ここで筆者は一週間ほど生死の境を彷徨うこととなる。後に歌手で女優の松島トモ子さんがライオンに頭を「ガブリ」とされたときに入院されたそうだが、患者としては筆者の方が先輩(?)である。**ambulo - ambulare** [アンブロー・アンブラー]はラテン語で「あちこちぶらつく・…」という意味がある。ambulanceは「移動式病院」が原義だ。see⇒**ans** ) / **ample** (「たっぷり」・「周り<amp = amb>に満ちて<ple>いる」が原義。see⇒**plenus** )

(10) **amicus**・**amica**・**amicum** [アミクス・アミーカ・アミクム] <羅> = friend 「友人」 / friendly 「友好的な」 また **amo - amare - amavi - amatus** [アモー・アマーレ・アマーウィー・アマトウス] = love 「愛する」・ラテン語学習者はまずこの **amo** で「第1活用動詞」の変化を学ぶ。これも同根語だ。サッカーの「長友佑都」選手の結婚を茶化して「アモーレ長友」などと流行語になった。この **ami** が中国語では「愛」となったという説もある。

**amigo** (「友達」) / **amiable** (「愛想のいい」 [エイミアブル]) / **amenity** (「快適さ」・ **amant** 「(彼らが) 愛する」が「直説法」。**ament** となると「接続法 (仮定法)」になる。この反対語は **enemy** だ。an (= un) + **ami** で「友達でない」 = 「敵」ということだ。[アンアミー] ⇒ [アナミー] ⇒ [エネミー]となった。see⇒**in②** / **a** ) / **enmity** (「敵意」) / **amateur** (「アマチュア・愛好家」・アクセントは[アマチュア]だ。) / **salami** (「サラミ」・「塩を愛する」が原義。see⇒**salio** )

(11) **ana** =  $\alpha \nu \alpha$  [アナ] <希> = ① up 「上に」 ② apart 「ばらばらに」 ③ 「〜に沿って・背景として・〜をもとにして」 ・この **ana** が英語の on となった。もっともラテン語ではこの **ana** も on も使われず、in が on の代わりにしていたことは既にも書いた。see⇒**in①**

**analyze**・**analyse** (「分析する」・文字通り「ばらばらにすること」だ。see⇒**laxo** ) / **analysis** (「分析」 see⇒**laxo** ) / **anatomy** (「解剖・解剖学」・「杉田玄白」・「前野良沢」らの「ターヘル・アナトミア (解体新書)」というのを、我々は小学校の国語の時間に習ったが、今ではどこで学習するのだろうか? tom = **tome** <希> は cut の意味。atom 「原子」の tom でもある。see⇒**tome** ) / **anachronism** (「時代錯誤」・「時代を遡ってゆくこと」だ。see⇒**khronos / ismos** ) / **analogue** (「類似の物」・所謂「アナログ」だが、詳しくは・・see⇒**logos** )

(12) **aner**・**andros** =  $\alpha \nu \eta \rho - \alpha \nu \delta \rho \omicron \varsigma$  [アネル・アンドロス] <希> 「男・人間」

**Alexandros** (「アレクサンドロス (人名)」・「アレクサンドロス大王」の「アレクサンドロス」だ。ギリシャ人の名前にはすべて意味がある。**alexo** =  $\alpha \lambda \epsilon \xi \omega$  [アレクソ] は「守る」で **andros** =  $\alpha \nu \delta \rho \omicron \varsigma$  が「男」だから「ガードマン」の意味だとも、また「人を守る」で「守護者」の意味という説もあることも・・。see⇒**pater** ) / **Andrea** (「アンドレア」・女の子の名前。また「ヴェルサイユのバラ」に登場する「アンドレ・グランディエ」も、プロレスラーの「アンドレ・ザ・ジャイアント (故人)」もこの「男らしい」からきている。) / **androgen** (「男性ホルモン」・「男のもと<gen>になるもの」の意。see⇒**genus** ) / **android** (「アンドロイド」・「人間に似たもの<oid>」が原義。see⇒**astron / -oid** )

(13) **ango**・**angere** [アンゴー・アングレ] <羅> = anguish 「苦しめる」 / suffocate 「首を絞める・窒息させる」 また **agon** =  $\alpha \gamma \omicron \nu$  [アゴン] <希> は「競争者」だ。

**anger** (「怒り」) / **angry** (「怒った」) / **anguish** (「苦痛」) / **anxious** (「心配な」・発音は[アングシャス]。[グ]が[ク]になった。) / **anxiety** (「不安」 [アンザイエティ]) / **agony** (「苦悩」) / **agonize** (「苦しむ」 see⇒**ismos** ) / **antagonism** (「敵対」 see⇒**ismos** ) / **antagonist** (「敵対者」・ant は「アンチ<anti>」。「反対して苦しめる者」の意。see⇒**anti** )

(14) **anima**・**animae** [アニマ・アニマエ] <羅> = breath 「息」 / wind 「風」 / soul 「魂」

**animal** (「息」をするから「動物」だ。ラテン語でもそのまま「動物」は **animal - animalis** [アニマル・アニマリス]だ。) / **animism** (「アニミズム」・「全てのものに霊が宿る」という信仰。古代日本もこれに近い。いわば「八百万(やおよろず)の神」的思想だ。だが「日本は多神教」というのは「ウソ」である。「日本書紀」には、最初に出現された神は「天之御中主神 (アメノミナカヌシの神)」だどちゃんと書いてある。れっきとした「一神教」だ。さまざまな神々が生まれてくるのは「伊邪那岐 (いざなぎ)・伊邪那美 (いざなみ)」以降である。see⇒**ismos** ) / **animation** (「活発・元気・元気を与えること・アニメーション」・所謂「アニメ」だ。「息が吹き込まれたもの」の意。) / **unanimous** (un はここでは **unus** [ウヌス] <羅> で「1つ」の意味。皆の「呼吸」がひとつになるから「満場一意の」となる。発音は[ユナニマス]だ。see⇒**unus** / **-osus** またご存知「植物」の「アネモネ<anemone>」も派生語である。ギリシャ語の  $\alpha \nu \epsilon \mu \omicron \varsigma$  [アネモス] = wind 「風」から来ている。春先の風の強い時期しか咲かないことからこの名がある。無論その他諸説がある。)

(15) **annus**・**anni** [アヌス・アンニー] <羅> = year 「年」

**annual** (「毎年の」) / **anniversary** (「記念日」 see⇒**verto** ) / **Anno Domini** (「A.D. (紀元後)」 [アンノ・ドミニー]・「主の年」が原義。「主」とは無論「イエス・キリスト」のことだ。「紀元前」は B.C.<Before Christ>で、こちらは英語。ゆえに英語圏以外の国ではまたそれぞれ略称があるようだ。また B.C.は年号の後ろだが<753BC>、A.D.は年号の前に置く<A.D.476>。因みに前者< >内は「ローマ建国」の、後者< >内は「西ローマ帝国滅亡」の年を採用してある。念のため・・。) / **biannual** (「年2回の」・bi は「2」を意味することは bicycle などでも類推できる。see⇒**bi** )

(16) **ans**・**antis**・**ens**・**entis** [アンス・アンティス / エンス・エンティス] <羅> 「〜している」・ラテン語の「現在分詞 (〜ing)」だから「形容詞」を作り、そこからさらに「名詞」を作るのに用いられる。ここでは「名詞」と「形容詞」のどちらか一方のみ掲載した。

**a-b** **assistant** (「助手」 see⇒**sto** ) / **audience** (「聴衆」 see⇒**audio / tome / jus** ) / **abundant** (「豊富な」 see⇒**sur / unda / ab** ) / **assurance** (「保証」 see⇒**curo** ) / **accountant** (「会計士」 see⇒**puto** ) / **attendance** (「出席」 see⇒**tendo** ) / **avoidance** (「回避・忌避」 see⇒**vaco** ) / **adolescent** (「青年時代の」 see⇒**altus** ) / **ambulance** (「救急車」 see⇒**ambi** ) / **affluence** (「裕福・富」 see⇒**fluo** ) / **accordance** (「一致・

調和」 see⇒**cor** ) / **agent** (「代理人」 see⇒**ago** ) / **ancient** (「古代の」 see⇒**ante** ) / **admittance** (「入場・入学許可」 see⇒**mitto** ) / **applicant** (「応募者」 see⇒**plico** ) / **adherent** (「粘りつくような・追随者」 see⇒**haereo** ) / **acquaintance** (「知り合い」 see⇒**cogito** ) / **apparent** (「明らか」 see⇒**porto** ) / **adamant** (「堅固な」 see⇒**domus/a** ) / **benevolent** (「善意のある」 see⇒**volo** )

**c-d-e** **convenient** (「便利な」 see⇒**venio/cum** ) / **conscience** (「良心」 see⇒**scio/cum** ) / **consequence** (「結果」 see⇒**cum/sequor** ) / **correspondent** (「特派員」 see⇒**spondeo** ) / **cosecant** (「コセカント(余割)」 see⇒**tango/cum/seco** ) / **continent** (「大陸」 see⇒**teneo/cum** ) / **coincidence** (「偶然の一致」 see⇒**cado** ) / **conference** (「会議」 see⇒**fero** ) / **confident** (「自信のある」 see⇒**fides** ) / **consonant** (「子音」 see⇒**sono** ) / **crescent** (「三日月」 see⇒**creo** ) / **circumstance** (「環境」 see⇒**sto/kyklos** ) / **consistent** (「首尾一貫した」 see⇒**sto** ) / **constant** (「一定の」 see⇒**sto** ) / **coherence** (「首尾一貫」 see⇒**haereo** ) / **consultant** (「相談する人・顧問・コンサルタント」 see⇒**sido** ) / **constituent** (「構成要素・成分」 see⇒**sto** ) / **conveyance** (「輸送」 see⇒**via** ) / **dominant** (「支配的な・優勢な」 see⇒**domus** ) / **dependent** (「依存している」 see⇒**pendeo** ) / **descendant** (「子孫」 see⇒**scando** ) / **difference** (「相違」 see⇒**fero** ) / **deference** (「敬意・服従」 see⇒**fero** ) / **defiance** (「反抗・挑戦」 see⇒**fides/de** ) / **deficient** (「欠点のある」 see⇒**facio** ) / **disappearance** (「消失」 see⇒**porto** ) / **dissonance** (「不調和・不協和音」 see⇒**sono/dis** ) / **distant** (「遠くの・隔たった。」 see⇒**sto** ) / **diligence** (「勤勉さ」 see⇒**lego②** ) / **endurance** (「我慢・忍耐」 see⇒**duro** ) / **experience** (「経験」 see⇒**ex/peria** ) / **extravagant** (「途方もない」 see⇒**vagor/ex** ) / **evidence** (「証拠」 see⇒**ex/video** ) / **essence** (「本質」 see⇒**est** ) / **eloquence** (「雄弁」 see⇒**loquor** ) / **eminence** (「高名・卓越」 see⇒**mineo** ) / **efficient** (「効率的な」 see⇒**ex/facio/existence** (「存在」 see⇒**sto** ) / **emergence** (「出現」 see⇒**mergo** )

**f-g-h** **forbearance** (「忍耐」 see⇒**fero** ) / **finance** (「財政」 see⇒**finis** ) / **fluent** (「流暢な」 see⇒**fluo** ) / **grievance** (「不平・苦情」 see⇒**grapho** ) / **Homo ludens** (「ホモ・ルーデンス(遊ぶ人)」 see⇒**homo/ludo** )

**ig-im-in-ir** **ignorant** (「無知の」 see⇒**cogito/in②** ) / **immigrant** (「移民」 see⇒**migro** ) / **imminence** (「切迫」 see⇒**mineo** ) / **important** (「重要な」 see⇒**porto** ) / **impatience** (「短気」 see⇒**pathos** ) / **insurance** (「保険」 see⇒**curo** ) / **innocent** (「無実の・無邪気な」 see⇒**nox/in②** ) / **instant** (「即座の」 see⇒**sto** ) / **inference** (「類推」 see⇒**fero** ) / **interference** (「干渉・邪魔」 see⇒**fero** ) / **influence** (「影響」 see⇒**fluo/in①** ) / **inhabitant** (「住人」 see⇒**habeo** ) / **inheritance** (「相続」 see⇒**heres** ) / **incessant** (「絶え間のない」 see⇒**in②/cedo** ) / **indignant** (「立腹している」 see⇒**dignus/in②** ) / **insistent** (「強要するような」 see⇒**sto** ) / **inherence** (「固有・生得」 see⇒**haereo** ) / **independence** (「独立・自立」 see⇒**pendeo** ) / **intelligent** (「知能の高い」 see⇒**lego②/inter** ) / **irrelevant** (「無関係な」 see⇒**levis/in②** )

**m-n-o-p** **mutant** (「突然変異の・変異体」 see⇒**muto** ) / **magnificence** (「壮かさ」 see⇒**magnus** ) / **malevolent** (「悪意のある」 see⇒**volo** ) / **nuisance** (「厄介な物」 see⇒**nox** ) / **negligence** (「怠慢」 see⇒**nego** ) / **nutrient** (「栄養になる・栄養になる物」 see⇒**nutrio** ) / **obedience** (「従順」 see⇒**audio** ) / **observance** (「遵守」 see⇒**servo** ) / **occurrence** (「事件・出来事」 see⇒**curro** ) / **parent** (「両親」 see⇒**para** ) / **precedent** (「先例」 see⇒**cedo** ) / **patient** (「忍耐強い・患者」 see⇒**pathos** ) / **pendant** (「ペンダント」 see⇒**pendeo** ) / **prominence** (「プロミネンス」 see⇒**pro/mineo** ) / **persistent** (「固執した・しつこい」 see⇒**sto** ) / **prevalent** (「流布(るふ)した。」 see⇒**valeo** ) / **providence** (「神の摂理・先見の明」 see⇒**video** ) / **preference** (「好み」 see⇒**fero** ) / **performance** (「演技・演奏・実行」 see⇒**formo** ) / **participant** (「参加者」 see⇒**par** ) / **president** (「大統領・社長」 see⇒**pre/sido** )

**r-s-t-v** **radiant** (「光を放つような」 see⇒**radix** ) / **relevant** (「関係のある」 see⇒**levis/-ans** ) / **resident** (「居住者」 see⇒**re/sido** ) / **redundant** (「余分な・冗長な」 see⇒**unda/re** ) / **reassurance** (「安心」 see⇒**curo** ) / **recipient** (「臓器受容者」 see⇒**do/capio** ) / **resemblance** (「類似」 see⇒**sim** ) / **reference** (「参照・言及」 see⇒**fero** ) / **resonance** (「反響」 see⇒**sono/re** ) / **resistance** (「抵抗」 see⇒**sto** ) / **reliance** (「依存・信頼」 see⇒**longus** ) / **science** (「科学」 see⇒**scio** ) / **servant** (「召使い」 see⇒**servo** ) / **significant** (「重要な」 see⇒**facio/signum** ) / **secant** (「セカント(正割)」 see⇒**tango/seco** ) / **sufficient** (「十分な」 see⇒**sur/facio** ) / **stance** (「スタンス・立場」 see⇒**sto** ) / **substance** (「物質」 see⇒**sto** ) / **transient** (「儂(はかな)い・束の間の」 see⇒**trans/eo** ) / **tenant** (「テナント・借地人」 see⇒**teneo** ) / **triumphant** (「大勝利の」 see⇒**tri** ) / **vacant** (「空(から)の」 see⇒**vaco** ) / **violence** (「暴力」 see⇒**violo** )

(17) **ante** [アンテ] <羅> = before 「前に」

a.m. (= **ante meridiem** [メリディエム] 「午前中」・**meridiem** = midday = noon / **diem** = **dies** = day 一方 p.m.は **post meridiem** となる。そういうえば「am/pm」というコンビネもあつたが・・・。 see⇒**medius/dies/post** ) / **ancestor** (「祖先」・もともと「前<**ante**>を行く<**ces=cedo**>人」の意。 see⇒**cedo** ) / **ancient** (「古代の」 [エインシエントウ] see⇒**ans** ) / **anticipate** (「期待する」 see⇒**capio** ) / **advance** (「(前に)進む」 see⇒**ab/medius** ) / **advantage** (「利点・長所」 see⇒**ab/Mercurius** )

(18) **anthropos** = α ν θ ρ ω π ο ς [アンスローポス] <希> 「人類」

**anthropology** (「人類学」 see⇒**logos** ) / **anthropologist** (「人類学者」) / **anthropoid** (「類人猿(チンパンジー・オランウータン・ゴリラなど)の」・「人猿」は「猿」で「猿人」は「人」だ。 see⇒**-oid** )

(19) **anti** = α ν τ ι [アンティ] <希> 「〜に反対して」・ご存じ「アンチ巨人」の「アンチ」だ。

**antibiotic** (「抗生物質」 see⇒**bios** ) / **antipathy** (「反感」 see⇒**pathos** ) / **antonym** (「反対語」 see⇒**nomen** ) / **antique** (「骨董品の」 see⇒**qui** ) / **antithesis** (「アンチテーゼ・対立命題」 see⇒**tithemi** ) / **Antarctic** (「南極の」・「北極の反対」だ。 see⇒**kynikos** ) / **antagonist** (「敵対者」 see⇒**ango** )

(20) **aptus** - **apti** [アプトゥス・アプティ] <羅> = handy 「手頃な」 / convenient 「便利な」 / suitable 「適した」

**apt** (「適した」) / **adept** (「熟達した・名人」 ad + apt = adept となった。「適した<apt>方へ<ad>・」の意。see⇒**ad**) / **aptitude** (「適性」) / **attitude** (「態度」・「適切な態度」からきている。英検面接で悩まされた人も多かろう。[アプティ]が[アティ]になった。) / **adapt** (「順応する・適合させる」 see⇒**ad/opto** **adopt** 「採用する」と区別。see⇒**ad/opto**) / **adapter** (「アダプター」・「交流」で送られてきた電気を「直流」に変換する。電気の流れ方を機器に「適した」ものに変換する。)

(21) **aqua** - **aquae** [アクア・アクアエ] <羅> = water 「水」

**Aquarius** (「アクエリアス・水瓶座」・スポーツ・ドリンクの名前にもなっている。see⇒**libra**) / **aqualung** (「アクア・ラング」・直訳すれば「水の肺」。潜水するとき背負うやつだ。) / **aqueduct** (「水道管」・水を導く<duc>もの。see⇒**duco**) / **aquarium** (「水族館」・aquarium は **aquarius** の「中性変化」だ。)

(22) **archaios** = α ρ χ α ι ο ς [アルカイオス] <希> 「古代の」

**archaeology** (「考古学」 see⇒**logos**) / **archaeologist** (「考古学者」)

(23) **archo** = α ρ χ ω [アルコー] <希> = control 「支配する」

**anarchy** (「無政府状態」・支配者がいない<an = un>状態。see⇒**a**) / **anarchist** (「アナーキスト・無政府主義者」) / **archbishop** (「大司教」[アーク・ビショップ]・司教<bishop>を支配する人。bishop については see⇒**skopo**) / **hierarchy** (「教会組織」・階層組織・ヒエラルキー) [ハイアラーキー]・世界史ではローマ・カトリックの「教会組織」を指す。頂点に「教皇」がいてその下に「枢機卿(すうきけい)」・「司教」・「司祭」、そして末端に無数の「神父」がいる・・というアレである。因みに hier は **hieros** = ι ε ρ ο ς [ヒエロス] = holy 「神聖な」の意味だ。**hieroglyphic** は「神聖文字(象形文字)・ヒエログリフ」のこと。古代エジプトの歴史で登場する。「象形文字(表意文字)」は正確には **ideograph** / **ideogram** と言う see⇒**grapho** / **ido** また **Hieronymus** 「ヒエロニムス」という、聖書を訳した人物もいる。see⇒**nomen** / **vulgatus**) / **monarchy** (「君主制」・支配者は **mono** 「一人」でいい。see⇒**monos**) / **monarch** (「君主」[モノナーク] see⇒**monos**) / **oligarchy** (「寡(か)頭政」・少数の人間が政治を独占する政体)だが、何らかの特定の政治形態を表す用語ではない。「民主制」であってもそれは「寡頭制」になりうる。一般的には古代ローマの「共和制」がこの寡頭制の代表とされる。**oligos** = ο λ ι γ ο ς [オリゴス] <希> は「a few (少し)」の意味だ。「オリゴ糖(少糖類)」などでお馴染みだ。) / **architecture** (「建築」・「技術を支配する者」の意。これには異説もある。詳しくは see⇒**tango**) / **architect** (「建築家」 see⇒**tango**) / **coerce** ([コウアース]「抑圧・威圧する」・ラテン語の **arca** [アルカ]「箱・金庫・棺桶」に由来する単語だが、一番有名なのは **ark** [アーク]「聖櫃(せいひつ)」だろう。映画「インディーズ・ジョーンズ」シリーズの第1作目が「失われたアーク」だった。**archo** とは無関係だが似ているのでここに掲載した。また「箱」から転じて「中に閉じ込める」⇒「抑圧する」となった。co は「強調」。**exercise** も同語源の単語だ。ex は「外へ」だから、「閉じ込めた動物を外へ放つ」⇒「外で運動させる」⇒「運動」となった。erc = arc で「アーク」が隠れている。また「ノアの箱舟」も「アーク」だ。see⇒**ex**)

(24) **arma** - **armae** [アルマ・アルマエ] <羅> = weapon 「武器」 / **armus** - **armi** [アルムス・アルミー] <羅> = shoulder 「肩」 / **artus** - **arti** [アルトゥス・アルティ] <羅> = joint 「関節」・もともと戦争で「肩」につけた「鎧」が語源だ。鎧は「関節」で曲がるようにできている。「腕」の意味が出てくるのはその後のことだ。また **ars** - **artis** [アルス・アルティス]「技術・学問」も同根語だ。「技術」は「関節」の使い方が大切だからだ。「芸術」の意味が出てくるのは後年のこと。また最後にもちょっと書いたが、**ordo** も同根語である。see⇒**ordo**

**a-h)** **alarm** (「びっくりさせる」・all + armed 「みんな武器を取れ!」の省略表現。「アラームが鳴る・」の「アラーム」だ。) / **arm** (「腕」) / **armada** (「アルマダ」・艦隊<fleet>)・**Invincible Armada** は世界史で登場するはず。スペインの「無敵艦隊」のことだ。サッカー・スペイン代表の代名詞にもなった。see⇒**vinco**) / **armor**・**armour** (「鎧(よろい)」) / **armament** (「武装」) / **armadillo** (「アルマジロ(動物)」・装甲車をイメージさせるから。) / **armistice** (「停戦」・武器を止める・・が原義。sti = sto で「立ち止まる」だ。see⇒**sto**) / **articulate** (「はっきり発音する」・[アーティキュレイトゥ]・「一語一語しっかり区切りながら話す」ところからきているらしい。「区切り」が「関節」というわけだ。) / **article** (「記事」・項目・冠詞・一区切りの項目・記事・・の意味。see⇒**culum**) / **articular** (「関節の」) / **army** (「軍隊」) / **art** (「芸術・技術」は「関節」の使い方が大切だ。日本舞踊を連想すればいい。) / **artificial** (「人工的な」 see⇒**facio**) / **artifact** (「工芸品」 see⇒**facio**) / **harm** (「害」・武器で傷つけること。ゲルマン語系を経由したため h が残ったようだ。ラテン語系は h の発音が苦手だ。) / **harmful** (「有害な」) / **harmony** (「調和」・「関節」でうまく繋がっていること。) / **harmonica** (「ハーモニカ」) / **harmonious** (「調和のある」 see⇒**osus**) / **harmonize** (「調和させる」 see⇒**ismos**) / **harsh** (「ざらざらした」・鎧の表面の手触りから。)

その他 **disarmament** (「武装解除」・disarmament treaty なら「軍縮条約」となる。see⇒**dis**) / **liberal arts** (「教養科目」 see⇒**liber**) / **Vita Brevis Ars Longa** (「少年老いやすく、学成り難し」 see⇒**longus** / **brevis** / **vivo**) / **order** (「順序・秩序」・ar が or となった。「関節」の繋がる順序・・だ。ord-関係は **ordo** にもまとめた。see⇒**ordo**) / **ordinary** (「ふつうの」・秩序が守られている状態。ar が or に変化しているが、arm と order は同語源だ。see⇒**ordo**) / **extraordinary** (「並はずれた」・ordinary の反対語。see⇒**ex** / **ordo**)

(25) **astron** = α σ τ ρ ο ν [アストロン] <希> = star 「星」・ラテン語では **stella** [ステッラ] となる。see⇒**stella**

**astronomy** (「天文学」・直訳すれば「星」の「管理」だ。n がかぶってしまっているが・・。see⇒**nomos**) / **astronomer** (「天文学者」) / **astronomical** (「天文学の」) / **astronaut** (「宇宙飛行士」 see⇒**nauticus**) / 「鉄腕アトム」がアメリカで放映されたときの原題が **Astro Boy** 「アストロ・ボーイ」だ。「アトム」は atom 「原子」だから「鉄腕アトム」は「鉄腕原子」になってしまう。/ **asteroid** (「アステロイド」・小惑星)・「アステロイド・ベルト(小惑星帯)」なるものが、火星と木星との間の軌道に存在する。かつては一つの惑星だったが、火星と木星

との大きさがあまりに違うので、その引力で粉々に砕けてしまった・・・と言われている。筆者の考えはちょっと違うが・・・。oid というのは、ギリシャ語で「〜に似たもの」という意味で、つまりは「星に似たもの」というほどの意味になる。see⇒oid 「アンドロイド<android>」は「男に似たもの」の意。see⇒aner) / astrology (「占星術」・直訳すれば「星」の「学問」だ。see⇒logos) / disaster (「大災害」・「星に見放された(離れた)<dis>」が原義。所謂「占星術」だ。日本語でも「ツキに見放された」と言う。この「ツキ」は「憑く」で、「(霊などに) 取り憑かれた」が起源だという。この場合は無論「守護霊」だろうが・・・。しかしさらに遡れば「月(= moon)」に行き着く・・・とする説もある。「月には何か神秘的なものが憑いている」と考えるわけだ。see⇒dis) / disastrous (「大災害の」 see⇒osus)

**(26) audio**・audire・audiui・auditus [オーディオー・オーディーレ・オーディーウィー・オーディートゥス]<羅>= hear 「聞く」・因みに audire の「命令法」が audi [オーディー]だ。これは車の名前にもなっている。「聞け！」という意味になってしまうが・・・。車の名前にはラテン語が多用されている。調べてみるのも面白い。

audio (「音声の」・そのまま・・・だ。) / audience (「聴衆」 see⇒ans / tome / jus) / auditorium (「聴衆席・音楽堂・講堂」) / audition (「(歌手・俳優の) オーディション」・「歌手志望の子の歌を聴いてみる」ことだ。) / obey (「従う」 [オベイ]・ob「〜に対して」+ audire「耳を傾ける」から。audio が影も形もないが・・・。see⇒ob) / obedience (「従順さ」 [オビーディエンス] see⇒ans) / obedient (「従順な」)

**(27) augeo**・augere・auxi・auctus [アウゲオー・アウゲーレ・アウクスィー・アウクトゥス]<羅>「増加させる・高める」

auction (「オークション・競売」・値段がつり上がってゆく。) / August (「8月」・ローマ帝国初代皇帝「アウグストゥス<Augustus> (= オクタウィアヌス)」が8月生まれだったことからつけられた。一方 July は「ユリウス<Julius>・カエサル」に因んだものだ。ここからカエサルは7月生まれだとわかる。因みに June 「6月」の語源は「ユノー(ジュノー)<Juno>」に由来。ギリシャ神話の最高神「ゼウス」の正妻が「ヘーラー」で、これがローマ神話に取り入れられて「ユノー」となった。ゼウス自身はローマ神話では「ユピテル(ジュピター)」と同一視される。ユノーは June bride 「6月の花嫁」の語源にもなっている。「権力者をつかまえる！」ということか。see⇒mens もっともゼウスはあちこちに愛人を作りまくり、ヘーラー(ユノー)は嫉妬に狂うことになるのだが・・・。まさに「英雄色を好む」だ。) / august (「威厳のある」・「8月」が小文字になっているが間違いではない。古代ローマでは「アウグストゥス」は「尊敬者(高められた者)」の意だったからだ。古代ローマ帝国皇帝の尊称だ。) / authority (「権威・当局」) / authorize (「権威を与える・認可する」 see⇒ismos) / author (「著者」・態度がでかいからか?とも思ったが、もともと leader「指導者」の意味だったらしい。「高められた人」の意だ。) / auxiliary (「補助の」・発音は[オグズィアリー]だ。) / auxiliary verb (「助動詞」・「助っ人」を得て「動詞」はパワーアップだ。) / augment (「増加させる・大きくする」) / wax (「(月が) 満ちる」・あまりに形が変わりすぎて原型をとどめていないが一応載せた。see⇒vaco) / authentic (「本物の」) / autumn (「秋」・「増加<au>し膨れる<tum>」の意。因みに fall も「秋」だが、これは単に「落ち葉」から来たものだ。see⇒tumeo)

**(28) autos** = α υ τ ο ς [アウトス]<希>= oneself・「自分自身」

autobiography (「自伝・自叙伝」 see⇒bios / grapho) / automobile (「自動車」・see⇒moveo) / autonomy (「自治・自主性」・nomy は nomos = ν ο μ ο ς [ノモス]で「責任・管理」を表す。古代エジプトでは「村」を「ノモス」と言ったことは世界史の教科書にあるとおりだ。autonomic nervous system は「自律神経」となる。see⇒nomos) / automatic (「自動の」) / autocratic (「専制的な・専制政治の」・「自分が支配する」の意。see⇒kratia) / autograph (「(有名人の) サイン」 see⇒grapho / signum) / 以下 autos とは直接関係ないが kratia「支配」の派生語を並べる。/ democracy (「民主制」 see⇒demos / kratia / mens) / theocracy (「神政政治」 see⇒theos / kratia)

## B

**(1) ballo** = β α λ λ ω [バッロー]<希>= throw 「投げる」・「投げる物」から「玉・球」、さらには「丸いもの」となり、ついには bull / ball / boll / bell にもなった。さまざまな複合語を形作り、悪名高き「不規則動詞」。完全に形が変わる上に、各種接頭辞を冠して複合語を造る。ギリシャ語学習者泣かせの単語の一つだ。

b) bag (「袋」・物を詰めれば膨らむ。) / ballad (「バラッド・バラード」・「バラッド」と「バラード」は違うようだが正直よくわからない。我々がよく使うのは後者の「バラード」の方らしい。) / ballet (「バレエ(ダンスの方!)」 [バレイ]・「体を投げ出す」が原義。see⇒sim) / ball① (「舞踏会」) / ball② (「ボール」) / ballpark (「野球場」) / ballot (「投票」・「投」の字がもろに出てきている。) / ballistic (「弾道の」・ICBM「大陸間弾道弾」のBだ。see⇒sim) / ballistics (「弾道学」・学問名ゆえsで終わっている。) / balloon (「気球・風船」) / ballerina (「バレリーナ」) / bell (「鈴(すず)」) / belly (「腹」・「ベリーダンス」のベリー。「お腹」は「丸い」から。要するに「メタボ」だ。) / bowl (「鉢・どんぶり」・丸い・・・。「ボル」⇒「ボウル」となった。) / bowling (「ボーリング」・球が丸い。因みに boring「退屈な」の bore は無関係。こちらは「穴をあける」に由来。地質調査の「ボーリング」も同系だ。「耳に穴が開くくらい何度も聞かされる」⇒「飽き飽きする」となったようだ。日本では「耳にたこができる・・・」と表現するが、比べてみると面白い。) / bullet (「弾丸」 [ブリット]・確かに「丸」の字が見える。see⇒culum) / bulletin (「会報・パンフレット・公示・正式連絡」・もともとは bulla [ブツァ]「ローマ教皇の勅印」を指した。黄金や鉛を溶かした材料にハンコを押し、それが固まったものだ。あちらの歴史映画で時々登場する。柔らかいうちはまるで「御餅」のようだ。bulletin board で「掲示板」となる。) / bulb (「球根・電球」・確かに丸い・・・)

d-e-m) diabolos (「悪魔」・dia = through。「通って<dia>投げる」が直訳。「町中に悪口を言って触れ回る奴」というのが原義らしい。see⇒dia) / emblem (「エンブレム・紋章」・en = on だ。「表面にくっつけ(投げつけ)られた物」が原義。bel⇒ble となった。see⇒en) / metabolism (「代謝」・「越えて<meta>投げる」が原義だが、我々が使う「メタボ」とは意味が異なる。詳しくは・・・ see⇒meta / ismos)

*p/s)* **problem** (「問題」・目の前に<pro>投げ入れられた物・・・の意。「目下の課題は・・・」などと日本語でも言う。bel⇒ble となった。see ⇒**pro**) / **parable** (「寓話・譬え話」・「そばに投げる」が原義。横に<para>似たような話を並べ<ballo>で分かりやすく比較するのが「譬え話」だ。see⇒**para**) / **parabola** (「放物線」・地面に平行<para>に「投げ」られたときの物体の描く軌跡・・・かと思いきや、まったく無関係。「三角錐を、頂点を通らずに側面(母線)に平行に切断したときにできる曲線」だ。一方「双曲線」は **hyperbola**。「越えて投げる」の意味だ。人工衛星の打ち上げを考えて欲しい。勢いがそれほどなければ地球周回軌道に乗る。これが「楕円」だ。しかし勢いがつきすぎるとハレー彗星のようにとんでもない長円軌道になってしまい、さらに勢いがあると太陽系の外にまで飛び出し、永遠にもどってこない。これが「双曲線(の一本)」だ。「越えて投げる」の所以(ゆえん)がここにある。裏を返せば「楕円」はその勢いが「不足している」のである。その証拠に「楕円」は **ellipse** see⇒**longus, ellipsis** では「省略」となり、いずれも **eclipse**「食(日食・月食)」see⇒**longus** と同語源で「欠けている」の意だ。数学的定義に従えば、三角錐を真横にカットすれば断面は「真円」。比較的浅い角度(なだらかに)で切断すれば「楕円」。母線と平行に切断すれば「放物線」、そしてそれよりさらに急角度で切断すれば「双曲線」となる。もっとも双曲線の場合は三角錐を2つ用い、頂点同士をつなぎ合わせる。ちょうど「砂時計」のような恰好となる。これらの命名者は「アポロニウス」という数学者で、アルキメデスと同時代、世界史で言えば「第2次ポエニ戦争(B.C.3世紀)」あたりに生きたギリシャ人だ。ギリシャ人であるから正確にはアポロニオスと呼ぶべきだが・・・。see⇒**para / hyper**) / **symbol** (「象徴」see⇒**sim**)

(2) **barbaros** = β α ρ β α ρ ο ς [バルバロス] <希> = foreigner「外国人」・ギリシャ語では「外国人」の意。さらに遡れば「聞き取りにくい言葉話す人々」という意味だ。世界史で「バルバロイ」という言葉学ぶ。古代ギリシャのスパルタ人たちは異民族を指してこう呼んだ。「オイ<oi>」は「オス<os>」の複数形だ。また北アフリカに「ベルベル人」という遊牧民族がいるが、これも意味は同じだ。日本語でも「ペラペラ喋る」と言う。尚、元サッカー・フランス代表の「ジネディーヌ・ジダン」も両親がアルジェリア生まれのベルベル人だ。

**barbaric** (「野蛮人」) / **barbarian** (「野蛮人」) / **brave** (「勇敢な」・bar ⇒ bra と変化したものと推察する。) / **bravo** (「ブラボー・素晴らしい」・もともとは brave「勇敢な」から。尚 **barber**「床屋」は **beard**「あごひげ」[ピアッド]を剃る人・・・の意で「野蛮」とは無関係。)

(3) **barra** [バツラ] <羅> = bar「細長い棒」・酒屋の「バー」は「棒」の意。客とバーテンとの間が「棒」で仕切られていたからだ。また被告席と傍聴席との間が「棒」で仕切られていたことから法律関係の用語でも使われる。

**bar** (「バー(飲み屋)」・「法曹界」・「法廷」) / **embarrass** (「困惑させる」・「照れちゃうな」という意味での「恥ずかしい」も、この be embarrassed だ。一方「(悪いことをして) 申し訳ない」という意味での「恥ずかしい」は be ashamed だから、しっかり区別すること。中に<en in>入るのを「棒」で妨げる・・・が原義。妨害されると困惑する。see⇒**en**) / **embarrassment** (「困惑」) / **barbecue** (「バーベキュー」・横木に串刺した肉の鉄棒を渡したらしい。) / **barbell** (「バーベル」・確かに棒がついてる。現代では鉄製だが・・・。またダンベルは **dumb bell** と書く。**dumb**[ダム]は「物が言えない」という意味だから「音のしない鈴」ほどの意味だ。昔は「唾(おし)」といったが、差別用語ということで「言葉狩り」にあって使えなくなった。だから「鉄亜鈴(てつあれい)」と書くのだ。別に亜鉛でできているわけではない。) / **barrack** (「バラック・仮設の小屋」・もともとは古代ローマの駐屯兵が住む粗末な住居を指した。「棒」とはここでは「丸太」のこと。早い話が「ログ・ハウス」だ。通常 barracks と s がつくようだ。) / **barrel** (「樽」・木で作るから。石油の「～バレル」という単位も、この「バレル」だ。石油を樽に詰めたからだ。) / **barricade** (「バリケード」・棒ではなく樽に土を詰めて敵の侵入を防いだことが起源のようだ。) / **embargo** (「禁輸する」・embarrass と理屈は同じ。) / **embark** (「乗り出す・乗船する」・どうも起源ははっきりしない単語だが、ランダムハウスでは **baris** = β α ρ ι ς [バーリス]で「はしけ(平底の船)」の意味だとする説を取る。とすれば bar とは無関係となるが・・・。起源は「コプト語」だと言う。「コプト人<Coptic>」とは古代エジプト文明を築いたとされる民族で、黒人である。see⇒**albus** が訛って「ギブトウス」⇒「コプトウス」となった・・・とも。「また[バーク]が漢字の「舶(はく)」に酷似しているとの説もあるし、「船舶(せんぱく)」という言葉もある。中国語の起源ははっきりしないが、**genus** でも書いた通り、インド・ヨーロッパ語族の語彙と共通するものが非常に多い。see⇒**genus**)

(4) **battuo**・**batuare** [バットウオー・バートウアーレ] <羅> = beat「打つ・殴る」・「ぶっとばす」で覚えられる

**bat** (野球の「バット」はボールをぶっとばすもの。) / **battle** (「戦闘」・敵をぶん殴ること。また war[ウオー]「戦争」と区別すること。こちらは個々の戦闘以外にも外交交渉など、もろもろも含む。発音にも注意・wear・wore・worn「着る」の wore と同音だ。) / **battery** (「電池・砲台」・砲台は「弾を発射」し、電池は「電気を発射」するものという理屈らしい。) / **combat** (「戦う・戦闘」・「打ち<bat>合う<com>」の意。日本語で言う「ド突き合い」だ。またアメリカの戦争ドラマにも「コンバット」というのがあったし、「ゴキブリ・ホイホイ」の名前にもなっている。see⇒**cum**)

(5) **be** ①「～の近くに」 ②「強調」を表す ③名詞・形容詞を動詞化する。・①～③までは、分かる範囲で分類した。こちらの **be** は英語であり、ギリシャ語・ラテン語ではないのでイタリックにすべきではないのだが、混乱を避けるためにイタリック体で通したことを予めお断りしておく。もともとはギリシャ語の **epi** = ε π ι [エピ]「上に」と同根語だ。epi = pi = bi = by = be とつながり「～の近くに」となったようだ。また「～のすぐそばに」から「強調」の意味も生まれた。see⇒**epi** be 動詞の be とはまったく別語源。

**become** (「～になる」)・**be** は「強調」であろう。そもそも come 自体に「～になる」の意味が最初からあるからだ。また come to do「do するようになる」は「○」だが become to do は「×」になるので注意！ get to do / grow to do なら OK だ。/ **behave** (「振る舞う」)・**be** は「強調」see⇒**habeo**) / **belong** (「所属する」) see⇒**longus**) / **below** (「～の下に」)・**be** は「強調」で「～よりさらに下に」の意。) / **bestow** (「与える」・アクセントに注意！[ビストウ]だ。) / **beside** (「～のそばに」)・by+side「横の近くに」より。) / **besides** (「～に加えて」)・beside と besides の区別はそれほど厳密ではないらしいが、受験英語ではとりあえず区別しておいた方がいいだろう。) / **betray** (「裏切る」)・**be**

は「強調」see⇒*traho*) / *between* (「～の間に①」・*tween* = *twin* = *two*・「両者<*two*>の近く<*by*>に」で「中間に」だ。) / *bewilder* (「戸惑わせる③」see⇒*volo*) / *beyond* (「～の向こうに」) / *beset* (「包囲する①」・「周囲・近く<*be* = *ambi*>に置く<*set*>」が原義。この *be* と *ambi* は実は同根の単語だ。see⇒*ambi*) / *before* (「～の前に②」・*be* は強調。see⇒*fore*) / *because* (「なぜなら①」 *by cause* 「～の理由<*casus*>により<*by*>・・」から。see⇒*causa*)

(6) *bellum*・*belli* [ベッルム・ベッリー] <綴> = war 「戦争」

またややこしい話で恐縮だが、*bellus*・*bella*・*bellum* 「美しい」はまた別の単語である。*Bellmare* 「ベルマーレ (美しい海)」など Jリーグのクラブ・チームの名前にもなっているが・・。see⇒*mare* 最後の「中性変化」の *bellum* などは、「戦争」の名詞形とまったく同じになってしまっている。「女性」と「戦争」で何らかの語源的関係があるのだろうか？確かにトロヤ戦争の原因になったのはスパルタ王妃「ヘレナ」であった。まさに「犯罪の影に女あり」ならぬ「戦争の影に女あり」だが・・。 / *rebel* (「反抗」・*re* = *against*・夭折の映画俳優「ジェームズ・ディーン」の映画「理由なき反抗」の原題は「Rebel without Cause」だ。rebel は「レブル」と読む。) / *rebellion* (「反乱」see⇒*re*) / *rebellious* (「反抗的な」see⇒*osus*)

(7) *bene* [ベネ] <綴> = well 「良く」 / *bonus* [ボヌス] <綴> = good 「良い」

*benevolence* (「善意」see⇒*volo*) / *bene esse* (「ベネッセ」・「良くある (生きる)」という意味だ。大学入試制度改革で最近何かと世間を騒がせている会社の名前でもある。) / *benefit* (「利益」・*fit* は *facio* = *make* / *do* もともとは「善行 (良い行い<*facio*>)」を指した。see⇒*facio*) / *beneficial* (「有益な・ためになる」) / *bonus* (「ボーナス・賞与・特別手当」・まんま・・だ。) / *bounty* (「恩恵・助成金」) / *benediction* (「神の恵み・祝福」・*dic* は「言う」。食事前の神への「祈り」を指した。see⇒*dico* また「空飛ぶ教皇<Flying Pope>」として世界平和に尽力したかの「ヨハネ・パウロ 2 世」の後を襲って (継いで)、第 265 代ローマ教皇となったのが「ベネディクトゥス 16 世<*Benedictus*>」である。短期間で何と「生前退位」という結果になったが・・。現在の教皇は第 266 代で、名前を「フランシスコ」と言う。ラテン語では *Franciscus* [フランキスクス]。英語では *Francis* [フランシス]。出身が「アルゼンチン」なので、スペイン語で「フランシスコ<*Francisco*>」となっている。「～世」・・とついていないのは、過去二千年のパチカンの歴史において、「フランシスコ」という教皇が存在しなかったということでもある。そういえば「フランシスコ・ザビエル」という宣教師もかつて存在した。語源は「フランク人」に由来するという説が有力だ。)

(8) *bhleg* [ブ(フ)レグ]・ラテン語やギリシャ語ではなく IE (インド・ヨーロッパ祖語) まで遡って親戚の単語をまとめた。本書の趣旨に反するが、余りにもこの系統の単語が多いからだ。もともとは「太陽の輝き」を表す言葉だったとか。そこからさまざまな単語が生まれた。bl- ときたら「輝き・白」をキーワードとして見て欲しい。また光は「反射」すれば「白」だが、「吸収」すれば「黒」にもなる。bla / bli / ble / blo / にも変化する。また *bhreu* とも区別。see⇒*bhreu*

*bla*) *blank* (「空白」・太陽は白色。) / *blanket* (「毛布」・もともと白い毛布を指していた。) / *blaze* (「輝く」) / *blazer* (「ブレザー」・もともとは輝くような色のものを指した。) / *blast* (「爆発」・太陽表面のフレアを想像すればいい。) / *blame* (「責める」・感情を爆発させること。see⇒*fabula*) / *black* (「黒」・太陽を見たら目が潰れる。あとは「真っ黒」。中世には太陽の色は「黒」と考えられていた・・と聞く。また「光で焦げたら黒になるから・・」とも・・。)

*ble*) *bless* (「祝福する」) / *bleed* (「出血する」・神の「祝福」を得るためには動物を生贄 (=血) に捧げなくてはならない。遊牧民的発想だ。) / *blend* (「混ぜる」・すべての色を混ぜると「白」になることはご存知だろう。)

*bli-blo*) *bliss* (「祝福」) / *blind* (「盲目の」・太陽を直視してはいけない。目がつぶれる。) / *blink* (「まばたきする」・太陽がまぶしいから。) / *blow* (「殴る・風が吹く」) / *blossom* (「(果実の) 花」・ひまわりの花は太陽に似ている。「チェリー・ブロッサム (桜の花)」という松田聖子ちゃんの歌もあった。) / *bloom* (「咲く」) / *blood* (「血液」 [ブラッド]・「血の色の夕焼け空」などという表現もある。)

その他) *bold* (「大胆な」lo が ol に入れ替わった。) / *blunt* (「刃物などの切れ味が鈍い」) / *flower* (「花」・b が f に転化。[ブラ] ⇒ [フラ]となった。b にもどして er を取れば blow だ。所謂「グリムの法則」だ。また *flour* 「小麦粉」とは発音がまったく同じ。[フラワー]ではなく[フラウア]だ。小麦粉は麦の「花」のようなもの・・ということからきている。see⇒*flos*)

(9) *bhreu* [ブ(フ)レウ]・これもラテン語・ギリシャ語以前の IE (インド・ヨーロッパ祖語) だ。もともと「膨らむ」を意味した。bre / bri / bro ときたら「ふくらむ」がキーワードだ。「懐で大切に温めて育てる」という発想でこれらの単語を見てほしい。bl-か br-かで迷ったら、「輝く」か「膨らむ」かで思い出せ！

*bre*) *breed* (「育てる」・過去・過去分詞は *bred*・*bred* で、発音は「パン<*bread*>」とまったく同じ[ブレッド]だ。また *thoroughbred* 「サラブレッド・純血種の・教養のある人」などもこの *bred*。「徹底して<*thorough*>育てられた」が直訳。尚 *thorough* [サラ]と①*thought* [ソートウ]「考えた」 / ②*through* [スルー]「～を通して」 / ③*though* [ゾウ]「～だけれども」 / ④*threw* [スルー]「投げた」がごっちゃになっている人を最近見かける。しっかり区別すること。区別の方法は「音」しかない。②と④は完全に同音である。また *thorough* と *through* は同根語だ。「～を通して」⇒「徹底した」となった。発想は *dia* と同じだ。see⇒*dia*) / *bread* (「パン」・イースト菌を入れたパンを焼くと膨らむ。「パン」はラテン語系、「ブレッド」はゲルマン語系だ。日本には「パン」が先に入ってきた。戦国時代にポルトガル人が最初に来航したからだ。だから我々は今でも「パン」と言う。see⇒*pan*) / *brew* (「醸造する」・泡が大きく膨らむ。読み方は[ブルー]で「青<*blue*>」と同じ発音。まちがっても[ブリュー]などと読まないこと。これは *grew* [グルー]や *flew* [フルー]なども同様だ。) / *brewery* (「醸造」) / *breast* (「胸」 [プレスト]・呼吸すると胸が膨らむ。また「希望に胸膨らませて・・」という表現もある。永井豪のアニメ「マジンガーZ」の必殺技に「プレスト・ファイアー」というのがあった。あの「プレスト」だ。また水泳の「平泳ぎ」は *breast stroke* [プレストウ・ストウロク]と言う。

stroke は strike 「打つ・なぐる」だから直訳すれば「胸で殴る」だ。もっとも水泳での「(手で) ひとかき」も stroke だから「胸でひとかきする・・・」か? また stroke には「発作(ほっさ) という意味もある。」 / **breath** (「呼吸」・こちら胸が膨らむ。発音は[プレス]) / **breathe** (「呼吸する」・発音は[ブリーズ]・breathing の発音もしばしば突かれる。[ブレスィング]などと読まないこと。ing がついている以上もとは動詞のはずだから[ブリーズィング]だ。) / **breadth** (「広さ」 see⇒ **vaco**)

**bri-bro** **bribe** (「賄賂(わいろ)」・昔はお金の代わりにパン<bread>を渡した。) / **bride** (「花嫁」・もともとは「パンを焼く人」の意。) / **brood** (「ひな」) / **broth** (「スープ・煮出し汁」・brew と発想は同じ。Too many cooks spoil the broth. 「船頭多くして船山に登る」で諺にもなっている。「コックが多すぎるとスープが台無し・・・」が直訳。) / **broad** (「広い」 see⇒ **vaco**) / **broadcast** (「放送する」 see⇒ **fore**)

その他 **burst** (「破裂する」・ru が ur になった。「タイヤがバーストした!」などと使うアレである。) / **ferment** (「発酵させる」・ラテン語の **fervo**・**fervere** [フェルウォー・フェルヴェレ]「焚きつける」に由来するが、さらに遡ると bhrew にたどり着く。bre[ブレ] ⇒ fre[フレ] ⇒ fer[フェル]に転訛した。) / **fermentation** (「発酵」)

(10) **bi** 「2つ」 **bini**・**binae**・**bina** [ビーニー・ビーナエ・ビーナー] <羅> 「2つの」に由来 see⇒ **di**

**bicycle** (「二輪車」 see⇒ **tri** / **kyklos** / **pes**) / **biannual** (「隔年の」 see⇒ **annus**) / **biscuit** (「ビスケット」・「二度焼く」の意。 **bis coctus panis** [ビス・コクトゥス・パニス]「二度焼かれたパン」より。 **coctus** は **coquo**・**coquere**・**coxi**・**coctus** [コクオー・コクエレ・コクスイー・コクスイット]「(熱で)料理する」で、cook「料理する・料理人」の語源となった単語だ。従って cook は「火」を使わない料理には使えない。その場合には単に make や prepare「準備する」を使えばいいだろう。尚 **cookie**「クッキー」も同根語である。) / **bipedalism** (「二足歩行」 see⇒ **pes** / **ismos**) / **bilingual** (「二か国語を話せる」・かつては英語がペラペラの女の子を「バイリンギヤル」と称した。 see⇒ **longus** / **monos**) / **bisect** (「両断する」 see⇒ **seco**) / **bilateral** (「相互の」 see⇒ **latus**) / **combine** (「結合する」 see⇒ **cum** / **mutō**)

(11) **bios** = βίος [ビオス] <希> = life「生命」・最近流行(はや)りの「バイオ」だ。

a) **autobiography** (「自伝」 see⇒ **autos** / **grapho**) / **antibiotic** (「抗生物質」・「バイオ(生物)」と「アンチ(反)」がくっついた。「生物」とはここでは「細菌」のことだ。 see⇒ **anti**) / **amphibian** (「両生類」・bian = **bios** see⇒ **ambi**) / **amphibious** (「両生類の」 see⇒ **ambi** / **-osus**)

b) **biology** (「生物学」 see⇒ **logos**) / **biological** (「生物学の」) / **biodiversity** (「生物多様性」 see⇒ **verto**) / **biography** (「伝記」 see⇒ **grapho**) / **bionic** (「生体工学の・超人的な」・「バイオニック・ジェミー」というアメリカのドラマがあった。サイボーグの女の子が活躍するという筋だ。) / **biomimicry** (「バイオ・ミミックリー(生体模倣)」・自然界の生物をまねて科学技術に応用すること。すぐに実感できるのは「新幹線」の車体だ。実にヘンテコな「顔」をしている。これは高速でトンネルに入る際、騒音を抑えるためだ。「キラークイッシュ」と呼ばれる魚が水に飛び込む際にスプラッシュしないことに注目して開発されたものだ。 **mimesis** = μιμησις [ミメシス]は「模倣」の意。) / **biomimetics** (「バイオミメティクス(生物模倣技術)」・生体模倣を通じて科学技術に生かそうとする学問のこと。なかなか日本語にしにくい。。。) /

**bio-degradable** (「生物分解能のある」・詳しくは see⇒ **gradus**)

その他 **microbe** (「微生物」・micro = little / see⇒ **mikros**)

(12) **brevis**・**brevis** [ブレヴィス・ブレヴィス] <羅> = brief / short「短い」

**brief** (「簡潔な」・We will make a **brief** stop at Nagoya. 「名古屋で少し止まります。」などと新幹線のアナウンスにもあった。「ブリーフ・ケース」とくれば「書類入れ」。「ブリーフィング」は「簡単な報告会、打ち合わせ」。男性用の「パンツ」には「トランクス<trunks>」と「ブリーフ<briefs>」がある。「ブリーフ」は裾(すそ)が短いからだ。一方「トランク」はご存じのように「(木の)幹・体幹」や「(象の)鼻」などを指す。確かに「ズドン」という感じで「木の幹」のようだが、由来はホントのところよくわからない。「鞆(かばん)」の「トランク」もこれ。昔は木の幹をくりぬいて大きバッグを作っていたのだ。また **trousers**[トラウザーズ]「ズボン」や **pants**[パンツ]と同様、ズボン系はすべて s がつくことにも注意。脚を通す穴が2つあるからだ。我々の日常生活にさまざまな形で使われている単語だ。) / **brevity** (「簡潔さ」) / **abbreviate** (「簡略化する・省略する」・英語の「短縮形」もこの **abbreviation**[アブリビエイション]だ。簡潔な方へ<ab = ad>・・・の意。また「短縮形」は **contraction** とも言う。 see⇒ **ad**) / **Vita Brevis Ars Longa**. ([ウイタ・ブレヴィス・アルス・ロンガ]「少年老いやすく、学成り難し」・長らく誤解されてきた諺だ。「人生は短く、芸術は長い」などと、頓珍漢(とんちんかん)な訳をしないこと。詳しくは see⇒ **longus** / **arma** / **vivo**)

## C

(1) **cado**・**cadere**・**cecidi**・**casum** [カドー・カデレ・ケキディー・カースム] <羅> = fall「落ちる」 / die「死ぬ」・「自動詞」だ。日本語でも「命を落とす・落命」と言う。また **caedo**・**caedere**・**cecidi**・**caesus** [カエドー・カエデレ・ケキディー・カエスス]は「他動詞」で kill / cut / murder「殺す・切る」の意味。

この **caedo** の「完了分詞(英語で言う過去分詞)」の **caesus**「カエスス」が「カエサル」と混同し、「ユリウス・カエサルは「帝王切開(Caesarian Section「カエサリアン・セクション」)で生まれた」との伝説が流布することとなった。Section には「区画」の意味は無論、「切開」・「分離」の意味もある。 see ⇒ **seco** 一方「帝王」とはカエサルを指す。無論、紀元前にそんなことをしたら母子ともにあの世行きである。カエサルは名前ではなく苗字。彼のファースト・ネームは「ガイウス<Gaius>」。「ガイウス・ユリウス・カエサル<Gaius Julius Caesar>」だ。かつて里中満智子さんの漫画「クレオパトラ」で違和感のあるシーンがあった。クレオパトラが「ユリウス・カエサル(ジュリアス・シーザー)」を「ジュリアス!」と呼んでいたのだ。無論これは間違いである。愛人を苗字で呼ぶ女性はいない。クレオパトラはカエサルを「ガイ

ウス！」と呼んでいたはずだ。

a) **accident** (「出来事・事故」・ad は「～の方へ」でもいいのだが、「～の近くに」という説もある。確かにラテン語辞典を紐(ひも)解くと、ad には **near** の意味もある。隕石が近くに落ちてきたら、確かに大変だ。incident と accident の意味の違いは複雑なのでここでは言及しないが、大雑把には前者が「予測可能」で後者は「予測不可能」ということらしい。see⇒**ad**) / **accidental** (「偶然的・事故の」)

c) **casual** (「偶然的・何気ない」・ファッション用語になっていて何とも暢(のん)気だが、実は血なまぐさい起源の単語だ。災いとは「偶然」降りかかってくるものだ。) / **casualty** (「死傷者」・「カジュアル」がどうして「死傷者」なのか? これ謎が解けたであろう。) / **case** ① ② (「①ケース(事例)・事件 ②入れ物」・case には2種類あり、まったく別語源。cado の派生語は①に当たる。「コールド・ケース」などというアメリカのドラマも昔あった。地味だが非常に面白かった。あちらでは、殺人のような凶悪犯罪には日本のように「時効」は存在しない。何十年たっても新しい証拠が出てきたら、最初から捜査をやり直す。そのため事件を「冷凍保存」しておくわけだ。「悪い奴は決して逃がさない」のだ。また②は **casus - casa - casum**<羅>「容器」が語源。) / in **case** S should V (「SV する場合に備えて・・・」・これも「災難系」・・・だ。case①に当たる。) / **capsule** (「カプセル」・こちらは case②由来) / **cassette** (「カセット」・確かにテープが「箱<case②>」に入っていた。) / **cash** (「キャッシュ・現金」・「現金を入れる箱<case②>」が「現金」の意味となった。) / これらこの case②の仲間だ。こちらはやがて「家」という意味にもなった。中国語の「家(か)」もこの case②と同根とする説がある。有名な映画「カサ・ブランカ」はモロッコを中心都市(首都はラバト)だが、もともとは「白い家」だ。「ボギー(ハンフリー・ボガード)の渋い演技と「バーグマン(イングリッド・バーグマン)」の美貌が懐かしい。名作だから受験生諸君も是非見て欲しい。そして「男とはかくあるべし・・・」を学んで欲しい。また作中で流れる名曲が As time goes by「時のすぎゆくまに・・・」だ。こちらも as / go by の使い方を学べる。「カサ・ブランカ」は英語で言えば「ホワイト・ハウス」だ。無論「合衆国大統領」とは関係ないが・・・尚、スペイン語圏で「カサ・デ・カンビオ」と言えば、英語の the house of change「交換する家」で、「両替所」に当たる。路上に机一つ出して営業しているといういかかわしさが、銀行より比率のいい「闇レート」でドルを現地通貨に交換してくれる。貧乏旅行者にはなくてはならない存在だ。) / **coincide** (「同時に起こる」・読み方は[コウインサイドウ]。事件<incident>の起こるタイミングが一致<co>すること。coincide with ~で「～と同時に起こる」などを使う。see⇒**cum**) / **coincidence** (「偶然の一致」see⇒**ans**) / **chance** (「チャンス」はある日突然空から降ってくるもの。逃すべからず。) / **concise** (「簡潔な」・余分なものを切りとること。アクセントは[コンサイス]だ。辞書の名前にもなっている。「切り取られて短くなった」が原義。see⇒**cum**)

d) **decide** (「決心する」・他の案を切って捨てること。see⇒**de**) / **decision** (「決心・決定」) / **decisive** (「決定的な・断固とした」) / **decay** (「腐敗する」・発音・アクセントは[ディケイ]だ。「離れて下に<de>落ちる」が原義。see⇒**de**)

i) **insecticide** (「殺虫剤」・insect「昆虫」を殺すこと。因みに insect は「in「内部」まで **sect**「分離」しているもの・・・」の意。確かに昆虫は体が割れている。see⇒**seco**) / **incident** (「事件・出来事」は天から「降って」くる。in は「中に」という説が支配的だが、筆者は「上に<on>(落ちてくる)」ではないかと思うのだが・・・。see⇒**in**①)

**o-p-s** **Occidental** (「西洋の」[オクシデンタル]・see⇒**orior the Occident**で「西洋」となる。西は「日が没する土地」だからだ。oc = ob「～に対して・下へ」の意。see⇒**ob / orior** 一方「オリエント<the Orient>(東洋)」は逆に「日の昇る場所」の意味することは世界史を学習した人ならだれでも知っている。see⇒**orior Oriental**が「東洋の」だ。「オリエント・カレー」というのも昔あった。see⇒**orior**) / **occasion** (「機会・場合」・考え方は chance と同じだ。see⇒**ob**) / **occasionally** (「時々」) / **pesticide** (「殺虫剤」・**pest**は「害虫・厄介者」。「病気」の「ペスト」も同語源 ⇒ **mors / placeo**だが、こちらは英語では **plague**[プレイグ]と言うので注意。see⇒**mors / placeo**) / **precise** (「正確な」・前<pre>を切り取る・・・の意。また「前<pre>もって決めて<decide>あったとおり」の解釈もあるようだ。後者のほうが理解しやすいが・・・。see⇒**pre**) / **precisely** (「正確に」) / **precision** (「正確さ」) / **parachute** (「パラシュート」・「落ちることに対して準備する・反対する」が原義。こちらも原形をとどめていないが・・・。see⇒**para**) / **suicide** (「自殺」[ス(-)イサイド]・**sui**[スイ]はラテン語の「再帰代名詞」。**suus**[スウスの]「属格(所有格)」で、つまり「自分自身<self>」のことだ。またこの **suus**は **se**[ゼ]にも変化する。**solve**「解決する」の so がこの **se**だ。「自分自身を緩める」の意。see⇒**laxo**) / **scissors** (「はさみ」[シザーズ]・「切り取るもの」の意。ホラー映画の名前にもなった。また「フライイング・ヘッド・シザーズ」というプロレスの技もある。ジャンプして両脚で相手の頭を挟んで倒す技だ。頭の s は後についたものだ。最後の s は複数形の s。刃が2つあるからだ。**trousers**[トラウザーズ]「ズボン」や **pants**[パンツ]なども同じ理屈だ。see⇒**brevis**)

その他) **homicide** (「人殺し」[ホミサイドウ]・homo は「人」を表す。see⇒**homo**)

②) **calo - calare - calavi - calatus** [カラー・カラーレ・カラーウィー・カラートゥス]<羅>=call「呼ぶ」・「人々を呼び集める」ことから「集会」の、「兵士を呼び集める」ことから「徴兵」の意が、さらに軍役が必須であった古代ローマでは「身分」の意味も生まれた。軍役を果たすことで社会的地位・名声が保証されたからだ。ギリシャ語では **klao**=κ λ α ω [クラオー]となる。cla ⇒ cal と o と a の場所が入れ替わっている。こういうことはよくある。また cal ⇒ cil も見られる。

**call** (「呼ぶ」) / **class** (「階級・クラス」・もともとは古代ローマの「徴兵制」に由来する言葉だ。ローマ市民はみな「兵役」の義務を負っていた。つまり「呼び出され」て軍務についたわけだ。無論軍隊は兵士の身分によって階級分けされていた。ここから「呼ぶ」が「階級」を意味する言葉となった。) / **classical** (「古典的な・ギリシャ・ローマの」・「クラシック音楽」のクラシックはこちら。英語では classical music となる。「階級」⇒「最上級の」となった。) / **classic** (「一流の・最高級の」・「ランクが一番上」の意味。WBC「ワールド・ベースボール・クラシック」のクラシックがこれだ。「何で野球が古いんだ?」などと考えるはいけない。) / **classify** (「分類する」see⇒**facio**) / **classification**

(「分類」) / **council** (「会議」・ラテン語の **concilium** [コンキリウム]「会議」に由来。一緒に<coun = con = cum> + 呼ぶ<cil = cal>より。かなりスペルが変わり果ててしまっているが・・・。see⇒cum) / **reconcile** (「和解する・妥協する」・対立する人々を、再び<re>呼ぶ<cil = cal>集めて<con = cum>和解させたことから・・・。see⇒re/cum) / **reconciliation** (「和解・妥協」) / **calendar** (「カレンダー」・古代ローマでは「カレンダー<Kalendae>」、すなわち「毎月一日」に、司祭が人々を呼び集めて一か月の予定を語ってきかせた。)

(3) **calx** - **calcis** [カルクス・カルキス] <羅> = stone 「石」 / pebble 「小石」・石を並べて「計算」をした、古代ローマ時代の「そろばん」の名残り。そろばんという何やら日本か中国に起源がありそうだが、何と古代メソポタミアですでに使われていたようだ。そして古代ローマからシルクロードを経て中国に伝来した。日本に入ってきたのは室町時代。中国語の「算盤」が訛(なま)って「そろばん」になったという説などがある。英語では **abacus** [アバカス] と言い、語源はヘブライ語の「埃(ほこり)」だそう。埃の上に石を置いて計算したという。

**calculate** (「計算する」) / **calculation** (「計算」) / **calcium** (「カルシウム」・もともと lime stone 「石灰岩」の意。骨は大切に・・・)

(4) **candidus** - **candida** - **candidum** [カンディドゥス・カンディダ・カンディドゥム] <羅> = empty 「空の」 / white 「白い」 / shine 「輝いている」 / bright 「明るい」・もともとは「輝くように白い」だが。ここから「中空の円筒形」も指すようになった。「カン」の音が目印だ。漢字でも「管(かん)」、「缶(かん)」と言う。中国語の起源は不明だが、さまざまな共通語の存在からしてインド・ヨーロッパ語族と近縁関係にあることは間違いないだろう。「始皇帝はペルシャ人だった」などという説もある。英単語の暗記にもこれを利用しない手はない。c ⇒ ch の変化も見られる。

**cam** **campus** (「キャンパス」・「白い」から「何もない広場・平原」を意味する。) / **campaign** (「軍事演習」[キャンペーン]・「平原(戦場)」でやるから。また「宣伝(政治的・社会的)運動」の意味もある。)

**cane** (「つえ」・sugar cane は「さとうきび」となる。) / **candidate** (「候補者」・立候補するには身の潔白が必要だ) / **candle** (「ろうそく」は白くて円柱形。) / **cancel** (「キャンセルする」・日本語でも「白紙にもどす」と言う。) / **canyon** (「キャニオン・渓谷」・「グランド・キャニオン」の「キャニオン」だ。えぐられた空洞を想像すること。) / **cannon** (「大砲」・確かに大きな筒だ。またカメラ・メーカーの「キャノン」は無関係。こちらは canon と綴り、「観音様」から来ているそう。創業者が信仰していたらしい。) / **canoe** (「カヌー」[カヌー]・丸太をくり貫いて作った。アクセントにも注意!) / **candy** (「キャンディー」・砂糖きび<sugar cane>からできた。) / **canvas** (「キャンパス」・白いから。) / **canal** (「運河」[キャナル]・①「スエズ運河」や②「パナマ運河」の「運河」だ。channel 「海峡」から来た。)

**cha** **champion** (「チャンピオン」は戦場での勝者を意味した。) / **channel** (「チャンネル・海峡・経路・通信路」・早い話が「中空の筒・トンネル」のイメージだ。そこを通って向こう側と行き来できる。政治用語でも使われ、「北朝鮮とチャンネルを持っている政治家・・・」などと表現する。また「イギリス海峡」は English Channel と言う。一方「ドーバー海峡」は Strait of Dover だ。違いは紙面の関係で割愛した。see⇒stringo)

(5) **canto** - **cantare** - **cantavi** - **cantatus** [カントー・カンターレ・カンターウィー・カンタートゥス] <羅> = sing 「歌う」・ca ⇒ cha や ca ⇒ ce の変化も見られる。

**enchant** (「魅了する」・無論、歌で魅了し虜「とりこ」<en = in>にするのだ。動詞化する en だと捉えてもいいが・・・。see⇒en) / **cantata** (「カンタータ・短い声楽曲」) / **chanson** (「シャンソン」) / **cantabile** (「カンタービレ・流暢な」) / **andante cantabile** (「アンダンテ・カンタービレ」・チャイコフスキーの曲。「弦楽四重奏狂・第一番・二長調・作品11」の第2楽章をこう呼ぶそう。)/ **accent** (「アクセント」・「音楽」も「アクセント」も同じ。音痴の人には致命的だ。「～の方<ac = ad>へ歌う・・・」の意。see⇒ad) / **incentive** (「動機づけ」・「中<in>で歌う」が原義。おだててその気にさせること。心の中で応援歌を奏でるわけだ。日本語でも「笛吹けど踊らず・・・」という表現がある。「モチベーション<motivation>」との違いは **moveo** に書いた。see⇒moveo / in①) / **Carmen** (「カルメン」・女性の名前として余りにも有名。もともとは「魔性の女」の意味を持つ。歌で男性を魅了するからだ。実際の発音は[カーマン]に近い。筆者は最初は呼ばれて<Come on!>いるのかと思った。)

(6) **capio** - **capere** - **cepi** - **caputus** [カピオ・カペレ・ケーピー・カプトゥス] <羅> = catch 「つかむ」・「頭をつかむ」が原義。caput = head 「頭・大切な物・中心」。やがては「財産」の意味になった。遊牧民族である彼らには「家畜」は「財産」だったからだ。家畜はご存じのように「～頭」などと数える。日本人なら「札束をわしづかみ」、つまり「濡れ手に粟」だ。また「考え」という意味もここから出た。日本語でも「私はこの事件をこうとらえる」と言うではないか。「とらえる」とは「考える」の意味だ。cep / cup / cip / ceiv / chiev / chief / chiev・・・などにも変化。p / f / v は相互に変化する。

a) **accept** (「受け入れる」・「～の方向<ac = ad>へ進んで・喜んで受け入れる」の意だ。receive 「受け取る」と区別すること。see⇒ad) / **achieve** (「達成する」・chieve = chief = head だから「頂点に向かって<a = ad>」の意味。see⇒ad) / **achievement** (「達成・業績」・「アチーブメント・テスト(達成度テスト)」などという。) / **anticipate** (「期待する」・anti = ante = before 「前もって考えること」see⇒ante)

c) **capture** (「捕まえる」・これが訛(なま)って catch になった。[キャプチ]⇒[キャッチ]だ。) / **captive** (「捕虜」) / **captivation** (「魅了」・相手の心を catch だ。) / **captivity** (「囚われの状態」) / **caption** (「キャプション・見出し」・読者の関心を catch するのだ。) / **capable** (「有能な」・金を catch できる人間は有能だ。) / **capability** (「能力」) / **capacity** (「容量」・所謂「キャパ」だ。「オレのキャパを越えてる!」などと言う。) / **Capitol** (「国会議事堂」・古代ローマでは7つの丘があった。その中で最も重要なのが「カピトリノ」<Capitolinus>の丘)であった。アメリカの「連邦政府議会議事堂」はだれでもテレビで一度は目にしたはず。丸いドーム状の建物だ。ここで合衆国大統領の就任演説が行われる。あの丘を **Capitol Hill** と呼ぶ。see⇒navis) / **capital** (「首都・資本」・資本とは早い話が「お金」のこと。日本語でも「頭金」と

言う。意味は若干違うが・・・) / **capitalism** (「資本主義」・「世の中ゼニヤ!」という思想だ。see⇒**ismos**) / **captain** (「キャプテン」・日本では「頭領・おかしら」という表現がある。) / **cattle** (「牛の群」・牛は財産であった。遊牧民らしい発想だ。) / **cabbage** (「キャベツ」・pがbに転化した。確かに「頭」の形をしている。数え方はもろに a **head of cabbage**[キャベツ] と「頭」で数える。また **lettuce**「レタス」も同じ数え方をする。) / **cape** (「岬」・頭のように海に突き出している。アメリカはマサチューセッツ州にある Cape Cod「タラ岬」といえば、1620年に「ピルグリム・ファーザーズ(巡礼始祖)」が漂着したところだ。「サザエさん」一家の「タラちゃん」の「タラ」だ。肉が白いことから「鱈」と書く。イギリスの名物「フィッシュ・アンド・チップス」や「のり弁」の揚げ物の魚もこの「タラ」であるが、かなり食欲旺盛な肉食魚らしい。「たらふく(鱈腹) 食う・・・」という言葉はここから来ている。) / **Capri** (「カプリ島」・山羊(やぎ)が多いことからこう呼ばれるようになった。「山羊」=「家畜」=「財産」だ。Tropic of Capricornは「南回帰線」だ。see⇒**torqueo** Capricornは「山羊座」。太陽は山羊座に入る12月末にその向きを南から北に変える<tropic = turn>。いわゆる「冬至」である。「回帰線」とはよくぞ名付けたものだ。一方「北回帰線」は Tropic of Cancer だ。see⇒**torqueo** Cancerは「蟹座・癌」の意味がある。see⇒**libra** 癌細胞を顕微鏡で見るとカニのハサミに似ているらしい。蟹座の人はあまりいい気分ではないだろうが。tropicについては see⇒**torqueo** また余談になるが、地名の由来も探してみると面白い。サッカー選手である「メッシ」の祖国「アルゼンチン」の語源は **argentum**[アルゲントゥム]で「銀」を意味する。化学で銀を **Ag** と表記するのはこのためだ。調べてみると案の定、アルゼンチンでは銀が取れるらしい。銀とくれば「銅<Cu>」だが、これは Cyprus[サイプラス]「キプロス島」の語源となったラテン語の **cuprum**[クブルム]「銅」に由来。東地中海に浮かぶ島だが、銅の産地だったようだ。英語なら **copper** ⇒Cp / Co とでもなるはずだが、そうはならないのはこういった理由からだ。ただしオリンピックの銅メダルは **bronze**[ブロンズ]「青銅」だ。金髪美女の「金髪・金髪」は **blond** だから読み間違えないこと。また金髪は **fair hair** とも言う。**Au**「金」は **aurum**[アウルム]。aurora「オーロラ」も「オーラの泉」の **aura**[オーラ]も仲間の単語だ。また argue「議論する・主張する」も **argentum**「銀」に由来する。なぜ「銀」が「議論する」なのか? 詳しくは see⇒**Mercurius**) / **chief** (「首長」・首の文字が日本語にも見える。) / **chef** (「シェフ・料理長」) / **conceive** (「思う・考える」・conは「強意」。また「受胎する」という意味もある。「子供をつかむ」から出た意味だと言われている。see⇒**cum**) / **concept** (「概念」) / **conception** (「概念・妊娠」・こちらも「概念」と言う意味だが、「妊娠」という意味もあるのであえて掲載した。「想像妊娠だ!」などと、東京外語大卒のかつての同僚の先生が教えていたが、由来は conceive で説明した通りだ。) / **conceit** (「自惚(うぬぼ)れ」・self-conceive「自分のことを考える」から self が取れた。つまり「自意識過剰」ということだ。) / **conceited** (「自惚れの強い」)

**d) disciple** (「弟子・生徒」[ディサイプル]・もともとは「徒弟制度」に由来する。弟子をつかまえて修行させるからだ。ここの dis は残念ながら「反対語」でも「分離」でもない。δ ε χ ο μ α ι = **dekhomai** [デコマイ]というへんてこなギリシャ語の動詞で accept「受け入れる」の意味だ。筆者は「おでこで受け止める」と覚えた。これがやがてラテン語の **disco-discere**[ディスコー・ディスクレ]「学ぶ」となって英語に取り入れられた。またラテン語の新約聖書ではイエスの弟子たちを **discipulus**[ディスキプルス]と表記している。) / **discipline** (「訓練」・「**ディ**スイプリン」) / **deceive** (「騙(だま)す」・誤った考えを抱かせること。「正しい考えをつかむ<catch>」ことから遠ざける<de>」の意。see⇒**de**) / **deceit** (「騙すこと・詐欺」) / **deception** (「詐欺・だますこと・だまされること」・deceit よりこちらの方が正式な単語。)

**e) emancipate** (「奴隷状態などから解放する」・e = **ex** / man = **manus** / cip = **capio** で、「手<manus>でつかんで<capio>いる状態から解放放つ<ex>」の意。see⇒**ex/manus**) / **emancipation** (「解放」 see⇒**manus**) / **except** (「～を除いて」・つかまれる<cept = **capio**> ことの外<ex>に) いること。see⇒**ex**) / **exception** (「例外」) / **exceptional** (「例外的な」) / **escape** (「逃げる」・「catchされることから外<es = **ex**>へ・・・」が原義。首根っこをつかまれた羊がそれを振りほどいて逃げようとする様子が目に浮かぶようだ。see⇒**ex**)

**m) municipal** (「市の」・古代ローマの自治都市を意味した。兵を出すことと引き換え<mutō>に自治権を獲得<cipi = catch>したことに由来する。see⇒**mutō**)

**p) participate** (「参加する」・「役割<part>をつかむ<catch>」が原義。see⇒**par**) / **participle** (「分詞」 see⇒**par**) / **perceive** (「感じる」・perは「徹底して」の意。「全身全霊込めてつかみ取る・・・」ほどの意か? see⇒**per**) / **perception** (「感覚」・ESPer「エスパー(超能力者)」のPだ。see⇒**sensus**) / **preoccupy** (「没頭させる」・「前もって<pre>心をつかむ<cup = catch>」こと。see⇒**pre**) / **preoccupation** (「没頭・先入観」) / **purchase** (「購入する」・chaseはcatchの姉妹語。pur = pro「前に」出でつかむ・・・の意。see⇒**pro** 何のことはない。バーゲン・セールに殺到するオパタリアンだ。読み方は[パーチャス]だ。[パーチェイス]ではない! see⇒**pro**) / **plunge** (「～を突っ込む」・AgやCuなどの「元素記号」の話のついでに、無関係だがこの単語も載せた。どうにもなかなか覚えにくい単語であるからだ。「化学」の時間に **Pb** という元素記号を学ぶ。「鉛」だ。**plumbum** [ブルムブム]というラテン語である。英語では **lead**[レッド]と言うが、Ldなどとしたらフランス人が怒り出すから、万国共通の元素記号はラテン語やギリシャ語を使うのだ。ガソリン・スタンドで給油する際、**Unleaded**[アン・レディッドウ]という油種がある。「無鉛ガソリン」ということだ。さてこのplungeも **plumbum** と同語源の単語である。物理で「鉛直方向に・・・」などと言う。鉛を吊るすと重力に引かれてまっすぐ垂れ下がるからだ。この「ぐっと下に沈み込む」様子を想像すれば意味が覚えられる。「スモモ」の plum「プラム」はどうも無関係のようだ。

**r) receive** (「受け取る」・reは「後ろへ」だから「後ろへ(下がって)取る」が原義。前に進んで獲得するのではなく、あくまで「受け身」だ。また accept「受け入れる」と区別すること。see⇒**re**) / **reception** (「受け入れること・受付・宴会」) / **receptionist** (「受付係」) / **recipient** (「臓器受容者」[レシピエントゥ]・「臓器移植」が可能になってから注目されるようになった単語。「臓器提供者」の方は **donor**[ドゥナー]だ。see⇒**do/-ans**) / **receipt** (「領収書・レシート」・[レシープト]などと読まないこと! pは「サイレント(黙字)」だ。) / **recipe** (「レシピ

一・調理法」・「受け取れ！」という処方箋の最初に書かれた命令文が原義。ラテン語の *recipere* 「受け取る」の「命令形」。ラテン語では「原形」から最後の *re* を取ると「命令形」になる。*audire* [アウディーレ] 「聞く」が *audi* [アウディー] 「聞け！」と命令文になる。これは車の名前にもなっていることも既に書いた。) / *recover* (「回復する」 see⇒*velo/re*) / *recovery* (「回復」・ここでの *cover* は「覆う」ではなく *catch* の意味だ。「再びつかむ」の意。 see⇒*velo*)

その他) *handkerchief* (「ハンカチ」・「手<*hand*>でつかむ<*chief*>」が原義。女性が手に持って髪をおさえるのに使った。早い話「赤ずきんちゃん」を想像すればいい。一方「首<*neck*>をつかむ<*chief*>」で *neckerchief* 「ネックチーフ」となった。) / *intercept* (「横取りする・遮る」・*inter* だから「間に<*inter*>割って入る」こと。「インターセプトする・・・」などとアメフトの世界で使う。 see⇒*inter*) / *mischievous* (「いたずら」 [ミスチフ]・「頭が悪い<*mis*>奴がいたずらをするのだ。発音・アクセントにも注意！[チーフ]ではない！ see⇒*mis*) / *mischievous* (「いたずらな」 [ミスチヴァス] see⇒*osus* 一方イギリスでは *naughty* [ノーティー] 「腕白な」という単語をよく耳にした。授業で我々の答が間違っていると先生が *naughty! naughty!* などとおどけてみせるのだ。「勉強しないで遊んでばかりいるからできないんだ。悪い子だねー！」とでもいったニュアンスだろうか？名詞の *naught* は *nought* とも綴り、*nothing* の意味。アメリカでは *zero* 「ゼロ」を使うようだ。この *nought* は昔コンピューターのプログラマーをやっていたとき目にした記憶がある。つまり *naughty* は「頭がからっぽ・何も考えてない」ほどの意味となるのか・・・) / *occupy* (「占領する」・相手に対して<*oc = ob*>進駐軍を制圧<*cup = catch*>のため差し向けるのだ。 see⇒*ob*) / *occupation* (「占領・職業」) / *scapegoat* (「スケープ・ゴート」・「生贄(いけにえ)の子羊」などと日本語には訳されているが、*goat* だから「羊」ではなく「山羊(やぎ)」だ。*scape* は *escape* の *e* が脱落したものだから「逃げる山羊」だ。逃げたら生贄にならないと思われるかもしれないが、生贄は二匹おり、一匹を殺して神に捧げ、もう一匹を荒野に逃がして墮天使「アザゼル」に捧げたことによる・・・と「旧約聖書・レビ記」の記述にある。現代では「俺はスケープ・ゴートにされた(無実の罪を着せられた)んだ！」などと身の潔白を訴える際に使われるが、「スケープ・ゴート」の意味を完全に取違えている。「殺された羊」の意味で使っているのだろうが、「殺されていない」方を指すのだ。また余談になるが、昔「サウンド・オブ・ミュージック」という名作映画があった。主演は「ジュリー・アンドリュース」。ミュージカル映画だが、その中に「ひとりぼっちの羊飼」いう軽快な曲がある。しかし原題には *goatherd* [ゴータード] とあるから「山羊飼」である。「羊飼」なら *shepherd* [シェパード] となるはずだ ([シェファード] などと読まないこと!)。そもそも羊がアルプスのような高山にいるはずがないのだ。しかし「やぎかい」ではいかにも語呂が悪いので、「ひつじかい」としたらしい。*herd* は「群れ」の意。 see⇒*probo* 「羊の群れ<*sheep + herd*>」から転じて「羊飼」⇒「羊の番をする犬」となって「シェパード」という単語が生まれた。「サウンド・オブ・ミュージック」は掛け値なしの名作だ。是非見て欲しい。)

(7) *carrus*・*carri* [カッルス・カッリ] <羅> = *car* 「車」・*Gallic type of Wagon* 「ガリア人の馬車」と辞書にはある。ガリアとは現在のフランスのことだ。*car* とともに *char* にも注意。

*cargo* (「貨物」) / *carriage* (「馬車」) / *carry* (「運ぶ」) / *cart* (「カート」・荷馬車・小型運搬車・手押し車)・トランプと安倍ちゃんがゴルフ場で乗ってたやつだ。野球でピッチャーがマウンドに向かうときもこれに乗る。またスーパーのカートやゴーカーなども馴染みだ。) / *cartridge* (「(万年筆などのインクの) カートリッジ・弾薬筒」) / *caravan* (「隊商・キャラバン」) / *career* (「経歴」・その人間 (=車) のたどってきた経路だ。アクセントは[キャリア]) / *caricature* (「風刺画」・「車に山と積む」⇒「大げさに言う」から。日本語でも「話を盛る」と言う。) / *carpenter* (「大工」・あちらの大工は文字通り「車」の修理も手がけた。) / *charge* (「責任」は担う<*carry*>もの。 *be in charge of* ~ 「～に責任がある」という熟語もある。) / *chariot* (「二輪馬車」[チャリオット]・馬車といっても「古代の戦車」のことだ。昔、「チャールトン・ヘストン」主演の「ベン・ハー」という映画があった。そこにこのチャリオットを使った戦闘シーンが出てくる。名作だから是非見てほしい。また映画「十戒」でも、モーゼ一行を追撃する「ラムセス2世」の軍勢が乗っているのがこの「チャリオット」だ。ここで面白い話がある。「車は右ハンドルと左ハンドル。どちらがルーツか？」という問題だ。答は「右ハンドル」だ。そのルーツがこのチャリオットによる戦闘シーンである。馬は「左手」でコントロールする。「右手」では剣を持たなくてはいけないからだ。そして右前方から走ってくる敵と剣を切り結ぶのだ。ゆえに「右ハンドル・左側通行」が正式な形となる。しかしこの形はイギリスと「*Commonwealth*」(イギリス連邦)、すなわちイギリスのかつての植民地と日本くらいで、あとは「左ハンドル・右側通行」が主流となっている。まことに嘆かわしい限りだ。右側通行に変えさせた張本人の名前も判明している。かの「ナポレオン・ボナパルト(ナポレオン1世)」だ。彼は「左利き」だったので、ヨーロッパ大陸を征服した際すべて右側通行に改めさせたという。もっとも筆者も「左利き」ではあるのだが・・・)

(8) *carta*・*cartae* [カルタ・カルタエ] <羅> = *paper* 「紙」・ご存知戦国時代にポルトガル語を経由して入ってきた言葉だ。

*card* (「カード・トランプ」・「トランプ」については・・・ see⇒*tri*) / *discard* (「捨てる」・トランプで「要らない札を捨てる」ことからきた・・・と言われる。 see⇒*dis*) / *chart* (「表・チャート・海図」・諸君らは数学でさんざんお世話になったはず。) / *Magna C(h)arta* (「マグナ・カルタ(大憲章)<1215>」・何のことはない。直訳すれば「でっかい紙」だ。 see⇒*magnus*) / *cartel* (「カルテル」・企業連合)・中3の「公民」の時間にやった「カルテル」、「トラスト」、「コンツェルン」の「カルテル」だ。「何て悪い奴らだ！」と憤慨した方もおられようが、もともとはドイツで、不景気時に極端に値下げをする業者の出現を防止する目的だったそう。大きな「紙」に値段を書いて、「この値段以外では売りませんよ！」と宣言していたことに由来する。) / *cartography* (「地図作成術」・ある大学の入試問題を読んでいた際登場したので、急遽掲載した。無論文脈から類推できるが・・・ see⇒*grapho*) / *carton* (「カートン」・大箱)・もともとは包装用の大きな「紙袋」のこと。タバコ1カートンの紙袋には10個入っている。牛乳などにも使う。) / *cartoon* (「漫画」・*comic strips* とも言う。)

(9) *cata* [カタ] <羅> = *kata* =  $\kappa \alpha \tau \alpha$  <希> ・また母音の前では短縮形を取り *cath* = *kath* =  $\kappa \alpha \theta$  となる。 ① *down* 「(上から)下

で・徹底的に・完全に」また② against～「～に反対して・・」という意味もあれば、③ according to～「～によれば・・」という意味もある。とにかくわけがわからない接頭辞だが、だいたい「滝」を連想すればイメージはつかめる。滝は①「上から下へ(落ちる)」⇒②「(水は滝つぼを)直撃する」⇒③「(上からの命令に)従えば」となる。とりあえず英語では①の意味でほとんど間に合うと思うが・・。

catalogue (「カタログ」[カ]タログ)・「すべて集め・選ぶ」が原義。カタログにはすべての品目が掲載されていなくてはならない。log = logos = λ ο γ ο ς [ロゴス]は「言葉」。see⇒logos その動詞形が lego = λ ε γ ω [レゴ]で「言葉を集め・選び・言う」だ。ラテン語でも lego・legere であり see⇒lego②、まったく同じ意味を持つ。) / cataract (「瀑布(ばくふ)・滝」・上から下まで一気に落ちる。ract = rhatto = ρ α τ τ ω [ラットー]は「打つ・打ち倒す」だから、「上から下を打つ」が原義。またこの単語には「白内障」という意味もあるようだ。) / catapult (「カタパルト(ミサイルや戦闘機の発射台)・パチンコ」・pult = pallo = π α λ λ ω [パッロー]「(石などを投げるため)振り回す」の意。「宇宙戦艦ヤマト」に「カタパルト」というのが登場する。戦闘隊長「古代進」の司令機の発射台をこう呼んでいた。) / Catholic (「カトリック・旧教」・分解すれば cata + holos つまり「全体にわたって・・」だ。「すべてを兼ね備えた・普遍的な」というわけだ。「プロテスタント(新教)」などの諸派など必要ありませんよ・・というアピールである。holos = ο λ ο ς [ホロス]はギリシャ語の all 「すべて」であり、holy 「聖なる」や whole 「全体」の語源となった。「すべて備えている」⇒「完全無欠な」⇒「神聖な」となった。see⇒holos / testa ) / category (「カテゴリー・部類・範疇(はんちゅう)」・分解すれば kata + agora となる。agora [アゴラ]は古代ギリシャ史で登場する。「広場」という意味だ。see⇒phobos 一方 kata = against で、あわせて「広場で群衆に反論する」の意。物事を論理的に述べるには、10種類の概念を明確にする必要があるとされた。これが不明確だと群衆を説得できないのだ。「群衆に反論する」⇒「論理的」⇒「論理に必要とされる10種類の概念」⇒「種類・部類・範疇(はんちゅう)」となった。因みにこの10種類の概念」とは、「実体<substance>」・「質<quality>」・「量<quantity>」・「時間<time>」・「場所<place>」などを指す。古代ギリシャ最大の哲学者であり、「アレクサンドロス大王」の家庭教師でもあった「アリストテレス」の説になると言われる。) / categorize (「分類する」see⇒ismos ) / catastrophe (「大災害」[カタストロフイ]・発音にも注意! strepho = σ τ ρ ε φ ω [ストレゴ]はギリシャ語で「回転<turn>」の意。「天地が完全に回転するくらいの大災害」という意味だ。また人が「向きを変えて去ってゆく」という意味でも用いられる。「その後イエスは民衆に背を向けて去っていかれた・・」などという文脈で、ギリシャ語の新約聖書ではしつこくくらい登場する単語だ。) / catastrophic (「大災害の・破滅的な」) / cathedral (「カテドラル・大聖堂」・cata = down で hedra = ε δ ρ α [ヘドゥラー] <希> は英語の saddle 「サドル・乗馬用の鞍」と同語源で「座るべき場所」だから「どっかと腰をおろす場所」が原義。「(大司教<bishop>)が)座る場所」⇒「大聖堂」となった。bishop については see⇒epi / skopo )

(10) causa・causae [カウサ・カウサエ] <羅> = reason 「原因・理由」⇒「原因究明」⇒「問責・訴訟」と変化した。

because (= by cause の訛(なま)り。「こういう理由<cause>によって<by>」⇒「なぜなら」see⇒be) / excuse (「口実・言い訳」・「訴訟<cuse = causa>」から逃れ<ex>ようということだ。see⇒ex / mitto ) / accuse (「責める・告訴する」・「～に向かって<ac = ad>訴えを起こす」が原義。see⇒ad )

(11) cavus・cava・cavum [カウス・カヴァ・カウム] <羅> = hole / cave 「穴・洞穴」 / hollow 「中空の・穴の開いた」・cav = cab ともなった。habeo = have と同じだ。

cave (「洞窟」) / excavation (「発掘」・外に<ex>掘り出すこと。see⇒ex ) / excavate (「発掘する」) / cage (「かご」) / cavity (「空洞」・cavi は cavus の属格(所有格)。とくに「虫歯でできた穴」を指す。) / cabin (「小屋」・確かに洞窟に似ている。see⇒culum ) / cabinet (「内閣」see⇒culum )

(12) cedo・cedere・cessi・cessus [ケードー・ケーデレ・ケッスイー・ケッスズ] <羅> = go / walk 「歩く・進む」・また withdraw 「退く」の意味もある。

a) access (「接近」・～に向かって<ac = ad>進む。see⇒ad ) / accessible (「入手できる」・接近すれば手に入る。) / ancestor (「祖先」「前<ante>を進む者」の意。see⇒ante )

c) concede (「妥協・譲歩する」・みんな<con>で歩み寄ること。see⇒cum ) / concession (「譲歩」)

e) exceed (「超過する」・外へ<ex>はみ出してゆくこと。see⇒ex ) / excess (「超過」) / excessive (「過度の・法外な」)

p) process (「過程」・前に<pro>進むこと。see⇒pro ) / proceed (「進む」・これも文字通り、「前<pro>進」だ。pro も pre も「前」だが、pro は「動作(前へ・・)」を、pre は「状態(前で・・)」を表す。もともと境界線はかなり曖昧になってきているが・・。see⇒pro ) / procedure (「手順」・「(前への)進め方」だ。) / precede (「先行する」・前で<pre>進む。see⇒pre ) / precedent (「先行している・先例」・前で<pre>進む人・が「先例」を作る。see⇒ans ) / precedence (「先行・先立つこと」) / predecessor (「先行者」・反対語は successor 「継承者」だ。)

r) recede (「撤退する」・後ろへ<re>進む。see⇒re ) / recession (「後退」・また「景気後退」という意味もある。) / recess (「休息」・「下がって休め!」などと言う。)

s) succeed (「①成功する・②継承する」) / success (「成功」・「下に<suc = sub>ついてゆく<cess = go>」が原義。部下として主君につき従うのが成功の秘訣ということらしい。先頭を走るのは危険が伴うということか。確かに信長は暗殺されたが秀吉は天下を盗った。see⇒sub ) / succeed in～ (「～に成功する」) / succeed to～ (「～を継承する・後を継ぐ」) / succession (「継承」・信長の継承者は秀吉ということになるわけか?これで succeed が①「成功する」②「継承する」の2つの意味を持つかが理解できたであろう。これからは succeed を見たら「秀吉」を思い出せ。) / successful (「成功した」) / successive (「連続的な」・次々と後を継ぐから・・。)

その他) deceased (「死亡した」・あの世へ離れて<de>行ってしまうこと。see⇒de ) / incessant (「絶え間のない」・in は「否定」・「行った

きりではない) ⇒ 「もどってくる」 ⇒ 「行ったり来たり」だ。see⇒**in② / -ans** ) / **necessary** (「必要な」・neは「否定」・「必要」なものは譲れ<cess>ない<ne>) / **necessity** (「必要・必要性」・Necessity is the mother of invention.「必要は発明の母」という諺もある。また **necessities** と複数形にすると「数えられる名詞」になるから「必需品」という意味だ。)

(13) **celo**・**celare**・**celavi**・**celatus** [ケーロー・ケーラーレ・ケラーウィー・ケーラートウス] <羅>=hide / conceal「隠す」・ドーム状のものが頭上を覆う様子。celはcul / colにも変化した。

**cell** (「細胞・独房・電池」・cell phone「携帯電話」は、電波の届く範囲を細胞内部にみたてたことからついた名前だ。) / **ceiling** (「天井」) / **cellar** (「貯蔵庫」・「ワイン・セラー」で有名。) / **celestial** (「天上の・神聖な」・**terrestrial**「地上の」の反対語。古代の人々は夜空を巨大なドームだと考えていた。要するに我々はプラネタリウムを見ている・・・というのだ。see⇒**terra**) / **colo(u)r** (「色」・「体を覆うもの」⇒「皮膚」⇒「皮膚の色」⇒「色」と変化した。) / **conceal** (「隠す」・conは「強調 see⇒**cum** ) / **cover** (「覆う」・ただしこれには異説もある。詳しくはsee⇒**velo**) / **occult** (「秘密の・神秘的な」・**oc=ob**「下に」隠す)が原義。see⇒**ob** ただし**cult**「カルト」はこれとは関係ない。こちらは「耕す」から来ている。see⇒**colo**) / **hell** (「地獄」・[ケル] ⇒ [クヘル] ⇒ [ヘル]に転訛した。「お盆には地獄の釜の蓋(ふた)も開く・・・」などと言う。地獄は「蓋」に覆われているのだ。) / **helmet** (「ヘルメット」) / **hollow** (「中空の」・[ケル] ⇒ [クホル] ⇒ [ホル]に転化した。) / **hole** (「穴」) / **hall** (「ホール」・確かに天井が丸い。)

(14) **censeo**・**censere**・**censui**・**census** [ケンセオー・ケンセーレ・ケンスイー・ケンスス] <羅>= assess「査定する」 / tax「課税する」 / evaluate「評価する」

**ensor** (「検閲官」・読み方は[センサー]。手紙などにおかしなことが書いてないかチェックする係だ。戦時中には戦闘員から家族に宛てた手紙はすべてチェックされた。古代ローマの「ケンソル(会計検査官)」に由来する。) / **censure** (「非難する」・「おい!もつと税金払え!」から来ている。) / **census** (「国勢調査」・国勢調査は古代にもあった。人口調査だ。「課税」のためであることは言うまでもない。) / **ensorship** (「検閲」)

(15) **centum** [ケントウム] <羅>= hundred「100」・また100分の1は**centi**となる。see⇒**mikros**

**century** (「100年 see⇒**mikros**) / **per cent = percent** (「百分率(%)」・perは「全体」を現す・「100を全体とすれば・・・」という意味だ。see⇒**per** これが**per mil**[パー・ミル]となれば「千分率(‰)」となる。per mill / permil / permill / permille など、さまざまな表記がある。1000はラテン語で**mille**と言う。see⇒**mikros**) / **cent** (「セント」・言わずと知れたアメリカ合衆国の通貨単位だ。1ドルの1 / 100の意味だ。) / **centipede** (「ムカデ」 see⇒**pes**)

(16) **Ceres**・**Cerelis** [ケレス・ケレリス]「豊穡の女神」・もともと「穀物」の意味から「穀殻を振り分ける(脱穀)」さらには「良いものを選び出す」となった。「豊穡の女神」の意味が出てくるのはその後からだ。**cerno**・**cernere**・**cerri**・**cesus** [ケルノー・ケルネレ・クレリー・クレスス] <羅>= distinguish / make out / understand「理解する・区別する」に由来し、さらには同じ意味のギリシャ語の**krino** = κ ρ ι ν ω [クリノー]にまで遡る。また「心」という意味も同系列だが、これは**cor**・**cordis**にまとめた。see⇒**cor**

**cer)** **cereal** (「シリアル・穀物」) / **certain** (「①確かな・②ある〜」・「選び出されたもの」だから「確か」だ。また②の意味に注意。ある人、ある町・・・というときの「ある〜」だ。①は「叙述用法」。つまり「名詞を修飾しない」ように使い、②は「限定用法(名詞を修飾する)」で用いるという使い分けがある。) / **certainty** (「確かさ・確実性」) / **certify** (「証明書」・**ficare**は**facio**=do / makeだから「選別を行う」の意。see⇒**facio**) / **certification** (「資格・証明」・英検の賞状にもこの文字があるから確認して欲しい。またイギリスの英語資格試験には**First Certificate**「ファースト・サティフィケート」というのもあった。) / **certify** (「証明する・資格を与える」・**-fy**=**facio** / see⇒**facio**) / **cri)** **crime** (「犯罪」・法律に触れる罪を言う。宗教的・道徳的な「罪」はsinだ。もとは同じ「罪」だったが、ラテン語系の**crime**が流れ込むことにより、ゲルマン語系のsinとの間に「棲み分け」が生じた。どこかで書いたが古代ローマ帝国は「土木」と「法律」で世界史に名を遺すからだ。) / **criminal** (「犯罪者」・罪のある人間として「ふりわけ<cri = kri>られた人」のことだ。) / **criterion**・**criteria** (「判断基準」・前者が単数形・後者が複数形だ。on = o ν で終わるからギリシャ語だとすぐに察しがつく。**kriterion**=κ ρ ι τ η ρ ι ο ν [クリテリオン]は「判断基準」以外にギリシャ語では「法廷」の意味もある。**krites**=κ ρ ι τ η ς [クリテース]で「裁判官」となる。諸君らも「最後の審判」でお世話になるはずだ。「神が人を裁く・・・」や「裁くな。裁かれないためである・・・」などと、新約聖書で頻りに出てくる単語だ。) / **criticize** (「批判する」・批判には善悪を区別する能力が必要だ。see⇒**ismos**) / **critical** (「批判的な・重大な」・「重要事項」は別扱いだ。) / **critic** (「批評家」) / **criticism** (「批判」 see⇒**ismos**)

**d-s)** **discern** (「見分ける・わかる」・disは「離れて」の意。see⇒**dis**) / **discreet** (「思慮分別のある」・良い物と悪いものを区別する<dis>ことだ。) / **discriminate** (「差別する」・異なった人間をふりわけ選別すること。see⇒**dis**) / **discrimination** (「差別」・**racial discrimination**「人種差別」などと使う。**race**は**race①**「競争」と**race②**「人種・民族」の2つがある。全くの別語源だ。**racism**「人種差別主義 see⇒**ismos**」や**racist**「人種差別主義者」なども覚えておくといい。②の語源はどうもはっきりしない。) / **secret** (「秘密」・「離れて<se>ふりわけられたもの・・・」の意。いつの世も機密事項は特別扱いだ。see⇒**seco**) / **secretary** (「秘書」 see⇒**seco**)

その他) **concern** (「ふるいにかけて同じもの<con>を集めること」から「関係を持たせる」と動詞で使い、また「関係・関心・心配」と名詞でも使える。see⇒**cum**)

(17) **civis**・**civis** [キーウィース・キーウィース] <羅>= citizen「市民」・また**civilis**・**civilis**・**civile** [キーウィーリス・キーウィーリス・キーウィーレ]で「市民の」となる。

**civil** (「市民の・国内の」) / **civilization** (「文明」) / **civilize** (「文明化する」 see⇒ **ismos**) / **civilian** (「文民・民間人」・「文民」の反対の概念は「軍人」だ。) / **civilian control** (「シビリアン・コントロール (文民統制)」・軍隊の最高司令官は軍人ではいけない・・・という考え方。自衛隊の最高指揮官は、現在は「内閣総理大臣」であるはずだ。軍人がやりたい放題やったため戦前の日本は「大東亜戦争」に突入、原爆2発を落とされて敗戦・・・となった。その失敗の歴史に学んだのだ。) / **civil war** (「内戦」・civil war は世界中に無数にあるが、大文字で書けば第16代・合衆国大統領「エイブラハム・リンカーン」の「奴隷解放宣言」で有名な「アメリカ南北戦争<1861-1865>」だ。因みに幕末の「戊辰(ぼしん)戦争」も civil war と言える。) / **civil rights** (「市民権・公民権」・登場するのはだいたい「マルチン・ルサー・キング牧師」の主導による、1960年代の「アメリカ公民権運動」を指す。黒人にも白人と同じ権利を・・・という、あれである。彼の名前は1957年に「宗教改革」を開始した「マルチン・ルター」に因んだものだ。) / **Civil Rights Movement** (「公民権運動」) / **civil servant** (「公僕・公務員」・see⇒ **servo**)

(18) **clamo** - **clamare** - **clamavi** - **clamatus** [クラモー・クラマーレ・クラマーウィー・クラマートゥス] <羅> = cry 「叫ぶ」

**proclaim** (「宣言する」・前に<pro>出て公言すること。「～を代表して」だという説もある。see⇒ **pro**) / **claim** (「主張する」・「クレイマー」などと今や日本語。) / **clamor** (「やかましい声」) / **exclaim** (「叫ぶ」・文字通り外に<ex>向かって叫ぶのだ。see⇒ **ex**) / **exclamation** (「叫び」・「エクスクラメーション・マーク」とくれば「!」。いわゆる「びっくりマーク」のことだ。古代ローマ人の発明になるもので古代ギリシャ語にはない。**io**「イオ(おやまあ!)」という、驚いたときの言葉のIとOを組み合わせたものだ。また「? (クエスチョン・マーク)」も **questo** [クエストゥ]「疑問」の「Q」と「O」の組み合わせからできている。一方ギリシャ語では「; (セミコロン)」をもってこれに代えていた。また「& (アンド)」のマークもラテン語起源。et (～もまた=too)の「E」と「T」の筆記体を組み合わせた。etc.は **et cetera** [エトウ・ケテラ]で「エトセトラ(などなど・・・)」と我々は読んでいる。英語に直訳すれば and(= **et**) others(= **cetera**)となる。**Et, tu, Brute** [エトウ・トゥ・ブルーテ]は「ブルータスよ。お前も<et>か!」だ。**Brute** [ブルーテ]は **Brutus** [ブルートゥス]の「呼格」、つまり「呼びかけ」の際使う「曲用(格変化)」の形だ。一方雑誌の「ブルータス」は「ポバイ」のライバル「ブルート」に由来するようだ。**brute** (「野獣」)、**brutal**「野蛮な」、**brutality**「野蛮な行為」からのネーミングであろう。古代ローマの「ブルータス」との関係は現時点では不明。カエサルを暗殺したから「野蛮」となったわけではないようだ。)

(19) **clarus** - **clara** - **clarum** [クラールス・クララ・クラールム] <羅> = clear 「はっきりした」・また「クララ」として女の子の名前にもなっている。cla ⇒ clea の変化も見られる。

**declare** (「宣言する」・deは「強調」。see⇒ **de**) / **declaration** (「宣言」) / **clarion** (「ラッパ」・「クラリオン・ガール」というのも昔あった。某音響機器メーカー主催で、芸能界への登竜門とされた。初代は「アグネス・ラム」。また「二番じゃダメなんですか?」の名(迷?)セリフで有名な運動議員も過去このクラリオン・ガールに選ばれている。) / **clarify** (「明らかにする」・fy = **facio** / see⇒ **facio**) / **clarification** (「解明」・**clari**は **clarus**の「属格(所有格)」だ。) / **clean** (「きれいな」) / **cleanse** (「浄化する」発音は[クレンズ]。「クレンザー」の「クレンズ」だ。) / **ethnic cleansing** (「民族浄化」・「エスニック・クレンジング」・「汚れている」という理由である民族を根こそぎ地上から消毒(消滅)してしまおうという試みのこと。かつては「ナチス・ドイツ」がこれを行い、現代では「中華人民共和国」が「チベット」や「新疆(しんきょう)ウイグル自治区」でこれを行っている。**ethnic**に関してはsee⇒ **ethos**)

(20) **claudo** - **claudere** - **clausi** - **clausus** [クラウドー・クラウドレ・クラウスイー・クラウス] <羅> = close 「閉じる」・clausがclusやclosにもなった。

**exclude** (「除外する」・外<ex>に追い出してドアを閉めること。see⇒ **ex**) / **exclusion** (「除外・排除」) / **exclusive** (「独占的な」see⇒ **ex** / **nauticus**) / **include** (「含む」・inは「中に」だ。see⇒ **in**) / **inclusive** (「万人に開かれた・包括的な」・includeの派生語。「中にすべてを含む」からだ。また **including**～で「～も含めて」と覚えたはずだが、「～」の部分には「代表例」がくるから「～をはじめとして・・・」が正しい。) / **seclusion** (「引きこもり」・seはsection「区画」などで使われ、「分離」を表す。see⇒ **seco**) / **enclose** (「囲む・同封する」) / **enclosure** (「囲い込み」・**en** = **in**) see⇒ **en** / 英国史で「囲い込み運動」というのを学習する。毛織物の生産のために羊を飼い、農民を土地から追い出した。「トマス・モア」が「羊が人間を食い殺す」とその著書「ユートピア」の中で批判した事件だ。因みに **Utopia**「ユートピア(理想郷)」も、ギリシャ語をもとにトマス・モアが作った「造語」である。「**ou** = ο υ [ウー] = not」 + 「**topos** = τ ο π ο ς [トポス] = place」で「どこにもない場所・国」という「皮肉」である。toposには **topology**「地政学」という派生語もある。see⇒ **logos** - ia で終わるから「どこにもない国」という含みだろうか・・・。最近「湯とびあ」などという銭湯もある。see⇒ **albus**) / **conclude** (「結論」・みんな<con>で口を閉じるから。「もう議論は終わりだよ・・・」ということだ。) / **conclusion** (「結論」see⇒ **cum**) / **disclose** (「暴露する・明らかにする」disは「反対語」。see⇒ **dis**) / **disclosure** (「公開・開示する」・昔「ディスクロージャー」という映画もあった。主演は「マイケル・ダグラス」と「デミ・ムーア」だ。「必要な情報を開示せよ」などというとき使われる。無論close「閉じる」から十分類推できる。) / **clause** (「節・法律の条項」・「節」とは早い話が「文」のこと。そこで文意が「一区切りする(閉じる)」からだ。see⇒ **para**)

(21) **clinus** - **clina** - **clinum** [クリヌス・クリナ・クリナム] <羅> = bent 「傾いた」・また「リクライニング・シート」で既に日本語。また動詞 **inclino** - **inclinare** [インクリノー・インクリナーレ] <羅> では、もろに **incline** が出てきている。ギリシャ語の κ λ ι ν ω [クリノー]「傾ける」に由来する。

**inclined** (「傾向がある」・be inclined to do「doする傾向がある」などと使う。) / **inclination** (「傾向」) / **decline** (「減少する・拒絶する」see⇒ **de**) / **declination** (「傾斜・下降」) / **clinic** (「診療所」・患者が横になるから。ギリシャ語で κ λ ι ν η [クリネー]はbedの意味だ。) / **client**

(「(弁護士などの) 依頼人・(精神科などの) 患者」see⇒*tome*) / *lean* (「寄りかかる」[リーン]・読み違える学生が後をたたない。learn「学ぶ」ではない!) / *climate* (「気候」・「気候」と「傾向」で日本語の音も似ている。weather は一時的な「天候」のことで、一年を通じてその「傾向」、つまり平均値を出したものが「気候」だ。) / *climax* (「クライマックス・山場」・*klímax* = κ λ ι μ α ξ [クリマクス]はギリシャ語で「梯子(はしご)」のこと。梯子を上るように物語が山場を迎えることだ。)

(22) *cogito*・*cogitare*・*cogitavi*・*cogitatus* [コギトー・コギターレ・コギターウィー・コギタートウス] <羅> = think / consider 「思う・考える」 また *cognosco*・*cognoscere*・*cognovi*・*cognitus* [コグノスコー・コグノスケレ・コグノウィー・コグニトウス] <羅> は know 「知る」の意。ギリシャ語の *gignosco* [ギグノスコー] <希> がラテン語に入ってこの[コグノスコー]となった。因みに[コグノー]が[コン]⇒[ケン]⇒[キャン<can>・できる]になった。まさに「知は力なり」だ。)

a) *acknowledge* (「認める」see⇒*ad*) / *acknowledgement* (「認めること・自認・公認」) / *acquaint* (「知らせる」・～の方へ<ac = ad>知らせる・・・の意。[コギト] ⇒ [コイント] ⇒ [クエイント]と変化したらしい。すでに書いたが、フランス語を経由すると語源を遡るのがかなり難しくなる。be acquainted with ～で「～と知り合いになる」となる。see⇒*ad*) / *acquaintance* (「知り合い」see⇒*-ans*) / *cognition* (「認知」) / *cognitive* (「認知の」) / *cunning* (「ずるい」・[コン] ⇒ [カン]に変化した。ずるい<cunning>のも能力<can>には違いない。因みに「カンニング」は英語では *cheating* だ。) / *cheat* (「だます・ごまかす・カンニングする」・*cogito* とは関係ない単語だが、*cheating* が登場したついでに載せた。) / *Cogito ergo sum*. ([コーギトー・エルゴー・スム] 「我思う<cogito>・故に<ergo>・我あり<sum>」・フランスの哲学者「ルネ・デカルト」の著書「方法序説」中のあまりにも有名な言葉。「倫理社会」の時間に登場し、「コギト命題」などと呼ばれる。これも I think, therefore I am. では、いかにも様にならない。ラテン語で言えばカッコいい。see⇒*est*)

d) *diagnosis* (「診断」・病名を観察を通して<dia = dis>理解することだ。また dia=*dis* で「分離」という説もある。その場合、病名を区別する・・・となるが・・・。とりあえずは *dia* に掲載した。see⇒*dia*) / *diagnose* (「診断する」)

i) *ignorant* (「無知の・・・」・i = in で反対語になっている。see⇒*in@* / *-ans*) / *ignore* (「無視する」・知っていて、あえて知らないふりをする。逆に「気づかない」のは *neglect* だ。see⇒*lego@* / *nego* 「育児放棄」はこちらに当たる。)

k) *know* ([グノウ<gno>]が[クノウ<kno>]になり[ノウ<know>]となった。したがって k は必要なのだ。そもそも黙字<silent>は昔は読んでいたものがやがて読まれなくなっただけのもので、語源を辿る上では重要な意味を持つ。昔英語のできない奴が[クノウ]と読んで馬鹿にされていたが、ある意味彼の方が正しかったと言える。) / *knowledge* (「知識」・発音に注意。[ノリッジ]だ。[ノウリッジ]ではない。・ledge は「古英語」起源で動詞を名詞化する機能があるそう。)

n) *note* (「メモ」・know より・・・。know と no はまったく同じ発音だ。see⇒*noto* 一方日本語で言う「ノート」は *notebook* だ。間違えないように。see⇒*noto*) / *noble* (「高貴な・高名な」・名前が知られていること。) / *nobility* (「高潔」・「ノブレス・オブリージュ」というフランス語を聞いたことがあるだろう。「高貴なる義務」という意味だ。「地位の高い人間には、それなりの社会的・道義的責任が伴う・・・」といったほどの意味である。英語式に言えば noble obligation とでもなるか・・・。) / *notice* (「気づく・通知」・at short notice 「突然に」という熟語がある。文字通り通知<notice>が不足<short>しているのだ。be short of ～「～が不足している」see⇒*noto*) / *fall short of* ～「～が不足する」などの熟語もおさえること。short=「短い」はそろそろ卒業した方がいいだろう。) / *noticeable* (「目立つ・注目すべき」see⇒*noto*) / *narrate* (「述べる」・*gno*・*gnare* から nar が生まれた。「知識を持っている」⇒「知識を伝える」となった。) / *narration* (「ナレーション・語り」)

r) *recognize* (「認識する」・「再び<re>知る・・・」の意。see⇒*re* / *ismos*) / *recognition* (「認識」)

最後にギリシャ語の名文句をもうひとつ。*Gnosi seauton*. = Γνῶσι σεαυτον.[グノースイー・セアウトン]。「汝自身を知れ!」つまり Know yourself. の意味だ。「身の程を知れ!」と訳す例もある。個人的にはこちらの方が気に入っている。「ソクラテス」の言葉とされているが、実際のところは不明らしい。

(23) *colo*・*colere*・*colui*・*cultus* [コロー・コレレ・コルイー・クルトウス] <羅> = live and cultivate 「定住し耕す」こと。・そこから「文化」が生まれた。放浪生活では文化は育たない。

*agriculture* (「農業」[アグリカルチャー]・*ager*・*agri* [アゲル・アグリ]はラテン語で land 「土地」の意 (*ager* については pilgrim 参照)。ただし tilled と注意書きがある。つまり「耕された」ということだ。だから正確には「農地 (= farmland)」の意味だ。) / *agricultural* (「農業の」[アグリカルチュアル]・また「アグリ・ビジネス」という言葉もある。文字通り「アグリカルチャー」と「ビジネス」を合わせた造語だ。「農業」は生産すればいいというものではない。流通・加工・販売なども含めて農業なのだ。日本では「農業関連産業」などと訳されている。) / *culture* (「文化」) / *cultivate* (「耕す」) / *colony* (「植民地」・植民地というと 19~20 世紀の欧米列強の世界支配をイメージするが、もともとそのような意味ではない。古代ギリシャは山がちで耕す土地がなかった。故に地中海各地にでかけて行って、そこに住み着いたのだ。これも colony だ。また「スペース・コロニー」などというものもある。「火星に移住しましょう・・・」というものだ。) / *colonus* (「農夫」) / *colonize* (「入植する」see⇒*ismos*) / *colonist* (「入植者」・この「コロニー」という単語は都市名としても残っている。「ケルン大聖堂」で有名なドイツの「ケルン」がそれだ。もともとは *Colonia Agrippinensis* [コロニア・アグリッピネンシス] と言った。「コロニ」が「ケルン」に転化したわけだ。ローマ帝国初代皇帝「アウグストゥス」の片腕に「アグリッパ」という名の武将がいた。彼に与えられたのがこの「ケルン」だ。このケルンの語源に関しては、かつて世界史でも出題があった。また *eau de Cologne* 「オー・デ・コロニ」は香水の商品名で、「ケルンの水」という意味だ。) / *Lincoln* (「リンカーン(人の名前・地名)」・大統領の名前にもなった。Lindon(=lake) + Colon と分解できる。「湖岸の定住

地」の意味だ。) / **cult** (「崇拜・熱狂」・「カルト宗教」などと言うときの「カルト」だ。もとは「神への忠誠心を養う」からきている。occult「オカルト」と似ているが無関係。こちらは **celo**「隠す」から来ている。まったくの別語源だ。see⇒**celo / ob**)

**(24) contra** [コントラ] ①「反対の」・省略されて **con** となることもある。con⇒**coun** にも注意。

**pros and cons** (「賛否両論」 see⇒**pro**) / **contradiction** (「矛盾」 see⇒**dico**) / **contrary** (「反対の」・また①**on the contrary**「それどころか」と②**to the contrary**「それとは反対に(の)」の2つの熟語の違いにも注意。①から例をあげて説明しよう。「(a)彼の心はまだ折れていなかった。それどころか(b)さらに闘志をむき出しにした。」という文だ。(a)と(b)は「彼は諦めていなかった・・・」と、結局同じことを言っているのだ。「+100どころか+1000だったんだよ。」ということであり、それは「程度の差」にしか過ぎない。(a)をさらに効果的に伝えるために(b)の文があるのだ。一方②はどうだろう。「(a)会社の業績は上がっている・・・と社長は言った。しかしそれとは正反対に(b)倒産寸前だったのだ。」という縁起でもない例文で考えよう。(a)と(b)は全く逆のことを言っている。「+1000だって言っていたのに、実際は-1000だったんだよ。」ということだ。①は **On the contrary, S + V.**と文頭に置かれて「文修飾」で、②は **S + V to the contrary.**と文中に登場して「語修飾」と説明しているものもあるが、もっと根本的な違いがあるのだ。see⇒**sto**) / **encounter** (「遭遇する」・「コン」⇒「コウン」⇒「カウン」となった。enで動詞化されている。see⇒**en**) / **counter**② (「反対の・反対・反対する」・ボクシングの「カウンター」もこちらだ。counter①「お勘定台・カウンター席」とともに **puto**にまとめた。see⇒**puto**) / **control** (「支配する」 see⇒**rota**) / **contrast** (「対称」 see⇒**sto**) / **controversy** (「議論」 see⇒**verto**) / **counterfeit** (「偽物の」 see⇒**facio**)

**(25) cor**・**cordis** [コル・コルディス] <羅> また **kardia** = κ α ρ δ ι α [カルディア] <希> = 「心」・「心臓」・これが中国語で「核(カーア)」⇒「かく」となったとする説もある。kardi = cardi. cor ⇒ **cour** にも注意。

**a-c) accord** (「調和する・一致する」は「心を一つの方向<ac=ad>に」だ。see⇒**ad** according to ~ (「~によれば」などという熟語もある。)/ **accordance** (「一致・調和」 see⇒**ans**) / **accordingly** (「従って・それゆえ」) / **accordion** (「アコーディオン(楽器)」・日本語でも「和音」と言う。accordには「和音」という意味もあり、それをもとに楽器が命名された。)/ **cordial** (「真心のこもった」・「イチロー」の宣伝で「コーディアル証券」は一躍有名になった。)/ **concord** (「調和」・パリの「コンコルド広場」で有名。超音速旅客機の名もこれが起源だ。「心を一緒<con=cum>に」が原義。see⇒**cum** もっともコンコルド広場では、「マリー・アントワネット」や夫「ルイ16世」など、フランス革命時に何千人もの人間がギロチンにかけられている。「調和」もへったくれもないと思うが・・・) / **courage** (「勇気」・文字通り「勇敢な心」だ。発音は[カリッジ]。「大学」は college[コロリッジ]とイギリス音で覚えておけば区別できる。collegeについては see⇒**lego**② / **cum**) / **courageous** (「勇気のある」・発音・アクセントは[コレイジニアス]・「心」と言えば、かつて「ブレイブ・ハート」という「メルギブソン」主演の映画もあった。また「ライオン・ハート(勇敢な心)」などという表現もある。「獅子心王・リチャード1世」に由来する表現だ。第3回「十字軍」で遠征に加わり、「アイユーブ朝」の「サラディン(サラフ・アッディーン)」と激闘を繰り広げた国王だ。「ロビンフッド」にも登場する。「ケビン・コスナー」主演の映画「ロビンフッド」では、リチャード1世を「ショーン・コネリー」が演じていた。実に渋かった。see⇒**osus**) / **core** (「核」・日本語でも「核心」などと言うではないか。また「ザ・コア」などという映画もあった。地球が磁場を喪失し、地球を守ってくれている「バン・アレン帯」が消滅。「太陽風」の直撃をものに受け、人類が滅亡の危機に瀕する・・・といった内容だ。それにしてもハリウッドは本当に「人類滅亡」がお好きなようだ。)/ **cardiograph** (「心電図」 see⇒**grapho**) / **cardioid** (「カージオイド」・数Ⅲで登場する。r = a(1+cos θ)の「極座標」で表される曲線の図形だ。ハート形をしていることから命名された。oidは「~に似た物」という意味のギリシャ語だ。see⇒**oid**)

**d) discord** (「不一致」・心がばらばら<dis>だ。see⇒**dis**) / **discourage** (「落胆させる・がっかりさせる」 see⇒**dis**)

**e) encourage** (「奨励する」・enがついて動詞化された。see⇒**en**) / **encouragement** (「激励」)

その他 **record** (「記録・記録する」・文字通り「心<cor>に何度も<re>蘇らせる」だ。名詞は[レコード]、動詞は[リコード]とアクセントが移る。「名前動後(めいぜん・どうご)」の法則だ。see⇒**re**) / **heart** (「心・心臓」・[カル]⇒[クハル]⇒[ハル]となった。)

**(26) cosmos** <羅> = **kosmos** = κ ο σ μ ο ς [コスモス] <希> 「コスモス・秩序・宇宙」・ギリシャ語からラテン語に入った。

まず「ギリシャ神話」をできるかぎり簡単に説明しよう。さまざまなバージョンがあるが、ここで書くのはその一つだ。

まずこの世は光も形もない **Chaos**「カオス・混沌」の状態であった。そこから母なる **Gaia**「ガイア」が生まれた。ガイアは **Uranus**「ウラヌス」を生み、何と彼と結婚した。そして **Kronos**「クロノス」が生まれる。しかしウラヌスは子供たちが自分を殺すのではと思ひ地底に閉じ込めてしまう。怒った母・ガイアは子のクロノスとタッグを組んで、父・ウラヌスを打倒する。しかし今度はクロノスが自分の息子たちを飲み込んでしまう。やはり「下剋上」が怖くなったのだ。この子供たちの中に、のちに最高神となる「ゼウス」がいた。ゼウスだけは飲み込まれずに済んでいたのだ。ゼウスは兄弟たちを吐き出させ、彼らと力をあわせて父・クロノス及び、その兄弟たる「タイタン族<Titan>: see⇒**mens**」の神々を打倒し、やっとこの世界に **Cosmos**「秩序」をもたらす・・・というものだ。そしてそこから、お馴染みのさまざまなギリシャの神々の物語が生まれるのである。ゼウスは長男だと思われているが実は「末っ子」。しかし兄たちが飲み込まれている間に先に成長してしまったので「長男扱い」ということになる。ではここで登場した神々が、現在どんな形で我々の生活に入り込んでいるかを説明しよう。

まず **Chaos**は **chaos**[ケイオス]「混沌・無秩序」という単語になっている。この反対語が **cosmos**[コズモス]「秩序・宇宙」だ。また母なる **Gaia**は「地球」という意味で使われる。「ガイアの夜明け」などという番組もあった。「地」のガイアに対してウラヌスは「天」だ。だから「天王星」を **Uranus**と言う。英語の発音は[ユーレイナス]だ。クロノスは「豊穡の神」としてローマ神話に取り入れられて **Saturnus**[サトルヌス]となっている。 **Saturn**「土星」[サターン]はこの **Saturnus**から来ている。農業の神らしく「土」がついている。キリスト教の伝来

で、サタンは「悪魔」と同一視されてしまったが、もともとは作物などを実らせる「豊穡の神」である。ただキリスト教は「一神教」なので、他の神々は認められなかったのだ。また「もう一人のクロノス<Khronos>」がいる。こちらは「時を司る神」で、まったく別であるから注意を要する。区別のついていない方もいるようだ。一方は k=κ [カッパ]でもう一方は kh=χ [キー]である。see⇒**khronos** さてクロノスの息子たちが **Zeus**[ジュース]「ゼウス (天上と地上の支配者)」see⇒**deus / tono**、**Poseidon**[プサイドン]「ポセイドン (海の支配者)」、**Hades**[ヘイデーシス]「ハーデス (冥界の支配者)」となる。**Zeus** は **Jupiter**[ジュピター] see⇒**tono**、**Poseidon** は **Neptune**[ネプチューン]、**Hades** は **Pluto**[プルート] see⇒**fluo** として「ローマ神話」に取り入れられ、英語ではそれぞれ「木星」、「海王星」、「冥王星」となっている。まずは **Jupiter** からだ。こちらは **joy** (「よるこび」) / **joyful** (「うれしい」) / **jovial** (「陽気な」) などにその名を留める。ju が jo に変わっているのは、ラテン語で **Juppiter** の「属格 (所有格)」が **Jovis** になるからだ。確かにこの世の支配者で全知全能・不老長寿とくれば「楽しく」もあるだろう。**Pluto** は「鉄腕アトム」に「地上最大のロボット」として登場する「プルート」がある。**Poseidon** は「ポセイドン・アドベンチャー」という名作映画もあった。主演は名優「ジーン・ハックマン」。豪華客船が海難事故に遭い、一転して地獄の修羅場と化す・・・といったストーリーである。またアニメ「バビル 2 世」では「ポセイドン」というロボットが登場し主人公を守る。さて残りは「水星」と「火星」だ。「水星」は **Mercury**[マーキュリー]だが、これはギリシャ 12 神の一人でゼウスの息子「ヘルメス」に由来。ローマ神話に入って「メルクリウス」となり英語で「マーキュリー」となった。小文字で **mercury** と書けば「水銀」となる。see⇒**Mercurius** 一方「火星」は **Mars**[マーズ]だ。「何で火星が複数なの？」などと考えるはいけない。ローマ神話の「軍神マルス」、さらに遡ればギリシャ神話の「アレス」となる。もともと s で終わるのだ。こちらもゼウスの息子でオリンポス 12 神の一人だ。蠍座に「アンタレス」=**Α ν τ α ρ η ς**[**アンタレーズ**]という赤色巨星があるが、これは「アンチ・アレス」で「火星の敵」という意味だ。火星もアンタレスも「赤い」からだ。もともと「火星に似た物」という解釈も最近あるようだ。**α ν τ ι** = **anti** が「比肩しうるもの・対等に並び立つもの」の意味だとすれば、どちらに力点を置くかの違いにしか過ぎないと思うが・・・また「銀河鉄道スリーニン」にも「アンタレス」という山賊が登場する。see⇒**anti** また「山口百恵」ちゃんのヒット曲「コスモス」は「花」のコスモスだが、これも同語源である。「花びらが整然と並んで美しい」ことに由来する。/ **chaos** (「混沌」[ケイオス]) / **chaotic** (「混沌とした」・[ケイオティック]) / **cosmetic** (「化粧品」・皮膚の秩序と調和を整えることらしい。化粧品は逆効果の気がするが・・・) / **cosmopolitan** (「国際人・国際的な」・「コスモポリタニズム」の「コスモス」は「世界・宇宙」、「ポリタン」は「ポリス (都市)」に住む人) だ。「ヘレニズム時代 (アレクサンドロス大王とその後継者の時代)」では「世界市民」と呼んだ。現代でいえば「国際人」とでもなるか・・・ see⇒**polis** )

(27) **credo**・**credere**・**credidi**・**creditus** [クレドー・クレデレ・クレディディー・クレディトゥス] <羅>

「信頼する」

**credit** (「信用」) / **creed** (「信条」・「思想信条の自由」などと表現するときの「信条」だ。また映画「ロッキー」に「アポロ・クリード」という黒人ボクサーが登場するが、この「クリード」も **creed** だ。) / **grant** (「(信用して) 許す・与える」・[ク]が[グ]に変化した。) / **credible** (「信用できる」) / **incredible** (「信じられない」 see⇒**in**②) / また「ユリウス・カエサル」の名文句「人間見たいものしか見ない。」は **Libenter homines id quod volunt credunt**。[リベンテル・ホミネース・イドウ・クオッドウ・ウォルントウ・クレドゥントウ]であり **vol** のところで詳しく書いたが、ここで登場する **credunt** がこの **credo** の三人称・複数形 <they believe> である。see⇒**vol**

(28) **creo**・**crare**・**cravi**・**cratus** [クレオー・クラレ・クラヴィー・クラトゥス] <羅> = **create** 「創造する」 / **make** 「作る」 また **creSCO**・**creSCere**・**crevi**・**cretum** [クレースコー・クレースケレ・クレヴィー・クレトゥム] = **grow** 「成長する」・また「クレ<cre>」が「グレ<gre>」にも変化していった。「作って育てる」を連想すればいい。**Ceres** と同根であることは、**Ceres** のところでも書いたとおりだ。cre / cra / crea に注意。see⇒**Ceres**

**create** (「創造する」[クリエイトゥ]) / **creation** (「創造」) / **creative** (「創造的な」) / **creativity** (「創造性」) / **creature** (「生き物」・神によって創造された物。ただし人間は含まない。発音はこれだけは[クリーチャー]となる。) / **concrete** (「具体的な」・「コンクリート」 [コンクリート])・いろんなもの <con> がくっつきあって大きくなること。 / **creSCent** (「三日月」・次第に大きくなるから。see⇒**ans**) / **fertile creSCent** (「肥沃な三日月地帯」・[ファータイル・クレスント]とくれば、メソポタミア文明を育んだチグリス・ユーフラテス川の流域のことだ。) / **increase** (「増加する」・「中で<in>増えてゆく」が原義。see⇒**in**①) / **increasingly** (「ますます」) / **decrease** (「減少する」 see⇒**de**) / **recreate** ① (「気晴らす」・「させる」・「再び<re>育てる」の意。また **re-create**② とハイフンが入ると「再現する (再び作り出す)」となるから注意!) / **recreation** (「レクリエーション」・「気晴らし」 see⇒**re**) / **recruit** (「リクルート」・「新兵調達」・「再び<re>兵隊を育てること。新兵は入隊したら、再度鍛えあげなくてはならない。cru と見慣れない変化になったのは、やはりフランス語経由故だそう。see⇒**re**) / **grow** (「育つ」・これ以降は[ク]が[グ]に変化したものを列挙する。) / **green** (「緑の」・植物が育てば緑一色。) / **grass** (「草」・**glass** 「ガラス・コップ」と読み違えないこと! see⇒**gloria**)

(29) **crux**・**crucis** [クルクス・クルキス] <羅> = **cross** 「十字架」 / **torment** 「苦痛」・無論背後にイエス・キリストの磔刑 (たっけい) がある。因みに今ではキリスト教のシンボルともなっている十字架ではあるが、当時の磔は「十字架」ではなく「T 字架」だ。まず縦の棒があり、その上に横棒を T 字になるように「カポツ」とはめるのだ。縦の木材は刑場にあるが、横木は罪人が自ら背負っていかねばならない。無論「苦痛」を与える為だ。頭の上の部分には「名札(?)」が付けられている。イエスの場合は **INRI** という四文字だ。**Jesus Nazarenus Rex Iudaeorum** [イエス・ナザレヌス・レックス・イウダエオールム] 「ナザレのイエス・ユダヤの王」の頭文字だ。無論「嘲笑」のためである。いざれにしても、時代考証のしっかりした絵画などでは、ちゃんと T 字架が描かれている。

**crucial** (「重要な」・「十字路」は人生の重要な岐路にあたる。) / **the Crux** (「南十字星」・早い話が Southern Cross[サザン・クロス]のことだ。発音にも注意。「サザン・オール・スターズ」の「サザン」だ。[サウザン]などと読まないこと!) / **cruiser** (「クルーザー」・巡洋艦)・海を横断<cross>するから。「宇宙戦艦ヤマト」は確か The Space Cruiser Yamato となっていたはず。) / **crusade** (「十字軍」・映画「インディーズ・ジョーンズ・最後の聖戦」は Indiana Jones and the Last Crusade だ。) / **crucify** (「磔にする」 see⇒ **facio**)

**(30) culum - cule** [クルム・クレ] <羅> = little 「小さい」・また cle ⇒ le ⇒ let ⇒ et にもなった。一方テニス・プレイヤーの「クルム伊達(伊達公子)」さんは無関係のようだ。

**b) banquet** (「宴会」・banq = banca で「机・長椅子」の意。椅子に座つての小さな食事を指した。「土手・銀行」とも同根語だ。see⇒ **rumpo**) / **bullet** (「弾丸」・「投げ<ballo>られた小さな物」の意。see⇒ **ballo**)

**c) curriculum** (「カリキュラム」・教科課程 see⇒ **curro**) / **cabinet** (「内閣」・**cabin** 「小屋」から「小さい部屋」⇒「内閣」となった。「小部屋でひそひそ話をする」というイメージだ。今風に言えば安倍首相の「お友達内閣」といった感じか・・・? see⇒ **cavus** cabin は「アングル・トムズ・ケビン(アングル・トムの部屋)」の「ケビン」だ。「ストウ夫人」の書いたこの小説は当時大規模な奴隷制反対運動を引き起こし、さらには南北戦争につながった。リンカーン大統領をして「大きな戦争を引き起こした小さな夫人」と言わしめた人物だとされる。「アングル・トム」にはまた「白人に媚(こび)を売る黒人」という差別的な意味もあるやに聞き及ぶ。また「キャビン・アテンダント<cabin attendant = CA>」などという言葉もある。旅客機の「客室乗務員」のこと。早い話が「スッチャー」だ。もともとこれは和製英語のようで、正確には **flight attendant** または **cabin crew** と言うらしい。まったく通じないこともないらしいが・・・。see⇒ **verto**) / **circle** (「円」・「小さい丸」の意。see⇒ **kyklos**)

**d-p-t) demolish** (「破壊する」・**moles** つながりでここに載せた。昔「シルバスター・スタローン」の映画で「デモリション・マン(ぶっ壊し屋)」というのがあった。ミッションの失敗で有罪判決を受け冷凍睡眠させられた主人公の刑事が、36年後に解凍され未来の悪をやっつける・・・というストーリーだ。塊をぶっ壊す<de>のだ。de は「下へ」。see⇒ **de**) / **demolition** (「破壊」) / **particle** (「かけら」 see⇒ **par**) / **particular** (「ある特定の」 see⇒ **par**) / **target** (「標的」・単語集の名前にもなっている。「小さな丸い盾」のことだそう。targe はゲルマン語系らしい。) / **tablet** (「板・錠剤」・「小さい板」が原義。see⇒ **sto / -oid**)

**その他) article** (「記事」・冠詞 see⇒ **arma**) / **spectacle** (「壮観」・見もの see⇒ **specio**) / **molecule** (「分子」・**moles - molis** [モーレース・モーリス]はラテン語で mass 「塊(かたまり)」のこと。つまり「小さな塊」だ。) / **muscle** (「筋肉」[マッスル]・**musculus** [ムースクルス]「小さいネズミ」に由来。筋肉の動く様子が皮膚の下でネズミが動いているように見えたことからだとか・・・。「中山きんにくん」を想像されたし・・・。筆者も筋トレに明け暮れる毎日だが、なかなかあそこまでにはならない。羨ましいかぎりだ。 **mus - muris** [ムース・ムリス] = mouse / rat。)/ **obstacle** (「障害」 see⇒ **ob / sto**) / **vehicle** (「乗り物」 see⇒ **veheo**)

**(31) cum** [クム] ①「一緒に・・・」②「強調」を表す。・これが c / col / com / con / co など無限に変化する。頭文字に c がついていたら、この **cum** を連想して間違いはない。索引に c で始まる単語が異様に多いのもこんな理由だ。

**a) accomodation** (「宿泊施設」 see⇒ **modus / ad**) / **accomplish** (「達成する」 see⇒ **plenus / ad**)

**coi-col) coincide** (「同時に起こる」 see⇒ **cado**) / **collaboration** (「共同作業」 see⇒ **labor**) / **collapse** (「崩壊する」 see⇒ **lapsus**) / **collect** (「集める」 see⇒ **lego@ / rex**) / **college** (「大学」 see⇒ **lego@ / cor**) / **collocate** (「配列」・配置する see⇒ **locus**) / **colleague** (「同僚」 see⇒ **longus**) / **colloquial** (「口語の」 see⇒ **loquor**)

**comb-comf) combine** (「結合する」 see⇒ **bi / muto**) / **comfort** (「慰め」・快適さ see⇒ **fortis**)

**comm) command** (「命令する」 see⇒ **mando**) / **commemorate** (「記念する」 see⇒ **mens**) / **commerce** (「商業」 see⇒ **Mercurius**) / **commit** (「委託する」 see⇒ **mitto**) / **commodity** (「日用品」 see⇒ **modus**) / **commute** (「通勤する」 see⇒ **muto**) / **communicate** (「伝達する」 see⇒ **muto**)

**comp) company** (「会社」・同伴 see⇒ **pan**) / **compare** (「比べる」 see⇒ **para**) / **comprehend** (「理解する」 see⇒ **prehendo**) / **compassion** (「同情」 see⇒ **pathos**) / **compatible** (「互換性のある」 see⇒ **pathos**) / **compact** (「契約」 see⇒ **pax**) / **compel** (「強いる」 see⇒ **pello**) / **compensate** (「補償する」・埋め合わせをする see⇒ **pendeo**) / **compete** (「競争する」 see⇒ **peto**) / **complement** (「補語」 see⇒ **plenus**) / **complete** (「完成する」 see⇒ **plenus**) / **comply** (「相手の要求に」 応じる see⇒ **plenus**) / **complex** (「強迫観念」・コンプレックス see⇒ **plico**) / **compose** (「作曲する」 see⇒ **pono**) / **composite** (「合成の」 see⇒ **pono**) / **composure** (「心の平静」 see⇒ **pono**) / **comprise** (含む・構成する see⇒ **prehendo**) / **compress** (「圧縮する」 see⇒ **premo**) / **compute** (「計算する」 see⇒ **puto**) / **compromise** (「妥協する」 see⇒ **mitto / pro**) / **compartment** (「区画」・客室 see⇒ **par**) / **combat** (「戦闘」 see⇒ **battuo**)

**conce) conceive** (「思う」・考える see⇒ **capio**) / **concede** (「譲歩する」 see⇒ **cedo**) / **conceal** (「隠す」 see⇒ **celo**) / **concern** (「関心」・関心を持たせる see⇒ **Ceres**) / **concise** (「簡潔な」 see⇒ **cado**) / **conclusion** (「結論」 see⇒ **claudio**) / **concord** (「調和」 see⇒ **cor**) / **concrete** (「具体的な」・コンクリート see⇒ **creo**)

**cond-conf) conduct** (「導く」 see⇒ **duco**) / **condemn** (「非難する」・**damno - damnare** [ダムノー・ダムナー] <羅> に由来。「有罪判決を下す」という意味だ。con は「強意」。God damn it! 「(神に) 呪われよ!」などの「スウェアー・ワード(罵り文句)」にもなっている。劇画「タイガー・マスク」の中で外人レスラーが、「ガッデーム! (畜生!)」などと怒り狂うシーンが何度も出てくる。**damage**[ダミッジ]「損害」・損害を与えるなども **damno** の派生語だ。また「スウェアー・ワード<swear word>」という単語が出たので **swear**「神に誓う」・罵

(ののし)る」についても書いておく。answer「答える」と同語源の言葉だ(anを取ってみて欲しい)。swear word とは Fuck you! や Fuck off! Son of a bitch! などというもののだ。) / **condemnation** (「非難」) / **confess** (「告白する」 see⇒*fabula*) / **confidence** (「自信」 see⇒*fides*) / **confine** (「制限する・監禁する」 see⇒*finis*) / **confirm** (「確認する」 see⇒*firmus*) / **conflict** (「確執・争い」 see⇒*fligo*) / **conform** (「一致させる」 see⇒*formo*) / **confuse** (「混乱させる・混同する」 see⇒*fundo*②) / **confer** (「相談する」 see⇒*fero*)

**cong-conn-conq** **congestion** (「混雑」 see⇒*gero*) / **congratulate** (「祝う」 see⇒*gratia*) / **congregate** (「集まる」 see⇒*grex*) / **congress** (「議会」 see⇒*gradus*) / **connect** (「つなげる」) / **connection** (「関係」・まず **nexus** (「結合・結びつき」という単語をご存知だろうか? ラテン語でも **nexus** と綴り bond「結合」の意味だと羅英辞典にはある。英文法に言うところの「ネクサス構造」である。例の S + V + O + C (第5文型)だ。O = C だから O と C が結びついている。この構造を「ネクサス」と呼ぶ。co「共に」をつけて connect「つなげる」や connection「関係」などが派生語として出来上がった。「コネがある・・・」という時の「コネ」はこの connection だ。) / **conquer** (「征服する」 see⇒*qui*)

**cons** **consecrate** (「聖別する」 see⇒*sacer*) / **conscious** (「意識している」 see⇒*scio / -osus*) / **conscience** (「良心」 see⇒*scio / -ans*) / **consent** (「意見が一致する」 see⇒*sensus*) / **consequence** (「結果」 see⇒*sequor / -ans*) / **conservative** (「保守的な」 see⇒*servo*) / **consider** (「見なす・考える」 see⇒*sido*) / **consult** (「相談する・辞書を引く」 see⇒*sido*) / **consecutive** (「連続した」 see⇒*sequor*) / **conspicuous** (「人目につく」 see⇒*specio / -osus*) / **console** (「慰める」 see⇒*solus*) / **conspiracy** (「共同謀議」 see⇒*spiro*)

**cont** **contemporary** (「同時代の・現代の」 see⇒*tempus*) / **contempt** (「軽蔑する」 see⇒*tendo*) / **continue** (「継続する」 see⇒*teneo*) / **continent** (「大陸」 see⇒*teneo / -ans*) / **contain** (「含む」 see⇒*teneo*) / **contest** (「競い合う」 see⇒*testa*) / **context** (「文脈」 see⇒*texo*) / **constellation** (「星座」 see⇒*stella*) / **constitute** (「設立する」 see⇒*sto*) / **cotangent** (「コタンジェント・余接」 see⇒*tango*) / **contend** (「競う」 see⇒*tendo*) / **contamination** (「汚染」 see⇒*tango*) / **contribute** (「寄付・貢献する」・**con**「みんなで」捧げ物をする。 see⇒*tri*) / **contemplate** (「瞑想する・沈黙思考する。」 see⇒*tempus*)

**conv** **convenient** (「便利な」 see⇒*venio / -ans*) / **convert** (「変わる・改宗する」 see⇒*verto*) / **conversation** (「会話」 see⇒*verto*) / **convoy** (「護送する・護送船団」 see⇒*via*) / **convey** (「運ぶ」 see⇒*via*) / **convince** (「説得する・確信させる」 see⇒*vinco*) / **convict** (「有罪を証明する」 see⇒*vinco*)

**coo-cor-cos** **cooperation** (「協力」 see⇒*opus*) / **coordinate** (「調整する」 see⇒*ordo*) / **correct** (「訂正する」 see⇒*rex*) / **corrupt** (「腐敗する」 see⇒*rumpo*) / **correspond** (「通信・文通する」 see⇒*spondeo*) / **cost** (「費用・費用がかかる」 see⇒*sto*) / **cosine** (「コサイン・余弦」 see⇒*tango*) / **coscant** (「コセカント・余割」 see⇒*tango / seco / -ans*)

その他) **cohesive** (「密着する・結合力のある」 see⇒*haereo*) / **court** (「宮廷・法廷」 see⇒*hortus*) / **customize** (「注文に応じて作る・調整する」 see⇒*tome / ismos*) / **council** (「会議」 see⇒*calo*) / **reconcile** (「和解する・妥協する」 see⇒*calo / re*)

**(32) [curo]·curare·curavi·curatus** [クロー・クレーレ・クレーウィー・クレートウス] <羅>=care「気遣う」・また cure / sure / secure は同語源の単語。**cum** が with「～とともに」なら **se** [セー] は without「～なしで」だし、**seco** [セコー] は cut「切り離す」だ。とりあえずは **cure / sure / care** に注目すること。 see⇒*cum / seco*

**a)** **assure** (「人に対して<as = ad> 自信をもって言う・保証する」・ensure と用法はかぶるところもあるが、I assure you of your success. 「あなたの成功は俺が保証するぜ」などと使う。 see⇒*ad*) / **assurance** (「保証・確信」 see⇒*-ans*) / **accurate** (「正確な」 [アキュリットウ]・ac = ad 徹底的にケアすれば正確になる。 see⇒*ad*) / **accuracy** (「正確さ」)

**c-e** **cure** (「癒す」) / **care** (「世話・気にする」) / **careful** (「注意深い」) / **curious** (「好奇心旺盛な」 see⇒*-osus*) / **curiosity** (「好奇心」・発音・アクセントは[キュアリ]オスィティー]。これもアクセント頻出。**NASA** see⇒*nauticus* が火星探査を行った際、火星表面を走り回った探査車の名前でもあるから、どこかで聞き覚えがあるはずだ。) / また **charity**「慈善事業」や **cherish**「大切にする」なども親戚の語だ。**caritas**「カリタス・慈愛」という名前の学校も東京にある。このカリタスは「神の愛」を意味する **agape** = α γ α π η [アガペー] というギリシャ語に充てられたラテン語だ。**eros** = ε ρ ω ς [エロス]「恋愛感情などの愛」や **philia** = φ ι λ ι α [フィリア]「友情」に対して「神の(見返りを求めない)愛」という形で倫社の時間に学習したはず。また **kharis** = χ α ρ ι ς [カリス]は「神からの賜り物」を意味するギリシャ語で、これが「カリスマ」となった。「カリスマ美容師」などと使うあの「カリスマ」だ。「反逆のカリスマ・魔娑斗(まさと)」などというキック・ボクサーもいた。) / **ensure** (「(物事を) 確実にする」・Please ensure that all the lights are switched off.「電気は必ず消してね!」というときなどに使う。make sure that S + V で置き換えてもいい。 see⇒*en*)

**i-m-r-s)** **insure** (「保険をかける」・ensure の en が in に変化したのだから、名詞を動詞化する in①だ。 see⇒*in*①) / **insurance** (「保険」 see⇒*-ans*) / **manicure** (「マニキュア」・手<*manus*>を保護するから。 see⇒*manus*) / **reassure** (「安心させる」・何度も<re>保証してやれば、相手も安心。 see⇒*re*) / **reassurance** (「安心・安堵」 see⇒*-ans*) / **secure** (「安全な」・「ケアの必要がない<se>」⇒「安全」となった。 see⇒*seco*) / **security** (「保護・保証・安心」・「セキュリティーば万全です・・・」などと言う。 see⇒*seco*)

**(33) [curro]·currere·cucurri·cursus** [クルロー・クルレレ・クルルリー・クルスス] <羅>=run「走る」

**c-o)** **cursor** (「カーソル」・画面を滑るように移動する。) / **current** (「電流」・電気が走ること。) / **currency** (「通貨」・社会を流れるお金のことだ。タンス預金は通貨とは言わない。「通貨」とはよくぞ訳したものだ。) / **course** (「コース」・「クルスス」が「コース」となった。) / **curriculum** (「教科課程」・「レース」ならぬ「学問」のコースだ。「私立文系コース」などと言う。 see⇒*culum*) / **corridor** (「廊下」 [コ(ー)リダー]・「こ

らー！廊下を走るなー！」と小学校のころ先生に怒鳴られたが、やはり廊下は「走るもの」だったのだ。) / **occur** (「(事件が) 起こる」【オカ  
 ー】・事件は走ってやってくるもの。oc = ob「〜に向かって」の意。see⇒**ob** また It occurs to 人 that S + V.で「人の頭に S+V という考えが  
 浮かぶ・・・」という構文も、受験生なら知っているはず。また同じ意味だが It strikes 人 that S + V.という言い方もある。しかしこちらは他  
 動詞だから to はつかない。strike は「なぐる」だから、頭を殴られるわけだ。) / **occurrence** (「事件・出来事」 see⇒**ans** )  
 その他) **discourse** (「会話」・話が主題から離れて<dis>あちこち変わる (走りまわる) から。see⇒**dis** ) / **excursion** (「遠足」・ex「外を」  
 走ること。see⇒**ex** ) / **recur** (「繰り返し<re>起こる・再発する」 see⇒**re** )

## D

(1) **de** 英語の of「〜の」に相当。そこから様々な意味が生まれた。「メアリーさんはウインザー家の出身だ」という例えで説明する。of は  
 ①「所属・部分」を表す。「メアリー・オブ・ウインザー」は「ウインザー家のメアリーさん」の意味だ。メアリーさんは成長し、やがて家  
 を出る(②分離)。英語にも「分離の of」というのがある。その子らは多くの子孫を生む。descendant「子孫」は「離れて下って<descend>き  
 きた人々」という意味だ。また「下ってきた」から「上から下まですべて・・・」ということで「③強調」の意味も生まれた。「徹底的に」とい  
 う言葉もある。子孫は他人となりやがて本家と対立(④否定)する。「袂(たもと)を分かつ」と日本語にもある。「離れる」ことは「敵にな  
 る」ことだ。すべての意味がつながっていることが、ご理解いただけたであろうか。

### ①「下に」

**dec-ded-def** **decay** (「腐敗する」see⇒**cado** ) / **decline** (「拒絶する・減少する」・この de は「分離」だとする説もある。see⇒**clinus** ) / **decrease**  
 (「減少する」see⇒**creo** ) / **dedicate** (「捧げる」see⇒**dico** ) / **deduction** (「類推・推論」see⇒**duco** ) / **defend** (「防御する」see⇒**fendo** )  
 / **defer**① (「譲る・従う」see⇒**fero** )

**deg-del-dem** **degrade** (「価値を落とす」see⇒**gradus** ) / **delusion** (「錯覚・妄想」see⇒**ludo** ) / **demolish** (「破壊する」see⇒**culum** )  
**dep-der** **depend** (「頼る」see⇒**pendeo** ) / **deposit** (「保証金・預金」see⇒**pono** ) / **depress** (「意気消沈させる」see⇒**premo** ) **derive**  
 (「奪う」see⇒**rivus / privus** ) / **derive** (「〜に由来する」see⇒**rivus / privus** )

**des** **descend** (「下る」see⇒**scando / trans** ) / **describe** (「描写する」see⇒**scribo** ) / **despise** (「軽蔑する」see⇒**specio** ) / **destiny** (「運  
 命」see⇒**sto** )

### ②「分離」

**dec** **deceased** (「死亡した」see⇒**cedo** ) / **deceive** (「騙(だま)す」see⇒**capio** ) / **decide** (「決心する」see⇒**cado** )  
**def-del** **defer**② (「延期する」see⇒**fero** ) / **defiance** (「反抗」see⇒**fides / -ans** ) / **deflect** (「(向きを) そらす」see⇒**flecto** ) / **deforest**  
 (「(森林を) 伐採する」see⇒**est / foris** ) / **delay** (「遅らせる」see⇒**latus** ) / **delegate** (「代表・使節」see⇒**lego**①) / **deliver** (「配達する」  
 see⇒**liber** ) / **deluge** (「洪水」see⇒**lavo** )

**dem** **demine** (「地雷を除去する」see⇒**mineo** )

**deo** **deoxylibonucleic acid** (「デオキシリボ核酸」・所謂 DNA だ。see⇒**genus / dens** )

**dep** **depart** (「出発する」see⇒**par** ) / **departure** (「出発」see⇒**par** ) / **deprive** (「奪う」see⇒**privus / rivus** )

**des** **desert** (「砂漠・見捨てる」see⇒**sero / servo** ) / **desire** (「望む」see⇒**sido** ) / **desolate** (「荒れ果てた・住む人もない」see⇒**solus** )  
 / **dessert** (「デザート」see⇒**sero / sero** )

**det-dev** **detach** (「はずす」see⇒**tango** ) / **detail** (「詳細」see⇒**talio** ) / **detect** (「見破る」see⇒**tango** ) / **detour** (「迂回する」see⇒**torqueo** )  
 / **develop** (「開発する」see⇒**velo** ) / **devoid** (「欠けている」see⇒**vaco** )

### ③「強調」

**dec-def-deg-del** **declare** (「宣言する」see⇒**clarus** ) / **define** (「定義する」see⇒**finis / terminus** ) / **degree** (「程度・段階・学位」see⇒  
**gradus** ) / **deliberate** (「入念な」see⇒**libra** ) / **delicate** (「繊細な」see⇒**lacio** )

**dem-den-dep-des** **demand** (「命令する」see⇒**mando** ) / **demonstration** (「示威行為」see⇒**mens** ) / **denote** (「意味する・示す」see⇒  
**noto** ) / **deny** (「否定する」see⇒**nego** ) / **depict** (「描写する」see⇒**pingo** ) / **deplere** (「深く悲しむ」see⇒**ploro** ) / **deserve** (「〜に値  
 する」see⇒**servo** ) / **design** (「設計・設計する」see⇒**signum** )

**det** **determine** (「決心させる」see⇒**terminus** ) / **detonate** (「(猛烈な音を出して) 爆発する」see⇒**tono** )

**dev** **devastate** (「荒廃させる」see⇒**vaco** ) / **devote** (「捧げる」see⇒**vox** ) / **devour** (「むさぼる」see⇒**voro** )

**dir** **direction** (「指示」see⇒**rex** )

### ④「否定」

**def** **default** (「怠慢・不履行」see⇒**fallo** ) / **defeat** (「打ち負かす・敗北」see⇒**facio** ) / **defect** (「欠点」see⇒**facio** )

**deh-del-dem-dep** **dehydrate** (「脱水する」see⇒**Hydra** ) / **delinquency** (「犯罪・非行・不履行」see⇒**longus** ) / **demerit** (「欠点」see⇒  
**Mercurius** ) / **deploy** (「(軍隊などを) 展開する」see⇒**plico** )

**des** **despair** (「絶望」see⇒**specio** ) / **despite** (「〜にも拘わらず」see⇒**specio** ) / **destroy** (「破壊する」see⇒**struo** )

**det** **deter** (「阻止する」see⇒**terreo** ) / **detest** (「嫌う」see⇒**testa** )

(2) **debeo** - *debere* - *debui* - *debitus* [デーベオー・デーペーレ・デーブイー・デービトゥス] <羅> = owe 「借りがある・恩義がある」・ *debeo* をさらに分解すれば **de** (= out of) + **habeo** (= have) となる。つまり「本来の所有者から奪って持っている」の意だ。ここから「借金」が生まれた。see⇒ **habeo**

owe と debt では起源の異なる単語だが、意味的繋がりから無理を承知であえて乗せた。owe は「ラテン語」ではなく「ゲルマン (ドイツ)」の言葉だ。owe は **own** とも姉妹語だ。「所有している<own>」と「借りがある<owe>」では意味がまるで正反対のようだが、「所有<own>」している者は、貧しい者にお金を貸す義務がある⇒「義務を負って<owe>いる」ということらしい。この owe の過去形が **ought** である。「借りがある」から「～すべき」なのだ。should は shall の、would は will の、could は can の、そして might は may の、ought は owe の、それぞれ過去形である。/ **due** (「①当然支払われるべき ②支払期日の来た ③当然の・正当な ④到着予定の ⑤使用料・手数料」・すべて「借金」系だ。) / **duly** (「時間通りに・しかるべき時に」) / **debt** (「借金」・発音は[デット]) / **duty** (「義務」・[デービトゥス]が[デューティー]になった。) / **owe** (「借りがある」) / **owing to** ~ (「～のために<理由>」= due to ~・同じ意味の2つの有名な熟語だが、前者は「ゲルマン系」、後者は「ラテン系」ということだ。owe A to B 「AはBのおかげ」だからAは「結果」でBはその「原因・理由」となるわけだ。) / **overdue** (「支払い期限の過ぎた」・いずれにしても due を見たら「借金」を連想すればいい。)

(3) **decem** [デケム] <羅> / **deka** = δ ε κ α <希> [デカ] = ten 「10」・また **decimus** - **decima** - **decimum** [デキムス・デキマ・デキムム] <羅> は one tenth 「10分の1」のことだ。「デシリットル」は「リットルの10分の1」という意味だとわかる。受験生諸君は小学校で既にラテン語を学んでいたことになる。see⇒ **mikros**

**December** (「12月」はもともと「10番目の月」の意味。ついでにいえば **September** 「9月」の **septem** [セプテム] は seven で「7」。October 「10月」の **octo** [オクトー] は「オクトパス (タコ) <octopus> see⇒ **pes**」で想像できるように「8」、**November** 「11月」の **novem** [ノウエム] は nine で「9」だ。ちょうど2つずつズレている。**July** 「7月」(ユリウス・カエサル = **Julius** の誕生日から・・・) と **August** 「8月」(アウグストゥス = **Augustus** の誕生日・・・から。確か彼の誕生日は9月23日のはずだが・・・太陰暦で多少ずれたか?) が無理やり割り込んできたので9月以降の月が2つずつずれた・・・と言われる。see⇒ **augeo**・・・しかしこれは俗説で、実際2か月ずれたのはカエサル以前のことだ。詳細は紙面の関係で省略するが・・・) / **decade** (「10年間」see⇒ **mikros**) / **decathlon** (「十種競技」・武井壮くんの登場で一躍有名になった単語だ。詳しくは see⇒ **dia**) / **decimal** (「10進法の」) / 因みに世界史で出てくる「ボッカチオ」の「デカメロン<Decameron>」は、「10日物語」の意だ。「大きいメロン」ではない! **hemera** = η μ ε ρ α [ヘーメラ] <希> = day 「デカ・ヘーメロン」が「デカメロン」になったわけだ。ペストの荒れ狂う都市部をさけて山中に籠った人々が、暇潰しのためにお互いに面白い話を披露し合う・・・という内容だ。「百物語」といって日本でも真夏の夜に似たようなことをするが、あれは止めた方がいい。百話どころか第一話でもう壺が寄ってくるらしい。

(4) **demos** = δ η μ ο ς [デーモス] <希> 「民衆」

**democracy** (「民主制」 see⇒ **kratia** / **autos** / **mens**) / **democratic** (「民主的な」see⇒ **kratia**) / **democrat** (「民主主義(擁護)者」see⇒ **kratia**) / **epidemic** (「伝染病」see⇒ **epi**) / **pandemic** (「世界的流行・パンデミック」・今や「新型コロナ・ウイルス」ですっかり認知されてしまった単語だ。see⇒ **epi** / **pan**)

(5) **dens** - **dentis** [デンス・デンティス] <羅> = tooth 「歯」・ギリシャ語では **odous** - **odontos** = ο δ ο υ ς - ο δ ο ν τ ο ς [オドゥース・オドントゥス] となる。ウルトラマンで怪獣に「～ドン」とつくのはこの「ドン」だ。なにやら「ドン! ドン!」と凄い音をたてて歩いてたイメージがあるが無関係。「ドン」が採用された理由は下に書いた。

**dentist** (「歯医者」) / **dental** (「歯の」) / **dandelion** (「タンポポ」[ダンデライオン]・「ライオン」の<de>「歯」が原義。タンポポの葉っぱのギザギザがライオンの歯に似ていることから・・・と言われる。「君はダンデライオン・・・♪♪」と歌う松任谷由実の曲で一躍認知された。「ダンディーなライオンか・・・」ではない。) / **indent** (「ギザギザにする・字下げする」・ワープロ用語。一字下げすることで段落が変わったことを示す。中に<in>「歯」が食い込んでいるように見える。see⇒ **in** ①) / **trident** (「トライデント(三つ又の矛)」・「海神・ポセイドン」が持っている矛(ほこ)のこと。また「トライデント・ミサイル」でミサイルの名前にも、「トライデント・シュガーレス・ガム」で商品名にもなった。みなさんも歯は大切に。see⇒ **tri**) / **Iganodon** (「イグアノドン」・「イグアノドン」は文字通り「イグアナの歯」である。恐竜の存在を最初に言い出したのは、イギリスの「ギデオン・マンテル」という医師だが、当初は歯だけ発見され、体のどこについていたのかわからなかった。「親指だ!」とも「いや、角だ!」とも言われたが、結局歯だと判明した。初めて発見された恐竜がこのイグアノドンだ。see⇒ **sauros**) / **Pteranodon** (「プテラノドン」・**pteros** = π τ ε ρ ο ς [プテロス] は「翼」だから「翼の歯」かと思いきや、さにあらず。真ん中の an(=a) に注目してほしい。典型的なギリシャ語の「反対語」だ。atom が「これ以上切れないもの」の意味であることはすでにどこかで書いたはずだ。see⇒ **sauros** / **a** つまりプテラノドンは「翼はあっても歯のない<a>もの」の意味である。実際歯は発見されていないようだ。獲物は「丸呑み」するからだろう。そういえば「鳥」にも「歯」はないが・・・また **helicopter** 「ヘリコプター」の pter もこの **pteros** 「翼」である。この **pteros** が **feather** 「羽毛」の語源となった。p ⇒ f/t ⇒ th の変化だ。**helicos** = ε λ ι κ ο ς [ヘリコス] は「螺旋(らせん)」だから「螺旋の翼」が原義。確かに螺旋を描いて上昇する。つまり「ヘリコプター」ではなく「ヘリコ・プター」なのだ。だから「竹コプター」は間違いで「竹プター(竹の翼)」が正しい。ヘリコプターの命名者はかの万能の天才「レオナルド・ダ・ヴィンチ」だそう。確かにヘリコプターらしき物の設計図を残している。**double helix** 「ダブル・ヘリックス」とくれば、**DNA**<deoxylibonucleic acid>の「二重螺旋構造」となる。see⇒ **de** / **genus**) / **orthodontics** (「歯科矯正」see⇒ **orthos**)

(6) **deus** - **dei** [デウス・デイー] <羅> = god 「神」・**deus** には他にも **devus** / **dius** などがある。dev / div にも注意だ。

**deus** (「神」・戦国時代の大河ドラマで「デウス様」などと言う。キリスト教の神のことだ。最初は「ゼウス様・・・の聞き違いか?」とも思ったが、何度聞いてもやっぱり「デ」とははっきり言っている。結論から言えば「ゼウス」が「デウス」になったのだ。**Zeus**の「属格(所有格)」が**Dios**だからだ。see⇒**tono/cosmos** また天才作曲家「モーツァルト」のフルネームは「ウォルフガング・アマデウス・モーツァルト」。かつて「アマデウス」という映画があった。文字に起こせば**Amadeus**となるのだが、分解すれば**Amare**(=love)+**Deus**(=God)で「神が愛した(**Deus**は「主格」だから「神を愛した」とは絶対にならない。)だ。「モーツァルトは本当にとんでもない品性下劣な男だ。だが何故か神は彼を愛し、溢れんばかりの才能を彼に与えた。一体なぜだー!?!」と叫ぶ「アントニオ・サリエリ」という凡庸な宮廷音楽家が、「モーツァルト殺害計画」を練る・・・というストーリーだ。この映画のタイトルが「モーツァルト」でも「ウォルフガング」でもダメだった理由がここにある。これもラテン語ができる人間は、一発でその込められたメッセージに気づいたはずだ。同じく凡庸な筆者は、気づくのに30年かかったが・・・) / **divine** (「神の・神聖な」) / **divinity** (「神性」) / **deity** (「神性」・発音は[ディーイティ] **dei**は**deus**の「属格(所有格)」だ。) / **Diogenes** (「ディオゲネス」・**dio**は**dios**の「対格・奪格(目的格)」だ。古代ギリシャの「犬儒(けんじゅ)学派」の哲学者。英語の教科書にもときどき登場する。彼を表敬訪問し「先生!私に何かして差し上げられることはありませんか?」と尋ねた天下の「アレクサンドロス大王」に向かって、「今、日向ぼっこしてるんだ!そどこいてくれ!日が当たらない!」と言い放ったとされる人物だ。名前を直訳すればborn of Zeus「ゼウスの誕生」となる。Zeus = Deus / genes = **genus** = birth だ。see⇒**genus/kynikos**)

**(7)di** ①「2つの・2倍の・2重の」・**mono-di-tri**でギリシャ語の「1-2・3」だ。化学でやったはず。正確に言えばmonoは**monos**で「唯一の=only」。see⇒**monos** / diは**dis**=δ ι ς「2倍・2度」や**dyo**=δ υ ο「**デュオ**」「2」より。triは**treis-tria**で「3、3重、3倍」に由来する。

**carbon dioxide**(「二酸化炭素」[カーボン・ダイオキサイドウ]・diのつく化学物質については無数にあるのですべては列挙しきれない。**oxygen**「酸素」についてはsee⇒**genus**) / **dioxin** (「ダイオキシン」・ゴミを焼却した際に出る有毒物質。ベトナム戦争でも「枯葉剤」に含まれていたとされ社会問題となった。最近では「冤罪(えんざい)説」もある。) / **diploma** (「卒業証書」see⇒**plico**) / **distinct** (「異なった・明確な」see⇒**stizo**) / **dilemma** (「ジレンマ・板挟み」・2つの矛盾することを両立させようとして苦しむこと。「忠ならんと欲すれば孝ならず。孝ならんと欲すれば忠ならず。」という名文句がある。父「平清盛」と「後白河院」との板挟みに苦む「平重盛」の言葉だが、これが「ジレンマ」だ。**lemma**= λ η μ μ α [レーンマ]は「前提」という意味だ。また3つの場合を**trilemma**「トリレンマ」と言う。経済学でよく使う用語らしい。①「資本の自由な移動」②「為替相場の安定(固定相場制)」③「独立した金融政策」の3つを同時に達成することはできず、2つを達成すれば必ず残り1つを犠牲にしなくてはならないことを指すのだそう・・・。see⇒**tri**)

**(8)dia** <希> ①「～を通して・横切って」・ラテン語では**via** [ウイア]「～経由で」に当たる。②「強調」を表す。「貫き通す」から「一貫して」⇒「徹底して」となった。

**diagonal** (「対角線」・確かに多角形を横切っている。gonは**gonia**=γ ω ν ι α [ゴーンニア]で、ギリシャ語の「角(かど)」のこと。**octagon**[オクタゴン]で「8角形」となる。**octo**= ο κ τ ω [オクトー]=8だ。「バーリ・トゥードウ(なんでもあり)」というルール総格闘技が話題になった。相手に馬乗りになってボコボコにするやつだ。そのリングが「オクタゴン」と呼ばれている。「8角形」をしているからだ。またアメリカ国防総省を「ペンタゴン<the Pentagon>」と言う。建物が「5角形」をしているからだ。**pente**= π ε ν τ ε [ペンデ]=5だ。**pentathlon**「ペンタスロン」で「五種競技」となる。これには**decathlon**「十種競技」see⇒**decem** や**triathlon**「トライアスロン(三種競技)」see⇒**tri**などの関連語がある。**athlon**= α θ λ ο ν [アースロン]「競技」に、**athlete**「アスリート・運動選手」は**athletes**= α θ λ η τ η ς [アースレーテース]に由来する。) / **dialogue** (「会話」・二人の間に交わされる会話を対角線でイメージすればいい。see⇒**logos**) / **dialect** (「方言」see⇒**lego**②) / **diameter** (「直径」[ダイアミター]・確かに円を横切っている。see⇒**mens/radix**) / **diarrhea** (「下痢」[ダイアリア] see⇒**rheuma**) / **diabolos** (「悪魔」see⇒**ballo**) / **diagnosis** (「診断」see⇒**cogito**)

**(9)dic**・**dicere-dixi-dictus** [ディーコー・ディークレ・ディークシー・ディクトゥス] <羅>=say「声を出す」・また「(日付などを)固定・指定する<set/fix>」の意味もある。いったん日時を「言葉」に出したら、約束は守らねばならない。

**dictation** (「書取り」・声を出して読んだものを書き取ること。「読む」であって「書く」ではない。) / **dictate** (「書き取らせる・口述する・命令する」) / **dictator** (「独裁者」・声を出して命令するからだ。see⇒**sid**) / **predict** (「予言する・予測する」・**pre**「前もって」言う・・・だ。「後」で言っても予言にはならない。「人々の前<pre>で言うから」という説もある。see⇒**pre**) / **prediction** (「予言・予測」) / **contradict** (「反論する・矛盾する」) / **contradiction** (「矛盾」・**contra**「反対」のことを**dict**「言う」からだ。**contra**はagainstを表す。see⇒**contra Bellum omnium contra omnes** (万人の万人に対する戦い)とは人間の自然状態を形容した「トマス・ホブス」の有名な言葉である。「弱肉強食」ということだ。「これではいけないので国家が必要なのだ」というのが彼の論らしい。see⇒**omnis**) / **dictionary** (「辞書」・「言葉遣いを集めたもの」の意。一方ラテン語・ギリシャ語・ヘブライ語などの古典語の辞書は**lexicon** [レクスィコン]と言い、そのまま英語にもなっている。see⇒**lego**②) / **indicate** (「指摘する」・中を<in>指して言う・・・が原義。see⇒**in**①) / **verdict** (「判決」・**veritas**=truth「真実」だ。「判決」は「真実を述べる」のでなくてはならない。see⇒**veritas**) / **dedicate** (「捧げる」・相手はもちろん神様。お供え物をするときは、大声を出さないと気付いてくれない。**de**「下に」とあるのは、祭壇の「下」で祈りの言葉を捧げるからだ。一方「分離」と解釈して、「話すことから離れる」⇒「沈黙する」⇒「沈黙して祈る」とする説やら、「強調」とする説までさまざま。これほど諸説乱れ飛ぶ単語も珍しい。とりあえず「下」に分類したが・・・。see⇒**de**) / **dedication** (「献身・専念」 be dedicated to ~ing「～に専念する」も必須熟語。「自分自身を捧げる」が原義。) / **addict** (「中毒にさせる」・「固定された」から。中毒になると、なかなか抜け出せない。また「(負債者が債権者に対して<ad>)

自分を奴隷として差し出す宣言をすること」に由来するとする説もある。つまり「(麻薬に) 自分自身を差し出す宣言をすること」となったわけだ。see⇒**ad**) / **addiction** (「中毒」)

(10) **dies** - **diei** [ディエース・ディエー] <羅> = day 「日」・die ⇒ dia ⇒ dai ⇒ day となった。・・と筆者は考える。

**day** (「日・昼間」・また day と date は無関係。date の起源は do 「与える」だ。see⇒**do**) / **dawn** (「夜明け」) / **daily** (「毎日の」) / **dial** (「ダイヤル・目盛り」・もともとは一日の時間を表す日時計の目盛り版を指した。) / **sundial** (「日時計」) / **dismal** (「陰気な・憂鬱」・dis = **dies** = day / mal = **malus** = bad だから「悪い日」の意。see⇒**malus**) / **Diet** (「(日本の) 国会」・「1 日の議論」が原義。また「食事」の diet は **diata**<希> = δ ι α ι τ α で別起源。こちらは「生活様式」⇒「食生活」となった。) / **a.m.** (「午前」see⇒**ante** / **medium**) / **p.m.** (「午後」see⇒**ante** / **post** / **medium**)

(11) **dignus** - **digna** - **dignum** [ディグヌス・ディグナ・ディグナム] <羅> = worthy 「価値のある」また **decus** - **decoris** [デクス・デコリス] 「裝飾」も同語源だ。[デコ]⇒[ディグ]となった。

**indignant** (「立腹している」・価値のない<in>ものに対して腹をたてること。see⇒**in**② / **-ans**) / **dignity** (「威厳」) / **dignify** (「威厳をつける・いかめしくする」see⇒**facio**) / **decorate** (「飾り付ける」・威厳をもって美しく飾り付ける。・・が原義。) / **decoration** (「裝飾」・「デコレーション・ケーキ」の「デコレーション」だ。) / **decent** (「上品な」・発音は[ディースントゥ]) / **decency** (「上品さ」) / **disdain** (「軽蔑する」・価値を認めない<dis>こと。フランス語経由で形がかなり変わっている。see⇒**dis**)

(12) **dis** ① 離れて・ばらばらに ② 反～・無～・非～・di になったり dis の s が後ろの s と同化した例も見られる。

① 離れて・ばらばらに

**dif** **differ** (「異なる」see⇒**fero**) / **different** (「異なった」see⇒**fero**) / **diffuse** (「拡散する」see⇒**fundo**②)

**dig-dil** **digest** (「消化する」see⇒**gero**) / **diligent** (「勤勉な」see⇒**lego**②)

**dim** **dimension** (「次元・寸法・規模」see⇒**mens**) / **diminish** (「減少する」see⇒**minus**)

**disc** **discern** (「見分ける・分かる」see⇒**Ceres**) / **discriminate** (「差別する」see⇒**Ceres**) / **discord** (「不一致」see⇒**cor**) / **discourse** (「会話」see⇒**curro**) / **discard** (「捨てる」see⇒**carta**)

**dism** **dismiss** (「解散させる・解雇する」miss は **mitto** で「送る」だ。see⇒**mitto**)

**disp-disr** **disperse** (「分散させる」see⇒**per**) / **disrupt** (「引き裂く」see⇒**rumpo**)

**diss** **disseminate** (「種をまく・普及させる」see⇒**semen**) / **dissolution** (「溶解」see⇒**laxo**) / **dissent** (「意見を異にする」see⇒**sensus**) / **dissonance** (「不調和」see⇒**sono** / **-ans**)

**dist-div** **distance** (「距離・隔たり」see⇒**sto**) / **disturb** (「邪魔する」see⇒**torqueo**) / **district** (「区域」see⇒**stringo**) / **distress** (「悩み・苦悩」see⇒**stringo**) / **distribute** (「配る」see⇒**tri**) / **divert** (「(注意を) そらす・(進路などを) 方向転換する」see⇒**verto**) / **diverge** (「2つのものが、それぞれの方向へ分岐する」see⇒**verto**) / **divorce** (「離婚・離婚する」see⇒**verto**) / **divest** (「剥ぎ取る」see⇒**vestis**) / **diversity** (「多様性」see⇒**verto**)

その他) **dress** (「着せる」see⇒**rex**) / **sport** (「スポーツ・気晴らし」・dis の di が欠落して s だけ残った。see⇒**porto**)

② 反・非・無

**dif** **difficult** (「困難な」see⇒**facio**)

**disa** **disappointment** (「失望」see⇒**penetro**) / **disapprove** (「反対する・認めない」see⇒**probo**) / **disaster** (「大災害」see⇒**astron**) / **disarmament** (「武装解除」see⇒**arma**) / **disagree** (「反対する」see⇒**gratia**) / **disability** (「不能」see⇒**habeo**) / **disappear** (「消える」see⇒**porto**) / **disadvantage** (「不利な点」see⇒**Mercurius**)

**disc-disd** **discount** (「割り引く・割引」see⇒**puto**) / **disclose** (「暴露する・明らかにする」see⇒**claudio**) / **discourage** (「落胆させる see⇒**cor**」) / **discover** (「発見する」see⇒**velo**) / **disdain** (「軽蔑する」see⇒**dignus**)

**disg** **disguise** (「変装させる」see⇒**video**) / **disgrace** (「不名誉・屈辱」see⇒**gratia**)

**dish** **dishonest** (「不誠実な」・honest の **honos**[ホノス]はラテン語で「名誉」の意だ。ただし英語では[オネスト]と h は読まないから注意。中学校で英語をサボった人はこの単語が読めないはまだ。)

**dism-diso** **dismay** (「狼狽させる」see⇒**magnus**) / **disoriented** (「方向のわからなくなった」see⇒**orior**)

**disp** **display** (「展示する」see⇒**plico**) / **dispute** (「議論する」see⇒**puto**) / **dispensable** (「なしですませられる」see⇒**pendeo**) / **dispose** (「処分する」see⇒**pono**) / **disparity** (「差異・不均衡」see⇒**para**)

**disr-diss** **disregard** (「無視する」see⇒**verto**) / **dissatisfy** (「不満にさせる」see⇒**facio**)

**dist** **distract** (「そらす」see⇒**traho**) / **distort** (「ねじる・歪める」・「dis は強意」と書かれている方もいらっしゃるようだがこれはおかしい。dis に「強意」の意味はないからだ。「逆にねじる」が原義であろう。see⇒**torqueo**)

(13) **divido** - **dividere** - **divisi** - **divisus** [ディウイドー・ディウイデレ・ディウイースイー・ディウイースス] <羅> = divide 「分ける」・video 「見る」から来た単語だ。「しっかり見て<video>、良いものと悪いものとを 2 つ<di>に分けること」が原義だ。see⇒**video**

**divide** (「分ける」see⇒**multus**) / **division** (「分割・割り算」see⇒**multus**) / **individual** (「個人の・個人」・「これ以上分割できない<in>②>・・」の意。see⇒**in**②) / **individuality** (「個性」) / **individualistic** (「個人主義の・利己的な」) / **individualism** (「個人主義」see⇒**ismos**)

/ **device** (「装置」[デイヴァイス]) / **devise** (「工夫する」[デイヴァイズ]・遺産を分割する<de/di/dis>際、知恵<video=wisdom>を絞ったことから・・と言われている。deの起源については **de/di/dis** など諸説あつてはつきりしないが「分かれる」を意味することは間違いない。) / **widow** (「未亡人・寡婦(かふ・やもめ)」・何度も書くが w=v だ。「やもめ」とは「配偶者を失った人」のことだ。起源には諸説がある。**video** に分類しようかとも思ったが、意味的にはこちらが近いと思ひ載せた。「夫と引き裂かれた<divide>女性」のことだ。また **widow maker** 「ウィドウ・メイカー(未亡人製造機)」などという単語もある。最近では「オスプレイ」にこの不名誉なネーミングがなされた。事故が多発して軍人が次々に命を落とすからだ。) / **widower** (「男やもめ」・「奥さんのいない男性」のこと。)

**(14) do**・**dare**・**dedi**・**datus** [ドー・ダーレ・デディー・ダトウス]<羅>= give 「与える」・仏教用語として日本語にも入ってきている。「旦那(だんな)」や「檀家(だんか)」などの「だん」がこの **do** [ドー] だ。「旦那」さんは家庭に、「檀家」はお寺に、それぞれお金を持ってきてくれる。古代インドの「サンスクリット」はれっきとした「インド・ヨーロッパ語族」の言語だ。don / dot / dar / der / dos / dow / dit / der などに変化した。

**d) data** (「データ」・単数形は datum (**datus** の「中性変化」) で、もともと「与えられた物」という意味だ。しかし単数形が使われることは現代ではまずない。複数形のはずの **data** も、「不可算名詞」扱いで「単数」でいいようだ。また **date** 「日付」もここからきている。もともとは手紙に記した言葉で「〇月〇日にあなたに与えられた書面ですよ・・」という意味で、**day** とは無関係だ。see⇒**dies**) / **dare** (「あえて~する」[デア]・「思い切つて与える」の意。「フーテンの寅さん」風に言えば、「もつてけ泥棒!」といったところか・・。How **dare** you say such a thing? 「よくもそんなことが言えるな!」や I **dare** say... 「(敢えて言うならば) おそらく・・」も覚えておきたい。今ではあまりお目にかかれない単語だが、do や need のように「助動詞」としても「動詞」としても使える。) / **endow** (「授与する」・発音・アクセントは[インダウ]だから注意。en=in で「中に<en>与える」の意。学校や病院に寄付金を出すときなどに使われる。see⇒**en**) / **dose** (「薬の服用量」・医学・薬学関係に進む人は実験で必ず出会う用語。医師に与えられた物・・から来ている。) / **donor** (「ドナー・臓器提供者」発音は[ドウナー]・一方臓器を受け取る人は **recipient**[レシィピエントウ]と言う。see⇒**ans/capio** receive 「受け取る」から来ていることは言うまでもない。日本語では「臓器受容者」と言う。) / **donee** (「受贈者」・アクセントは[ドウニ]だ。ただし「臓器提供」に関していえば、「ドナー」の反対語はやはり「レシピエント」で覚えておいた方がいい。) / **donation** (「寄付」) / **donate** (「寄付する」) / **Dorothy** (「ドロシー(人名)」・「神からの贈り物」の意。thy = **theos** = god だ。またギリシャ語で「贈り物」を **doron** = δ ω ρ ο ν [ドローン]と言う。see⇒**theos**) / **doll** (「人形」・もともとは女の子に与えられたペットや豚を指した。Dorothy の愛称 Dolly から来ている。そういえば「ドリー」などという「クローン羊」もいた。) / また今話題の「ドローン」は「与える」とは無関係。**drone**[ドゥロウン]と綴り「雄ミツバチ」のこと。「無人の飛行機・船・ミサイル」などの意味もある。名称そのものは既に昔「スタートレック」で登場している。

**a-e) add** (「加える」・~の方向へ<ad>+ 与える<do>。see⇒**ad**) / **addition** (「追加」・add では消えていた it が出てきている。see⇒**multus**) / **additional** (「追加の」・サッカーの「アディショナル・タイム」で有名。昔は「ロス・タイム」と言った。) / **anecdote** (「逸話・秘話」・an(= un = not) + ec(= ex) つまり外に<ex>出していない(与え<do>られていない<an = a>) 話・・の意だ。発音は[アニクドウトウ]。see⇒**a/ex**) / **edit** (「編集する」・外に<e = ex>与える ⇒ 「外に出すためにまとめる」から。see⇒**ex**) / **editor** (「編集者」) / **editorial** (「編集の・社説」) / **edition** (「~版」)

**t) tradition** (「伝統」・「(世代を) 越えて<tra = trans>与えられた物」の意。see⇒**trans**) / **traditional** (「伝統的な」)  
**その他) pardon** (「許す」・「すべて<per = par>与える」の意。see⇒**per**) / **render** (「与える」・re だから「返し<re>てあげる」だ。また「(自分が) 後ろに<re>一歩下がって相手に与える」という解釈もある。これだとこの後の **surrender** の意味にも合致するが・・。see⇒**re**) / **surrender** (「降伏する」・一歩下がって<re>、相手の下<sur = sub>に入り、すべてを放棄<do>しなくてはならないからだ。sur (= sub) + render からできている。see⇒**re/sub**)

**(15) doceo**・**docere**・**docui**・**doctus** [ドクオー・ドケーレ・ドクイー・ドクトウス]<羅>= teach 「教える」・もともと **doctor** は「教師」の意だ。また **doxa** = δ ο ξ α [ドクサ] 「教義」も同根語だ。

**doctor** (「医師・博士」・もともとラテン語では「先生」の意味だった。) / **document** (「記録文書」・もともとは「教える文書」の意。) / **documentary** (「文書の・記録による」・documentary film で「記録映画」となる。) / **docile** (「従順な」[ドウサイル]・何でも教え込める・・が原義。) / **doctrine** (「教義」・「トルーマン・ドクトリン<1947>」とくれば「共産主義封じ込め政策」のことだ。) / **paradox** (「逆説」see⇒**para/orthos**) / **orthodox** (「正統派の」see⇒**para/orthos**) / **dogma** (「教義・ドグマ」・「共産主義のドグマ」などと言う。)

**(16) domus**・**domus** [ドムス・ドムース]<羅>= house 「家」 / **building** 「建物」 / **family** 「家族」・「東京ドーム」の「ドーム」だ。「家庭」から「国家」という意味も生まれた。また **dominus** [ドミヌス] 「主人」や **domina** [ドミナ] 「女主人」からさまざまな単語が生まれた。さらにギリシャ語までさかのぼれば **damazo** = δ α μ α ζ ω [ダマゾー] 「飼いならす」に至る。これがラテン語に入って **domo**・**domare** [ドマー・ドマーレ] になり、最後に **dome** 「ドーム」にたどり着いた。tame[テイム] 「飼いならす」も同根語だ。「飼いならす」⇒「家で飼う」⇒「家」となったというわけだ。

**dominate** (「支配する」) / **dominant** (「支配的な・優越した」see⇒**ans**) / **dominance** (「支配・優越」) / **Madonna** (「マドンナ」・歌手の名前ではない。「聖母マリア」の意味だ。Ma は my で「私の貴婦人」となる。マダム<madam>のマも同じ。「私の女主人」の意だ。) / **domestic** (「国内の・家庭内の」・GDP と言えば Gross Domestic Product 「国内総生産」だ。昔は **GNP** と言った。Gross National Product の略だ。) / **domesticate** (「家畜化する」) / **Notre Dame** (「ノートルダム」・「ノートルダム大聖堂」で教会の名前にもなっている。「ヴィクトル・ユー

ゴー」の「ノートルダム・ド・パリ」という小説もあった。**notre** <仏>・**nostra** <羅> は英語の **our** だから「我らが貴婦人」ということで、こちらも「聖母マリア」を意味する。「預言者・ノストラダムス」の名前も同じ。聖母マリアそのものだ。しかも彼のファースト・ネームがこれまた凄い。「ミカエル」。イエスを守る天使軍団のドン「大天使ミカエル」だ。「ミカエル・ノストラダムス」。すごい名前を名乗ったものだ。因みにこのミカエルが英語に入ってマイケルになった。「マイケル・ジャクソン」の「マイケル」だ。)/ **domain** (「支配領域」)/ **predominant** (「圧倒的な」・**先手<pre>**を取って支配してしまうこと。see⇒**pre**) / **danger** (「危険」・見る影もなく形が変わってしまっているが、「君主は危険な存在」というところからきている。領民を生かすも殺すも君主次第・・ということだ。無論はるかヨーロッパ中世の話ではあるが・・。see⇒**en**) / **endanger** (「危険にさらす」・**endangered species**「絶滅危惧種」で最近話題の単語。en で動詞化される。see⇒**en**) / **kingdom** (「王国」)/ **tame** (「飼いならす」・[ドゥーム] ⇒ [デйм] ⇒ [テイム]と変化した。)/ **adamant** (「堅固な」・「飼いならすことができない<a>」より。see⇒**a** / **ans**) / **diamond** (「ダイヤモンド」・adamant からの派生語。反対語である a が取れた。「固すぎて歯が立たない」が原義。また「ギヤマン」という言葉もある。「ガラス」のことだ。戦国時代にポルトガルから伝わったが、江戸時代には珍しかったから珍重された。もともと「ギヤマン」は「ダイヤモンド」が訛ったものだが、ガラスのカットにダイヤが使われたことから、ガラス自体がギヤマンと呼ばれることとなった。「ギヤマンの壺」などと言う。一方「ビードロ<vidro>」はポルトガル語で真正銘「ガラス」の意味。「ビードロを吹く女」などという喜多川歌麿の浮世絵もあり、切手の図柄にもなっていた。「ガラスの試験管」のことを英語でも **vitro** と言うが、無論これも同根語だ。**in vitro** という表現も理系の人は覚えておくといい。「試験管内で・・」という意味だ。反対語が **in vivo**「生体内で・・」。前者がシャーレーなどの寒天培地内での実験を指し、後者はマウスなどの生き物を使った実験を指す。see⇒**vivo**)

ところで **Domesday Book**[ドゥムズデイ・ブック]というのがある。「土地台帳」のことだ。大文字で書くと「ウイリアム1世(ノルマンジー公ウイリアム)」のそれを指す。**dome** は「家」だから、「土地・家屋」を指すようになったと言われる。ヨーロッパ版「太閤検地」だ。これは実は **Doomsday Book**[ドゥームズデイ・ブック]をもじったものだ。**Doomsday Book** とは「最後の審判」の際、すべての人の行状が記されたノート、つまりは「閻魔(えんま)帳」を指した。これをもとにその人は「天国行き」か「地獄行きか」が決められる。**doom**[ドゥーム] は「運命」の意。つまり「あの本に名前が載ったら一巻の終わり」ということだ。「閻魔様でもウイリアム1世でも大差ない・・」という当時の人々の皮肉である。この doom は **wisdom** (「智慧」にもみられる。see⇒**video**)

**(17) [duco]-ducere-dux-ductus** [ドゥーコー・ドゥーケレ・ドゥークスイー・ドゥークトウス] <羅> = lead / guide / conduct / pull / draw「(教え) 導く」

**a) abduction** (「誘拐」・この「アブダクション」という単語が初めて周知されたのは「宇宙人<alien>」による誘拐事件とされるものが多発した1980年代だ。今では「北朝鮮」のそれが有名だが、当時は「北朝鮮はこの世の楽園・・」とマスコミが報道していた時代である。ab = of = off「離れて」の意味。つまり宇宙人に導かれて行方不明になってしまうことだ。恐ろしい！もっとも筆者はガセネタだという意見だが・・。see⇒**ab** / **placeo**) / **aqueduct** (「水道管」・水を導くもの。「ダクト(空調)」は日本語になっている。see⇒**aqua**)

**c-d-e-i) conduct** (「案内する」・「ツアー・コンダクター」はお客様のみなさん<con>を導くのが役目だ。また「振る舞い」という名詞もあり、こちらは **conduct** と前にアクセントが移る。所謂「名前動後(名詞と動詞が同じスペルの場合、名詞は前に、動詞は後ろにアクセントを置く)」の法則だ。また「形前動後(けいぜん・どうご)」や「名前形後(めいぜん・けいご)」という規則もある。「名詞」⇒「形容詞」⇒「動詞」の順で、アクセントは後ろに来る。see⇒**cum**) / **conductor** (「車掌・添乗員・(楽団の)指揮者」・「ツアー・コンダクター」の「コンダクター」だ。)/ **deduce** (「類推・推論する」)/ **deduction** (「類推・推論」・結論を求めて川をどんどん下流まで下って<de>ゆく様子を想像すること。see⇒**de**) / **educate** (「教育する」・子供の才能を外に<e = ex>引き出すこと。education は「教育」だ。see⇒**ex**) / **educate** (「教育する」)/ **introduce** (「導入・紹介する」・intro は「中へ」。see⇒**intro**) / **introduction** (「導入・紹介」・「イントロ当てクイズ」の「イントロ」だ。)/ **induce** (「誘導する」see⇒**in**) / **inducement** (「誘導」)

**p) produce** (「製造する」・「前<pro>導く」が原義。またこの単語には名詞で「農産物」の意味もある。see⇒**pro**) / **product** (「製品」・produce「農産物」に対して「工業製品」を指し、区別することもある。)/ **production** (「製造」)

**r) reproduce** (「再生させる」・繁殖させる) / **reproduction** (「再生・繁殖」・「自分自身を再び<re>作り出す」こと。see⇒**re**「無性生殖」する生物を連想すればいい。たとえばジャガイモだ。子供をどんどん作ってゆくと、DNAは親と完全に同じ。要するに「クローン」である。「コモド・ドラゴン」のメスも無性生殖ができるらしい。)/ **reduce** (「減少させる」・「後ろ<re>へ引き<duc>戻す」の意。see⇒**re**) / **reduction** (「減少」・また数学で「約分」という意味もある。)

**s) seduce** (「誘惑する」・se は「分離」。see⇒**seco**) / **subdue** (「征服する・抑圧する」see⇒**sub**)

**(18) [duo]-duae-duo** [ドゥオ・ドゥアエ・ドゥオ] <羅> = two「2」

**dual** (「二重の」)/ **dual personality** (「二重人格」・「ジーキル博士とハイド氏」だ。**double personality** と **alternation personality** とも言うらしい。)/ **duplicate** (「複製する」see⇒**plico**) / **duplicity** (「二枚舌」・主張がコロコロ変わることだ。「お前は舌を何枚もってるんだ!」などと表現する。)/ **double** (「2倍」[ダブル]・また「ダブル」には「影武者」という意味もある。「ヒトラーのダブル」などと言う。独裁者にはたいい影武者がいる。「黒澤明」監督の「影武者」という名作映画もあった。see⇒**plico**) / **doubt** (「疑う」・2つから1つを選ぶときには疑う。duo ⇒ dou の変化では・・と推測する。)/ **doubtful** (「疑わしい」)/ **dubious** (「曖昧な・怪しげな・心もとない」)/ **duet** (「デュエット」・ヒット曲「三年目の浮気」をデュエットで歌われた世代のお父さん・お母さん方も多かろう。duae ⇒ due ではないかと思うが・・。)/ **duo** (「二重奏」・まんま・・だ。)



だ。) / **organize** (「組織する」 see⇒*ismos*) / **organization** (「組織」・WHO「世界保健機構」などのOがこのorganizationだ。「コロナ・ウイルス」に負けずにしっかり仕事をして欲しい。) / **organism** (「生物・有機体」 see⇒*ismos*) / **cyborg** (「サイボーグ」・**cybernetic organism**[サイバネティック・オーガニズム]の略。cyberneticは「人工頭脳」の意。「自分で舵を取る(操縦する)ことができる・・・」が原義だ。詳しくは see⇒*kybernao*) / **surgeon** (「外科医」・*ergon*がわずかにその痕跡をとどめているのがわかるだろうか・・・。surはcheir=χ ε ι ρ [ケイロ]でギリシャ語のhand「手」の意。余りに形が変わりすぎているので掲載に躊躇したが、念のため載せた。cheirは **chiropractic**「カイロプラクティック(脊椎矯正術)」にその形をとどめる。エジプトの首都「カイロ」は関係ない。語源は **kheiropraktike**= χ ε ι ρ ο π ρ α κ τ ι κ η [ケイロプラクティケー]「手による施術」だ。practice「行う・実践する」が隠れている。) / **argon** (「アルゴン」・化学で学習する元素の一つ。原子番号18の物質。**a**(=un) + **ergon**(=work)で「働かない物・作用しない物」が原義。他の元素と反応しないためこの名がある。所謂「不活性ガス」というやつだ。see⇒*a*)

(4) **eo**・**ire**・**it**・**is**・・・[エオー・イーレ・イトウ・イース・・・] <羅>= go「行く」/ walk「歩く」・あまりの活用の劇的変化でラテン語学習者泣かせの動詞である。しかもスペルが短いので、文中に紛れ込んだり複合語を作られたら見分けがつかない。とりえず順不同で英語に痕跡を残す活用形を4つだけ挙げた。

**a)** **ambition** (「野心」・功名を求めてあちこちうろつき回る・・・との意だ。**ambi**= around / see⇒**ambi**) *e*

**exit** (「出口」[**ex**「外へ」+ **it**「行く」see⇒**ex**] / **circuit** (「回路・周囲・一周」・**circle**「回って」+ **it**「行く」。「サーキット・トレーニング」の「サーキット」。この「サーキット」は自動車レース用に作られた環状道路のことだ。see⇒*kyklos*)

**i-p)** **initial** (「イニシャル」・中<in>に入って<it>始める・・・の意。ここから「初期の・はじめの」となり「名前の最初の文字(イニシャル)」という意味になった。) / **initiative** (「主導権」・「イニシアチブを取る・・・」などと日本語でも使う。) / **initiate** (「始める」(秘伝などを)伝授する)・この単語も「オウム真理教」事件で一躍周知された。「イニシエーション」と称して、教団内部でいかかわしい儀式を行っていたと言われている。) / **issue** (「発行する」・問題)・ラテン語の **exire**「外に<ex>出る<ire>」より。「外に<iss = ex>出てくる」⇒「発行する」となった。また「出てきた物」⇒「解決すべき問題」となったようだが、どうしてこうも跡形もなくスペルが変わっているのか? **iss = ex**だとある本には説明されているが、だとすると **ue**が **ire**(=go)に当たるのか? 筆者には **iss = is**(=go)であり、**ex**は欠落した・・・と思えてならない。**is**は **isse**[イーッセ] / **issem**[イーッセム]にも変化するからだ。) / **perish** (「腐る」・滅びる)・**per**「完全に」+ **is**「行ってしまう」・おかしくなってしまふことを「あいつ完全に行っちゃってるよ!」と日本語でも表現する。英語でも **go bad**「腐る」と言うのではないか。see⇒**per**) / **perishable** (「生鮮の」・間違っても「腐ることができる・・・」などと訳さないこと。この **able**は「～できる」ではなく「～しがちな・そうなる傾向がある」の意。どこかで書いたが **able**の語源は **have**であり、**habit**「習慣」も同様だ。「習慣」だから「～しがち」なのだ。see⇒*habeo*)

**t-v)** **transit** (「通過」・**trans**「越えて」+ **it**「行く」。昔は「トランジット・ビザ」というのがあった。「ビザ<visa>(査証)」see⇒**video**とはいわば「滞在許可証」で、具体的にはパスポートに押されたスタンプのことなのだが、これがないと違法滞在とされ強制送還されてしまう。しかし飛行機の乗り継ぎ便の関係で、空港で1~2日待たねばならないこともある。そんな時はまさか空港に寝泊まりもできないので、通過国に入国しホテルに滞在できる。これを「トランジット・ビザ」といった。筆者が南米を旅したときは、このビザのおかげでサンフランシスコやロサンゼルス市内のホテルに泊まることができた。今は飛行機の便数が多いのでほとんど使われなくなったようだが、まさしくアメリカを飛び越えて<trans>南米に行った<it>わけだ。see⇒**trans**) / **transition** (「移り変わり・過渡期」) / **transient** (「つかの間の」・**transit**を参考にして欲しい。see⇒**trans** / **-ans**) / **visit** (「訪問する」・訪れる) see⇒**video**)

(5) **epi**[エピ] <希>= ε π ι ①on / above「上に」・②「後ろに」・ただ②の意味はほとんど英語には入っていない。あるとすれば一目でギリシャ語だとわかる用例だけである。また **epi**は **be**とも同根だ。see⇒**be**

**epicenter** (「震央」・震源の真上を言う。) / **epidemic** (「伝染病」・**demic**は **demos**= δ η μ ο ς [デーモズ]「民衆」の意味。病気は「民衆の上<epi>に長くどまる」からだ。see⇒**demos** また「パンデミック<pandemic>」は「世界的流行」だ。「豚インフルエンザ」や「SARS」・「新型コロナ・ウイルス」などで、今や知らない日本人はいない。皮肉な話だが・・・。**pan**= π α ν <希>= allの意味。see⇒**pas** / **demos**) / **epitomize** (「要約する」・上の方(大切な部分)だけを切り取った<tome>ものだ。因みに **tome**= τ ο μ η [トメー]はギリシャ語でcut「切ること」だから **atom**「原子」は「これ以上切れないもの」の意となる。**a**はギリシャ語で反対語を表す。see⇒**tome** / **ismos**) / **bishop** (「司祭」・「エピ」⇒「ビ」となった。「上から監視する者」の意。see⇒**skopo** / **cata**) / **Epimetheus**= Ε π ι μ η θ ε υ ς (「エピメテウス」[エピメテウス]・ギリシャ神話で人類に「火」を伝えたといわれる神「プロメテウス」の弟だ。直訳すれば「後で考える」の意。詳しくは see⇒**mens**) / **Epigonen** (「エピゴネン」・模倣者)・先人のアイデアをそのまま模倣したような意見・作品を発表する人を指した。我々はふだんこれを「パクリ」と呼んでいる。この単語自体はドイツ語だが、ギリシャ語で **epigonos**= ε π ι γ ο ν ο ς [エピゴノス]とくれば「後に生まれた者」の意味。ときどき恰好つけた有識者などがテレビで使うのでここに載せた。「オレは〇〇のエピゴネンじゃない!!」などを使う。ドイツ語の名詞は文中でも大文字になるので大文字で記した。) / **episode** (「挿話」・エピソード)・「上<epi>から中<eis>へ道<hodos>すがら入り込んでくるもの・・・」の意。道中退屈なので、お互いの面白い話を持ち寄って旅をつづけたのだろうか・・・? 「チョーサー」の「カンタベリー物語」のように・・・。see⇒**hodos**)

(6) **est**・**esse**・**sum**・**sunt** [エストウ・エッセ・スム・スントウ] <羅>= be「いる・ある」・「三人称単数」・「原形」・「一人称単数」の順序で並べた。「いる・ある」の意。**est**= is / **esse**= be / **sum**= am / **sunt**= are に当たる。無論他にも変化する。**est**を最初に持ってきた理由は、こ

の形が英語に一番多く見られるからだ。また「未来分詞」は **futurus** [フトゥールズ]と完全に形を変える。**future**「未来」の語源となった単語だ。一方 **sent** となっているものは **essent** [エッセントウ]「接続法・過去・3人称・複数」の変化だ。see⇒**facio**

**a-d-e** **absent** (「欠席している」・「離れ<ab>て存在していること。see⇒**ab**) / **deforest** (「(森林を)伐採する」 see⇒**de/foris**) / **deforestation** (「森林伐採」 see⇒**foris**) / **essential** (「必須の・本質的な」・ジャンプの名前ではない!) / **essence** (「本質・エッセンス」・文字通り「物事」の中心に存在<esse>している<ence = **ans**>もの」だ。see⇒**-ans**)

**f** **forest** (「森」・**for**は「扉」や「外」を表す・古代ゲルマンの森では、扉の外にあるのは森だった。see⇒**foris**)

**i-p-r** **interest** (「興味・利益・利子」・人と人との **inter**「間に」**est**「存在する」もの、すなわち「利害打算」となるし、「利子」・「利息」には「興味」が湧く。悲しい話だが・・・また動詞では「興味を持たせる」の意味がある。**interested**「(人が)興味を持っている」・**interesting**「(物が)面白い」も区別すること。 / **present** (「出席している」・目の前<pre>に存在すること。あちらの学校で出席を取られたら、Here! か Present! で答えること。see⇒**pre**) / **presence** (「存在・出席・面前」・「プレズンスを示す」などと日本語でも言う。「存在感を示す」ことだ。) / **represent** (「象徴する・表す・代表する」・**re**は「強調」。「象徴」は目の前<pre = **prae**>に存在<sent>しなければ(見えなければ)理解してもらえない。see⇒**re/pre**) / **representative** (「代表・代表の」・また米国の「下院議員」も Representative と言うことはすでに書いた。日本でも「衆議院議員」を「代議士」という。「国民の代表」という意味だ。see⇒**senior**)

その他) **Cogito ergo sum**. [コギトー・エルゴー・スム]. (「我思うゆえに我あり」・ご存知フランスの哲学者・ルネ・デカルトの有名な言葉だ。英語では **I think**(= **Cogito**), **therefore**(= **ergo**) **I am**(= **sum**).となる。この **sum** が(I) am だ。何度も言うが、ラテン語に主語はいらない。see⇒**cogito**) / **Bene Esse**. (「ベネッセ」・受験生諸君にはこれ以上の説明は不要であろう。「良く生きる(ある)」の意だ。see⇒**bene**)

(7) **ethos** [エトス]= ε θ ο ς <希>・古代ギリシャ語では「習慣」という意味だが、そこからやがて「倫理・道徳・行動規範」という意味ができた。一方 **pathos** [パトス]は「感情・共感」。**logos** [ロゴス]は「言葉・論理」だ。古代ギリシャ最大の哲学者である「アリストテレス」も、人を説得するための3要素を「エトス」・「パトス」・「ロゴス」だとしている。「論理」的にいくら筋が通っていても、「情」に訴えるものでなければ支持は得られない。この3つはセットで覚えるといいだろう see⇒**pathos/logos**

**ethics** (「倫理・道徳」・**ethos**「習慣・慣習」から **ethics**「倫理」が生まれた。その人の属する共同体の「習慣」を守ることが「道徳・倫理」と考えられていたからだ。) / **ethical** (「倫理的・道徳的な・道徳上の」) / **ethica** (「倫理・道徳」・これはラテン語・「エチカの泉」などという番組もあった。) / **ethnic** (「民族的な」・「異なる習慣を持つ異民族」という意味からこの **ethnic** が生まれた。「エスニック料理」などと使われるが、別に「東南アジア」的な意味はない。see⇒**clarus**) / **ethnic cleansing** (「民族浄化」 see⇒**clarus**)

(8) **eu** [エウ]= ε υ = good <希>「良い」

**eugenics** (「優生学」 see⇒**genus**) / **Eugene** (「ユージーン(人名)」・「生まれ・家柄の良い」という意味だ。see⇒**genus**) / **eulogize** (「ほめる」 see⇒**logos/ismos**) / 因みに **Europe**「ヨーロッパ」の語源はゼウスの愛人「エウローパ<**Europe** = **E υ ρ ω π η**>[エウローペー]」(ラテン語で **Europa** [エウローパ]) だが、さらにさかのぼると「日の没する国」というフェニキア人の言葉らしく、ギリシャ語の **eu** とは残念ながら無関係のようだ。ひょんなことから大神「ゼウス」の子を産むこととなり、その子の一人が「クレタ島」の王、「ミノス王<**Minos** = **Μ ι ν ω ς**>[ミノース]」となる。世界史で「ミノア文明(クレタ文明)」というのが登場するが、「ミノア」はこの「ミノス王」に由来する。「ミノス・パレス(ミノス王の宮殿)<Minos Palace>:別名『クノッソス宮殿』はクレタ島に現在も残っており、こちらも必見である。 / **Eukleides** (「エウクレイデス(ユークリッド)」・高校数学で決まって登場する古代ギリシャの数学者だ。「ユークリッド幾何学(平面幾何学)」だの「ユークリッドの互除法」だの、受験生を苦しめて(?)いる。また「幾何学に王道なし!」とエジプトのファラオ(プトレマイオス1世)を叱りつけたとされるのも、この「ユークリッド」だ。その名の意味は「良き栄光」。何度も言うが、すべてのギリシャ人の名前には意味がある。see⇒**ge**)

(9) **ex** ①「(〜から)外に」ギリシャ語の ε ξ [エクス]に由来。out of 〜の意味だ。また単に **e** となることもある。単語の最初が **e** で始まったら、この **ex** だと考えてまず間違いはない。②「強調」を表す。「外にたたき出すくらいに」⇒「徹底して」となる。**ex** が「〜から外へ」と「動き」を表す一方、**extra** [エクストゥラー]は「外で<outside>」と、こちらは「場所・位置」を表す。面倒なので一緒にまとめた。また **ec/s** などにも変化。**ex**[エクス]が **s**[ス]や **es**[エス]、**ec**[エク]になったのだ。後ろが **s** で始まる単語のときは **ex**[エクス]の中に **s**[ス]が吸収されてしまうことも頭に入れておきたい。また古英語由来の **a** は **ex** と同根だ。

**a**) **amend** (「修正する」 see⇒**menda**) / **astonish** (「驚かせる」 see⇒**tono**) / **astound** (「仰天させる」 see⇒**tono**) / **anecdote** (「逸話・秘話」・これは3つに分解できる厄介な単語だ。詳細は see⇒**do/a**)

**ec-ed** **ecstasy** (「有頂天」・合成麻薬 MDMA は通称「エクスタシー」と呼ばれるそう。see⇒**sto**) / **eclipse** (「食(日食・月食)」 see⇒**longus**) / **edit** (「編集する」 see⇒**do**) / **education** (「教育」 see⇒**duco**)

**ef**) **effect** (「効果・影響」 see⇒**facio**) / **efficient** (「効率的な」 see⇒**facio/-ans**) / **effort** (「努力」 see⇒**fortis**)

**ej**) **eject** (「追い出す・発射する」 see⇒**jacio**)

**el**) **eloquent** (「雄弁な」 see⇒**loquor**) / **elaborate** (「念入りの」 see⇒**labor**) / **elapse** (「時が経過する」 see⇒**lapsus**) / **eligible** (「資格のある」 see⇒**lego**②) / **elect** (「選ぶ」 see⇒**rex/lego**②) / **elegant** (「優雅な」 see⇒**lego**②) / **elevate** (「持ち上げる・高める」 see⇒**levis**) / **eliminate** (除去する) see⇒**limen**)

**em-en**) **emancipate** (「解放」 see⇒**manus/capio**) / **emerge** (「現れる」 see⇒**mergo**) / **emigration** (「(外国への)移住」 see⇒**migro**)

/ **eminent** (「突出した」 see⇒mineo) / **emit** (「(光・臭いを) 発する」 see⇒mitto) / **emotion** (「感情」 see⇒moveo) / **enormous** (「途方もない」 see⇒norma)

**er-es** **eradicate** (「根絶する」 see⇒radix) / **erupt** (「噴火する」 see⇒rumpo) / **espionage** (「スパイ活動」 see⇒specio) / **especially** (「とりわけ・特に」 see⇒specio) / **establish** (「設立する」 see⇒sto) / **escape** (「逃げる」 see⇒capio)

**ev** **evacuation** (「避難・立ち退き」 see⇒vaco) / **evade** (「避ける・逃れる」 see⇒vado) / **event** (「結果」 see⇒venio) / **evidence** (「証拠」 see⇒video/-ans) / **evict** (「(法的手段で) 立ち退かせる」 see⇒vinco) / **evolution** (「進化」 see⇒volvo) / **evoke** (「(感情を) 呼び起こす」 see⇒vox)

**exa-exc** **exaggerate** (「誇張する」 see⇒ago/gero) / **exalt** (「昇進させる」 see⇒altus) / **exclusive** (「排他的な」 see⇒claudio/nauticus) / **except** (「〜以外は」 see⇒capio) / **excuse** (「口実・言い訳」 see⇒causa/mitto) / **excavation** (「発掘」 see⇒cavus) / **exceed** (「超過する」 see⇒cedo) / **exclaim** (「叫ぶ」 see⇒clamo) / **exclude** (「除外する」 see⇒claudio) / **excursion** (「遠足」 see⇒curro) / **experiment** (「実験」 see⇒peria) / **experience** (「経験」 see⇒peria/-ans)

**exe-exh** **execution** (「処刑」 see⇒sequor) / **exert** (「力を行使する」 see⇒sero) / **exercise** (「運動」 see⇒archo) / **executive** (「重役」 see⇒sequor) / **exhibit** (「展示する」 see⇒habeo)

**exi** **exist** (「存在する」 see⇒sto) / **exit** (「出口」 see⇒eo) / **exile** (「亡命・亡命者・追放する」 see⇒sido)

**exo** **exodus** (「脱出・移動・出国」 see⇒hodos) / **exorcist** (「エクソシスト・悪魔祓い」・映画で有名になりすぎた単語。ex + orkizo = ορκίζω[ホルキゾー]「誓わせる」だから「外へ出てゆくことを誓わせる人」だ。exorcize「悪魔祓いをする」 / **exorcism**「悪魔祓いの儀式」などの派生語がある。see⇒ismos)

**exp-exq** **express** (「表現する」 see⇒premo) / **expel** (「追い出す」 see⇒pello) / **expensive** (「高価な」 see⇒pendeo) / **expedition** (「遠征」 see⇒pes) / **explain** (「説明する」 see⇒placeo) / **exploit** (「開発・利用する」 see⇒plico) / **explicit** (「明白な」 see⇒plico) / **explode** (「爆発する」 see⇒laudo) / **explore** (「探検する」 see⇒ploro/placeo) / **expose** (「暴露する」 see⇒pono) / **export** (「輸出する」 see⇒porto) / **expect** (「期待する」 see⇒specio) / **expire** (「失効する・効力を失う」 see⇒spiro) / **explicable** (「説明できる」 see⇒plico/placeo) / **exquisite** (「絶妙の」 see⇒qui)

**ext** **extend** (「延長する」 see⇒tendo) / **exterminate** (「絶滅させる」 see⇒terminus) / **extinguish** (「火を消す」 see⇒stizo) / **exterior** (「外側の」 see⇒superior) / **extract** (「抽出する」・外<ex>へひっぱる。see⇒traho) / **extraterrestrial**=ET (「地球外の・地球外生命体」 see⇒terra) / **extravagant** (「途方もない」 see⇒vago/-ans) / **extraordinary** (「並外れた」 see⇒arma/ordo)

その他) **spend** (「費やす」 see⇒pendeo)

## F

(1) **fabula**・**fabulae** [ファブラ・ファブラエ] <羅>= talk / tale「お話し」また「ファ<fa>」が「バ<ba>」や「フォ<pho>」にも転訛した。**phono** = φωνη[フォノ] <希>= say / talk「言う・話す」また **phone** = φωνη[フォネ] <希> は「声」だ。faだけでなく fam / fab / fas / fat / fes / fe / pha / phe / pho/ ba も同じことだ。因みに **phono**「音」と **phos**「光」はさらに遡れば同語源らしい。see⇒phos

### fabula 関係)

**a-b-c** **abandon** (「捨てる」・諦めてすべての命令(声)に従う方向<a=ad>に向かうこと。see⇒ad) / **ban** (「禁止する」・中世封建領主の声(お触書)を想像すればいい。faがbaに転化した同根語。)/ **banish** (「(公職から) 追放する」・「安倍やめろー!」という民の声だ。)/ **confess** (「告白する」・告白は **con**「すべて」するもの。神の前で隠し事はよくない。conを「強調」とする説もある。see⇒cum) / **confession** (「告白」)

**f** **fate** (「運命」・運命は神によって告げられるもの。)/ **fame** (「名声」は人々の中の「噂話」。)/ **famous** (「有名な」 see⇒osus) / **fable** (「寓話」)/ **fabulist** (「寓話作家・うそつき」)/ **fabulous** (「信じられない」・「おしゃべり」な人間の言うことは信じられない。see⇒osus) / **fascinate** (「魅了する」・無論、会話で魅了することだ。)/ **fascination** (「魅了」)/ **fatal** (「致命的な」)。神の「命令(言ったこと)」は場合によっては致命的だ。

**i** **infamous** (「悪名高い」・発音は[イン]ファミス)・アクセントにも注意! inは反対語。see⇒in@ / -osus) / **infant** (「幼児」は「お話し」ができないから。inは否定。see⇒in@) / **infancy** (「幼年時代」)

**p** **profession** (「職業」・職業は **pro**「前に向かって」宣言するもの。see⇒pro) / **professional** (「専門職の・職業の」) / **preface** (「序文」・**pre**「前に」述べられるもの。発音・アクセントは[プレ]フィスだ。[フェイス]と読まないこと。「顔<face>」とは関係ない。こちらは **facio**「作る」の派生語だ。see⇒pre)

### phone 関係)

**prophet** (「預言者」[プロフィットゥ]・人々に向かって<pro>神の言葉を伝達・・だ。倫社の時間に学習したと思うが、「預言者」とは異なり「預言者」とは「神の言葉を預かる者」だ。「預かって」から民の前でそれを伝える。たいていは「もっと真面目にやらんと天罰を加えるぞ!」というものだ。素直に聞いてもらえる場合は稀で、たいていは生命の危険が伴う。see⇒pro) / **phonetic** (「音声の」) / **telephone** (「電話」 see⇒tele/porto) / **blaspheme** (「冒瀆」・神に口汚い言葉を投げつけること。これが短縮されて **blame**「責める」になった。発音は[ブ

ラスフィーム]。see⇒*bhleg* ) / *phone* (「音」) / *microphone* (「マイクロフォン」 see⇒*mikros* ) / *megaphone* (「拡声器」 see⇒*magnus* )  
(2) *facio* - *facere* - *feci* - *factus* [ファキオー・ファクレ・フェーキー・ファクトゥス] <羅>=make「作る・～に・～させる」/ do「なす」・これは最重要単語だ。fac / fic / fec / fuc / fea・・と形を変え、いたるところに潜んでいる。make an effort「努力する」など、make「作る」をdo「する」の意味で使うルーツがここにある。また英語でfy「～させる」などという動詞が無数にあるが、これもこの*facio*だ。fy関係の派生語は最後にまとめた。

**a)** *artifact* (「工芸品」 *o-o-p-art-s*「オーパーツ」というのを聞いたことがあるだろうか。 *Out-of-Place Artifacts*の頭文字をとったもので、「場違いな工芸品」という意味だ。see⇒*arma*「そこにあるはずのない物」、「あってはならない物」と言い換えてもいい。最も有名な例がエジプトはギザ台地に今も聳え立つ「三大ピラミッド」だ。当時の技術で建造できたはずはないからだ。ギリシャの歴史家「ヘロドトス」が「ファラオ(王)の墓だ!」と書き残してしまったことで、「クフ王の墓」との記述が歴史の教科書に載ることになった。しかしヘロドトスは「そうエジプトのガイドが言っていた・・」と書き残しただけなのだ。 *p.s.* 先日購入した「クラウンII」の教科書に、何とこの *o-o-p-art-s* が載っていた。時代も変わったものだ。) / *affect*① (「影響する」・名詞は *effect*。「～に対して<af = ad>作用する」の意。 *affect*②とは別の単語。see⇒*ad* ) / *affection* (「愛情」・人の心に対して影響を与える。) / *affectionate* (「愛情のある」) / *affect*② (「～のふりをする」・外見をとり繕う(作る)こと。 / *artificial* (「人工的な」 see⇒*arma* ) / *affair* (「事件・出来事・業務」・また「情事・浮気」などという意味もある。日本語でも「できちゃった<*facio*>んだから、しょうがねーだろ!」などと言うのではないか。see⇒*ad* / *energeia* )

**d)** *defect* (「欠点」・要するに「作られ損ない・・」だ。deは「否定」。see⇒*de* ) / *deficient* (「欠点のある」 see⇒*-ans* AIDS「エイズ(後天的免疫不全症候群)」のDがこれに当たる。詳しくは see⇒*mutō* / *facio* ) / *deficiency* (「不足・欠乏」・AIDSのところでも書いたとおりだ。see⇒*mutō* ) / *defection* (「離反・背信・逃亡・不備・欠陥」・「離れて<de>作られた物・行われた事」が原義。) / *deficit* (「赤字」・see⇒*surgo* 一方「黒字・余剰」は *surplus* だ。see⇒*surgo* ) / *difficult* (「困難な」・fic「行うこと」ができ *di=dis*「ない」から。see⇒*dis* ) / *defeat* (「打ち負かす・敗北」・何もでき<*facio*>なく<de>させること。see⇒*de* )

**e)** *effect* (「効果・影響」・行い<*fec*>の結果として外<*e = ex*>に出てきた物・・の意。see⇒*ex* ) / *effective* (「効果的な」) / *efficient* (「効率的な」・こちらも *e = ex* だ。see⇒*ex* / *-ans* ) / *efficiency* (「効率」)

**f)** *fact* (「事実」・「実際に行われたこと・・」が原義。「そんなファクトじゃない!」などと討論番組でよく使う。日本語を使えばいいものを・・。こういった輩は「自己顕示欲」の奴隷なのだ。) / *fake* (「偽物」・「フェイク・ニュース」などですでに日本語。騙すために作られたもの・・の意。fac = fak だ。) / *factory* (「工場」・物を作る場所。) / *faculty* (「能力」・「行うことができる力」より。) / *facilitate* (「容易にする・促進する」・「行うことができるようにする」が原義。) / *facility* (「器具・設備」・これを使って物を作る。 *cooking facilities*「調理器具」などと言う。) / *facsimile* (「ファックス」・同じ<*sim = same*>ように作られたもの。see⇒*sim* ) / *forfeit* (「没収する」 see⇒*foris* ) / *face* (「顔」・表情は作るもの。日本語でも「顔の造作(ぞうさ・ぞうさく)」という。そういえば「化粧」も顔を作っているわけだが・・。see⇒*fabula* ) / *feasible* (「実現可能な」・「なすことができる」の意。「成せばなる、成さねばならぬ何事も、成らぬは人の成さぬなりけり(上杉鷹山)」だ。) / *feat* (「早業」) / *feature* (「特徴・呼び物」・発音に注意! [フィーチャー]だ。 *future*[フューチャー]「未来」ではない! こちらは *futurus*[フトゥールズ]で *esse* (be 動詞)の「未来分詞」だ。see⇒*est* ) / *faction* (「派閥」・「利益中心に作られたもの・・」の意。) / *function* (「機能」・ある目的を達成するために作られたもの・・の意。)

**i)** *infection* (「感染」・体の中<*in*>に作用する。see⇒*in*① ) / *infect* (「感染する」) / *infectious* (「感染性の」 see⇒*-osus* )

**m)** *malfunction* (「機能不全」・「悪く<*mal*>作る」が原義。see⇒*malus* ) / *magnificent* (「壮大な」 see⇒*magnus* ) / *manufacture* (「製造する」・手<*manu = manus*>で作ること。「マニュファクチャー(工場制手工業)」などと、歴史の時間に登場したはず。see⇒*manus* )

**p)** *perfect* (徹底的<*per*>に作られたから「完璧」だ。「璧」の字を間違えないこと! 下は「土」ではなく「玉」だ。「傷のまったくない玉」のこと。「双璧」も同じだ。see⇒*per* ) / *prefecture* (「県」・もともとは古代ローマ帝国の行政長官の意。文字通り「前に<*pre*>立って政治を行う<*fec*>人」だ。そこから「行政区」の意味が生まれた。see⇒*pre* ) / *profit* (「収益」・前に<*pro*>向かって作り出すが原義。see⇒*pro* )

**s)** *significant* (「重要な」・重要な物には印<*sign*>をつける<*make*>からだ。see⇒*signum* / *-ans* ) / *superficial* (「表面的な」・*super*「上へ」だけ作られた。see⇒*superus* ) / *sufficient* (「十分な」・「上<*suf = sur*>に作る」⇒「取って代わる」⇒「十分である」と変化した。see⇒*sur* / *-ans* ) / *sufficiency* (「十分なこと」) / *satisfactory* (「満足のゆく」・*satis*<羅>= enough だから「十分に作る」だ。) / *satisfaction* (「満足」) / *surface* (「表面」[サーフィス]・直訳すれば「上<*sur*>の顔<*face*>」だ。[サーフェイス]などと読まないこと。 *surface area*で「表面積」となる。数学で *S=○○*として登場する。「体積・容積(*V*)」については *volvo* 参照。see⇒*sur* / *volvo* )

**t)** *traffic* (「交通」・*trans*「越えて・横切って」+ *fic*「作用する」が原義。see⇒*trans* )

**-fy)** *amplify* (「増幅する」 see⇒*plenus* ) / *certify* (「証明する」 see⇒*Ceres* ) / *clarify* (「明らかにする」 see⇒*clarus* ) / *classify* (「分類する」 see⇒*calo* ) / *crucify* (「磔(はりつけ)にする」 see⇒*crux* ) / *dignify* (「威厳をつける」 see⇒*dignus* ) / *dissatisfy* (「不満にさせる」 see⇒*dis* ) / *fortify* (「強化する」 see⇒*fortis* ) / *identify* (「身元を明らかにする・確認する」 see⇒*idem* ) / *intensify* (「強める・激しくする」 see⇒*tendo* ) / *justify* (「正当化する」 see⇒*jus* ) / *magnify* (「拡大する」 see⇒*magnus* ) / *modify* (「修正する」 see⇒*modus* ) / *notify* (「通告する」 see⇒*noto* ) / *petrify* (「動けなくする」 see⇒*petros* / *sacer* ) / *qualify* (「資格を与える」 see⇒*quantus* ) / *ratify* (「批准する」 see⇒*ratus* ) / *satisfy* (「満足させる」・*satis*<羅>= enough ) / *signify* (「意味する」 see⇒*signum* ) / *terrify* (「ぞっとさせる」 see⇒

terreo) / testify (「証明する」 see⇒testa) / unify (「統一する」 see⇒unus) / verify (「証明する」 see⇒veritas)

その他) benefit (「利益」・「良い<bene>行い<facio>」の意。「良い行い」はみんなの「利益」になる。see⇒bene) / counterfeit (「偽造の」・counter 「反して」作られた物。see⇒contra) / official (「正式の・公式の」) / office (「事務所・会社・役所・官庁・公職」・of = opus / see ⇒opus)

(3) fall - fallere - fellere - falsus [ファッロー・ファッレレ・フェフェッリー・ファルスス] <羅>= err 「間違える」 / cheat 「だます」 / mislead 「誤解させる」 / cause to fall 「陥れる」 / deceive 「だます」・「だます」・「そもそも fall は「落ちる」だから、受験生でなくともロクな意味ではない」ということくらいは予想できよう。

fallacy (「誤った考え」) / default (「怠慢・不履行」・またパソコン用語で「初期設定」の意味もある。「何もしない(設定を変更しない)こと」だ。de は「強意」 see⇒de) / failure (「失敗」) / fallacious (「虚偽の・誤った・当てにならない」 see⇒osus) / false (「間違った」) / falsehood (「間違い・うそ」) / radioactive fall-out (「放射性降下物」・いわゆる「死の灰」だ。see⇒radix 核実験などで飛散した放射性物質が落ちてきたもの。1986年4月26日に起きた「チェルノブイリ原発事故」で一躍周知された。また原発から出る「放射性廃棄物(使用済み核燃料)」は nuclear waste [ニュークリア・ウエイストウ] と言う。see⇒vaco) / fault (「欠点」 It's my fault. 「俺のせいだ!」などと使う。)

(4) fendo - fendere - fendi - fensus [フェンドー・フェンデレ・フェンディー・フェンスス] <羅>= strike / hit 「殴る」・fen はもとは pen 「突き刺す」から来ている。see⇒penetro しかしここでひとつ疑問が残った。この fendo という単語は、「語源辞典」では言及されているものの、肝心の「ラテン語辞典」には、どの辞典にも掲載されていないのだ。defendo - defendere [デーフェンドー・デーフェンデレ] = defend 「防ぐ」なら載っているのだが・・・どうもよくわからないまま掲載させて頂いたことをお断りしておく。どなたかご教授いただければ幸いです。

offend (「気分を悪くさせる」・「〜に対して<of = ob = against>攻撃を加える・・・」の意。be offended で「気分を悪くさせられる」⇒「怒る」となる。see⇒ob) / offense - offence (「反則・無礼・攻撃」) / offensive (「攻撃的な」) / defend (「防御する」・相手を攻撃して打ち倒す<de>・・・の意。「攻撃は最大の防御なり」と言う。de は「下に」。see⇒de) / defense - defence (「防御」) / defensive (「防衛の・守備重視の」・これもサッカーですっかり有名になった。「ディフェンシブな戦い・・・」などと使う。) / fence (「フェンス・柵」・攻撃を防ぐ<de>もの・・・の意。defense の de が取れたものだ。) / fencing (「フェンシング」・「身を守る」が原義。要するに「護身術」だ。fence 「柵」に由来すると言われるから、こちらも de が欠落したものと考えられる。) / fender (「フェンダー」・泥除け・緩衝材)・車のサイド・ミラーがついている部分だ。これを「フェンダー・ミラー」という。無論フェンダーの役割は車の防御だ。これも de が欠落したもの。一方ドアに直接ついているミラーは「ドア・ミラー」と呼ぶ。こっちが最近ではほとんどだが・・・。また車の前方の「防御」の為についているのが「バンパー<bumper>」だ。bump は「隆起・ドスンとぶつかる」という意味。また車に減速させる目的で道路に「隆起」が設けられているところがある。これも「ランプ」と呼ぶ。) / manifest (「明白な」・「手<manus>でたたく<fendo>」⇒「手でさわってわかるくらい明白な」と変化した。see⇒manus)

(5) fero - ferre - tuli - latus [フェロー・フェツレ・トゥリー・ラートウス] <羅>= carry 「運ぶ」 / bear 「耐える」 / obtain 「獲得する」・これも重要・さまざまな単語に潜む。porto 「運ぶ・通す」とも同根の単語。fer / far / for / per / por / pur / ber / bur / bir・・・でつながっている。pater ⇒father / frater ⇒brother など f/p/b は相互に変換が可能だからだ。「序章」で触れた「グリムの法則」である。正直どちらに分類したらいいのか迷う単語もあった。「合体」させればいいのかだ、それでは「大所帯」になりすぎる。そこで受験生にとって「連想しやすいであろう」と筆者が思った方に分類したことを、予めお断りしておく。see⇒porto また「完了分詞(過去分詞)」は latus と原形をとどめないまでに変化する。というよりも、まったく別の単語を借りてきたのだが・・・。これも記憶の隅にとどめておくと便利だ。see⇒latus さらに溯ればギリシャ語の「運ぶ」も phero = φ ε ρ ω [フェロー]だ。

b) bear① (「運ぶ・我慢する・担う・生む」・bear - bore - born / borne と変化する。be born 「生まれる(生まれさせられる)」は中学で習ったはずだ。この bear 系はちょっと掲載を躊躇した。ある言語学者の先生が、fero とは別語源に bear を分類しているからだ。しかし「ランダムハウス大英和辞典」には「同根語」と書かれており、羅和辞典の fero にも「我慢する<bear>」の意味が載っている。そこでこの項にまとめたものだ。) / bear② (「熊」・熊は忍耐強い動物ということらしい。無論「関係ない!」とする説もある。) / Bern (「ベルン」・スイスの首都。熊の多い場所だったようだ。因みに「ジュネーブ」は首都ではない。アメリカの首都も「ニューヨーク」ではないので念のため。) / Berlin (「ベルリン」・ドイツの首都「ベルン」と同じ由来。lin は指小辞。「小さい」の意。したがってベルリンは「小熊」の意味になる。) / burden (「荷・重荷」) / birth (「誕生」・bear + th が birth になった。「赤ん坊を運び出すこと」の意味だ。) / bring (「持ってくる・つれてくる」・bear(ing)の ea が取れたもの。「重荷を担いでくること」の意。)

c) confer (「相談する・贈り物を授与する」・「物事を一緒に<con=cum>運ぶ」が原義。物事を運ぶときにはみんなで相談することが大切だ。「万機公論に決すべし(五か条の御誓文)」とも「和をもって貴しと為す(十七条憲法)」とも言う。see⇒cum) / cf. (「比較・参照せよ」・e.g. 「例えば」) とともにしばしば見られる記号。confero - conferre [コンフェロー・コンフェツレ]の意味だ。「一緒にもってくる<bring together>」が原義。「一緒に並べて比較する」ということだ。「原形(不定形)」の re が取れると「命令形」となることはすでにどこかで書いた。conferre 「参照する」⇒ confer 「参照せよ」⇒ cf. となった。) / conference (「会議」 see⇒-ans) / Christopher (「クリストファー(人名)」・「クリストファー・コロンブス」の「クリストファー」だ。直訳すれば「キリストを運ぶ者・担うもの」だ。ギリシャ語の ph のスペルがもろに残っている。) / circumference (「円周」・「周囲を運ぶ」の意。see⇒kyklos)

d) **defer**① (「従う・譲る」 see⇒**de**) / **deference** (「敬意・服従」・「下に<de>運び入れる」だ。see⇒**-ans**) / **defer**② (「延期する」・「離れた<de>ところへもってゆくこと。いわば「結論先送り」だ。①の「従う・譲る」とは別の単語だから注意。発音は全く同じだが・・・。see⇒**de**) / **deferment** (「延期」) / **differ** (「異なる」・「離れた<di=dis>ところに運ぶ」の意。異なった物は別々の場所に置かなくてはならない。see⇒**dis**) / **different** (「異なった」 see⇒**dis**) / **difference** (「相違」 see⇒**-ans**) / **differential** (「微分」 see⇒**tango**)

f) **ferry** (「フェリー」・「お客を運ぶ」) / **far** (「遠い」) / **fare** (「運賃」・「運賃を払えば遠くまで運んでくれる。また **far**「遠く」へ行けるから運賃だ・・・という説もある。)/ **fertile** (「肥沃な」[ファータイル]・「肥えた土地は農作物を運んできてくれるから。fertile crescent「肥沃な三日月地帯」については see⇒**creo**) / **fertility** (「肥沃・多産」) / **fertilizer** (「肥料」 see⇒**ismos**) / **farewell** (「さよなら」・「フェアウエル・パーティー」で、すでに日本語。fare=go/travel であり Fare you well!「道中御無事で」という表現から来た。)/ **forbear** (「自制する」 see⇒**for**) / **forbearance** (「忍耐」 see⇒**-ans**) / **fortune** (「幸運」・「偶然運ばれてきたもの」から。もろに「運」の文字が見える。)/ **fortunate** (「幸運な」) / **fortunately** (「幸運にも」・fortuneの反対語は **misfortune** であり see⇒**mis**、fortunatelyの反対語は **unfortunately** だ。間違えないように。)

i) **infer** (「類推する」・「(類推して)結論へ<in>と運び入れる」が原義。「本文を読んで何が類推できますか?」などと、英問英答の設問で必ず出題される単語だから覚えておくこと。設問の英文が読めなかったら話にならない。see⇒**in**①) / **inference** (「類推」 see⇒**-ans**) / **indifference** (「冷淡・無関心」・「違い<difference>に気づかない<in>から。間違っても「違わない」などと訳さないこと。It makes no difference whether S + V「S+Vかどうかはどうでもいい」などという構文を習ったはずだ。see⇒**pathos** / **in**②) / **indifferent** (「無関心な・冷淡な」) / **interfere** (「干渉する・邪魔する」・「inter「間」に運び込む」の意。日本語でも「口を差しはさむ」という。see⇒**inter**) / **interference** (「干渉・邪魔」 see⇒**-ans**)

l-m) **Lucifer** (「随天使ルシファー」・「光を運ぶ者」が原義。see⇒**lux**) / **misfortune** (「不運・不幸」 see⇒**mis**)

o) **Oxford** (「オクスフォード」・英国の有名な大学の名前であり都市名だが、つまること「牛<ox>の渡し場・浅瀬<ford>」だ。「渡し場」とは、川のこちら側からあちら側に人や物を運ぶ場所。当然浅瀬になっている。これを応用すれば「フランクフルト<Frankfurt>」は「フランク人の渡し場」だ。ここで言う「フランク人」とは誰だろう、「カール大帝(シャルル・マーニュ)」その人だとか。ザクセンから逃亡中にここを渡河したという説がある。やがて「ソーセージ」の名前にもなった。一方 Oxford とくれば **Cambridge** だが、これは文字通り **River Cam**「ケム川」にかかる **bridge**「橋」である。ケム川は水路のようなしよぼい川だから無論ふつうの地図には載っていないが・・・。「ニュートン」が「万有引力の法則」を発見した「トリニティ・カレッジ<Trinity College>」 see⇒**tri** は、このケンブリッジ大学のうちのの一つだ。リンゴの木が今でも残る。もっとも何代目かの木であろうが・・・。筆者もこの木を一目見ようと訪れたが、ほとんど苗木・・・と言ってもいいその姿に拍子抜けした。ところで university と college の違いは何だろう? university は「総合大学」、college は「単科大学」と筆者は中学生のとき覚えた。しかし国ごとに定義が異なり、そう簡単な区別ではないようだ。調べた結果をお伝えしたいがこれも紙面の関係で割愛する。さて **Trinity** とはキリスト教で言う「三位一体(さんみいったい:父なる神・イエス・精霊の三者は実はひとつの存在であった・・・という説)」のこと。早い話が「一人二役」ならぬ「一人三役」だ。つまり「イエス=神」という考え方である。)/ **offer** (「提供する」・「〜に対して<of=ob>送る」。何に対してか?と言え、ば、「神に対して」だ。要するに「神前への捧げもの」である。see⇒**ob**)

p-r) **prefer** (「好む」・**pre**「前」に送る。嫌いなものは後回し・・・ということだ。see⇒**pre**) / **preference** (「好み」 see⇒**-ans**) / **preferable** (「好ましい・マシな」) / **peripheral** (「重要ではない」・「周辺に<peri>運ばれた」が原義だが、お気づきの読者もおられたであろうが、ほとんどの単語がラテン語の f を引き継いでいるのに対して、この単語だけはギリシャ語の ph=φ のスペルを残している。see⇒**peri**) / **refer** (「参照にする・言及する」・「参考書類は何度も<re>持ってこなくてはならない。see⇒**re**) / **reference** (「参照・言及」 see⇒**-ans**) / **referee** (「レフェリー・審判」・「参考にされる人」の意。アクセントに注意! **employee**「従業員」 see⇒**plico** や **returnee**「帰国子女」と同じだ。)

s) **suffer** (「苦しむ」・「下<suf= sub>に送る」だ。とんでもない上司の下では働きたくないものだ。また **fero** は「耐える」の意味もある。「人の一生は重荷を負うて行くが如し」とは神君・家康公の遺訓である。荷を「運ぶ<carry>」ことは「耐える<bear>」ことなのだ。see⇒**sub**) / **suffering** (「苦しみ・苦痛」)

t-u) **transfer** (「移動する・乗換える」・「越えて<trans>運ぶ」こと。transfer-RNA などというのも生物で学習する。アミン酸を結合し、たんぱく質合成工場である「リボゾーム」にまで運ぶ役目を担っている。see⇒**trans**) / **translate** (「翻訳する」・「言語の壁を越えて<trans>運ばれた<latu>もの。see⇒**trans** / **latu**) / **unfortunately** (「不幸にも」)

w) **warfare** (「戦争状態」・「戦争に行くこと。farewellを参照。)/ **welfare** (「幸福・福祉」 see⇒**volu**)

(6) **fides**・**fidei**[フィデース・フィデーイー] <羅>= trust「信頼」・fi / fy / fa / fai / fid / fedなどに注目!

**confidence** (「信頼・自信」・conは「強意」。see⇒**cum**) / **confident** (「自信のある」 see⇒**-ans**) / **confidential** (「秘密の」・「信頼がなければ秘密は打ち明けられない」) / **fidelity** (「忠誠」) / **federal** (「連邦の」・「連邦は信頼によって結ばれている。FBIはFederal Bureau of Investigation「アメリカ連邦捜査局」[フェデラル・ビュロー・オブ・インヴェスティゲイション]の略だ。bureauは「〜局・案内所」だ。もともとフランス語で「机」の意味だそう。Japan Travel BureauでJTBとなり、bureaucracy[ビューロクラシー]で「官僚・官僚主義」となる。see⇒**kratia**) / **federation** (「連邦」) / **faithful** (「忠実な」・「忠臣蔵」の翻訳タイトルが何とThe Faithfulだそう。)/ **faith** (「信仰・信頼」) / **faithless** (「不誠実な・宗教心のない」) / **defy** (「反抗する」・defianceの動詞形。信頼に背を向けること。)/ **defiance** (「反抗・挑戦」・「信頼を離れて<de>」の意。see⇒**de** / **-ans**)

(7) **finis**・**finis**・**fini**・**finem**・**fine** [フィニス・フィニス・フィニー・フィネム・フィネー] <羅>= finish 「終わり」/ boundary 「境界線」・「この線で終わりだよ」という意味だ。また映画の最後に **fin** などと出るのもこの **finis** だ。

**finish** (「終わり・終わる」) / **definite** (「明確な・はっきり限定された」・発音は [デフニットゥ]) / **definitely** (「明確に・はっきりと」) / **define** (「定義する」 see⇒**de** / **terminus**) / **definition** (「定義」は「境界線」を決めること。) / **infinite** (「無限の」は「境界線がない<in>」こと。 see⇒**in**②) / **infinity** (「無限大」) / **infinitive** (「不定詞」) / **confine** (「制限する・監禁する」・一緒に<con>に閉じ込める・の意。囚人は一か所に集めておかななくてはならない。 see⇒**cum**) / **confinement** (「制限・監禁」・境界線の中に押し込めること。) / **fine**① (「すばらしい」・「終わり」⇒「極限<extreme>」の意味となった。日本語でも「美の極致」などと言うのではないか。因みにこの単語には「(繊維などの) きめが細かい」という意味もある。「極限まで磨き上げた」ということだ。) / **fine**② (「罰金・罰金を課す」・支払いはこれで終わりだよ・の意。) / **refine** (「精製・洗練する」・**re**「何度も」磨き上げたもの。 see⇒**re**) / **refinement** (「洗練」) / **finance** (「財政」・「借金を返し終わった」が起源。ここまでくると「ほんとかよ?」と言いたくなるが事実である。ある書物には「金で決着をつけた名残り」とある。「オリエント・ファイナンス」などという会社もあった。Ministry of Finance で「財務省」となる。 see⇒**ans**) / **financial** (「財政上の」) / **final** (「最後の」)

(8) **firmus**・**firma**・**firmum** [フィルムス・フィルマ・フィルムム] <羅>= firm 「固い」/ strong 「強い」/ stable 「安定した」。

**confirm** (「確認する」・ see⇒**cum**) / **confirmation** (「確認」) / **reconfirmation** (「再<re>確認」格安チケットで飛行機に乗る際に、この「リ・コンファーマーション」を3日前までに行わないといけな。当日空港で「すいません、席がありません。」などといわれることになるからご用心。筆者も旅するときにはかなり気を遣った。 see⇒**re**) / **affirmative** (「肯定的・断定的な」・**af**=**ad**。 see⇒**ad** 最近アメリカの大学で **affirmative action** 「アファーマティブ・アクション」なるものが話題となっている。人種・民族間の差別をなくして平等に大学に入学させようという試みだ。「平等」と言うと「公平な試験」を想像するがそうではない。「黒人は入学者の〇〇%必ず入学させなくてはならない」などという取り決めだ。一見寛大に見える制度だが本音は、「まともに試験をやったら中国人、インド人、ユダヤ人ばかりになってしまう。」というところにあるらしい。) / **firm** (「会社」・「固い契約で成り立っているからだ」) / **farm** (「農場」・「確かな物」⇒「小作地」⇒「農地」となった。起源は中世にまで遡る。またプロ野球の2軍も「ファーム」と呼ぶ。「飼育場」という意味だ。「一軍で活躍できる選手の養成所」ほどの意味か?) / **terra firma** (「大地」 see⇒**terra**)

(9) **flecto**・**flectere**・**flexi**・**flectus** [フレクトー・フレクテレ・フレクスイー・フレクトゥス] <羅>= bend 「曲げる」

**flex** (「手足を曲げる」) / **flexible** (「柔軟な」) / **flexibility** (「柔軟性」・柔軟体操を連想。) / **flexitime** (「フレックス・タイム」・「仕事さえできれば、いつ出勤してもいいですよ」) というシステム<flexitime system>だ。うらやましい。) / **reflect** (「①反射する・映す ②熟考する」・光が進路を後ろ<re>に曲げられること。確かに鏡で光はもと来た方向にもどる。また **reflect on** ~で「~に関して熟考する」という意味になる。鏡に自分自身の姿を映して反省するのだ。 see⇒**re**) / **reflection** (「反射・反映・熟考」) / **deflect** (「そらす・外れる」 see⇒**de**)

(10) **fligo**・**figere**・**fluctus** [フリゴー・フリーグレ・フリクトゥス] <羅>= strike 「打つ」

**conflict** (「確執・争い」・一緒に<con>ぶつかる・の意。 see⇒**cum**) / **infect** (「傷を負わせる」・**in**=**on**で「上<on>から一撃加える」こと。繰り返しになるがラテン語の時代に **on** はまだない。 see⇒**in**①) / **infection** (「打撃」) / **affliction** (「苦痛」・「~に向けて<af=ad>一撃」) だ。 see⇒**ad**)

(11) **flōs**・**flōris** [フロー・フローリス] <羅>= flower 「花」・**bhleg** で書いたとおり、「輝く」から出た単語だ。 see⇒**bhleg**

**flower** (「花」 see⇒**bhleg**) / **flour** (「小麦粉」・発音は **flower** とまったく同じ。[フラワー]ではなく[フラウア]だ。小麦粉は小麦の花だという発想だ。 see⇒**bhleg**) / **flourish** (「栄える」)

(12) **fluō**・**fluere**・**fluxi**・**fluxum** [フルオー・フルエレ・フルクスイー・フルクスム] <羅>= flow 「流れる」・**fle** / **flu** / **flo** に注意。さらに遡れば **Pluto** 「プルート・冥界の王」と同語源の単語となる。「流れる」⇒「雨が多い」⇒「豊かな」⇒「金持ち」とつながる。「冥界の王」とど何やら恐ろしいが、もともとは「大地の豊穡を約束してくれる神」からきている。「大地」⇒「地下」⇒「地獄」となったものらしい。ひどい話だ。**flu** とともに **plu** にも注意だ。

**flow** (「流れる・流れ」) / **float** (「浮く」・「コーヒー・フロート」はコーヒーにアイスクリームを浮かべたものだ。) / **flu** (「流感・風邪」・古代は悪い「靈気」が夜空から流れ込んで病気になると考えられていた) / **influence** (「影響」・中に<in>流れ込む・の意。 see⇒**in**① / **ans**) / **influential** (「影響力のある」) / **influenza** (「インフルエンザ」・略して **flu** とも言う。) / **fleet** (「艦隊」・「流れ」) によって進むからだ。また「素早い」の意味もこの単語にはある。) / **flee** (「逃げる」・特に「すばやく飛んで逃げる」の意味。**fly** も同語源の単語だが、やがて「飛ぶ」の意味のみを担当するようになった。) / **affluent** (「豊富な・裕福な」・~に向かって<af=ad>流れる。日本語でも「湯水のように使う」と言うのではないか。 see⇒**ad**) / **affluence** (「裕福・富」 see⇒**ans**) / **superfluous** (「余分な・有り余った」・「上に流れ出るくらいに」の意。 see⇒**superus** / **osus**) / **influx** (「流入」・中に<in>流れ込むこと。 see⇒**in**①) / **fluid** (「流動体」・液体と固体の中間。) / **flood** (「洪水」[フラッド]) / **fluent** (「流暢(りゅうちょう)な」・英語がペラペラだ・という時などに使う。文字通り「流れるように」) だ。また日本語でも「立て板に水」という言葉もある。 see⇒**ans**) / **fluently** (「流暢に」) / **fluency** (「流暢さ」) / **pluvial**・**pluvius** (「雨が多い」・[プルー]が[プルー]になった。 see⇒**osus**) / **plutocracy** (「金権政治」 see⇒**kratia**)

(13) **for** ①=away 「離れて」 ②「禁止」・「前に」の **for** (=fore) から「手前に」⇒「後ろへ引き下がる」⇒「離れる」と正反対の意味も生まれた。本当に語源は厄介だ。**for** を **away** に置き換えるとかかなりうまく解釈できる。こちらはゲルマン語系なので筆者は門外漢だ。素直にさまざま方の意見を参考にさせてもらった。 see⇒**fore**

**forget** (「忘れる」・手に入れる<get>ことを諦める<give away>こと。) / **forgive** (「許す」・諦めてすべてを手渡す<give away>こと。see⇒**mitto**) / **forbid** (「禁止する」・bidには「命じる」の意味がある。bid・bade・biddenと活用を起こす。離れる<away>ように命じる<bid>こと。また中国を旅行していて**Forbidden City**と言われたら「紫禁城(しきんじょう)」のことだ。別名「故宮」とも言う。明の成祖「永楽帝」が建造し、その後明朝・清朝皇帝の居城であり続けた。映画「ラスト・エンペラー」の撮影もここで行われたと聞く。紫禁城はとてつもない広さだ。夏に訪れる際は水分補給の準備をしておくことだ。) / **forsake** (「見捨てる」・sake[セイク]には「目的・理由・利益」などの意味がある。for the sake of ~ = for one's sake「~のために(利益)」などと熟語にもなっている。「~さんの利益から離れて<away>」だから、その人を見捨てる」のだ。) / **forgo** (「(楽しみなどを) なしですませる」・行く<go>のを諦める<give away>こと。過去形はforwentとなる。) / **forbear** (「自制する」・手に入れる<bear = fero = obtain>ことから離れる<away>) ⇒ 「我慢する」となった。see⇒**fero**)

(14) **fore** ①「前へ」・ゲルマン語系の単語だが、さらに遡るとラテン語・ギリシャ語の **pre / pro / fer / por**「前に・運ぶ」系と同根となる。see⇒**pre / pro / fero / porto**

**forecast** (「予報する」・視線を未来に投げ<cast>かける) こと。以下この **cast** についても考えてみた。**broadcast**「放送する」などが、受験生諸君もまず思い浮かぶだろう。see⇒**hreu** 直訳すれば「広く投げる」だ。**newscaster**「ニュース・キャスター」などという単語もある。「ニュースを投げるのか?」とも思ったが、実際は「番組の運行を差配する」の意味のようだ。確かに **cast** には「配役」という意味もある。**miscast**「ミス・キャスト」などという単語もある。see⇒**mis** / announcer が単にニュースを読み上げるだけなのに対して、自分の意見(テレビ局の意見?)を述べたり、出演者を決めたりもできる・・とされる。「(イス・台車の)車輪・コロ」なども「キャスター」と呼ぶのはご存知の通り。物を投げればコロコロと転がるからだろうか? こちらは正直よくわからない。) / **forehead** (「額(ひたい)」) / **forefather** (「祖先」) / **before** (「~の前に」see⇒**be**) / **forward** (「前方に」see⇒**verto**) / **portrait** (「肖像画・写真」see⇒**traho**)

(15) **foris**・**foris** [フォルリス]<羅>= door・[ドア] ⇒ [ドフォア] ⇒ [フォア]とつながる。また **foris** [フォルリス]= outside「戸外で」の意味もある。

**forest** (「森」・「ドアの外に存在するもの」の意。see⇒**est**) / **foreign** (「外国の」for + **reign**・「外」を「統治」しているもの。see⇒**rex**) / **forfeit** (「没収する」・「法律の外<for>で成された<feit = facio>事」の意。「法律違反」で「没収」だ。see⇒**facio**) / **deforest** (「森林を伐採する」see⇒**de / est**) / **deforestation** (「森林破壊」⇒**est**)

(16) **formo**・**formare**・**formavi**・**formatus** [フォルム・フォルマーレ・フォルマーウィー・フォルマートゥス]<羅>= form「形作る」

**form** (「形成する・形造る」) / **inform** (「情報を伝える」・心の中<in>に形<form>を作る・・が原義。要するにイメージを植えつけることだ。see⇒**in**①) / **informal** (「非公式の」・inは「否定」。see⇒**in**②) / **information** (「情報」) / **conform** (「一致させる」・con「みんな」の形を一つにすること。see⇒**cum**) / **conformity** (「一致」) / **uniform** (「制服」は形が一つ<uni>だ。see⇒**unus**) / **perform** (「演じる・演奏する」ときは型の練習を **per**「徹底」しなくてはならない。see⇒**per**) / **performance** (「演技・演奏・実行」see⇒**ans**) / **formal** (「形式的な・正式の」) / **reform** (「改革する」は形を **re**「再び」考えなおすこと。大文字で **the Reformation** といえば「マルチン・ルター」の「宗教改革」を指す。住宅の「リフォーム」ですっかり定着したが・・。see⇒**re**) / **reformation** (「改革」) / **format** (「様式」) / **formula** (「公式・決まり文句・定型」・「カー・レース」の **Formula One**[フォーミュラー・ワン]、いわゆる **F1** もこれだ。出場する車には、エンジンやタイヤなどに定められた様式があり、それをクリアしないと出場できない。) / **transform** (「変形する」・「形を越える」⇒「形を変える」となった。そういえば「トランスフォーマー」などという映画もあった。C.G.使い放題だと、あかも映画が味気なくなるものか・・。see⇒**trans**) / **transformation** (「変形」)

(17) **fortis**・**fortis** [フォルティス・フォルティス]<羅>= strong / powerful「力強い」

**effort** (「努力」・力を外へ<ef = ex>出し尽くすこと。see⇒**ex**) / **force** (「力」see⇒**en**) / **enforce** (「(法律の力で) 執行する」・enで動詞化される。see⇒**en**) / **comfort** (「慰め・快適さ」・com「一緒」にいて力づけるから。発音・アクセントは[カン]フォート)。発音・アクセント問題頻出単語だ。see⇒**cum**) / **comfortable** (「快適な」[カン]フタボー) / **forte** (「フォルテ・強く」・音楽の時間にやったはず。) / **fortissimo** (「最も強く」・これも音楽の時間にやったはず。「フォルテシモ」は「フォルテ」のギリシャ語の「最上級」だ。「大友康平とハウンド・ドッグ」のヒット曲にもなった。といっても古くて知らないか・・。) / **fortify** (「強化する」・fyはsee⇒**facio**) / **fortress** (「要塞」) / **reinforce** (「補強する」・再び<re>中に<in>力<force>をこめる・・だ。see⇒**re / in**①) / **Citius, Altius, Fortius** (「より速く、より高く、より強く」[キティウス・アルティウス・フォルティウス]・オリンピックの標語。see⇒**altus**)

(18) **frango**・**frangere**・**fregi**・**frectus** [フランゴ・フラングレ・フレーギー・フレクトゥス]<羅>= break to pieces / smash to pieces「粉々に粉砕する」

**refrain** (「慎む」・後ろに<re>引き下がって壊す) ⇒ 「撤退して反乱を諦める」⇒ 「遠慮する・慎む」となった。早い話が江戸時代の「城割り(城を壊すこと)」。もう幕府には異心はありませんよ・・という意思表示だ。一方ラテン語の **freno** [フレーノ]「馬勒(ばろく)をつける」の意味だとの説もある。馬の口につける「轡(くつわ)」のことだ。これを後ろ<re>に引くと馬が前に進まなくなるからだ。こちらの方が何だか説得力があるが、だとすればこの項から除外しなくてはならない。また音楽用語にも「リフレイン」というのが登場する。何度も同じメロディーを繰り返すことだ。「何度も<re>壊す」の意味とされる。それまでのメロディーが切断されるからだ。この2つは「同一語源だ!」という説もあれば、「いや無関係だ!」という説もある。正直よくわからない。see⇒**re**) / **fraction** (「分数・破片」) / **fragile** (「もろい」) / **fragment** (「破片」) / **fracture** (「骨折」)

(19) **fructus** - **fructus** [フルクトゥス・フルクトゥース] <羅> = fruit 「果物」

**frugal** (「質素な」・早い話「ベジタリアン」だ。) / **fruitful** (「効果的な」・日本語で言えば「実を結ぶような・・・」あたりか・・・。また bear fruit 「実を結ぶ・効果を生ずる」と言う表現がある。) / **fruitless** (「無駄な」・「実りのない会話」などと日本語でも言う。) / **fruit** (「果実」)

(20) **fugio** - **fugere** - **fugi** - **fugitus** [フギオー・フグレ・フギー・フギトゥス] <羅> = flee 「逃げる」

**fugue** (「フーガ・遁走(とんそう)曲」・バッハの「トッカータとフーガ・ト短調」は音楽の時間に聞いたはず。ある旋律を次の旋律が一定間隔を置いて追いかけるものだ。裏を返せば、前の旋律は後ろの旋律から「逃げて」いるように聞こえる。) / **refuge** (「避難」・後ろ <re> に逃げるが原義。see⇒re) / **refugee** (「難民」・発音・アクセントに注意。前者は[レフュージ]で、後者は[レフュジー]だ。refugee camp 「難民キャンプ」などと使う。)

(21) **fundo**① - **fundare** - **fundavi** - **fundatus** [フンドー・フンダーレ・フンダーウィー・フンダートゥス] <羅> = found 「基礎を築く」・ **fundo** ②と区別すること。

**found** (「設立する」・find「見つける」の過去・過去分詞と混同しないこと。こちらの過去・過去分詞は **founded** となる。) / **foundation** (「設立」・また「ファンデーション」はお化粧の土台作りのことだ。この上に女性は思いのままに顔を描く。男性諸君よ、気をつけられよ!) / **fund** (「基金・資金」・IMF「国際通貨基金」は、**International Monetary Fund** だ。) / **profound** (「深遠な」・pro「先まで」進んで根本にまで辿りつくと、そこには深い意味があるものだ。) / **fundamental** (「根本的な・原理的な」) / **fundamentalist** (「原理主義者」・「イスラム教原理主義」などと言うのを聞いたことがあるだろう。「コーランの教えに一字一句でも背く者は皆殺しだ・・・」という連中のことだ。もっとも「イスラム教原理主義者」がいれば「キリスト教原理主義者」もあり、戦国時代の日本にも「仏教原理主義者」がいた。現代からは想像できないが、当時の僧侶は徒党を組んで人殺しをしていたのだ。聖職者が武器を持ち徒党を組んで虐殺を行うなど、中世暗黒時代のヨーロッパにも例が無い。) / **fundamentalism** (「原理主義」 see⇒ismos)

(22) **fundo**② - **fundere** - **fundi** - **fusus** [フンドー・フンデレ・フンディー・フースス] <羅> = melt and pour [ポー] 「溶かして注ぐ」・「溶鉱炉」を想像してもらえれば、まず間違いない。 **fundo**①と区別すること。

**confuse** (「混乱させる・混同する」・何もかも一緒に <con>かき混ぜる・・・の意。また **confusing** / **confused** と形容詞でもよく登場する。前者は「(物事が人間を) 混乱させるような」で、後者は「(人間が) 混乱させられている⇒混乱している」だ。see⇒cum) / **confusion** (「混乱・混同」) / **fusion** (「融合」) / **nuclear fusion** (「核融合」・「重水素(普通水素だけは原子核内に中性子を持たないが、重水素は中性子を1つ持つ。また中性子を2つ持つものを3重水素と呼ぶ。) 同士をくっつけて「ヘリウム<He>」という、水素より一つ重い別の元素を作り出す。この過程で莫大な熱が得られるという。これを「核融合」という。太陽はこれでエネルギーを得ているとする説が一般的だ。もっとも筆者はこの説には懐疑的だ。太陽からヘリウムが大量に飛来することからくる、あくまで「仮説」であるからだ。因みに「ヘリウム<Helium>」の語源もまたギリシャ語で、「ヘリオス<Helios = Η η λ ι ο ς>[ヘーリオス]」すなわち「太陽」だ。エジプトのカイロ国際空港は「ヘリオポリス国際空港」と呼ぶ。「ヘリオ・ポリス」は読んで字のごとく「太陽の都市」だ。地球上では「水爆」によってしか、「核融合」は実現していない。もっとも「常温核融合」というのもあったが・・・。その逆が **nuclear fission** (「核分裂」) で、これは核融合よりエネルギー・レベルは低い。「原子力発電」や「原爆」などはこの「核分裂」だ。「ウラン原子<ウラン 235>」を「分裂」させる過程でエネルギーが得られるというのだ。ゆっくり爆発させれば「原発」となり、一気に爆発させれば「原爆」となる。「原発=原爆」なのだ。/ **fissure** (「割れ目・裂け目」) もこれで覚えられるだろう。**fissus** は divided「分けられた」の意味だ。)/ **transfusion** (「輸血」・血液が溶け合うことだ。因みに旧約聖書では「血が混じるのはよくない」と書かれている。この記述をもとに、あるキリスト教徒が自分の子供の「輸血」を拒否し、結果死に至らしめる・・・という痛ましい事件もあった。しかし旧約聖書をよく読めば、そんな文脈ではないことに気付く。あくまで「異教徒と結婚するな!」という意味だ。see⇒trans) / **confound** (「混乱させる」・ **fundo** ⇒ found と変化した。confuse より格式ばったときに使われる・・・とされる。「設立する」の found が語源ではないので念のため。see⇒fundo①) / **futile** (「無駄な」[フュータイル]・「湯水のように注ぐ」という意味からきている。水は大切に! また **fertile**[ファータイル]「肥沃な」see⇒fero と間違えないこと。)/ **diffuse** (「拡散する」see⇒dis) / **diffusion** (「拡散」) / **refuse** (「拒絶する」・注ぎ返す <re>・・・からきている。ついでもらったお酒を、相手の盃に注ぎ返すこと。はっきり言って「失礼」だ。see⇒re) / **refusal** (「拒絶」)

## G

(1) **gala** = γ α λ α [ガラ] <希> = milk 「ミルク」

**galaxy** (「銀河」・形容詞は **galactic**「銀河の」だ。「謎の美女・メーテル」が登場する「銀河鉄道スリーナイン」は Galactic Express 999 となる。xy は **kyklos** = κ υ κ λ ο ς [キユクロス] で「輪・円」だ。see⇒kyklos ゆえに直訳すれば「ミルクの輪」となる。天体望遠鏡のない時代に、銀河(宇宙)がどうして円盤状をしているのがわかったのか不思議だが・・・。これがやがて「乳の川<Milky Way>」となった。日本では「天の川(あまのがわ)」と呼ぶ。Milky の起源については面白いエピソードがある。ギリシャ神話の最高神「ゼウス」は子供の「ヘラクレス」に正妻「ヘーラー」の乳を飲ませていた。ヘラクレスはゼウスの愛人の子であるからヘーラーの実子ではない。無論乳など飲ませてやる気はなかった。しかしヘーラーの乳には「不死身の体になる」という効用があった。そこでヘーラーが眠っている間にそとヘラクレスに乳を飲ませていたのだ。しかしヘーラーがびっくりして飛び起きヘラクレスを突き放した。その拍子に乳が漏れ出て天空に一面広がった・・・というのだ。また「ガラクトース<galactose>」だの「ラクトース<lactose> (乳糖)」だのという言葉聞いたことがあるだろう。

ラテン語では *lac - lactis* [ラク・ラクティス]で milk となる。この「ラク」が日本に入ってきた「酪農」という単語が生まれた。因みにチーズを日本で最初に食べたのは第 60 代「醍醐天皇」だと言われている。学問の神様・天神様こと「菅原道真」などを積極的に登用した天皇である。彼に因んで「醍醐味(だいごみ)」という言葉が生まれた。何かを満喫することを、「醍醐味を味わう」と言うが、「醍醐味」とは「チーズの味」の意だ。この醍醐天皇をこよなく尊敬していたのが、後に「鎌倉幕府打倒<1333>」を果たすことになる「後醍醐天皇」だ。ゆえに「諡号(しごう・贈り名・死後に贈られる名前)」を「後醍醐」とするよう命じて世を去った。

(2) **ge** [ゲー] <希> =  $\gamma \eta$  = earth「大地・地面」・ギリシャ語では大文字で書けば「大地の神< $\Gamma \eta$ >」となる。ギリシャ神話の神(女神) Gaia[ガイア]はこの単語から生まれたと言われる。ラテン語では *terra* [テツ] という語がこれに充てられた。Geos「ジオス」などという英会話学校もある。またかなり昔だが「地球へ」などというアニメ漫画もあった。読み方は「テラヘ・・・」だ。see⇒ *terra*

*geography* (「地理学」・文字通り「大地<ge>に刻む<graphy>」だ。see⇒ *grapho*) / *geology* (「地質学」こちらは「大地<ge>の学問<logy>」が原義。see⇒ *logos*) / *geometry* (「幾何学」・幾何学は土地測量の為だった。metry は meter で「測定する」。see⇒ *mens* また「ユークリッド幾何学」の祖「エウクレイデス(ユークリッド) <*Eukleides*>」 see⇒ *eu* の There is no royal road to geometry. 「幾何学に王道なし」という名言がある。ある王様にユークリッドが幾何学の講義を頼まれた。しかし王様は早々にギブアップ。「もっと何か楽な勉強法はないかの?」と尋ねてきた。その時彼が王様に返した言葉がこの「幾何学に王道なし」なのだ。これを受験生用にもじったのが There is no royal road to learning. 「学問に王道なし」だ。この王様というのが「プトレマイオス 1 世」。アレクサンドロス大王の部下で、後に「プトレマイオス朝」の開祖となる人物である。このエピソードを伝えたのが「アルキメデス」・・・と、これまた凄い。入浴中お湯があふれたのを見て、王冠の鑑定法を思い付き、うれしさのあまり「エウリカ!」と叫んで裸で外に飛び出した・・・というあのアルキメデスだ。正確には「エウリカ!」ではなく「*εὕρηκα!* < $\epsilon \upsilon \rho \eta \kappa \alpha$  = *heureka*>」で I have found it! の意味。 *heurisko* =  $\epsilon \upsilon \rho \iota \sigma \kappa \omega$  [ヘウリスコー] = find の「一人称・単数・現在完了形」だ。因みに数学で「証明問題」の解答の最後に書かれる「**Q.E.D.** <*quod erat demonstrandum*> (以上が証明されるべきことであった・証明終了)」 [クオッド・エラット・デモンストランドゥム] も彼、エウクレイデスの言葉である。エウクレイデスは「良き栄光」という意味だ。) / *geophysics* (「地学」つまり「天文地球物理学」だ。see⇒ *physikos* *physics* は「物理学」。see⇒ *physikos / polis / meta*) / *geopolitics* (「地政学」・地理<ge>と政治<politics>を絡めたもの。「日本は海があるので地政学的に外国の侵略を受けずにすんだ。」などと分析するのが地政学だ。see⇒ *polis*) / *George* (「ジョージ(人名)」・これは *georgios* =  $\gamma \epsilon \omega \rho \gamma \iota \omicron \varsigma$  [ゲオールギオス] に由来する。*geo*「大地で」+ *ergo*「働く」だから「農夫」のことだ。それがなぜ欧米でポピュラーな名前になったかと言えば、「竜退治」で有名な「セント・ジョージ(聖・ゲオルギオス)」という聖人がいるからだ。ローマ帝国末期の小アジア(現在のトルコ共和国)に生まれた。話は脱線するが、今から 2000 年くらい前までは、世界各地に恐竜が生き残っていたようだ。ササノオの「八岐大蛇(やまたのおろち)退治」をはじめとして、竜退治の伝説は世界各地に存在するし、恐竜を目撃したとしか考えられない記述が聖書や古代ローマ時代の壁画にも散見されるからだ。さてそのゲオルギオスだが、「ディオクレティアヌス帝」の「キリスト教大弾圧」にも棄教せず、斬首されたことにより聖人に列せられたという。サッカー・ワールドカップでお馴染みの、「白地に赤の十字架」をあしらったイングランド国旗は「**St. George's Cross** (セント・ジョージの十字)」と呼ばれる。イングランド代表「デイビッド・ベッカム」の雄姿とともに、サッカーファンはこの国旗のデザインを胸に刻んだはずだ。see⇒ *energeia*) / *Pangea* (「(超大陸)パンゲア」 see⇒ *pan*)

(3) **genus** - *generis* [グヌス・ゲネリス] <羅>「種族・貴族・家族・出生・国民」・早い話が「血筋」だ。キーワードは「ゲン」。日本語でも「源・元」と言う。これは偶然でも駄洒落でもない。中国語のルーツははっきりしないが、インド・ヨーロッパ語族と何らかの繋がりがあことは容易に類推できる。同じ漢字文化圏ということで日本人には親近感があるが、実は日本語とは全く別系統の言語なのだ。see⇒ *barra / gigno - gignere - genui - genitus* [ギグノー・ギグネレ・ゲヌイー・ゲニトゥス] <羅>が動詞で「産む」となり、ギリシャ語の *gignomai* =  $\gamma \iota \gamma \nu \omicron \mu \alpha \iota$  [ギグノマイ]「生まれる・生ずる」も同根語。複雑怪奇な活用を起こし、ギリシャ語学習者泣かせの動詞だ。gen は gin にもなる。こちらは *gignomai* [ギグノマイ]の後代形が *ginomai* [ギノマイ]になったことから来ている・・・と筆者は踏んでいるのだが・・・。

a) *aboriginal* (「原住民の」・ab + ori(= *orior*) + gin(= *gen*)だから、「源<gen>から離れ<ab>で上って<ori = orior>きた者」の意。オーストラリアの「アボリジニー」は「原住民」という意味だ。see⇒ *ab / orior*) / *androgen* (「アンドロゲン・男性ホルモン」・「男<andro = *aner*>の源<gen>となる物」の意。読み方は[アンドロジェン]だ。see⇒ *aner*)

d) *Diogenes* (「ディオゲネス」・古代ギリシャの哲学者。詳しくは see⇒ *deus / kynikos*)

e) *engine* (「エンジン」・動力の源<gin = gen>だ。もともとは「能力を内に<en = in>秘めたる物」の意。see⇒ *en*) / *Eugene* (「ユーゲン(人名)」・「良い遺伝子」とは凄まじい名前だ。eu =  $\epsilon \upsilon$  = good / see⇒ *eu*)

#### g 関係)

*gene-geni* *gene* (「遺伝子」・読み方は[ジーン]だ。) / *generous* (「寛大な」・「やんごとなき方々(高貴な人)」はケンカはしない。「金持ち喧嘩せず」だ。see⇒ *osus*) / *generosity* (「寛大さ」) / *genetics* (「遺伝学」) / *genetic* (「遺伝の」・*genetic engineering* で「遺伝子工学」となる。) / *generate* (「発生させる」) / *generation* (「世代」・「生まれてくる者たち・・・の意。)/ *general* (「寛大な・將軍・一般的」・「將軍」は「種族を導く者」という意味。要するに旧約聖書の「モーゼ」だ。また「一般的」は、種族全体に関する・・・からきている。) / *generalist* (「多方面に才能がある人・万能選手」 see⇒ *specio*) / *generally* (「一般的に」・また最近よく耳にする「ジェネリック薬品」も *genelic* と書き親戚の単語だ。「後発医薬品」などとも訳される。薬は最初に開発した会社が特許を得る。そして 20・25 年間は他の会社が同じ薬を販売することはできない。新薬の開発には膨大なコストがかかっているからだ。「二番じゃダメ」なのだ。しかし特許が切れた後は他社も同じ成分

の薬を販売できる。これが「ジェネリック」と呼ばれるものだ。ジェネリックは「一般的な・ブランドに囚われない」の意味だ。) / **generator** (「発電機」・電気を「生み出す」もの。アメリカでは **dynamo** 「ダイナモ」となるらしい。こちらは **dynamai** =  $\delta \nu \nu \alpha \mu \alpha \iota$  [デュナマイ] とギリシャ語由来か。)。see⇒**dynamis**) / **Genesis** (「旧約聖書・創世記」・人類という種(しゅ)の発生を記録した書物。「天地創造」・「アダムとイブ」・「ノアの箱舟」・「バベルの塔」など、お馴染みの話が並ぶ。筆者は「創世記」をラテン語ですべて読んでみた。8か月かかったが、有名なエピソードばかりなので楽しみながら読破できた。新しい発見もたくさんあった。「原典」に触れることは実に有意義なことだ。受験生諸君もこの点は肝に銘じて欲しい。発音は[ジェネシス] / **genius** (「天才」・辞書の名前にもなってる。「天才」は「血筋」ということか?一方発明王「エジソン」の **Genius is one percent inspiration, ninety nine perspiration.** 「天才は一分の靈感と九分の発汗」という名言もある。英語・日本語ともちゃんと「脚韻」を踏んでいるのは流石だ。)

**geno) genome** (「ゲノム」[ジェノウム]・「染色体の1組、及びその全遺伝情報」と辞書にはある。「ヒト・ゲノム」などと言う言葉も最近ではよく聞かれる。人間の場合、23本の染色体がそれぞれX染色体とY染色体を構成している。23冊の本が1シリーズを構成していると考えればいい。男性はXXを、女性はXYを持つからそれぞれ46本の染色体(46冊の本)を持っている計算になる。この1シリーズ(23本)を「ゲノム」と呼んでいるのだ。従って人間は2セット(2シリーズ)の「ゲノム(本)」を、持つということである。また**DNA**「デオキシリボ核酸<deoxylibonucleic acid>」は「物質名」see⇒**de/dens**で、本で言えば情報が書かれている「材料」、つまり「紙」に相当する。一方「遺伝子」とは「情報」だから、その本の「内容」を指す。いわば前者が「ハード」で後者が「ソフト」だ。音楽で言えばDNAは「CD」であり、「遺伝子」は「曲」だ。CDには触れても、「曲」に触ることはできない。一方**RNA**「リボ核酸<libonucleic acid>」というのも同時に登場する。分子構造を確認してもらえればわかるが、DNAはdeoxyすなわちoxy「酸素<oxygen>」原子が一つde「除去」されて少なくなっている。) / **genocide** (「大量虐殺・ジェノサイド」は「血筋を絶やす<cide>」こと。cideはkillの意。see⇒**cado**)

**その他のg) gentle** (「優しい」) / **gentleman** (「紳士」・これも同じ。紳士も喧嘩はしない。) / **genuine** (「純粋な」・Genuine Black「ジェニユイン・ブラック」などというビールもあった。) / **germ** (「細菌」[ジャーム]・確かに次々と生まれてくる。) / **germicide** (「殺菌剤」・細菌を殺す<cide>)の意。see⇒**cado**)

**h-i) homogeneous** (「均質な」・血筋や生まれが同じ<homo>という意味だ。see⇒**homoios** = same) / **hydrogen** (「水素」・意味は「水<hydro>」の源<gen>となるもの」だ。see⇒**Hydra**) / **ingenuity** (「発明の才」) / **ingenious** (「発明の才のある」・inは反対語ではない。「生まれた時からその人の中<in>」に持っている才能・・・)の意だ。see⇒**in① / osus**) / **indigenous** (「その土地の・(その土地)原産の」・このindiもin「中に」だ。see⇒**in① / osus**)

**n-o) nitrogen** (「窒素」[ナイトロジョン]・「窒素(Ne)」の原子番号は7で、「メンデレーエフの周期律表」では「炭素<6>」と「酸素<8>」の間に来る元素だ。地球大気の何と78%を占めるが、「吸うと窒息してしまうもの」との意味で、発見者であるスコットランドの化学者「ダニエル・ラザフォード」によって名づけられた。因みに「原子核」や「 $\alpha$ 線」・「 $\beta$ 線」の発見者で、諸君らの「化学」の時間に登場する「ラザフォード」は「アーネスト・ラザフォード」で別人。出身はニュージーランド。その後イギリスで活躍した。ダニエルより120年も後の人物だ。さて確かに「窒素酸化物」などイメージはよくないが、生物の身体には不可欠な元素である。) / **original** (「独創的な・もともとの」see⇒**orior**) / **originate** (「〜から始まる」see⇒**orior**) / **origin** (「起源」・由来はaboriginalと同じだ。「オリジン弁当」は「元祖・べんとう」とでもなるのか・・・。see⇒**orior**) / **oxygen** (「酸素」・「素」も「源」も「もと」だ。「味の素」と言うではないか。「突き刺すもと」となる物)の意。**oxys** =  $\omicron \xi \upsilon \varsigma$  [オクシユス] = acute「鋭い」に由来する。確かに酸っぱいものは舌を刺されるようだ。see⇒**di**)

(4) **gero** - **gerere** - **gessi** - **gestus** [グロー・グレレ・ゲッスィー・ゲストゥス] <羅> = have / carry / bear「運ぶ」・geがga / giに変化した例も見られる。

**digest** (「消化する」・胃の中に運んで、ばらばら<di = dis>に分解すること。「大相撲ダイジェスト」でも有名。また「ダイジェスト版」などという言葉もある。see⇒**dis**) / **digestion** (「消化」) / **digestive** (「消化の・消化力のある」) / **gastric** (「胃の」・胃腸薬の「ガスター・テン」で一躍有名になった。geがgaになってはいるが・・・) / **ingest** (「摂取する」・体内<in>に取り入れること。see⇒**in①**) / **suggest** (「①提案する ②示唆する・ほめめかす」・下<sug = sub>に運んでゆく。上司に下から「このアイデアどうですか?」とお伺いをたてることだ。①と②の区別もしばしば文法問題で出題される。①は「仮定法現在」を取るから **suggest that S (should) V** でVが「原形」となる。「それ以外の時制」であれば②と考えていいだろう。see⇒**sub**) / **suggestion** (「示唆・提案」・ネットの「サジェスチョン機能」ですっかり有名。ちょっとスペルを間違えても「〇〇のことじゃありませんか?」などと提示してくれる。これは正直助かる。) / **register** (「記録・登録する」・(データなどを) 再び<re>集める・・・の意。同窓生名簿を作成する様子を思い描けばいい。see⇒**re**) / **registration** (「登録」) / **congestion** (「混雑」・con「みんな」が集まるから。**traffic congestion**は「交通渋滞」だ。**traffic jam**とも言う。ジャムのようにぐちゃぐちゃになるからだ。see⇒**cum**) / **exaggerate** (「誇張する」・ex「外」にはみ出るくらい大きさに言うこと。家の中で自慢しても始まらない。これは **ex + ago + gero** が合体した単語だ。詳しくはsee⇒**ex / ago**) / **gesture** (「ジェスチャー」・言葉を使わずに言いたいことを相手に運ぶこと。)

(5) **gloria** - **gloriae** [グローリア・グローリアエ] <羅> = glory「栄光」 / fame「名声」 / pride「誇り」・gold「金(きん)」の親戚の単語・日本語でも「キラキラ光る」などとgl[グリ]の音が絡む。明らかな擬態語だ。この項はgloriaが語源の単語ではなく、gloriaと共通の語源の単語をまとめた。glo / golなどが目印だ。glo / gla / gli / glu / guil・・・などにも変化する。また「グローリア」という日産の車もあった。平成上皇と美智子上皇后のご成婚に因んでの命名とされる。

**gallant** (「勇ましい・美しく飾った」・また昔「ギャラン」という名の車もあった。) / **glad** (「喜んでいる」・顔が輝いている。) / **glass** (「ガ

ラス・grass は「草」だ。see⇒creo 読み違えないように。) / glacier (「氷河」・確かにまぶしい。) / glitter (「光輝く」) / glide (「滑空する・すべる」・氷の表面を連想。) / glimpse (「ちらりと見る」・目がきらりと輝いている様子。少女漫画の世界を想像すればいい。) / glow (「輝く」) / glory (「栄光」) / glorious (「栄光ある」see⇒osus) / glue (「膠(にかわ)」・テカテカ光っている) / guilder (「ギルダ」・オランダの通貨・無論 gold からきている。) / guild (「ギルド」・同業者の組合・世界史でも出てくる。) / guilty (「有罪の」・金<gold>を罰金として支払ったことから。) / guilt (「罪」) / yell (「叫ぶ」・金を見つけて大声を上げること。日本語でも「黄色い歓声を上げる」と言う。「大声」の色は「黄色」なのだ。昔「森永エール・チョコレート」というのがあった。作曲家・山本直純氏の指揮にあわせて、人々が確かに「大声」で歌っていた。また「エールを送る」もこの「エール(声援・励まし)だ。)/ yellow (「黄色い」・gel が yel に転化した。「金」の色は「黄色」と決まっている。)

(6) gradus・gradus [グラドゥス・グラドゥース] <羅> 「歩くこと」・「進むこと」・「段階・階段・等級」・また gradior や progredior で「前に進む」という動詞になる。progredior・progredi・progressus sum [プログレディオール・プログレディー・プログレッシス スム] と活用する。grass が gress にもなるのはこのためだ。

a) aggressive (「攻撃的な」・「〜に向かって<ag=ad>進む」が原義。「アグレッシブな戦い方・・・」と、こちらもはや日本語。see⇒ad)

g) graduate (「卒業する」[グラデュエイトゥ]・1年生・2年生・・・と段階を踏んだ人だけが卒業できる。またこの単語には「卒業生」の意味もある。発音は[グラデュエイトゥ]となる。さらに「大学院生」の意味も出た。一方「学部生(大学1~4年)」は undergraduate という。さらに「大学院生」ということをはっきりさせるため、あえて postgraduate と言うこともある。大学1年生は freshman, 2年生は sophomore, 3年生は junior, 4年生は senior とアメリカの大学では言うそうだ。sophomore [ソフモー]とは聞きなれない単語だが、sophumer = σ ο φ υ μ ε ρ [ソフムメル]「詭弁家」に由来するらしい。これがやがて sophos = σ ο φ ο ς [ソフォス]「賢い」+ moros = μ ω ρ ο ς [モーロス]「愚かな」で「賢いようでまだ青い」という「どっちつかずの学年」の意味だと誤解されるようになったとされる。もっともこの sophumer という単語がよくわからない。筆者の手元のギリシャ語辞典には載っていないからだ。「詭弁家は sophistes = σ ο φ ι σ τ η ς [ソフィステース] という単語があるのみだ。倫理で学習する「ソフィスト」である。see⇒philos) / graduation (「卒業」) / gradual (「徐々に進む・斬新的な」) / gradually (「徐々に」・「段階を踏んで・・・ということ。)/ grade (「等級」・「グレード・アップする」などと言う。)

p-r) progress (「進歩」・英語の教科書の名前にもなっている。ロバート・フリン先生という「伴天連(パテレン)」すなわちキリスト教(イエズス会)の「宣教師」の先生が書かれた英語のテキストだ。都内の私立高校ではたいてい使われていた。兎に角高度で難しいテキストだった。10年ほど前に88歳で他界されたと聞く。see⇒pro) / progressive (「進歩的な」・小学館の英和辞典の名前にもなっている。ラテン語・ギリシャ語などの語源が掲載されているので、筆者などは重宝している。)/ regress (「退行・逆行する」・re は「後ろへ」。see⇒re) / degree (「程度・温度・角度・段階・学位」・de は「強調」。see⇒de)

その他) bio-degradable (「生物分解能のある」・早い話が「自然に戻るような」という意味だ。プラスチックなどは、土中微生物が分解できないからいつまでも地中にとどまり続ける。ウミガメの死体を解剖したら、胃からプラスチック製品がわんさか出てきた・・・という痛ましいニュースもある。bio-degradable であれば、「自然に優しい・・・」というわけだ。これも「英検出題単語」である。see⇒bios) / congress (「会議」・みんな<con>が集まってくる。see⇒cum また Congress と大文字で書けば「米国議会」となる。Parliament なら「英国議会」だ。see⇒para) / degrade (「品質・品位を落とす」see⇒de) / ingredient (「成分・食材」・「料理の中<in>に入っていくもの・・・」が原義。see⇒in①)

(7) grapho・graphein [グラフオー・グラフェン] <希> 「刻む」・前者が「一人称・単数・直説法・現在形」。後者が「不定形(不定詞)」だ。gri 「ぐりぐり」と粘土板・石版に文字を刻んだことから来ている。出題頻度がかかなり高いので是非とも覚えてほしい。また「ぐり」が「くり」に変化し scrib となった。see⇒scribo<羅> 因みに古代エジプトの「ヒエログリフ」や古代イスラエルの「ヘブライ語」では、文字は右から左に書いた(正確に言えば、ヒエログリフは左からでも右からでもよく、日本語と似ている。日本でも戦前の新聞などは、右から左に書いてある。)。現在のヘブライ語も同様だ。当時は紙などまだなく、石に「のみ」と「ハンマー」で刻んでいたのだ。ハンマーは右手で持ち、のみを左下方に打ち下ろしていたから、「右から左」の方が都合がよかったのだ。gra / gri / gre が目印だ。

a-b-c-e-g) autobiography (「自伝」・自分<auto>の生涯<bio>を記録したものだ。see⇒autos / bios) / autograph (「(有名人の)サイン」・有名人自ら<auto>がサインしたもの。see⇒autos / signum) / biography (「伝記」・「生涯<bio=life>を記録したもの」の意。see⇒bios) / cardiograph (「心電図」see⇒cor) / cartography (「地図作成術」see⇒carta) / engrave (「石などに彫る・墓石に名前を刻む」・石の中に<in>なのか? 名詞の動詞化<en>されたものかは判別し難いようだ。en = in / see⇒en) / glamour (「魅力」・「文字」⇒「魔法」からついには「魔法のように魅力的な」となった。中世、「文字」は摩訶不思議な力を持つと当時は信じられていたからだ。無論このころの一般民衆は字が読めない。)/ grammar (「文法」・「文字」から「文法」という意味が出た。r と l が入れ替わっているが、この2つの発音に日本人は神経質すぎる。外人さんもこの2つの区別は曖昧であったということだ。)/ grave (「墓」・土をえぐって作った。)/ grieve (「深く悲しむ」は「心を抉(えぐ)られるような」という意味だ。)/ grief (「悲しみ」) / grievance (「不平・苦情」see⇒ans) / gravity (「重力」・「重苦しい」から・・・) / geography (「地理」see⇒ge)

i-l-o) ideogram・ideograph (「象形文字・表意文字」see⇒ido / archo) / lithograph (「リトグラフ・石版画」・「石<litho>に刻む」の意。see⇒lithos / monos) / orthography (「正書法」・「正しく<orthos>刻む」の意。see⇒orthos)

p) photograph (「写真」・photo「光」を graph「刻む」だ。see⇒phos) / paragraph (「段落」see⇒para)

**r-t) regrettable** (「(物事が) 惜しむべき・残念な」) / **regretful** (「(人が) 後悔している」) / **regret** (「後悔する」・日本語でも「胸をえぐられるような」と表現する。reは「強調」と「再び」で解釈が分かれる。see⇒**re** また①**regret to do**と②**regret doing**の違いにも注意。②は「doしたことを後悔している」だが、①はto doだからまだdoしていない。「後悔するならやらなきゃいいのに・・・」と思うかもしれないが、それでも世の中には「やらなくてはならないこと」もある。それがこの **regret to do** だ。「残念だが do しなくてはならない」と訳す。) / **thermography** (「サーモグラフィー」・「熱<thermo>を刻む」の意。see⇒**thermos**) / **telegram** (「電報」・「遠く<tele>に刻む」が原義。see⇒**tele / porto**)

(8) **gratia** - **gratiae** [グラティア・グラティアエ] <羅> = favor 「行為」 / kindness 「親切」 / grace 「寛大さ」 / charm 「魅力」

**grace** (「優美・上品」) / **exempli gratia** (「例えば」 [エグゼンプリ・グラティア] = for example ・ どうして for example が **e.g.** となるのか、訝(いぶか)しく思われた諸君も多かるう。これはラテン語だ。「好意<gratia>」だから「~のために(利益)」となり for の意味となる。**exempli** (= example) **gratia** (=for) で「~のための例」となり、for example となるわけだ。「例文」は「好意」から付けるものだからだ。「明智光秀」の娘、「お玉(細川ガラシャ)」の洗礼名「ガラシャ」もこの「グラティア」だ。[グラティア]⇒[ガラティア]⇒[ガラシャ]となった。因みに筆者は「光秀 = 天海僧正」説を支持するものである。一方これと混同しやすいのが **i.e.** 「すなわち・言い換えれば」だ。**id est** [イドウ エスト] の略で、英語にすると that is となる。**id** (=that) **est** (=is) の直訳だが、筆者はこの **id** は「指示代名詞」ではなく「関係代名詞」ではないかと思う。~、which is・・・という形で、「~だ。そしてそれは・・・とも言える」と、「前の文や名詞を先行詞とする関係代名詞」だ。実際 **id** には関係代名詞の用法もある。とすれば that に「継続用法(, that ~)」はないから which is とした方がいいように思うが・・・。**id** についてはユリウス・カエサルという言葉「人間、見たい物しか見ない」でも登場させた。see⇒**credo / volo** また **est** については see⇒**est**) / **grateful** (「感謝している」) / **gratitude** (「感謝」) / **agree** (「同意する・賛成する」・「~への<a = ad>好意・賛成」となる。「賛成する」は be in favor of ~とも表現する。ここにも favor 「好意」が出てくる。アクセントにも注意! [アグリー]だ。一方「~に反対する」は be against ~で表現できる。see⇒**ad**) / **disagree** (「反対する」 see⇒**dis**) / **disgrace** (「屈辱・不名誉」 see⇒**dis**) / **Amazing Grace** (「アメイジング・グレイス」・葬式の時かかるお決まりのナンバーだ。誰でも一度は聞いたことがあるだろう。「驚くべき寛大さ」という意味だ。これが「神の許し」を指していることは言うまでもない。作詞は「ジョン・ニュートン」。「万有引力」の「アイザック・ニュートン」ではない! このニュートンさん。かつては血も涙もない奴隷商人だった。しかし嵐で船が転覆する寸前で助かり、そこから神の加護を信じるようになった・・・というのが、この歌詞の誕生秘話である。一方メロディーは、古いスコットランドの民謡をもとにしている。映画「スター・トレック」シリーズの「カーンの逆襲」で、「ミスター・スポック」が亡くなったときにも葬儀(宇宙葬?)でこのメロディーが使われた。スポックを演じた名優「レナード・ニモイ」氏も先日亡くなられた。氏の冥福を祈りたい。) / **congratulate** (「祝う」 [コングラチュレイトゥ]・共に<con>喜び合うこと。see⇒**cum**) / **congratulation** (「お祝い」・「おめでとう!」という時は、Congratulations! と s をつける。)

(9) **grex** - **gregis** [グレックス・グレギス] <羅> 「群れ」・crowd (人) / herd (牛・馬) / flock (鳥・羊) / school (魚) などの「群れ」。

**congregate** (「集まる」・「全員<con>集合」だ。con= **cum** see⇒**cum**) / **congregation** (「教会の会衆・集まり」) / **segregation** (「隔離・人種差別」・seはcutを意味する。「隔離して<se>集める!」。すなわち「アウシュビッツ」だ。see⇒**seco** 一方有名(悪名?)な南アフリカ共和国の「アパルトヘイト」は **Apartheid** と書き、「離し<apart>で隠す<heid = hide>」の意味だ。) / **tullimonstrum gregarium** (「タリモンストラム・グレガリウム」・ネス湖の「ネッシー」の正体ではないかと近年注目されている生物だ。通称「ターリー・モンスター」。**gregarium** はラテン語で「群れの<= of flock>」だから、集団で生息していたことからくる命名だと筆者は推測する。古生代・石炭紀に生息していた「ヤツメウナギ」の仲間だ。体長は 30cm 程度だが、これが巨大化したものでは・・・と推測されている。「何だ! ウナギか!」と侮ってはならない。口には鋭い歯を持ち、ダイバーが何人か命を落としている・・・という非公式情報もある。因みに「ターリー」は、化石の発見者(フランス人)の名前らしい。「モンスター(怪物)」は今更説明の必要もないだろう。see⇒**mons**)

(10) **gula** - **gulae** [グラ・グラエ] <羅> = drink 「飲む」 / throat 「のど」 / appetite 「食欲」 / palate 「口蓋」・「がぶがぶ飲む」という感覚だ。

**gulf** (「湾」・人の口に似ている。**Persian Gulf** で「ペルシャ湾」となる。日本のエネルギーの生命線だ。) / **engulf** (「呑み込む・巻き込む」・en=in「~の中に」 see⇒**en**) / **guzzle** (「がぶ飲みする」) / **goblet** (「ゴブレット(グラス)」も親戚の単語だ。水をガブガブ(ゴブゴブ)飲むからだ。駄洒落のように聞こえるが、本当の話だ。)

## H

(1) **habeo** - **habere** - **habui** - **habuitus** [ハベオー・ハベレー・ハブイー・ハブイトゥス] <羅> = have 「持っている」 / hold 「つかむ」 / inhabit 「住む」 / occupy 「占領する」・「持っている」から「土地を持っている」⇒「住む」⇒liveに、また「癖を持っている」⇒habitへと変化していった。hav / hab / hib も同様だ。また-able「~できる」とつく単語もこの **habeo** をルーツとする。ギリシャ語では have を εχω [エコー] と言うが、後ろに「不定詞」を取り「~することを持つ」⇒「~できる」といった具合に使われる。

**habit** (「習慣・癖」・ただし個人の習慣であるから注意。社会の習慣は **custom** だ。see⇒**tome**) / **habitual** (「習慣的な」・アクセントは [ハビチュアル] だ。) / **habitat** (「生息地」。) / **inhabit** (「住む」・「集団で住む」の意。これも個人が住む場合には使えないから注意すること。「個人」が住むなら live だ。何度もその土地の中<in>を訪れているうちに、その土地を所有してしまう・・・が起源。see⇒**in**) / **inhabitant** (「住人」 see⇒**ans**) / **prohibit** (「禁止する」・前<pro = pre>で持つ<have>。油断ならない奴は目の前で監視するのが一番だ。「前に立って敵の侵入を阻止する」が原義。see⇒**pro**) / **prohibition** (「禁止」) / **behave** (「振舞う」・beは「完全に・・・」の意。see⇒**be**) / **behavior** (「行

儀・振る舞い」・考え方は habit と同じ。「振る舞い」は一種の「習慣」だ。) / **misbehave** (「無作法に振る舞う」 see⇒**mis**) / **misbehavior** (「無作法」) / **exhibit** (「展示する」・展示会は **ex**「外」で have = hold「開催」するもの。発音は[イグズィビット] see⇒**ex**) / **exhibition** (「展示・展示会」・発音は[エクスィビション]となる。) / **heave** (「持ち上げる」[ヒーヴ]・heavy の語源になった単語。e を取れば have が現れる。) / **upheaval** (「持ち上げる<up>こと・隆起・大変動」) / **heavy** (「重い」・物を持ってば<have>重い。) / **able** (「～できる」・hable「持つことができる」) 由来。後に h が取れた。彼らは h の発音が人の苦手だからだ。特にフランス人・イタリア人はほぼ壊滅状態である。) / **enable** (「可能にさせる」[イネイブル]・enable O to do「O に do することを可能にさせる」という形で用いる。en で動詞化された。see⇒**en**) / **ability** (「能力」) / **disability** (「不能」 see⇒**dis**) / **disabled** (「体の不自由な」) / **rehabilitation** (「リハビリ」・文字通り「再び<re>物を掴める<have>ようにすること」だ。もともとは「地位・権力を回復すること」からきており、確かにその意味でも辞書に掲載されている。see⇒**re**) / **Homo habilis** (「ホモ・ハビリス」・ラテン語で「器用な人」の意。200～250 万年前に東アフリカの「オールドバイ渓谷」に住んでいたとされる初期の人類。それまでは 150 万年前の「アウストラロ・ピテクス (「南のサル」の意)」が最古の人類だとされていたが、歴史が一気に倍になったのだから当時中学生だった筆者も驚いた。文字通り「手に物を持てる<have>ヒト<homo>」だ。もっとも筆者は「進化論」は信じていないが。。 see⇒**homo**)

(2) **haereo**・**haerere**・**haesi**・**haesum** [ハエレオー・ハエレーレ・ハエスイー・ハエスム] <羅> = stick「くっつく」・ラテン語の **ae** は英語では e に姿を変えて入り込んでいる。 **prae** [プラーエ] ⇒ **pre** [プレ]「前で」などだ。

**adhere** (「くっつく」・「～に対して<ad>くっつく」より。see⇒**ad**) / **adhesive** (「粘着性の」・文房具の「のり」に adhesive stick と書いてあるのを確認して欲しい。) / **adherence** (「固守すること」) / **adherent** (「粘りつくような・追随者」 see⇒**ans**) / **inherent** (「生来の・生まれつき備わっている」・最初から中に<in>くっついているのも。see⇒**in**①) / **inherence** (「固有・生得」 see⇒**ans**) / **hesitate** (「躊躇する・ためらう」・いつまでもネチネチしていることだ。) / **hesitation** (「躊躇」) / **cohere** (「首尾一貫する」) / **coherence** (「首尾一貫」 see⇒**ans**) / **coherent** (「首尾一貫した」) / **cohesive** (「密着する・結合力のある」・「一緒に<co>くっつく」の意。see⇒**cum**)

(3) **hemi** = η μ ι [ヘーミ] ①半分 ⇒ ラテン語では see⇒**semi** [セミ] となる。

**hemisphere** (「半球」 see⇒**sphaira**) / **north hemisphere** (「北半球」) / **south hemisphere** (「南半球」) / **right hemisphere** (「右脳」・ちょっと前、「右脳革命」というのが話題となった。右脳は左手と、左脳は右手とつながっており、右脳は芸術系に優れた才能を発揮する・というものだ。そこで一躍「左利き」に注目が集まった。それまで「差別」や「いじめ」の対象だった左利きが「天才扱い」され始めたのだ。世間なんて本当にいい加減なものだと思った。因みに筆者は「左利き」である。) / **left hemisphere** (「左脳」・左脳は右手とつながっており、「論理能力」を司るとされる。)

(4) **heres**・**heredis** [ヘーレース・ヘーレーデイス] <羅> = heir「相続人」

**heir** (「相続人」・読みかたは[エア]。air と同音だ。) / **heritage** (「遺産」) / **inherit** (「相続する・遺伝的に受け継ぐ」・中<in>に受け継ぐ・が原義。see⇒**in**①) / **heredity** (「遺伝」) / **hereditary** (「遺伝の」) / **inheritance** (「相続」 see⇒**ans**) / **World Heritage Site** (「世界遺産」)

(5) **historia** = ι σ τ ο ρ ι α [ヒストリア] <希>「語って聞かせること・物語」・「歴史秘話・ヒストリア」という番組ですっかり有名になった。

**history** (「歴史」・history = his + story「彼の物語」と分解して解釈する説もあった。しかもかなり高名な大学教授の説である。「彼」とは無論「神」のことだ。「歴史とは神の<his>書いたストーリー<story>に従って展開してきたのだ」・・という、一種の「運命論」である。しかしこれは何かの間違いであろう。理由は簡単。ギリシャ語に his などという単語はないからだ。) / **historic** (「歴史的に重要な」) / **historical** (「歴史上の」) / **story**① (「物語」) / **story**② (「～階」・five-story building「5階建てのビル」などというときの「階」だ。「物語が階？」と納得いかなかった方もいるだろう。無論「物語」から「階」が生まれたのだ。中世の教会はステンドグラスに聖書の「物語」が描かれていた。そしてそれは何階層にもわたっていた。中世の教会は「吹き抜け」だから、一階から上層階の絵をはるかに仰ぐことができたのだ。ところで話はそれるが、中学の英語の教科書に、「五重塔」が five-story pagoda と紹介されていた (story は pagoda に形容詞的にかかるので s はつかない)。「五階建ての仏塔」の意味だ。しかし正確に言えばこれは「間違い」である。五重塔には「床」がない。だからあれは「平屋 (一階建て)」なのだ。「心柱 (しんばしら)」の下には「仏舎利 (ぶつしゃり)」すなわち「お釈迦さんの骨」が収められているのだから、土足でその上に上がろうなどという発想自体、あるはずもないのだが。。

さてこの pagoda の由来だが、ギリシャ語の **phago** = φ α γ ω [ファゴ] = eat と同根だとする説がある。生物で学習する「マクロファージ<Macrophage>」や「バクテリオファージ」の「ファージ」の語源となった。macro はギリシャ語で「長い・大きい」 see⇒**mikros** だから「マクロファージ」は「大食細胞」と訳される。体内に生じた変性物質や外界から侵入した細菌などを捕食してくれる。一方「バクテリオファージ」は「ウイルス」を指し「悪玉」だ。「バクテリア (細菌)」を食べて増殖する。バクテリアも「ワル」だが、さらに非道のワルがこのウイルスである。「バクテリオファージ」は「バクテリアを食べるもの」の意味となる。pagoda は「食べる」⇒「食べ物」⇒「神聖な」⇒「神を祭る塔」となったようだ。)

(6) **hodos** = ο δ ο ς [ホドス] <希> = way / road「道」

**method** (「方法」・方法は方法でも学問などの「探求方法」を意味する。met = **meta** = μ ε τ α [メタ] は「～の間」の意だから「(答にたどり着くまでの) 間の道」が原義。「メタ + ホドス」⇒「メソッド」となった。see⇒**meta**) / **exodus** (「脱出・移住・出国」・大文字で書けば「旧約聖書」の中の、モーゼの「出エジプト」となる。ex + hodos = **exodos** = ε ξ ο δ ο ς が語源。ギリシャ語がラテン語に入って os が us になってはいるが。。 see⇒**ex**「エクソドス」といえば、歴史に詳しい人間はすぐにはわかるはず。旧約聖書の英語バージョンでも「出

エジプト記は *Exodus* となっているはずである。詳細は「チャールトン・ヘストン」主演の「十戒」をご覧ください。彼は先日他界したが、「全米ライフル協会」会長であることを差し引いても素晴らしい俳優であった。 / *period* (「期間」・もともと *peri* 「まわり」を一周回ってくるのにかかる時間のことだ。see⇒*peri*) / *episode* (「エピソード・挿話」・ode = *hodos* だ。詳しくは see⇒*epi*)

(7) *holos* = ο λ ο ς [ホロス] <希> 「すべて・完全な」

*holy* (「神聖な」・聖なるものは完全である。) / *whole* (「全体」) / *wholly* (「完全に」) / *Catholic* (「カトリック」・「全体にわたって」の意。see⇒*cata/ testa*) / *heal* (「癒す」・「ヒーリング・パワー」などで、今や知らない人はいない。see⇒*privus*) / *health* (「健康」・完全であれば病気にもならない。見ての通り、*heal*[ヒール]の名詞形が *health*[ヘルス]だ。see⇒*privus*) / *hail* (「歓迎する」[ヘイル]・「ハイル・ヒトラー(ヒトラー万歳!)」の「ハイル」もこれだ。*health* と同根で「総統、お元気で!」の意味だ。一方全く同音の *hale* という単語もあり。こちらは「(老人などが) 壮健な」という意味となる。) / *Halloween* (「ハロウィーン」・もとは *Holy Evening* 「聖なる夜」の意だ。) / *holocaust* (「ホロコースト・大虐殺」・大文字で *the Holocaust* とすればナチス・ドイツの「ユダヤ人大虐殺」を指す。もともとこれも、調べてみるとかなり「怪しい」が。caust は *kaustos* = κ α υ σ τ ο ς [カウストス] <希> で「焼くこと」だ。)

(8) *homo*・*hominis* [ホモ・ホミニス] <羅> = human being 「人間」・こちらはラテン語の「ホモ」だ。

*homicide* (「人殺し」 *cid* = *cado* = kill / see⇒*cado*) / *Homo sapiens* (「ホモ・サピエンス」・*sapiens* はラテン語でそのまま「賢い」の意味だから、ホモ・サピエンスは「賢い人」と言う意味だ。あまり賢くない人も最近が多いが。。) / *Homo ludens* (「ホモ・ルーデンス」・*ludo* = play だ。直訳すれば「遊ぶ人」となる。確かに遊ぶのは人間だけだ。「人間はホモ・サピエンスではなくホモ・ルーデンスだ!」と、ある学者が主張して、この単語は一躍有名になった。see⇒*ludo/ans*) / *homage* (「敬意」・人間に敬意を表す。。というところからこの単語ができた。発音は[ホミッジ]) / *Homo habilis* (「ホモ・ハビリス」・「器用な人」の意。 see⇒*habeo*)

(9) *homoiōs* = ο μ ο ι ο ς [ホモイオス] <希> = similar 「似たような」・日本語でいう「ホモ」には2種類がある。ギリシャ語では「同じような」・ラテン語では「人」だ。ここではギリシャ語の「ホモ」について書く。

*homogeneous* (「均質な」・後半には *gen* 「血筋」が見え隠れしている。see⇒*genus/ osus*) / *homosexual* (「ホモ」・「同性愛の」) / *homeostasis* (「ホメオスタシス・恒常性」・生物で学習する・生物などが、自らの内部環境を常に一定に保とうとすることだ。例えば暑くなれば汗をかき、気化熱によって体温を下げようとするし、異物が侵入してくれば、これを撃退しようとする。「同じ<homo>ところに立ち<sta>止まる」が原義。see⇒*sto*)

(10) *hortus*・*horti* [ホルトゥス・ホルティ] = garden 「庭」

*court* (「宮廷・法廷」・「テニス・コート」・*co* = *cum* ・「コ・ホルティ」が「コート」になった。確かに「卓球」に対してテニスを「庭球」と言う。「庭を一緒に<co>取り囲む」の意。see⇒*cum*) / *courteous* (「礼儀正しい」・宮廷にお住まいの「やんごとなき(高貴な)方々」は礼儀が大切。see⇒*osus*) / *courtesy* (「礼儀・作法」)

(11) *hostis*・*hostis* [ホスティス] <羅> = enemy 「敵」・ここからなぜか「主人」や「もてなす」の意味が出た。また *guest* 「ゲスト・お客」も同根語だ。インド・ヨーロッパ祖語の *ghosti* [ゴ(グホ)スティー] 「見知らぬ人」から枝分かれしたとされる。[ゴスト]が一方では[ホスト]となり、また一方では[ゲスト]となった。昔はホテルなどないから、いきなり「泊めてください?」「いいですよ」となっていたのだ。「宿屋の主人」も「お客」も同じ単語で表現していた。「それでは都合が悪い」となったので、やがて分岐していったわけである。

*hospitality* (「親切」・「もてなし」と「敵意」は一見相反する意味だが、「人質」は「敵」でも大切にしなければならぬ。殺してしまっただけでは人質にはならない。「松平竹千代(後の徳川家康)は今川氏の人質にされたが、駿府(静岡)で駿遠三(駿河・遠江・三河)三国の太守「今川義元」の軍師であった「太原崇孚雪斎(たいげんそうふ・せっさい)」から、当時としては最高級の教育を受けた。) / *hospital* (「病院」・患者をもてなしてくれる場所。) / *hostile* (「敵意のある」) / *hostility* (「敵意」) / *hostage* (「人質」・[ホスティッジ]) / *host* (「主人」・読み方は[ハウストゥ]) / *hostess* (「女主人」・発音は[ハウステス]だ。銀座のクラブのきれいな姉ちゃんのことではない。) / *hospice* (「ホスピス」・ガンなどの末期患者の緩和ケアをする所。) / *hostel* (「青少年のための簡易宿泊所・ホステル」・「ユース・ホステル」というのが昔あった。国内や海外を旅するときは、筆者もよく使わせてもらったが、今はどうなのだろう?) / *guest* (「お客」 see⇒*tome*)

(12) *humus*・*humi* [フムス・フミー] <羅> = earth / soil 「土・土壌」

*human* (「人間」・旧約聖書によればアダムは「土」から作られたという。また「アダムは人という意味である。。」との記述が旧約聖書にはある。「人は死ねば土に還るから」という解釈が巷(ちまた)では一般的のようだ。筆者も以前はそう考えていた。しかしギリシャ語を学ぶうちに見解が変わった。キリスト教伝来以前から *humus* は *humus* なのだ。どうやらこの表現は B.C.8 世紀の *Homer* ([ホーマー]「ホメロス」 = *Homeros* = Ο μ η ρ ο ς [ホメーロス]) の著作にまで遡らしい。「イリアス」と「オデッセイア」の2大叙事詩で有名な、あの盲目の吟遊詩人「ホメロス」だ。「人間=地上を歩く者」という解釈である。これに対して「神=天上を歩く者」という対比がこの *humus* には込められているわけだ。因みに「イリアス<*Ilias* = Ι λ ι α ς [イーリアス]>」 see⇒*pes* とは「トロイ<*Troia* = Τ ρ ο ι α [トロイア]>」のこと。「オデッセイア<*Odysseia* = Ο δ υ σ σ ε ι α [オデュッセイア]>」 see⇒*pes* は、英雄「オデッセイウス<*Odysseus* = Ο δ υ σ σ ε υ ς >」の故郷「イタケ<*Ithaca*>」への帰還途中の10年に亘る冒険を指す。興味ある人はブラピ(ブラッド・ピット)主演の「トロイ<*Troy*>」を見てほしい。「オデッセイウス」はラテン語では「ユリシーズ<*Ulysses*>」と呼ばれる。またホメロスが出たついでに、*Even Homer sometimes nods* 「ホメロスでさえしばしば船を漕ぐ(うたたねする)」の諺も覚えておくといい。「弘法も筆の誤り」と意味は同じだ。「猿も木から落ちる」、「河童の川流れ」とも言う。) / *humane* (「人間味あふれる」・慈悲深い」・発音・アクセントは[ヒューメイン]。読まないeで終わるから、

その前は「二重母音」となる。) / **humanity** (「人間性・人類」・また **humanities** で「人文科学」の意味もある。学問は「社会科学(政治・経済など)・「自然科学(いわゆる純然たる科学)」・「人文科学(文学・歴史など)」に分かれる。) / **humanitarian** (「人道主義者・博愛主義者」) / **humanoid** (「人型の」 see⇒**oid**) / **humor** (「ユーモア」・人間関係における「湿り気」だ。土は湿気があるから。ただし読み方は[ヒューマー]) / **humorous** (「ユーモアのある」 see⇒**osus**) / **humiliation** (「恥」・相手の顔に「泥(土)」を塗ることだ。) / **humidity** (「湿気」・「土」は湿気を帯びている。) / **humid** (「湿った」) / **humiliate** (「恥をかかせる」) / **posthumous** (「死後の」・post + humous で「土<humus>」になった後<post>」だ。発音は[ポステュマス] see⇒**post** / **osus**) / **humility** (「卑下・謙遜」・土下座を連想すればいい。) / **humble** (「控えめな」・これも **humility** と発想は同じだ。) / **humanism** (「人道主義」・いわゆる「ヒューマニズム」だ。映画「巨人の星」の主人公「星飛雄馬(ひゅうま)」もここから名付けられた。「父の為」、「親友の為」、「恋人の為」・・・と自己を犠牲にして投げ、破滅してゆく主人公の生きざまをこの名に込めた・・・と原作者「梶原一騎」は後年語っている。see⇒**ismos**)

(13) **Hydra** =  $\tau \delta \rho \alpha$  [ヒュドラー] <希> もともとはギリシャ神話で登場する「海の怪獣」だ。・何と首が9本あったという。キング・ギドラも真っ青だ。最後は英雄「ヘラクレス<Hercules>[ハーキュリーズ]」に退治される。星座では「うみへび座」になる。  $\nu \delta \eta \rho$  [ヒュデー] だとギリシャ語で **water** 「水」の意味。ウルトラマンでもヒドラという怪獣が出てくるが、こちらは鳥の形をした怪獣だ。一方ラテン語では「水」は **aqua** [アクア] となる。またヒドラというクラゲの仲間の生物もいる。see⇒**aqua**

**hydrogen** (「水素」・文字通り「水」のもと<gen>だ。see⇒**genus**) / **hydrangea** (「アジサイ」・ウルトラ・セブンで出てくる潜水艦の名前にもなっている。発音は[ハイドウレインジア]。angea は **angos** =  $\alpha \gamma \gamma \circ \varsigma$  [アングス] で「小さな容器」だから原義は「水の壺」だ。実が裂けて中の種をまきちらす様子が、水を入れた容器に見えたことからつけられたものらしい。) / **dehydrate** (「脱水する」・de は「否定」とされている。「分離」でもいいのではないかと筆者は思うのだが。see⇒**de**) / **hydrophobia** (「狂犬病」・ハイドロフォビア)・**phobia** はギリシャ語の **phobos** =  $\phi \circ \beta \circ \varsigma$  [フォボス] で「恐れ」だから「恐水症」・すなわち「狂犬病」だ。狂犬病になると「水を恐れる」ようになるからだ。因みに **math phobia** は「数学恐怖症」、**xenophobia**[ゼノフォウビア]は「外人恐怖症」となる。**xenos** =  $\xi \epsilon \nu \circ \varsigma$  [クセノス] はギリシャ語で「なじみにくいもの<strange / foreign / unknown>」を意味する。化学の「周期律表」に登場するのもこの **xenon** (「キセノン」[ブイーン]・**Xe**) だ。他の原子と反応しないことからこの名がある。see⇒**phobos**)

(14) **hyper** =  $\nu \pi \epsilon \rho$  [ヒュペル] ①「上」・我々は普段「ハイパー」と読んでいる。「宇宙戦艦ヤマト」では「ハイパー・デスラー砲」なるものも登場する。「スーパー・デスラー砲」ではいかにもしょぼいので、ギリシャ語をもってきたのだろう。ラテン語では **super** [スペル] となる。see⇒**superus**

**hypertension** (「高血圧」・see⇒**tendo** 一方「低血圧」は **hypotension**[ハイポウテンション]となる。see⇒**tendo** / **hypo** もっとも **high blood pressure** / **low blood pressure** でも通じるが・・・) / **hypersensitivity** (「過敏症」 see⇒**sensus**) / **hyperinflation** (「超インフレ」・ハイパーインフレ) / **hyperbola** (「双曲線」 see⇒**ballo** / **para**)

(15) **hypo** =  $\nu \pi \circ$  [ヒュポ] ①「下」

**hypothesis** (「仮説」 see⇒**tithemi**) / **hypothetical** (「仮説の」 see⇒**tithemi**) / **hypocrisy** (「偽善」 see⇒**tithemi**) / **hypocrisy** (「偽善」[ヒポクリシー] see⇒**tithemi**) / **hypocritical** (「偽善的な」 see⇒**tithemi**) / **hypocrite** (「偽善者」 see⇒**tithemi**) / **hypotension** (「低血圧」 see⇒**tendo** / **hyper**)

## I

(1) **idem**・**eadem**・**idem** [イデム・エアデム・イデム] <羅>= same 「同じ」

**identity** (「身元」・「自己のアイデンティティーを・・・」などと言う。「自己同一性・・・」などと訳がのっているが、これでは何のことやらわからない。ぶっちゃけ「その人物が何者であるのか・・・」という意味だ。) / **identify** (「身元を明らかにする・確認する」・see⇒**facio** また Unidentified Flying Object 「未確認飛行物体」で **UFO** となる。see⇒**jacio**) / **ID card** (「身分証明書」・Identification / Identity card の略。) / **identical** (「同一の」・一卵性の)

(2) **ido** =  $\iota \delta \omega$  [イドー] <希>「見る」また **eidos** =  $\epsilon \iota \delta \circ \varsigma$  [エイドス] で「姿・形」となる。「目に見える物」に由来する。「アイデア論」でお馴染みの **idea** =  $\iota \delta \epsilon \alpha$  [アイデア] も「姿かたち」で、「プラトン」はこの2つを同じように使っていたようだ。それを「違う!」と言い始めたのが弟子の「アリストテレス」らしい。筆者も違いを調べてみたが、何がなんだか分からなかった。

**idea** (「考え・アイデア」・「目に見える物」ということから転じて「姿・形」という新たな意味を与えたのが、倫社の時間に学習する古代ギリシャの哲学者「プラトン」だ。彼は実際の「姿・形」ではなく、その背後に隠された物事の「真の形」を見ることこそ大切だとした。そしてこの「真の姿」を「アイデア」と呼んだのだ。これが「洞窟の比喻」で有名な「アイデア論」だ。アクセントは[アイデ<sup>イ</sup>ア]である。) / **ideal** (理想的な) [アイディアル] / **idealism** (「理想主義」 see⇒**ismos**) / **idealist** (「理想主義者」) / **idealistic** (「理想主義的な」) / **ideogram**・**ideograph** (「表意文字・象形文字」 see⇒**arho** / **grapho**) / **idol** (「偶像」・所謂「アイドル」だ。「目に見える物」が原義。人はすぐに「偶像」を作りたがる。何か「目に見える」対象がないと、不安でたまらないからだ。しかしユダヤ教・キリスト教・イスラム教では「偶像崇拜」は「ご法度」だ。もしそんな事を許してしまえばその像を所有する者が圧倒的権限を握り、それが腐敗に直結するからだ。もっともこれは「鈴木説」だ。一般的には「人間ごときが神の姿を形造るなど不遜であるから・・・」とされる。) / **ideology** (「イデオロギー」・観念形態・空理空論)・別段難解な概念ではない。早い話が「考え方」だ。米ソの軍事対立は「イデオロギーの対立」とされた。「資本主義・自由主義」と

「共産主義・社会主義」で考え方が違っていただけだ。) / **idle** (「何もしていない・ぶらぶらしている」・こちらはゲルマン系の単語で無関係だが、間違えるといけなくて載せた。「アイドル・ストップ宣言」の「アイドル (停車中にもエンジンを切らないこと)」はこっちだ。ただし「休日などにくつろぐ」といった感覚であって、「仕事をさぼっている<lazy>」という負のイメージではないので注意。) / **kaleidoscope** (「万華鏡」 see⇒**skopo**)

(3) **imitari** [イミターリー] <羅> = copy 「真似すること」・また **imago** [イマーゴ] で「実物に似た物」という意味になる。

**imitate** (「真似する」) / **imitation** (「模造品」・山口百恵ちゃんの「イミテーション・ゴールド」というヒット曲があった。「偽物の金」という意味だ。) / **image** (「像・姿・形・画像」・発音は [イミッジ] だ。「実物を写し取った<copy>もの」が原義。) / **imagine** (「想像する」・ジョン・レノンの「イマジン」というヒット曲もあった。Imagine there is no country ♪♪ 「国境のない世界を想像してごらん!」という意味だ。かつてイギリスに留学中、筆者は「パーティー・オーガナイザーのマサ」と呼ばれた。すぐにみんなを集めてパーティーをやりたいから・・ということらしい (別段そんな意識はなかったのだが、そう見えたのだろう。)。その年のクリスマス。友人の「フラット<flat②> (アパート)」でクリスマス・パーティーを催した。see⇒**placeo** 無論「クリスチャン」である彼らは12月24日までには帰国しなくてはならない。故に「その直前・・」ということだが、それでもさまざまな国の生徒たちが集まってくれた。パーティーも終盤にさしかかったころ、あるスイスの少女がたまたま近くに置いてあったギターを手に取ると、この「イマジン」を弾き始めた。すると誰からともなく皆がこの歌詞を口ずさみ始めた。その場にいたみんながその歌詞を知っていた。レノンには確かに当時の若者たちの心の中に生きていたのだ。) / **imaginable** (「想像しうる限りの」・ここから後ろの3つの単語は文法問題で頻出だからしっかり押さえて欲しい。) / **imaginative** (「想像力豊かな」) / **imaginary** (「架空の・想像上の」)

(4) **in①** ①「～の中へ」・②「～の上に」・また後ろに来る単語によって **im** / **ir** / **il** ほかにも変化する。起源はギリシャ語の **en** = ε ν。en の項でも書いたが当時はまだ **on** はなく、**in** が **on** の役目も兼ねていた。**on** はギリシャ語の **ana** から来たもの see⇒**ana** だが、ラテン語で使われた形跡がない。**en** の項にまとめようかとも考えたが別項とした。**in②** とは無関係だから注意。see⇒**en**

**il-im-in** **illuminate** (「照らす」 see⇒**lux**) / **illusion** (「幻影」 see⇒**ludo**) / **illustrate** (「図・例などを使って説明する」 see⇒**lux**) / **import** (「輸入する」 see⇒**porto**) / **impress** (「印象を与える」 see⇒**premo**) / **immersion** (「液体に浸すこと」 see⇒**mergo**) / **immigration** (「移住」 see⇒**migro/opus**) / **imminent** (「差し迫った」 see⇒**mineo**) / **impulse** (「衝動」 see⇒**pello**) / **implant** (「埋め込む」 see⇒**placeo**) / **implement** (「実行する・道具」 see⇒**plenus**) / **imply** (「暗に意味する」 see⇒**plico**) / **impose** (「押し付ける」 see⇒**pono**) / **inauguration** (「就任式」 see⇒**navis**)

**inc** **include** (「含む」 see⇒**claudo**) / **incorporate** (「合併する」 see⇒**mens**) / **incarnation** (「受肉」 see⇒**voro**) / **incident** (「事件・出来事」 see⇒**cado**) / **increase** (「増加する」 see⇒**credo**) / **incentive** (「動機付け」 see⇒**canto/moveo**)

**ind** **indicate** (「指摘する」 see⇒**dico**) / **induce** (「誘導する」 see⇒**duco**) / **indigenous** (「その土地の・(その土地) 原産の」 see⇒**genus/osus**) / **industry** (「産業・工業」 see⇒**struo**)

**inf** **infection** (「感染」 see⇒**facio**) / **infer** (「類推する」 see⇒**fero**) / **influence** (「影響・影響を与える」 see⇒**fluo/-ans**) / **influx** (「流入」 see⇒**fluo**) / **inflict** (「打撃を与える」 see⇒**fligo**) / **inform** (「情報を伝える」 see⇒**formo**)

**ing-inj** **ingenious** (「発明の才のある」 see⇒**genus/osus**) / **ingest** (「摂取する」 see⇒**gero**) / **ingredient** (「成分」 see⇒**gradus**) / **injection** (「注射」 see⇒**jacio**)

**inh-inn-inq-ins** **inherent** (「生来の・生まれつき備わっている」 see⇒**haereo**) / **inhabit** (「住む」 see⇒**habeo**) / **inherit** (「相続する・遺伝する」 see⇒**heres**) / **innate** (「生まれつきの」 see⇒**nascor**) / **innovation** (「刷新」 see⇒**nova**) / **inquire** (「尋ねる」 see⇒**qui**) / **insult** (「侮辱する」 see⇒**salio**) / **insect** (「昆虫」 see⇒**cado/seco**) / **inseminate** (「妊娠させる」 see⇒**semen**) / **insert** (「挿入する」 see⇒**sero**) / **inspect** (「検査する」 see⇒**specio**) / **inspire** (「鼓舞激励する」 see⇒**spiro**) / **instinct** (「本能」 see⇒**stizo**) / **insist** (「主張する」 see⇒**sto**) / **install** (「備え付ける」 see⇒**sto**) / **instrument** (「機械・計器」 see⇒**struo**) / **insure** (「保険をかける」 see⇒**куро**) / **institution** (「組織・設立」・上<in=on>に建てられたもの。see⇒**sto**) / **instant** (「即座の」 see⇒**sto**) / **instruction** (「教育」 see⇒**struo**)

**int-inv** **interior** (「内側の」 see⇒**superior**) / **intensive** (「集中した」 see⇒**tendo**) / **intend** (「意図する・～するつもり」 see⇒**tendo**) / **intonation** (「抑揚・イントネーション」 see⇒**tono**) / **intrude** (「侵入する」 see⇒**trudo**) / **intuition** (「直観・洞察力」 see⇒**tueor**) / **intricate** (「込み入った」・コードがねじれて解けない状態を想像すること。see⇒**torqueo**) / **intrigue** (「謀略・策略・興味を持たせる」 see⇒**torqueo**) / **invade** (「侵入する」 see⇒**vado**) / **invention** (「発明」 see⇒**venio**) / **invest** (「投資する」 see⇒**vestis**) / **involve** (「含む・巻き込む」 see⇒**volvo**)

その他 **reinforce** (「補強する」 see⇒**re/fortis**)

(5) **in②** 「反～」・反対語を表す。・とりあえずラテン語起源の単語は **in** を、英語本来語起源の単語は **un** をつけなければならない。否定を表す **ne** が変化したもの。「～の中へ」の **in** とは起源が異なるので注意! また **atom** 「原子 (これ以上切れない物)」の **a** も「反対語」を表し、この **in②** と同根だ。この場合は **a** にも掲載してある。**a** は **an** にも変化する。また **im** / **il** / **ir** にも変化するの **in①** と同じだ。結論を言えば **a = an = un = en = in②** ということだ。**in①** と **in②** は「赤の他人」。see⇒**a/ab/tome**

**a-e** **anonymous** (「匿名の」・名前をあかさない。see⇒**a/nomen**) / **atom** (「原子」・これ以上切れない。see⇒**a/tome/ab**) / **apathy** (「無感動」・感動することがない。see⇒**a/pathos**) / **entire** (「完全な」・まだ誰にも触れられていない。en = in だ。see⇒**tango**) / **enemy** (「敵」

see⇒*amicus / a* )

**ig-il-im** **ignorant** (「無知の」 see⇒*cogito / -ans* ) / **illiterate** (「文盲 (もんもう) の・読み書きができない」 see⇒*littera* ) / **illegal** (「違法の」 see⇒*lex* ) / **immune** (「免疫性の」・「変化しない」が原義。 see⇒*mutio* ) / **immediately** (「即座に」・「間隔をおくことがない。 see⇒*medius* ) / **immense** (「計り知れない」 see⇒*mens* ) / **immortal** (「不死の」 see⇒*mors* ) / **impatient** (「忍耐強い」・「怒らない。 see⇒*pathos* ) / **impassive** (「無感情の」 see⇒*pathos* ) / **impudent** (「恥知らずな」 see⇒*penetro* ) / **impede** (「阻害する」・「先へ進ませない。 see⇒*pes* ) / **impossible** (「不可能な」 see⇒*possum* ) / **impair** (「損なう」・「2つそろっていない。 see⇒*para* ) / **impartial** (「公平な」・「えこ鼻根 (ひいき) のない。 see⇒*par* )

**inc-ind-ine** **incessant** (「絶え間のない」 see⇒*cedo / -ans* ) / **independent** (「独立した」・「依存していない。 see⇒*pendeo* ) / **indispensable** (「必要不可欠な」・「なくてはならない」・「なしですませ<dispense>られない。 see⇒*pendeo* ) / **indignant** (「立腹している」・「威厳がないもの」に対して怒る。 see⇒*dignus / -ans* ) / **individual** (「個人・個人の」・「これ以上分離できない。 see⇒*divido* ) / **indifference** (「無関心・冷淡」 see⇒*fero / pathos* ) / **inexplicable** (「説明できない」 see⇒*plico* )

**inf** **infamous** (「悪名高い」・「評判がよくない。 see⇒*fabula / -osus* ) / **infant** (「幼児」・「言葉が話せない。 see⇒*fabula* ) / **infinite** (「無限の」 see⇒*finis* ) / **informal** (「非公式の」 see⇒*formo* )

**inj** **injure** (「傷つける」・「法律がない。 see⇒*ius* ) / **injustice** (「不正」・「正義がない。 see⇒*ius* )

**inn** **innumerable** (「数えきれない」 see⇒*nomos* ) / **innocent** (「無実の」・「無邪気な」・「害がない」 see⇒*-ans / nox* )

**ins** **insane** (「気が狂った」・「正気でない。 see⇒*sacer / mens* )

**int** **intact** (「損なわれていない」 see⇒*tango* ) / **integral** (「完全な」・「積分」・「触れられていない。 see⇒*tango* )

**inv-ir** **invalid** (「無効の」・「病人」 see⇒*valeo* ) / **invaluable** (「測り知れない価値がある」 see⇒*valeo* ) / **invert** (「(上下を) 逆転させる」 see⇒*verto* ) / **invisible** (「目に見えない」 see⇒*video* ) / **invincible** (「打ち勝つことができない」 see⇒*vinco* ) / **involuntary** (「無意識の」 see⇒*volo* ) / **irregular** (「不規則な」 see⇒*rex* ) / **illegal** (「違法の」 see⇒*lex* ) / **illegible** (「判別不能な」 see⇒*lego* ② ) / **irrelevant** (「無関係な」 see⇒*levis / -ans* ) / **irrational** (「不合理な」 see⇒*ratus* ) / **irritate** (「イライラさせる」・「不合理なものにいらだつ。 see⇒*ratus* )

#### (6) **infra** [インフラ] <羅> ① under 「下に」

**infrared** (「赤外線」・「赤より下」が原義。赤い光より波長が長く、エネルギー・レベルが低くなると人間の目にはその光は見えない。赤外線は「赤い光線」ではないので念のため。 see⇒*ultra* ) / **infrastructure** (「インフラ」・「産業基盤」 see⇒*struo / ultra* ) / **inferno** (「地獄」・「The Inferno」で「ダンテ」の「神曲」の中の「地獄篇」となる。「神曲」は、詩人であり政治家でもあったダンテが「ヴェルギリウス (ヴァーゼル)」や恋人の「ベアトリーチェ」に導かれ、「地獄」・「煉獄」・「天国」を巡り歩く・・・というストーリーである。「神曲」の訳語を考え出したのは、かの文豪「森鴎外」だと言われている。また「タワーリング・インフェルノ」というハリウッド映画もあった。高層ビル火災を扱った恐ろしい映画だ。主演は「ポール・ニューマン」と「ステイブ・マックイーン」。二人とも実に渋かった。また「カラテ地獄変」という、梶原一騎のちよつと (というか・・・かなり・・・) エロい劇画もあった・・・) / **inferior** (「劣った」 see⇒*superior* )

#### (7) **insula** - **insulae** [インストラ・インストラエ] <羅> = island 「島」

**isolate** (「孤立させる」・「島は孤立している。 ) / **isolated** (「孤立した」) / **isolation** (「孤立」) / **peninsula** (「半島」・「文字通り「半分島」だ。 see⇒*penetro* ) / **isle** (「島」 = island・British Isles 「イギリス諸島」などと表現する。発音は[アイル]だ。またこれとまったく同じ発音を持つのが **aisle** 「廊下」という単語。飛行機によく乗る人には馴染み。搭乗手続きの際、Windows or Aisles? 「窓際と通路側、どちらがいいですか?」と聞かれる。筆者は必ず aisles だ。トイレに行くのに他人に気兼ねしなくていい。) / **insulin** (「インスリン」・「血糖値を下げるホルモン。このホルモンが分泌されなくなると糖尿病になる。膵臓の中の「ランゲルハンス島」という組織の「β細胞」から分泌されるのでこの名がある。一方血糖値を上げるホルモンも、このランゲルハンス島の「α細胞」から分泌される。それが「グルカゴン」だ。ランゲルハンスはドイツ人医師の名前である。膵臓は英語で「パankレアス<pancreas>」と言い、ギリシャ語で「すべての肉 = π α ν の肉<creas = κ ρ ε α ς>」の意味である。 see⇒*pas* どうして「すべての肉」なのかは不明である。) / **insulate** (「隔離する」・**insula** はラテン語の「島」、スペイン語では **isla** [イスラ]となる。モアイ像で有名なイースター島は「イスラ・デ・パスクア<Isla de Pascua>」で通じる。Pascua はギリシャ語の Π α σ χ α [パスカ]で「復活祭」のこと (正確には「過ぎ越しの祭り」を指すようだが・・・)。英語で言う「イースター<Easter>」だ。イースターの日に発見されたことからこの名がある。イエス・キリストは処刑されてから「3日後」に復活したとされる。正確には処刑されたのが金曜で、その「3日目」、つまり日曜日に復活したという意味だ。したがってイースターは必ず「日曜」に当たる。これまた正確には「春分の日あとの満月のあとの最初の日曜日」だ。また「隔離する」から「絶縁体で覆う」という意味も出た。)

#### (8) **inter** [インテル] <羅> = between ① 「～の間に・で」

**interaction** (「相互作用」 see⇒*ago* ) / **intercontinental** (「大陸間の」 see⇒*teneo* ) / **intercept** (「横取りする」・「遮る」 see⇒*capio* ) / **interest** (「興味・利子」 see⇒*est* ) / **interfere** (「邪魔する」・「干渉する」 see⇒*fero* ) / **intellect** (「知性」 see⇒*lego* ② ) / **intelligent** (「知能の高い」 see⇒*lego* ② / *-ans* ) / **intermediate** (「中級の」 [インターミディエイト] see⇒*medius* ) / **intermission** (「休憩」 see⇒*mitto* ) / **international** (「国際的な」 see⇒*nascor* ) / **interpret** (「通訳する」 see⇒*prehendo* ) / **interrupt** (「邪魔する」 see⇒*rumpo* ) / **interrogative** (「疑問文・疑問の」 see⇒*rogo* ) / **intersection** (「交差点」 see⇒*seco* ) / **interstellar** (「星間の」 see⇒*stella* ) / **intervene** (「介入する」 see⇒*venio* ) / **interview** (「面接」 see⇒*video* ) / **interval** (「間隔」・「インターバル」・「もともとは壁と壁<val = wall>の間<inter>の距離を意味した。)

その他) **entertain** (「楽しませる」 see⇒*teneo*) / **enterprise** (「事業」 see⇒*prehendo*)

(9) **intro**・**intrare**・**intravi**・**intratus** [イントロー・イントゥラーレ・イントゥラーウィー・イントラートゥス] <羅>= enter ①「中へ入る」  
また **intra** [イントゥラー] = inside は「～の内部で」と「場所・位置」を表す「前置詞」だ。

**introduce** (「導入・紹介する」 see⇒*duco*) / **introvert** (「内に向ける・内向的な」 see⇒*verto*)

(10) **ismos** = ι σ μ ο ς [イスマス] <希>「～すること」・名詞・形容詞につけて抽象名詞化し、「動作」・「状態」・「主義」などを表す。これをさらに遡れば **izo** = -ι ζ ω [イゾー] にたどりつく。 **soizo** = σ ω ι ζ ω [ソーズ] 「救う」など、この「イゾー」で終わる動詞はギリシャ語には多い。これが英語に入って **-ize** / **-ise** 「～アイズ」になった。 **sympathize** 「同情する」 / **memorize** 「記憶する」 / **recognize** 「認識する」など無数にある。さてこの **ism** だが、英語で言う「動名詞」に当たる(もっとも古代ギリシャ語に「動名詞」はない。ラテン語にはあるが・・)。

「猪木イズム最後の継承者・藤田・・」などと、最近は何にでもつけてしまうようだ。ギリシャ語の **ismos** = ι σ μ ο ς [イスマス] に由来。世界史では **ostrakismos** = ο σ τ ρ α κ ι σ μ ο ς [オストラキスマス] 「陶片追放」などで登場する。「僭主(せんしゅ・独裁者)」の出現防止のため、選挙で「落としたい奴」の名前を陶片に書いて投票するのだ。当選の暁には晴れて(?)「国外追放」となる。現代日本の選挙で復活させたい制度ではあるが、副作用も大きいので採用されていない。「サラミス海戦」の勝利でペルシャ帝国の侵略からギリシャを守った英雄「テミストクレス」ですら、後に陶片追放にあって国を追われている。大衆心理というのはかくも移ろいやすいものなのだ。英語では **ostracism** [オストラシズム] となる。 **ostrakon** = ο σ τ ρ α κ ο ν [オストラコン] は「陶器・石のかけら」だ。さらに **osteon** = ο σ τ ε ο ν [オステオン] は「骨<bone>」で、今話題の「骨粗鬆症(こつ・そそうしょう)」の **osteoporosis** [オステオポロウシス] なども親戚の単語だ。

**-ism 関係** **anachronism** (「時代錯誤」 see⇒*ana/khronos*) / **animism** (「アニミズム」 see⇒*anima*) / **antagonism** (「敵対」 see⇒*ango*) / **bipedalism** (「二足歩行」 see⇒*bi/pes*) / **capitalism** (「資本主義」 see⇒*capio*) / **communism** (「共産主義」 see⇒*mutō*) / **criticism** (「批判」 see⇒*Ceres*) / **cynicism** (「皮肉」 see⇒*kynikos*) / **dynamism** (「ダイナミズム・躍動感・活力」 see⇒*dynamis*) / **egoism** (「エゴイズム・自己中心主義」 see⇒*ego*) / **exorcism** (「悪魔祓いの儀式」 see⇒*ex*) / **fundamentalism** (「原理主義」 see⇒*fundo*①) / **globalism** (「グローバルイズム」 see⇒*sphaira*) / **humanism** (「人道主義」 see⇒*humus*) / **idealism** (「理想主義」 see⇒*ido*) / **imperialism** (「帝国主義」 see⇒*para*) / **individualism** (「個人主義」 see⇒*divido*) / **liberalism** (「自由主義」 see⇒*liber*) / **mannerism** (「マンネリ・型にはまった手法」 see⇒*manus*) / **materialism** (「唯物主義・唯物論」 see⇒*mater*) / **metabolism** (「代謝」 see⇒*meta/ballo*) / **nationalism** (「国家主義・民族主義」 see⇒*nascor*) / **nihilism** (「虚無主義・ニヒリズム」 see⇒*sol*) / **organism** (「生物・有機体」 see⇒*energeia*) / **optimism** (「楽天主義」 see⇒*opto*) / **pantheism** (「汎神論」 see⇒*pas/theos*) / **patriotism** (「愛国心」 see⇒*pater*) / **pessimism** (「悲観論」 see⇒*malus*) / **pragmatism** (「実用主義」 see⇒*pratto*) / **racism** (「人種差別主義」 see⇒*Ceres*) / **rheumatism** (「リウマチ」 see⇒*rheuma*) / **skepticism** (「懐疑論」 see⇒*skopo*) / **terrorism** (「テロリズム・恐怖政治」 see⇒*terreo*) / 最後に「宗教名」を列挙する。 **Buddhism** (「仏教」・ **Buddha** 「仏陀・お釈迦さん」に **ism** がついた。もっとも「仏陀(ブツダ)」は「悟りを開いた人」の意味だから、お釈迦さん以外にも仏陀はいっぱいいたわけだが・・。ここで「〇〇教」と名の付く主なものをまとめておこう。もっともこれらは代表的な呼び名であって、他にも呼び方があることは予めお断りしておく。キリスト教は **Christianity** [クリスチャニティー]。イスラム教は **Islamism** [イスラミズム] だ。開祖「マホメット(ムハンマド)」は単なる「預言者(アッラーの言葉の伝達者)」だから「ムハンマドイズム」などとしてはならない。ユダヤ教は **Judaism** [ユダイズム] で無論「ユダヤ」に因む。ヒンズー教は **Hinduism** [ヒンドゥーイズム]。[ヒンドゥ]が[インドゥ]になった。プロレスや空手の世界では、「ヒンズー・スクワット」なるトレーニング法がある。「スクワット<squat>」は「しゃがむ」の意。インドのレスラーたちが行っているトレーニング方法を、その効果の絶大さに驚いて、ジャイナト馬場やアントニオ猪木の師匠である力道山が取り入れたものだ。さらに短時間で効果的なのが、ジャンプして行う「ジャンピング・スクワット」だ。空手の世界ではこっちが主流だ。100本もやると足腰が立たなくなる。本当に涙が出てくるほど辛い。儒教は **Confucianism** [コンフューシャニズム] で **Confucius** 「孔子」に因み、「道教」は **Taoism** 「タオイズム」[タウイズム]で、「タオ」は「道(みち)」の中国語読みである。[タオ] ⇒ [トウ] ⇒ [ドウ]となった。尚「土屋太鳳(たお)」ちゃんとは無関係らしい。「神道」は **Shintoism** [シントウイズム]で「まんま・・」である。ゾロアスター教は **Mazdaism** [マズダイズム] となる。最高神「アフラマズダ」の「マズダ」だ。古代ペルシャの宗教で、火を崇拜することから「拝火教」とも言われる。東大寺の「お水取り」の儀式も、真言密教の「護摩焚き(ごまたき)」も、このゾロアスター教に由来するとされる。また車メーカーの「マツダ」もこの「アフラマズダ」だ。その証拠に Mazda と Z になっているはずである。理由ははっきりしないらしい。)

**-ize / -ise 関係**

**a-c)** **agonize** (「苦しむ」 see⇒*ango*) / **authorize** (「権威を与える・認可する」 see⇒*augeo*) / **apologize** (「謝罪する」 see⇒*logos*) / **categorize** (「分類する」 see⇒*cata*) / **criticize** (「批判する」 see⇒*Ceres*) / **civilize** (「文明化する」 see⇒*civis*) / **customize** (「(客の注文に応じて)作る・調整する」 see⇒*tome/cum*) / **colonize** (「入植する」 see⇒*colo*)

**e-f-g-h-i)** **emphasize** (「強調する」 see⇒*en/ismos/phos*) / **epitomize** (「要約する」 see⇒*epi/tome*) / **eulogize** (「ほめる」 see⇒*logos/eu*) / **fertilizer** (「肥料」 see⇒*fero*) / **globalization** (「グローバルイゼーション(世界の一体化)」 see⇒*sphaira*) / **harmonize** (「調和させる」 see⇒*arma*) / **industrialize** (「工業化する」 see⇒*struo*)

**m-o-r)** **memorize** (「記憶する」 see⇒*mens*) / **maximize** (「最大化する・極限にまで広げる」 see⇒*magnus*) / **monopolize** (「独占する・独占販売する」 see⇒*monos*) / **organize** (「組織する」 see⇒*energeia*) / **recognize** (「認識する」 see⇒*re/cogito*)

**s-u-v)** **sympathize** (「同情する」 see⇒*pathos*) / **synthesize** (「統合する」 see⇒*sim/tithemi*) / **stabilize** (「安定させる」 see⇒*sto*) / **summarize**

(「要約する」 see⇒*superus*) / *specialize* (「専門とする・専攻する」 see⇒*specio*) / *symbolize* (「象徴する」 see⇒*sim*) / *synchronize* (「同時進行させる・同時に起こる」 see⇒*sim / khronos*) / *utilize* (「利用する」 see⇒*utilis*) / *urbanization* (「都市化」 see⇒*urbs*) / *visualize* (「想像する」 see⇒*video*) / *victimize* (「犠牲を捧げる」 see⇒*video*)

## J

これも既にも書いたことだが、古代に J の文字はなかった。I が J の代わりもしていたのだ。したがって [イ] (母音) で読むこともあれば [ヤ・ユ・ヨ] (半母音) で読むこともあった。それを区別すべく中世になって J が考案された。しかしここでは受験生諸君の混乱を避けるために、あえて J の項を I とは別に設けた。

(1) *jacio - jacere - jeci - jactus* [ヤキオー・ヤケレ・イエーケー・ヤクトゥス] <羅> = throw 「投げる」

*subject* (「①家臣 ②主語 ③科目 ④テーマ・主題 ⑤被験者」・「下<sub>に投じ入れられたもの」すなわち①「家臣」だ。因みに日本語では②「主語」などと訳されているが、これははっきり言って「誤訳」。もともとは「動詞に従うもの・動詞の家来」という意味だ。ラテン語は動詞の活用が細分化されており、動詞の形を見れば主語がわかってしまうので、ふつう主語は省略されるからだ。am が動詞なら I は書かなくてもいい・・・という理屈である。また③「科目」、④「テーマ」、⑤「被験者」という意味もある。これらはすべて「シェフ」にとつての「食材」を連想すればいい。「どうとでも料理できる」ということだ。国王は家臣を自由に料理できるし、教師は科目を料理できる。また科学者にとって被験者は料理すべき対象。すなわちモルモットだ。see⇒*sub / verbum*) / *subjective* (「主観的な」・「主観」とは「その人の好き勝手な見解」だ。) / *object* (「対象・物体・目的語・反対する」・「(一方が他方に) 対して<ob> (物を) 投げる」が原義。see⇒*ob / pono* やがて投げる相手自体をも指すこととなり、「物体」・「対象」が生まれた。「対象」とはよく訳したものだ。また「距離を置く」ということは「敵に回る」ことでもある。「反対する」の意味はここから生まれた。*objective* は「客観的な」だ。距離をおかないと客観的になれないからだ。) / *UFO* (「未確認飛行物体」・ *Unidentified Flying Object* の略。see⇒*idem*) / *objection* (「反対・異議」) / *injection* (「注射」は液体(薬)を体内<in>に「投げ入れる」ことだ。see⇒*in*②) / *Alea est jacta*. [アーレア・エスト・ヤクタ] (「賽(さい)は投げられた」・カエサルの有名な言葉。彼はこの言葉とともに「ルビコン川」を渡ったのだ。ルビコン川を軍勢を率いて渡った者はローマでは死罪とされた。しかしその一方、軍を解散してローマに出頭すれば、殺されることもわかっていた。このときカエサルの発した言葉がこの *Alea est jacta* だ。現代でも後もどりでできない覚悟で革命的な試みに乗り出すとき「ルビコン川を渡る」と表現する。ラテン語は語順が自由だが、ここでは分かりやすいように英語の語順で並べてある。=*Alea* (=The dice) *est* (=was) *jacta* (=thrown).) / *eject* (「追い出す・発射する」・e は *ex* 「外へ」の意。昔「ラジカセ」というのがあった。カセット・テープをセットして音楽などを聴くのだ。カセットを取り出したい時は *eject* とあるボタンを押せばよかった。see⇒*ex*) / *adjective* (「形容詞」・*ad* 「そばに」投げ出されたもの。何のそばに投げ出されたか・・・といえば、無論「名詞」のそばに・・・だ。因みに「副詞」は「動詞<verb>」 see⇒*verbum / verito* のそばに並ぶ(修飾する)から *adverb* だ。辞書で *adj.* とあつたら「形容詞」、*adv.* とあつたら「副詞」である。see⇒*ad / verbum*) / *adjacent* (「隣接する」・基本的な成り立ちは *adjective* と同じである。see⇒*ad*) / *reject* (「拒絶する」・*re* は①「投げ返す」の意味だとも、②「後ろへ」の意味だとも、諸説ある。①であれば「手紙をもらっても開封せず返送してくる」・・・というイメージだし、②であれば「開封せず、丸めて後ろにポイ！」といった感じだろうか・・・。see⇒*re*) / *rejection* (「拒絶」)

(2) *jus - juris* [ユース・ユーリス] <羅> = right 「正しい」 / *justice* 「正義」・また *judico - judicare - judicavi - judicatus* [ユーディコー・ユーディカーレ・ユーディカーウィー・ユーディカートゥス] で「判断する・判決を下す」という動詞となる。

*justice* (「正義」) / *injustice* (「不正」 see⇒*in*②) / *jury* (「陪審員」・「裁判員制度(陪審員と若干異なるらしいが・・・)」がついに始まった。正義をもって裁いてほしい。ただしこれは「集合名詞」。ひとりひとりの陪審員は *juror* と言う。この「集合名詞」という概念は難解なので説明しよう。代表的な集合名詞は *furniture* 「家具」だ。ただし「家具類」と呼ぶべきもので、ひとつひとつの家具は *bed* であり、*closet* 「クロゼット」であり *table* となる。「家具」という名前の家具はない・・・ということだ。どうしても数えなければ *a piece of furniture* 「家具一点」などとすればいい。では「集合名詞」自体は「単数扱い」か?それとも「複数扱い」か?結論から言えば「両方ある」だ。これは単語によるので覚えてもらうしか仕方がない。*furniture* は「単数」扱いだが *police* 「警察」などは「複数」扱い。see⇒*polis* 一人ひとり *policeman* であり *policewoman* だ。*audience* 「聴衆」は「複数」にも「単数」にもなる。see⇒*tome / audio / -ans* / *jury* もこの *audience* の仲間だ。) / *just* (「正しい」・「ちょうど」の意味もここから生まれた。また *just* には *only* の意味もある。) / *justify* (「正当化する」 -fy は see⇒*facio*) / *justification* (「正当化」) / *adjust* (「調整する」は「正しいもの」に合わせることだ。直訳すれば正しい<just>方向へ<ad>となる。see⇒*ad*) / *adjustment* (「調整」) / *judge* (「審判・ジャッジ・裁判官・判断する」・裁判官は正しい判決を・・・。) / *judgement* (「判断・判決」) / *prejudice* (前もって<pre>相手を判断してしまうから「先入観・偏見」だ。see⇒*pre*) / *injure* (「傷つける」・法律(=正義)を無視<in>して相手を傷つけること。*in* は「否定」。人を主語にして *be injured* 「傷つけられる」⇒「傷つく」となるので注意。文法問題頻出だ。see⇒*in*②) / *injury* (「負傷・損害」) / *judicious* (「判断力の確かな」・正義をもって判断を下す力・・・だ。see⇒*-osus*)

## K

(1) *khronos* = χ ρ ο ν ο ς [クロノス] <希> = time / clock 「時・時計」・大文字だと「時を司る神・クロノス」となる。「ゼウス」・「ポセイドン」・「ハーデス」三兄弟の父も「クロノス<κ ρ ο ν ο ς>」だが、これは別の神だ。χ [ケー]と κ [カッパ]でスペルが異なる。ギリシャ文字

にすれば違いは一目瞭然だ。see⇒*cosmos*

**chronicle** (「年代記」) / **chronic** (「慢性の」・病気に「年季」が入っていること。see⇒*polis*) / **chronometer** (「経線儀・クロノメーター」・直訳すれば「時を計る」だ。一種の「時計」である。500年前の大航海時代、海を航海する場合「緯度」は比較的簡単にわかった。北半球であれば、90度から北極星の高度を引けばいいからだ。しかし「経度」を求めるのは至難の技だった。それには「今は何時何分か？」を正確に知る必要があったからだ。時間さえ正確に把握できれば、太陽や星の位置から経度が計算できる。しかし当時の時計は原理的にはあくまで「振り子」であったから、揺れる海上では正確に時間を計れなかったのだ。それを克服したのがこの「クロノメーター」というわけである。see⇒*mens*) / **synchronize** (「同時進行させる・同時に起こる」・「シンクロナイズド・スイミング」の「シンクロ」だ。選手の「足並み」がそろっていないと減点の対象となる。see⇒*sim / ismos*) / **synchronicity** (「同時性・共時性」・スイスの心理学者・カール・グスタフ・ユングによって提唱された概念。日本の古い諺風に言えば「二度あることは三度ある・・・」というやつだ。) / **anachronism** (「時代錯誤」・「それはアナクロニズムだ！」などと使う。「おまえは生きた化石か？」とでも言いたいときだ。*ana*は「上に」の意だが、「遡って・逆らって」の意味もある。see⇒*ana / ismos*)

(2) **kratia** = κ ρ α τ ι α [クラティア] <希> = rule 「支配」

**democracy** (「民主主義・民主制」・*demo* = *demos* = δ η μ ο ς [デーモス] <希> 「民衆」・民衆が支配するから。「民主主義」という訳語は誤訳である。「主義・主張」ではなく「制度・システム」だ。故に「民主制」が正しい。「主義・主張」単語を分解してみれば、単に「民衆が支配する」という意味しか*democracy*にはない。イギリスの宰相「ウインストン・チャーチル」も言っている。「民主制は最悪のシステムである。我々が過去に採用した他のあらゆるシステムを除いては・・・」と。つまり「ひどい制度だが、他の制度よりはマシ・・・」と言っているのだ。流石にイギリスは「議会制民主制」発祥の地だ。実に鋭い。ただし以下「民主主義」の呼称も併記するが・・・。see⇒*autos / demos / mens*) / **democratic** (「民主主義の・民主制の」 see⇒*demos*) / **democrat** (「民主主義(擁護)者」・またアメリカでは「民主党员」という意味もある。反対は*republican*「共和党员」だが、ここで面白いエピソードがある。第40代大統領「ロナルド・レーガン」が狙撃されたことがある。病院に搬送されたレーガンは急遽手術を受けることとなった。レーガンは医師団に尋ねた。「君たちは民主党员じゃないだろうね？」と。レーガンは無論「共和党」だ。ライバルの民主党员にオベなどされては命が危うい・・・という、無論「ジョーク」だ。医師団もさるもの。すぐにこう切り返した。「我々は今日1日だけは共和党员です！大統領！・・・と。どんなに絶望が支配するときでも、彼ら欧米人はユーモアを忘れない。背景に「キリスト教」への信仰があることは言うまでもない。see⇒*demos*) / **aristocracy** (「貴族政治」・さらに遡れば *aristhos* = α γ ι σ θ ο ς [アリストス]は *agathos* = α γ α θ ο ς [アガトス] = great の最上級で the greatest の意。「血筋」・「能力」・「勇気」といった、人間として尊敬すべきすべての資質を兼ね備えた状態を形用する言葉だ。名探偵「エルキュール・ポアロ」が登場する「オリエント急行殺人事件」などの推理小説で有名な作家「アガサ・クリスティ」が、この「アガトス」だ。古代ギリシャ最大の哲学者にして「アレクサンドロス大王」の家庭教師でもあった「アリストテレス < Α ρ ι σ τ ο τ ε λ η ς >」は、「最高の目的」という意味だ。see⇒*tele*) / **aristocrat** (「貴族」) / **theocracy** (「神聖政治」・*theos* = god・「神が支配する政治」の意。see⇒*theos / autos*) / **plutocracy** (「金権政治」・*plutos* = π λ ο υ τ ο ς [プルートス]はギリシャ語の *wealth*「富」だ。see⇒*fluo*) / **bureaucracy** (「官僚・官僚主義」[ビューロクラシー] see⇒*fides*) / **autocratic** (「専制政治の」 see⇒*autos*) / **meritocracy** (「英才教育」・「長所をさらに伸ばそう」ということだ。see⇒*Mercurius*)

(3) **kybernao** = κ υ β ε ρ ν α ω [キユベルナオー] = steer 「(船乗りが) 舵を取る」・ギリシャ語の *k* がラテン語に入って *c* になった。従って *kyber* = *cyber*「サイバー」となる。「サイバー空間」や「サイバー攻撃」の「サイバー」だ。またついでに *steer* について書く。読み方は[スティア]。steering wheel などと使う。「舵を取る車輪」で早い話が「ハンドル」のこと。*handle* では通じないので念のため。こちらは「対処する・取り扱う」という意味だ。

**cyborg** (「サイボーグ」・*cybernetic organism*[サイバネティック・オーガニズム]の略。*cybernetic*は「人工頭脳(自分で自分を制御できる)」の意。石森章太郎の漫画「サイボーグ009」でお馴染みの単語だ。see⇒*energeia*) / **govern** (「支配する」・[キュベル] ⇒ [ガベル] となった。) / **government** (「政府」)

(4) **kyklos** = κ υ κ λ ο ς [キユクロス] <希> = cycle 「丸い」・ラテン語では *circus* [キルクス] となる。

**circ 関係** **circle** (「円」 see⇒*culum*) / **circular** (「円形の」) / **circuit** (「回路・サーキット」 see⇒*it = eo = go / see⇒eo*) / **encircle** (「円で囲む」・*en*で動詞化。see⇒*en*) / **semicircle** (「半円」 *semi = hemi = half* だ。see⇒*semi*) / **circulate** (「循環する」) / **circumference** (「円周」 see⇒*fero*) / **circumstance** (「環境」・「周囲の状態」が原義。stance = state「状態」だ。see⇒*sto / -ans*) / **circus** (「サーカス・円形闘技場」・まんま・・・だ。古代ローマ史で「パンとサーカス」というのが出てくる。「失業者対策」として国家が行ったものだ。無論「皇帝」に牙をむかないようにするための政策である。「パン」は「食の保障」だが、「サーカス」とは？無論古代ローマに中国のような「曲芸団」がいたわけではない。これは「円形闘技場」すなわち「格闘技イベント」のことだ。「人(剣闘士)と人(剣闘士)」とを、あるいは「人(キリスト教徒)と猛獣(ライオン)」を戦わせ、それを市民が見て熱狂するのだ。これによって日々の不満(仕事がない・・・など)が吹き飛んでしまうわけだ。敗れた方には当然「死」が待っている。ローマ市民を戦わせるわけにはいかないから、隣国との戦争で捕虜にした奴隷同士を戦わせるわけだ。これに「切れた」奴隷が反乱を起こしたのが、「カーク・ダグラス」主演で映画にもなった有名な「スパルタカス」だ。尚、陸上競技の「トラック」のような形をした競技場は、「キルクス」に対して「スタディオン < *stadion* >」と呼んだ。*stadium*[ステイディアム]の語源となった言葉だ。「スタジアム」の起源については see⇒*sto*)

**cycl 関係** **cycle** (「周期」) / **cycling** (「サイクリング」) / **cyclone** (「サイクロン」・インド洋版「台風」のこと。北米では *hurricane*「ハリケ

ーン。日本では「台風」と呼ぶ。台風は *typhon* [テュフォン] に由来し、古代ギリシャ神話の怪物のことだ。see⇒*cosmos* ) / *encyclopedia* (「百科事典」・「丸ごと<cyclo>教え<pedia>ちやいます」の意。詳しくは see⇒*pes/en* ) / *cyclotron* (「サイクロトロン」・荷電粒子を加速する装置。加速した粒子を別の粒子に衝突させて、さまざまなデータを取る。大型のものは一周 27km にも及ぶ。円形をしているのでこの名がある。) / *bicycle* (「自転車」・「2つ<bi>の輪」が原義。see⇒*tri/bi/pes* ) / *tricycle* (「三輪車」[トライセー] see⇒*tri* )

その他) *search* (「捜す」・c が s に変わっているので筆者も長い間気づかなかったが、[サーチ]と[サークル]で音はそのまま残っている。「捜す」ことは「周囲を見まわす」ことだ。) / *research* (「調査・研究する」・「何度も<re>見まわす」の意。see⇒*re* ) / *cylinder* (「シリンダー・円筒」)

(5) *kynikos* = κ υ ν ι κ ο ς [キユニコス] <希> 「犬のような・犬儒(けんじゆ) 学派の」

*cynical* (「皮肉な」・「シニカルな表現」) で日本語になっている。「犬儒学派」とは、古代ギリシャ語の「世の中のすべてを斜に構えて見る」一派だ。「先生、何か望みはありませんか？」と表敬訪問してきた天下の「アレクサンドロス大王」に向かって、「そこどいてくれ。日が当たらない！」と言つてのけた哲学者「ディオゲネス<*Diogenes*>」が有名だ。see⇒*deus/genus* ) / *cynicism* ([スイニスイズム] 「皮肉」 see⇒*ismos* ) / 一方ラテン語では「犬」は *canis* [ケニス] と言う。*Canis Major* [ケニス・メイジャー] は「おおいぬ座」。*Canis Minor* [ケニス・マイナー] は「こいぬ座」。形容詞は英語にも入ってきており *canine* [ケイナイン] という珍しい読み方だ。もじって K9 などと書く人もいるやに聞く。*canine tooth* で「犬歯」だ。/ *canary* (「カナリア」[カナリー]・無論「鳥」の「カナリア」だ。モロッコ沖にあり、失われた幻の大陸「アトランティス」の一部ではないかと言われる *Canary Islands* 「カナリア諸島」だが、もともと「犬」の多い島だった。そこでその島に住む「鳥」まで「犬」に因んだ名前前で呼ばれるようになったのだ。先日急死された「大瀧詠一」氏の「カナリア諸島にて」という曲もあった。いい曲だ。) / *Arctic* (「北極の」・「おおいぬ座」と「こいぬ座」が登場したので、「星座繋がり」で「おおぐま座」と「こぐま座」もここに載せた。*arctic* の語源は *arktos* = α ρ κ τ ο ς [アルクトス] <希> で north 「北」の意。またこの単語には「罌(ヒグマ)」の意味もある。*Arktos* と大文字で書けば「おおぐま座」、すなわち「北斗七星」となる。ラテン語では *Ursa Major* [ウルサ・マイオール] だ。「こぐま座」は *Ursa Minor* [ウルサ・ミノール] となる。英語でも読み方が変わるだけで、そのまま使える。因みに「北斗七星」は「おおぐま座」が有名だが、「こぐま座」も「北斗七星」である。尻尾の先端が「北極星<*Pole Star / Polaris*>」に当たる。もっともこちらは都会では肉眼で見ることがほとんどできないが。尚、劇画「タイガー・マスク」に「ウルサス・アポロン」という、熊そっくりの風貌のプロレスラーが登場する。アポロン兄弟の弟で、反則やり放題の無法者・・・というキャラ設定だ。一方兄の「スター・アポロン」の方は気障(きざ)な二枚目。2000 種類の技を使いこなす「正統派プロレスラー」だ。無論兄の方が「強敵」である。二人で別名「南米血まみれの星」と称した。/ *Antarctic* (「南極の」・「北極<*arctic*>」に *anti* 「反～」がついたことは、読者諸君なら先刻ご承知だろう。see⇒*anti* )



(1) *labor* - *laboris* [ラボール・ラボリス] <羅> = work 「労働」 / suffering 「苦痛」

*labor* (「労働」・まんま・・・だ。) / *laboratory* (「研究所」・所謂「ラボ」だ。) / *elaborate* (「念入りな」[イラポリットウ]・「苦勞して働き、作り出す<e = ex>」だ。see⇒*ex* ) / *collaboration* (「共同作業」・co = *cum* = with 「一緒に」。世に言う「コラボ」がこの「コラボレーション」だ。see⇒*cum* ) / *laborious* (「骨の折れる・大変な」 see⇒*osus* )

(2) *lacio* - *lacione* [ラキオー・ラケレ] <羅> = lure 「おびきよせる・ルアー」・ついでに *lure* という単語も解説しておく。「釣り」に使う「疑似餌(ぎじえ)」のことだ。小魚などの形をしたものを浮かせることで、魚に食いつかせるのだ。*allicio* - *allicere* - *allexi* - *allectus* [アツリキオー・アツリケレ・アツレクスイー・アツレクトウス] も「ひきつける<*attract*>」だ。

*delicate* (「繊細な」・発音・アクセントは[デリカトゥ]。[デリケート]ではない。「ケント・デリカット」という外人タレントがかつていた。筆者はそれで覚えると生徒に教えていたが・・・。de は「強調」。see⇒*de* ) / *delicacy* (「優美さ・繊細さ」[デリカスイー]・「デリカシーの無い奴だ！」などと言う。) / *delicious* (「おいしい」 see⇒*osus* ) / *delicatessen* (「お惣菜」[デリカテッセン]・所謂「デリカ」だ。ssen を取ると、もろに *delicate* が現れる。筆者は最初「有刺鉄線かよ！」と思った。) / *delight* (「喜び」)

(3) *lapsus* - *lapsus* [ラプスス・ラプスス] <羅> = lapse 「時の経過」 / slip 「滑る」

*collapse* (「崩壊する」・同じ「崩壊」でも「地すべり」を連想すればいいだろう。co = *cum* = with / see⇒*cum* ) / *collapsion* (「崩壊」・*corruption* 「汚職」と区別。see⇒*rumpo* ) / *elapse* (「時が経過する」・e = ex 「外へ」。see⇒*ex* )

(4) *latus* [ラートウス] <羅> 「運ばれた」 *fero* 「運ぶ」の「完了分詞(過去分詞)」・英語の動詞では～late となるものが多いが、この *latus* が語源である。さらに言ってしまうと～ate という動詞の語尾も、ラテン語の「完了分詞(過去分詞)」の典型的な活用語尾である・*atus* [アートウス] に由来するものだ。例えば *amo* - *amare* [アモー・アマー] 「愛する」の過去分詞「愛される」は *amatus* [アマートウス] となる。

*translate* (「翻訳する」・言語を *trans* 「越えて」意味を運ばれたもの。see⇒*trans/fero* ) / *translation* (「翻訳」) / *relate* (「関係させる」・物語る)・「何度も<re>運んでこられる・・・」が原義。何度も運んでくれば話題になる。また関係性もできる。be related to ～「～に関係している」の前置詞に注意。ついつい with を使ってしまうが to だ。see⇒*re* ) / *relation* (「関係」) / *relative* (「相対的な」・「相対的な」とは「相手との関係によって左右される」こと。反対語は「相手によって左右されない」で *absolute* 「絶対的な」 see⇒*laxo/ab* となる。通信簿も大学入試も「相対評価」だ。いくらあなたが 99 点取っても、周りがみんな 100 点だったらあなたは落ちるのだ。縁起でもない例で申し訳ないが・・・。また文法用語で「関係を示す」という形容詞もある。受験生諸君を悩ませてやまない「関係代名詞」は *relative pronoun* だ。) /

relativity (「相対性・相関性」・アインシュタインの「相対性理論」は theory of relativity だ。「特殊相対性理論<special theory of relativity>」と「一般相対性理論<general theory of relativity>」がある。もっとも筆者はこの「相対論」には懐疑的だ。理由は簡単。そもそも「時の流れ」など「ない」からだ。仏教もこの説を取っている。) / **delay** (「遅れさせる」・目的地から離れた<de>ところに運ばれたら遅刻してしまう。see⇒**de**) / **bilateral** (「相互の」・biから「2つ」のことだとわかる。lateralは **latus**だから「二人の間で運ばれる・・・」が原義。see⇒**bi**) / **legislate** (「法律化する」 see⇒**lex**) / **superlative** (「最上級」 see⇒**pono / superus**)

(5) **laudo** - **laudare** - **laudavi** - **laudatus** [ラウドー・ラウダーレ・ラウダーウィー・ラウダートゥス] <羅> = praise 「ほめる」

**applause** (「拍手喝采」・「～に対して<ap=ad>賞賛を送る」の意。see⇒**ad**) / **applaud** (「拍手する」) / **laud** (「賞賛する」) / **allow** (「許す」・「素晴らしい」から「大目にて」やろう・・・というわけだ。その証拠に発音ももろに[アラウ]だ。al=ad / see⇒**ad** **arrow** 「矢」と発音を区別すること。こちらは[アロウ]だ。) / **allowance** (「認めること」・またこの単語には「お小遣い」という意味もある。また **make allowances for** ~ 「～を大目に見る」は必須熟語。) / **explode** (「爆発する」・この由来がどうもはっきりしない。「拍手喝采して役者を舞台から追い出す<ex>」ところから来ているというのだが・・・。「ラウド」⇒「ロウドウ」となったらいい。確かに拍手は爆竹が破裂したような音がするが・・・。see⇒**ex**) / **plausible** (「もつともらしい」・説明が「納得のゆくものだ!」とほめられたことから・・・)

(6) **lavo** - **lavare** - **lavi** - **lautum** [ラウオー・ラウアーレ・ラーウィー・ラウアートゥス] <羅> = wash away / bathe 「洗い流す」・lau / lu / lo にも注意。

**lavatory** (「トイレ」・laboratory「研究室」と読み間違えないこと。) / **lava** (「溶岩」・一方 **larva** となると「幼虫」の意味になるから注意。複数形は **larvae**[ラーヴィー]となる。「ラテン語の第1曲用(格変化)名詞」がそのまま英語に入っている。) / **lavish** (「贅沢な」・lavaは「溶岩」だが、ラテン語まで遡ると「温泉・お湯」であったとわかる。lavatory「トイレ」はここから来た。古代ローマはすべて「水洗トイレ」だ。また「湯水のように使う」ということからこの意味がある。「テルマエ・ロマエ」の例を引くまでもなく、日本人と古代ローマ人はともに「お風呂好き」であり、「火山国」であることを忘れてはいけない。) / **laundry** (「洗濯」・「コイン・ランドリー」の「ランドリー」だ。発音は[ローン]ドリー]で覚えておけばいい。) / **deluge** (「洪水」・see⇒**de** **Deluge** と大文字で書くと「ノアの大洪水」となる。deは流れ去ること。) / **lotion** (「ローション・化粧水」)

(7) **laxo** - **laxare** - **laxavi** - **laxatus** [ラクソー・ラクサーレ・ラクサーウィー・ラクサートゥス] <羅> = loosen / destroy 「緩めてばらばらに破壊すること」・またギリシャ語まで遡ればこれが **lyo**=λ υ ω [リュオー]となる。analyze「分析する」などはこちらに近い。ly / lu / lv も注意。

**a-d-p)** **analyze / analyse** (「分析する」・「宇宙戦艦ヤマト」に「アナライザー」というロボットも登場する。筆者は高校時代、これで覚えた。see⇒**ana**) / **analysis** (「分析」 see⇒**ana**) / **absolute** (「絶対的な」・「離れて<ab>緩められる」から、「何物にも制約されない」⇒「絶対的な」となった。see⇒**latus / ab**) / **absolutely** (「絶対的に」) / **dissolve** (「溶解させる」・こちらは solve を参照のこと。) / **dissolution** (「溶解」・disは「分離」だから「バラバラにすること」だ。see⇒**dis**) / **psychoanalysis** (「精神分析学」 see⇒**psyche**) / **paralyse** (「麻痺させる」 see⇒**para**)

**r-s)** **relax** (「リラックスさせる」・くつろがせる」・reは「再び」。 see⇒**re**) / **relaxed** (「リラックスした」) / **relaxation** (「緩和・骨休め」) / **release** (「解放する」・販売・放出」・「再び<re>緩める」が原義。「CDがリリースされた」という、あの「リリース」だ。see⇒**re**) / **relish** (「香り・風味」・release「放出する」から「香り」が生まれた。) / **resolve** (「解決する」・決心する」・reは「強意」。solveは「(数学などの)客観的な問題を解く」ことで resolve は「(人生の悩みなどの)主観的な問題に決着をつけること」だ。ゆえに resolve には「決心する」の意味もある。see⇒**re**) / **resolution** (「決心・分解・溶解」) / **slacks** (「スラックス」・スラックスをはけばリラックスできる。) / **solve** (「解く」・「自分自身<so = se>を解きほぐす」が原義。se [ゼ]については suicide 参照。see⇒**cado**) / **solution** (「解決策」)

(8) **lego**① - **legare** - **legavi** - **legatus** [レーゴー・レーガーレ・レーガーウィー・レーガートゥス] <羅> = send on a public mission 「(使節を)派遣する」・(9)の **lego** と「一人称・単数・現在形・直接法」はまったく形が同じになってしまうので、**legare / legere** と「原形」で区別して欲しい。もっとも(8)は派生語の数は少ないゆえ、(9)だけ覚えても差し支えない。

**delegate** (「代表・使節」・「de「離れて」送る」の意。see⇒**de**) / **delegation** (「代表派遣」) / **legacy** (「遺産」・「祖先からの贈り物」だ。)

(9) **lego**② - **legere** - **legi** - **lectus** [レゴー・レグレ・レーギー・レクトゥス] <羅> = read / choose / collect ・(8)の **lego - legare** と似ているが別の単語。こちらの方が派生語は圧倒的に多い。「①文字を集め、②選別して、③読む」というところからきた。キリスト教の教会で神父が人々に聖書を読んできかせたことに起源がある。無論日本と違って当時のヨーロッパの人々に **literacy**[リーテラシー]「読み書き能力」はまだない。またギリシャ語でも **lego**=λ ε γ ω [レゴー]だ。こちらは「話す」の意味でもっぱら用いられる。この動詞の名詞形が **logos**=λ ο γ ο ς [ロゴス]「言葉」だ。see⇒**logos** leg / lect / lig / lict / lit に注意。

**c-d)** **collect** (「集める」・すべて<co>集める。see⇒**cum / rex**) / **collective** (「集団の」) / **college** (「大学」・みんな<co>を集めて講義をきかせること。see⇒**cum / cor**) / **dialect** (「方言」・その地方の人々の間<dia>で話される言葉。see⇒**dia**) / **diligent** (「勤勉な」・せっせと選り分ける<di>こと。see⇒**dis**) / **diligence** (「勤勉さ」 see⇒**ans**)

**e)** **elect** (「(選挙などで)選ぶ」・e=ex「(選び)抜く」だ。また **erect**「建てる」と間違えないように。see⇒**ex / rex**) / **election** (「選挙」) / **elegant** (「優雅な」・選び抜かれ<ex>たもの。see⇒**ex**) / **eligible** (「資格のある」・選び抜かれた<e = ex>人・・・という意味だ。see⇒**ex**) / **elite** (「エリート」・選び抜かれた人々。発音は[エイリ]トゥ)

**i)** **illegible** (「読みにくい」・判別不能の」・ilは反対語。see⇒**in**②) / **intellect** (「知性」・善と悪の間<inter>の相違を見分ける(選別する))

力のこと。see⇒**inter**) / **intellectual** (「知性の・理知的な」 see⇒**inter**) / **intelligent** (「知能の高い」・「必要な物を選別できる能力」だ。intellect は「理知的な」で人間にしかわないが、intelligent は知能が高ければお猿さんや犬、宇宙人までさまざまな生き物に使える。知能が高くてロクでもない輩も多い。see⇒**inter/-ans**) / **intelligence** (「知能」・またこの単語には「諜報能力・諜報機関」の意味もある。アメリカの CIA は有名だが、この I が Intelligence だ。see⇒**inter/ago**)

**l)** **lecture** (「講義」・文字通り読み聞かせるもの。) / **lesson** (「レッスン」・「レクトゥス」⇒「レス」とでもなったのだろうか?) / **lexicon** (「辞書」・特にラテン語・ギリシャ語・ヘブライ語・アラビア語の辞書を言う。see⇒**dico**) / **legend** (「伝説」・「説」だから説いてきかせる。。) / **legion** (「軍隊・軍団」・兵士を集めたもの。要するに「徴兵」だ。また「ガメラ VS レギオン」という映画もあった。体長 3メートルと小ぶりだが、おびただしい数のレギオンがガメラに襲いかかる。もっともマザー・レギオンという親玉がいるのだが、こちらは何と体長 140メートル。。という設定だ。)

**n)** **neglect** (「無視する」・集めそこなう<ne>。。が起源。**ne** [ネー]はラテン語の「否定」。ギリシャ語でも **ne** = ν η [ネー]として登場する。用例は余り多くはないが。。。see⇒**nego/cogito**)

**r-s)** **recollect** (「思い出す」・思い出を再び<re>拾い集めること。see⇒**re**) / **religion** (「宗教」・「経典を読んで聞かせる」から。また **longus** 「長い」に由来するとの説もある。see⇒**longus/re**) / **select** (「選ぶ」・se は「隔離」。see⇒**seco**) / **selection** (「選択・選ばれたもの」・「チャールズ・ダーウィン」の「進化論」で言う「自然淘汰」が **natural selection** だ。環境の変化に適応できた種だけが生き延びてきた。。という、アレである。)

**(10)** **levis**・**levis**・**leve** [レヴィス・レヴィス・レヴェ] <綴> = light・「軽くて浮き上がる」が原義。

**elevate** (「持ち上げる・高める」・「外へ<e>ex</e>持ち上げる」の意。see⇒**ex** 「エレベーター<elevator>」 see⇒**scando** の「エレベイト」だ。一方「エスカレーター」は scando で climb の意だ。両方ともアクセント頻出だから注意すること。コツは「日本語になっている英単語は、日本語と逆の場所にアクセントを置く」ことだ。試験とは「落とすために行う」ものだというは、努努(ゆめゆめ)忘れてはならない。) / **relevant** (「関係のある」・何度も<re>話題に上ってくるものだからだ。see⇒**re/-ans**) / **relevance** (「関係」) / **irrelevant** (「無関係の」・ir = in で反対語。see⇒**in@/-ans**) / **irrelevance** (「無関係」) / **Levant** (「レバント」・ギリシャ沖の地名。「レバント海戦<1571>」で世界史では有名。「ローマ教皇・スペイン・ヴェネチア連合軍」が「オスマン・トルコ海軍」を破った戦いだ。「レバント」は日の昇るところ。。の意だ。また中東に「レバノン<Lebanon>」 see⇒**albus** という国があるが、これはレバントとは無関係。「アラム語」で「白い土地」という意味だ。「断崖が石灰岩で白くなっているからだ。。」とも「レバノン山脈に夏でも降り積もっている雪」が語源だ。。とも。どちらも「白」ということで決着がつくのだが。。。アラム語とはアラム人の言語で、ヘブライ語と同系統の言語であると言われる。「新バビロニア」・「アケメネス朝・ペルシャ」・「アッシリア」など、当時の中東一体で広く公用語として用いられた。イエスはヘブライ語ではなくこのアラム語を話していた。。とされる。またアラブ諸国ではミルク・ティーを「シャイ・ビ・ラバン」と言う。文字通り「白いお茶」という意味で、学生時代に地中海地方をよく旅した筆者には、忘れられない単語となった。[シャイ]⇒[チャイ]⇒[茶]となった。) / **lever** (「レバー」・「てこの原理」で物を持ち上げるから。) / **relief** (「安心」・「再び<re>持ち上げる」の意。気分が軽くなる。野球で言う「リリーフ・ピッチャー」がこれだ。打ち込まれた投手はこれで一安心。。とマウンドを降りられる。また「浮彫」の「レリーフ」もこの relief だ。辞書によっては別の単語のように扱われているが、同じ語源である。「レヴ」⇒「レフ」⇒「リーフ」とつながる。see⇒**re**) / **relieve** (「安心させる・苦痛を和らげる」)

**(11)** **lex**・**legis** [レックス・レーギス] <綴> = law 「法律」

古代ローマでは法律に、それを成立させた人物の名を残した。**Lex Julia** 「レックス・ユリア」とくれば、制定者は「ユリウス・カエサル」だ。「ユリア」は「ユリウス」の女性形だが、**Lex** が「女性名詞」だからそれに呼応して「ユリウス」が「ユリア」となっている。このようにラテン語・ギリシャ語では、名詞に性別(男性・女性・中性)があり、それに呼応して形容詞も「男性」・「女性」・「中性」と変化させなくてはならない。また **rex** 「王」と似ているので区別。see⇒**rex**

**legislate** (「法律化する」 see⇒**latus**) / **legislative** (「立法の」) / **legislation** (「法律・立法(法制化すること)」) / **legal** (「合法的な」・「リーガル・ハイ」などというドラマもあった。**regal** と区別。see⇒**rex**) / **illegal** (「違法な」 il は反対語 see⇒**in@**) / **loyal** (「忠実な」・法律に忠実な。。から来ている。leg = log = loy だ。**royal** と区別。see⇒**rex**) / **loyalty** (「忠誠・忠実」・**royalty** と区別。see⇒**rex**) / **legitimate** (「正統な」) / **legitimacy** (「正統性」・「今の政権にはレジティマシーがない」などと日本語でもよく使われる。その典型が「豊臣政権」だろう。大恩ある主君・信長公の遺児たちを殺して天下を我が物にしたのだ。正統性などあったものではない。一方「織田」と「徳川」は同盟関係(織徳同盟)だったのだから、徳川政権は立派に「正統性」がある。) / **allege** (「(根拠もないのに)断言する」・「~に対して<ad>合法的<lex>であると主張する。。」より。see⇒**ad**) / **privilege** (「特権」[プ] ヴィリッジ)・**privus** = private 「私的な」だから「私的法律」だ。「俺様が法律！」というわけだ。一方車のプリウスは別語源。スペルは **prius** で、こちらは earlier / sooner / before。「先んじて。。」の意だ。確かに時代に先んじていた。最近では事故続きで「プリウス・ロケット」などと不名誉なネーミングまであるが。。。see⇒**privus**) / **law** (「法律」・ここからはかなり血縁が薄くなるが祖先は一つだ。law は lay 「横たえる」と同根で「置かれた物・定められた物」から来ている。lex も同じだ。この「定められた物=法律」という考え方は、ギリシャ語・ラテン語・英語に共通している。) / **lawyer** (「弁護士」) / **lawsuit** (「訴訟」・「法律が追いかけて<suat = sequor>くること」 see⇒**sequor**)

**(12)** **libra**・**librae** [リーブラ・リーブラエ] <綴> = balance 「天秤・はかり」・大文字で **Libra** と書けば、占星術の「てんびん座」を意味する。)

**deliberate** (「入念な」[デリバリットゥ]・念入りに重さを測る・・・から。deは「強調」 see⇒**de**) / **deliberately** (「入念に」) / **equilibrium** (「平衡・釣り合い」 see⇒**aequalis**) / また **pound**「ポンド(イギリスの通貨・重量単位)」[パウンド]は **Lib.**と表記するが、それもこの **libra** だ。金<gold>の重さを天秤で計測したところの名残りだ。ここで「重さ」のポンドをキログラムに換算する方法を教えよう。「半分にして一割引き」だ。因みに劇画「タイガーマスク」ではジャイアント馬場さんは 320 ポンドと紹介されている。そこでこの換算法を適応すれば  $320 \div 2 = 160 \Rightarrow 160 - 16 = 144\text{kg}$  となる。ところで筆者の **Zodiac** (黄道 12 宮) は「天秤座」である。折角星座の話になったついでに、その「黄道 12 宮」を確認しておこう。**Zodiac** はギリシャ語の **zoion** = ζ ω ι ο ν [ゾーイオン]に由来し、「動物」という意味だ。英語の **zoo**、すなわち **zoological garden**「動物園」も、この **zoion** に由来する。see⇒**zoion** 一方「植物園」は **botanical garden** と言う。**botany** は「植物学」だ。

さて 12 星座はすべてラテン語だ。英語読みのみ表記した。ラテン語は「ローマ字読み」でいいからだ。

<b>Aries</b> ( [エリーズ]「牡羊座」)	<b>Taurus</b> ( [トーラス]「牡牛座」)
<b>Gemini</b> ( [ジェミナイ]「双子座」)	<b>Cancer</b> ( [キャンサー]「蟹座」 see⇒ <b>capio</b> )
<b>Leo</b> ( [リーオウ]「獅子座」)	<b>Virgo</b> ( [ヴァーゴウ]「乙女座」)
<b>Libra</b> ( [リーブラ]「天秤座」)	<b>Scorpio</b> ( [スコルピオウ]「蠍座」)
<b>Sagittarius</b> ( [サジタリアス]「射手座」)	<b>Capricorn</b> ( [カプリコーン]「山羊座」 see⇒ <b>capio</b> )
<b>Aquarius</b> ( [アクエリアス]「水瓶座」 see⇒ <b>aqua</b> )	<b>Pisces</b> ( [パイスイーズ]「魚座」)

因みに **Sagitta - Sagittae** は「arrow (弓)」の意。また **Leo** はラテン語で、**Leon** = Λ ε ω ν [レオン]となればギリシャ語となる。

(13) **liber** - **libera** - **liberum** [リーベル・リーベラ・リーベルム] <羅> = free 「自由な」

**liberty** (「自由」) / **liberal** (「自由主義の・革新の」 see⇒**servo**) / **liberate** (「解放する」) / **liberalism** (「自由主義」 see⇒**ismos**) / **deliver** (「配達する・開放する」・**de**「離れて」解放する・・・の意。see⇒**de**) / **delivery** (「配達」・「ピザのデリバリー」で知らない人はなくなった単語。) / **liberal arts** (= **artes liberales** [アルテース・リベラレス]「教養科目」・古代ローマで「自由民」の学習する科目であることに由来する。自由民でない人々とは無論「奴隷」のことだ。see⇒**arma** 科目とは「文法」・「修辞学」・「論理学」・「幾何」・「算数」・「天文」・「音楽」の 7 科目。I.C.U. (国際基督教大学) の「教養学部」もこの「アルテース・リベラレス」だ。) / 余談ながら **library**「図書館」は無関係。こちらは **liber - libri** [リーベル・リブリー]で book「本」から来ている。主格がまったく同じ形をしているという、ややこしい例だ。あえて探せば leaf「葉」が親戚の語となるが、あまり縁者はいないようだ。

(14) **limen** - **liminis** [リーメン・リミニス] <羅> = threshold「敷居・鴨居・梁(はり)」・**limes - limitis** [リーメース・リーミティス] <羅> = boundary / frontier「境界線」・神社の鳥居を想像すればいい。左右に巨大な柱がありその上に大きな別の横木が渡してある。これが **limen** だ。また大きなお寺は門の敷居の石も巨大だから跨(また)がないと中に入れない。これも **limen** だ。これらから「荘厳な」という意味がでた。鳥居をくぐるときは荘厳な気持ちになるからだ。**limes** も同語源。古代ローマ帝国には「リメス防衛線」なるものがあつた。ドナウ川とライン川である。この 2 大大河を越えるとゲルマン民族、すなわち蛮族の領域とされた。この防衛ラインを死守することが帝国の存亡を分けたのだ。

**preliminary** (「予備の・準備の」・神殿に入る前<pre>には敷居の前で準備が必要だ。see⇒**pre**) / **eliminate** (「除去する」・穢(けが)れたものを神殿から外<e = ex>に追い出すこと。see⇒**ex**) / **sublime** (「厳粛な」・神殿の下<sub>では厳粛な気持ち。see⇒**sub**) / **subliminal** (「潜在意識の」・鴨居の下<sub>にいと神と対話できる・・・と昔の人は信じていた。「サブリミナル効果」なるものも一時期話題になった。テレビ画像に 0.1 秒くらい、別の画像を差しはさむ・・・というものだ。無論視聴者は認識できないが、潜在意識化に確実に残る。それが視聴者の行動に影響を与える・・・という、こわい話である。) / **limit** (「限界」・境界線を越えて神に近づこうとしてはならない。「バベルの塔」になってしまう。) / **limitation** (「制限」・歴史で学習する有名な **SALT** は **Strategic Arms Limitation Talks**「戦略兵器制限交渉」。東西冷戦下で、米ソが互いの核兵器を削減しようとした話し合いのこと。)

(15) **lithos** = λ ι θ ο ς [リソス] = rock「岩」

**lithosphere** (「岩石圏・地殻」 see⇒**sphaira / monos**) / **paleolithic** (「旧石器時代の」 see⇒**paleos**) / **neolithic** (「新石器時代の」 see⇒**nova / paleos**) / **mesolithic** (「中石器時代の」 see⇒**philos / paleos**) / **megalith** (「巨石」 see⇒**magnus / monos**) / **lithograph** (「リトグラフ・石版画」 see⇒**grapho / monos**) / **monolith** (「一枚岩」 see⇒**monos**)

(16) **littera** - **litterae** [リッテラ・リッテラエ] <羅> = letter of the alphabet・「(アルファベットの)文字」・アルファベットなどの「表音文字」を言う。一方「漢字」などの「表意文字」は「キャラクター<character>」だ。see⇒**sono** **Chinese character** で「漢字」となる see⇒**sono**

**literature** (「文学」) / **literate** (「読み書き能力のある」・発音は[リータリットゥ]) / **illiterate** (「文盲(もんもう)の～・読み書きのできない」・これは差別用語としてマスコミから抹殺された言葉だが敢て使う。言葉を抹殺しても差別はなくなるからだ。発音は[イリータリットゥ]だ。see⇒**in**) / **literacy** (「読み書き能力」・「メディア・リテラシー」という言葉がある。「マスコミの嘘を見分ける能力」だ。因みに筆者は新聞をまったく読まない。あまりに嘘が多いからだ。「スポンサーの悪口は記事にできない」という事情は確かに理解できるが・・・) / **literary** (「文学の」) / **literal** (「文字通りの」) / **literally** (「文字通りに」)

(17) **locus** - **loci** - **loco** - **locum** - **loco** [ロクス・ロキー・ロコー・ロクム・ロコー] <羅> = place「場所」

**locate** (「位置させる・置く」[ロウケイトゥ]・be located in ~で「～に位置している」となる。) / **local** (「その土地の」・「田舎の」という

意味はないから注意。) / **collocate** (「(一定の順序に) 配列・配置する」・「コロケーション英単語」などという単語集もあったが・・・。一緒<co>にまとめる・・・の意。see⇒**cum**) / **location** (「場所」・映画の「ロケ」もこの location だ。「撮影場所」のこと。スタジオや屋内での撮影に対して、屋外や自然の風景の中で行う時使われる。) / **allocate** (「(土地などを) 割り当てる・分配する」・「～の方向<al=ad>に配置する」の意。see⇒**ad**) / **locomotion** (「運動・移動」・1960年代のヒット曲で The Locomotion というのもあった。「Come on, come on, do the locomotion with me ♪♪」と歌うやつである。筆者が小学校のころのヒット曲で、手で機関車の車輪の真似をしながら歌う。see⇒**moveo**) / **locomotive** (「機関車・移動力のある」・世に言う **S.L.**は steam locomotive「蒸気機関車」の略だ。機関車に乗っていれば居場所<loco>が移動<mot=move>できる・・・からだ。see⇒**moveo**)

**(18) logos** = λ ο γ ο ς [ロゴス] <羅>= word「言葉」・新約聖書・「ヨハネによる福音書」に「初めに言葉があった。言葉は神とともにあった。言葉は神であった。」とある。言葉(ロゴス)は実にありふれた単語なのだ。しかしそれゆえ奥が深く、さまざまな意味が生まれた。最も分析に困った単語である。事実ギリシャ語辞典を紐解くと、**logos**には他にも「論理」・「比例」・「割合」など、さまざまな意味が掲載されている。「言葉」⇒「論理」⇒「推論」⇒「類推」⇒「類似(わからない物があれば、似たような物についてまず考える)」⇒「比例(似かよった2つのものを連動させる)」⇒「割合」となった。また「学問」には～logyと必ずつくが、それもこの **logos**だ。**lego**=λ ε γ ω [レゴ]となると「話す」と動詞になる。これがラテン語の **lego**・**legere**になった。see⇒**lego**②

とりあえずは「学問」の名前となっているものを列挙する。**anthropology** (「人類学」 see⇒**anthropos**) / **archaeology** (「考古学」 see⇒**archaios**) / **astrology** (「占星術」 see⇒**astron**) / **biology** (「生物学」 see⇒**bios**) / **ecology** (「生態学」 see⇒**oikos**) / **geology** (「地質学」 see⇒**ge**) / **mythology** (「神話学」・ギリシャ語の **mythos**=μ υ θ ο ς [ミュソス]「神話」に由来する。**myth**で「神話・作り話」となる。**logos**「言葉・論理」の対立概念を表す言葉だった関係上こちらに載せた。**logos**なら相手を納得させられるが、**mythos**ではそれはできない。) / **meteorology** (「気象学」 see⇒**meta**) / **pathology** (「病理学」 see⇒**pathos**) / **physiology** (「生理学」⇒**physikos**) / **psychology** (「心理学」・**psychē**[プシケー]=φ υ χ ηは「精神・魂」だ。see⇒**psyche**) / **sociology** (「社会学」 see⇒**socio**) / **technology** (「科学技術」 see⇒**tango**) / **topology** (「地政学」 see⇒**claudo**) / **theology** (「神学」・see⇒**theos**) / **zoology** (「動物学」・zooに関しては see⇒**libra**) / 最後は「語源学」だ。**etymology**[エティモロジー]と読む。yが入っているからギリシャ語だと類推できると思うが **etymos**=ε τ υ μ ο ς [エテュモス]は「真の～・語の本当の意味」などという意がある。以上・・・。

**logic** (「論理」) / **logical** (「論理的な」・「スター・トレック」で「ミスター・スポック」の口癖が It's logical, Captain.「それが論理的です。カーク船長。」であった。バルカン星人は論理的な種族で、地球人のように決断に感情を差しはさむ種族を理解できない・・・という設定であったと記憶している。) / **logarithm** (「ロガリズム・ログ・対数」・高校数学で登場する log だ。「比率<logos>」と「数字<arithmos=α ρ ι θ μ ο ς>」からなる。**arithmos**は **arithmetic**「算数」の語源にもなった。) / **eulogize** (「良く<eu>言う」つまり「褒める」・発音は[ユーロジャイズ] see⇒**eu/ismos**) / **apologize** (「謝罪する」・謝罪は言葉ですもの・ap=ab=off だから「離れて」の意味。つまりは「言い逃れ」からきている。see⇒**ismos**) / **apology** (「謝罪」 see⇒**ab**) / **technology** (「科学技術」 see⇒**tango**) / **logo** (「標語・商号」・「ロゴ・マーク」の「ロゴ」だ。) / **monologue** (「独白」・一人<mono>で話すこと。see⇒**monos**) / **dialogue** (「会話」・人と人の間<dia>で話すもの。see⇒**dia**) / **analogue** (「似たもの・アナログ計算機の～」・see⇒**ana ana**は「～の上に」だから「～を基本として・もとにして」ほどの意味となるか・・・。英語の based on ～「～に基づいて」を連想すればよかろう。「他の物をもとに<ana>して語る<logos>」だ。「時計」を例に取ろう。時間は「連続」しているので数字では表せない。そこで「文字盤」という「図形(似た物)」を「もとにして<ana>」これを「表現した<logos>」のだ。これを「アナログ時計」と我々は呼んでいる。従って **ana**や **logos**だけをいくら分析してみても、「似た物」という意味は出てこないのだ。さて一般に「デジタル」と対比して使われる「アナログ」だが。数字で表示される「デジタル時計」が登場したため、それまでであった「針が動く時計」を「アナログ時計」と呼ぶようになった。あたかも「デジタル」が先進的であり「アナログ」が「時代遅れ」というイメージがあるが、そもそもアナログにそんな意味はない。ただコンピューターが「0と1」だけからできた「デジタル機器」なので、コンピューターの普及に伴いアナログが「いわれなき差別」を受けるようになったのだ。「デジタル<digital>(指の・デジタルの)」の語源 **digit**とはラテン語の **digitus** [ディギトゥス]を起源とし、「指」のこと。指は一本・二本とはっきりと数えられる。数学的に言えば、デジタルは「整数」でアナログは「実数」と言える。また英語で **countable noun**「数えられる名詞(可算名詞)=数」と **uncountable noun**「数えられない名詞(不可算名詞)=量」という区別があるが、これがちょうど「デジタル」と「アナログ」の違いと考えてもいい。) / **analogous** (「似ている・類似の」・発音は[アナログス]。see⇒**osus**) / **analogy** (「類推」・未知の物を、既知の物と似た物ではないか・・・として推測すること。) / **catalog(ue)** (「カタログ」・言葉<log>をすべて<cata>を選び集めた・・・が原義。see⇒**cata**)

**(19) longus**・longa・longum [ロングス・ロングガ・ロングム] <羅>= long「長い」。また **ligo**・**ligare**・**ligavi**・**ligatus** [リゴー・リガール・リガールウィー・リガートゥス] <羅>= to tie up「しばりつける」や **linquo**・**linquere**・**linqui** [リンクオー・リンクエレ・リークワイ] = leave alone「後に残す・放棄する・後悔の念が長く尾を引く」・こちらは **leipo**=λ ε ι π ω [レイポー]「残す・去ってゆく」というギリシャ語が語源で、これが英語に入っては leave になった。また **lingua** [リングア] = language なども親戚の単語。**Lingua Latina**で「ラテン語」となる。要するに、「長い」⇒「長い物で縛る」⇒「(感情などが)長くあとを引く」という流れだ。long / lang / leng / ling / lig / lic / leag / ly を目印として欲しい。

**long 関係** long for～ (「切望する」・日本語でも「首を長くして待つ」と言うではないか。) / **length** (「長さ」) / **longevity** (「長寿」・発音は [ロンジェヴィティ]) / **belong** (「所属する」・長いものには巻かれる・・・だ。be は名詞・形容詞に付いて動詞化する作用がある。belong to ～

「～に所属している」として使い、「状態動詞」だから「進行形にはならない」。正誤問題などで頻出だ！see⇒**be**）/ **belongings**（「所持品」・貴重品は肌身離さず・・・。新幹線のアナウンスでも使われているから注意して聞いてみること。） / **along**（「～に沿って」・川岸をとぼとぼ何キロも歩く様子を想像すればいい。get along with ～は「～とうまくやる・付き合う」だ。「～さんべったりだ・・・」などと日本語でも言う。また along with ～= together with ～（「～とともに」などは必須熟語だ。） / **oblong**（「長方形」・obは「（一方が）他方に対して」だから、「一辺がもう一辺に対して長い」ほどの意味になる。等距離なら **square**「正方形」だ。see⇒**ob**） / **longitude**（「経度」・発音は[ロンジチュードゥ]。一方「緯度」は **latitude** と言う。どっちがどっちか覚えにくいだろう。それにはその由来を頭に入れなくてはならない。longitudeの語源は無論 long。つまり「長さ」だ。latitude はラテン語の **latus** [ラートゥス] で wide「幅」である。では「メルカトル図法」の世界地図を見てほしい。経線と緯線が直角に交わっている地図で、学校の黒板の横に必ず架かっているやつだ。極地方が拡大されているから、アフリカなどは情けないほどに小さくなっている。経線と緯線に区切られた部分は完全な「長方形」となる。横を「長さ」とし、縦を「幅」としたわけだ。実はこれは筆者のオリジナル・アイデアだ。どこを検索しても経度と緯度の由来が載っていないので、仕方なく無い知恵絞って到達した結論である。何か情報をお持ちの方はご教授願いたい。因みに古代中国では「経」は縦糸で「緯」は横糸を意味した。合わせて「経緯（けいゐ）」と言う。「物事の経緯を説明せよ！」などと使う。）

**language 関係** **language**（「言語」・長い舌で話すから。） / **linguistic**（「言語学的な」） / **linguist**（「言語学者」） / **linguistics**（「言語学」・sで終わっているから学問名だとわかる。） / **bilingual**（「二か国語を話せる」 see⇒**bi** / **monos**） / **trilingual**（「三か国語べらべらの・・・」 see⇒**monos** / **tri**）

**rely/league/line/religion 関係** **rely**（「頼る」・reは「強調」。see⇒**re**） / **reliable**（「頼りになる」） / **reliance**（「依存・信頼」 see⇒**ans**） / **liable**（「～の傾向がある」・be liable to do という形で使う。） / **league**（「リーグ・連盟」・連盟に加入すれば縛られる。） / **colleague**（「同僚」 [コリーグ]・一緒<co>に縛られた仲間。see⇒**cum**） / **line**（「線」・線は長く引くもの。） / **linear**（「直線的な」・「リニア・モーターカー」の「リニア」だ。） / **linger**（「感情などが長く後をひく」） / **religion**（「宗教」・「長い物（規律）」で「巻かれる」から。確かに宗教は不自由だ。reは「再び」と「強調」の二通りの解釈があるようだ。「人と神を再び結びつける」でも「しっかりと結びつける」でも、この際覚えやすい方でいいだろう。とりあえず re の項では「強調」に載せた。また **lego** ②「選び・集めて・読む」に由来するという説もある。see⇒**re** / **lego** ②） / **religious**（「宗教上の・敬虔（けいけん）な・信心深い」 see⇒**osus**）

**その他** **ally**（「同盟を組ませる」） / **allied**（「同盟した」・同盟を結べば縛られる。「～に対して<ad>に縛られる」の意。see⇒**ad** the Allied Forces で「（第1次・第2次世界大戦の）連合国軍」となる。一方 the Axis は「（第2次世界大戦の）枢軸国（ドイツ・イタリア・日本など）」だ。**axis** は「軸」。the axis of the earth で「地軸」となる。複数形は axes だ。この単語にもある苦い思い出がある。イギリス留学中のことだ。授業を中断して少し気晴らしにゲームでもやろう・・・となった。いくつかのグループに分かれての対抗戦だ。「それじゃグループ名を決めてくれ。マサ！」先生のマイクが言った。たまたま日本人とドイツ人のグループだったので、「じゃあ俺たち Axis でいいや！」と言ってしまったのだ。無論ジョークのつもりだったが、いつも陽気な二枚目のマイクの顔が一瞬曇った。「しまった！」と思ったが「後の祭り」だ。数年前「今度はイタリア抜きでやろうぜ！」との「ビートたけし」氏の失言がマスコミに叩かれたが、たとえ冗談であろうとも、あちらに行ったら先の戦争を茶化すような発言はしてはならない。またドイツ国内で「ヒトラー」は禁句である。レストランで食事していたら一斉に周囲の客が振り向いて、射るような視線を浴びることとなる。ここでまた役に立つラテン語の諺を一つ教えよう。**Verbum semel emissum volat irrevocabile** [ヴェルブム・セメル・エミッスム・ウォラットゥ・イツレウオカービレ]「言葉たるもの、ひとたび発せられたが最後、翼もて飛び去り、二度と呼び戻すこと能わず。（ホラティウス）」だ。受験生諸君も発言には注意して欲しい。**verbum** は **verbum** / **emissum** は **mitto** / **volat** は **volleyball** を参照のこと。**semel**=once だ。）一方「斧（おの）」も **ax** で複数形が axes となるからややこしい。「アックス・ボンバー（斧の爆撃機?）」などという必殺技をもった「ハルク・ホーガン」というプロレスラーもいた。因みにボンバーは **bomber** と綴り、**bomb** [ボム]「爆弾」に er がついたものだ。**atomic bomb** [アトミック・ボム]「原爆」の **bomb** である。読み方は「ボンバー」ではなく「ボマー」だ。b は「サイレント（黙字）」である。「ユナ・ボマー」という爆弾魔もアメリカにいた。犯人はカリフォルニア大学の数学の助教授だそうである。Una は **University and Airline** から FBI がつけた「コードネーム（暗号）」だそう。大学やら航空機をターゲットにしたらしい。恐ろしい！ / **alignment**（「整列」） / **oblige**（「強制する・恩義を感じさせる」・発音は[オブライジ]。ポルトガル語の「オブリガード（有難う）」もこの be obliged「感謝している」だ。また筆者がイギリスにホーム・ステイしていたとき、landlady「ランドレディー（下宿屋のおばちゃん）」が「マサ！今夜テレビで日本の映画をやるのよ。一緒に見ない？」と言ってきた。「何て映画なんだい？」『ザ・ヤクザ』よ！。嫌な予感がした。今は亡き「高倉健」さん主演。「岸恵子」さん、「待田京介」氏などの豪華顔ぶれだ。この映画の中で、「義理」の英訳が **obligation** [オブリゲイション] だったが、内容は「案の定・・・」だった。健さんが日本刀を一閃、「バサッ！」。相手の腕が「ボン！」障子に鮮血が「バー！」だ。おばちゃん（といってもまだ若く、女優の「ブルック・シールズ」を彷彿とさせるような美人だった。ちょっと太めだったが・・・）は「オー・マイガー！」と頭をかかえて先に寝てしまった。ob は「～に対して」だから、「(何かに) 対して恩義に縛られる」だ。） / **relic**（「遺物」・後<re>に残されたもの。see⇒**re**） / **delinquency**（「犯罪・非行・不履行」・de は反対語。規則に縛られないこと。see⇒**de**） / **juvenile delinquency**（「少年非行」・juvenile については see⇒**altus** / **senior**） / 最後に諺をこれまた一つ・・・ **Vita Brevis Ars Longa** [ウィタ・ブレヴィス・アルス・ロンガ] だ。see⇒**brevis** / **arma** / **vivo** 古代ギリシャの医学の祖「ヒポクラテス」の言葉だと言われる。「人生は短く、芸術は長い」と訳されてきたが、これははっきり「誤訳」である。「学問（医学）の道は遠く険しく、それに比して人生はあまりにも短い」という意味で、「少年老いやすく、学なり難し」の意味だ。「光陰矢の如し」・「一寸の光陰軽んずべからず」・「メメント・モリ（常に死を思え） see

⇒**mors**」など、学生を鼓舞する諺の枚挙に暇がないことは、洋の東西を問わない。受験生諸君も肝に銘じてほしい。「勉強は死ぬまで続けるもの」だ。)/ **eclipse** (「(太陽・月などの) 食」・「後に残された物」の意。see⇒**ex/ballo** λ ε ι π ω = **leipo** [レイポー] = leave 「去る・後に残す」に由来する。言われてみれば、月食などまるで「食い残しのリンゴ」ではないか。リンゴの食い残しを外<ec = ex = out of>にポイだ。「日食」は **solar eclipse**。see⇒**sol** 「月食」は **lunar eclipse** となる。see⇒**lux** ) / **ellipse** (「楕円」・「(勢いが) 不足している」が原義。詳細は see⇒**ballo** )

(20) **loquor** - **loqui** - **loctus sum** [ロクオール・ロクイー・ロクトゥーススム] <羅> = speak 「話す」

**eloquent** (「雄弁な」・「外へ<e = ex>向けて力強く話す」が原義。see⇒**ex** ) / **eloquence** (「雄弁」see⇒**ans** ) / **eloquency** (「弁論術」) / **colloquial** (「口語の」・**co** は「一緒に」。友人と一緒に話すときは口語で・・・。see⇒**cum** )

(21) **ludo** - **ludere** - **lusi** - **lusus** [ルードー・ルーデレ・ルースイー・ルースス] <羅> = play 「遊ぶ」

**Homo ludens** (「ホモ・ルーデンス (遊ぶ人)」 see⇒**ans/homo** ) / **illusion** (「幻覚」・「光の遊び」が原義。il = in = on ・「～の上でもてあそばされる」の意。on はラテン語には存在せず、in が on / in 両方を兼ねていたことはすでに書いた。筆者は「～の中で」ではないかと思うのだが・・・。まあどっちでもいいか・・・。see⇒**in** ) / **prelude** (「序曲」・演奏が始まる前<pre>の遊びだ。see⇒**pre** ) / **delusion** (「錯覚・妄想」・いわゆる人を「もて遊ぶ」ことだ。人を下に見下しているから **de** だ。see⇒**de** )

(22) **lux** - **lucis** [ルクス・ルクニス] <羅> = light 「光」・似たような単語で **lumen** - **luminis** [ルーメン・ルールーミニス] <羅> 「光・あかり・ランプ」というものもある。luc は lum / lun / lus / lam / lic にもなった **lie** から **ligh** が生まれた。[リク]⇒[リグ(フ)]の変化だ。やがて **h** は「サイレント (黙字)」となった。character の **ch** は [ク]だが、**ch = x** だからもとは [ク(フ)]と読んでいたはずだ。やがて **h** は面倒だから読まれなくなった。**gh** の **h** もこれと同じである。light 「光」の誕生である。

**lux** (「ルクス (照度の単位)」・まんま・・・だ。) / **Lucifer** (「ルシファー・墮天使」・「光を運ぶ者」の意。see⇒**fero** もとは「光の天使・ルシフェル」と呼ばれた。天体としては「明けの明星」すなわち「金星」を指す。明るい時の金星の輝きは本当にすさまじい。まるで UFO でも滞空しているのではないかと思うほどだ。受験生諸君も一度注意して空を見上げて欲しい。時刻は「日没」か「日の出前」だ。「内惑星 (地球より太陽に近い軌道の惑星)」だから真夜中に見えることはない。因みに「エル」はヘブライ語で「神」を意味する。「イスラエル」・「ナサニエル」・「ガブリエル」・「ラファエル」・「ミカエル」などだ。ガブリエルやミカエルは大天使として有名だ。ルシフェルも大天使の一員だったが神に反逆して破れ、地上に投げ落とされたとされる。以来ルシファーと呼ばれるようになったという話だ。「それは俗説だ！」との見解もあるが、話としては面白い。) / **Luca** (「ルカ」・「新約聖書」全 27 巻は、「マタイ」・「マルコ」・「ルカ」・「ヨハネ」の四人の書いた「福音書」で始まるが、この「ルカによる福音書」を記述したのが「ルカ」である。尚、「聖路加 (せいろか) 病院」は「聖ルカ」の当て字だ。ルカは医者だったからである。したがって医師の「守護聖人」とされているわけだ。) / **luminous** (「光輝くような」・「佐藤ルミナ」という総合格闘家も昔いたが・・・。see⇒**osus** ) / **illuminate** (「明るくする・啓蒙する (無知な人間の目を開かせること)」・il = in = on で「上から照らす」の意。see⇒**in** ) **enlightenment** も「啓蒙・啓蒙運動」だ。「啓蒙思想」の「啓蒙」である。「啓蒙」とは「蒙 (暗い)」ものを「啓 (ひらく)」だ。「無知蒙昧」の「蒙」である。see⇒**en** ) / **light** (「明るい」) / **lighten** (「明るくする」) / **enlighten** (「啓蒙する」) / **lightning** (「稲妻」) / **illumination** (「照明・イルミネーション」) / **lucid** (「明快な・輝く・澄んだ」・「ルシード」。確か整髪料にもこんなのがあった。) / **Luna** (「月」・古代ローマの「月の女神」。) / **lunar** (「月の」) / **lunatic** (「気の狂った」・「月は人を狂わせる」という伝説が古代からある。実際、満月前後には殺人事件の件数が激増するという科学的データもあるらしい。要するに「狼男」だ。) / **lunar eclipse** (「月食」 see⇒**longus** ) / **illustrate** (「図で説明する・例をあげて説明する」。よくわかるように光をあてること。アクセントに注意。[イラストゥレイトゥ]だ。see⇒**in** ) / **illustration** (「イラスト・挿絵・説明・図」) / **lamp** (「あかり・ランプ」・これはれっきとしたギリシャ語起源。ギリシャ語では **lampas** = λ α μ π α ς [ラムパス] と言う。)

## M

(1) **magnus** - **magna** - **magnum** [マグヌス・マグナ・マグヌム] <羅> = big / great 「大きい」 / **magnus** ⇒ **major** [マイヨル] ⇒ **maximus** [マクシムス] で「原級」⇒「比較級」⇒「最上級」と変化する。may = maj の転換もよく見られる。j は [ヤ]・[ユ]・[ヨ] の音だったからだ。拳銃の「マグナム」もこれだ。葉莢 (やつきょう) に入れる火薬を「増量」してある。ギリシャ語ではこれが **megas** = μ ε γ α ς [メガス] となる。「メガトン級の～」・「メガバイト」・「メガホン」の「メガ」だ。**mikros** 「小さい・短い」では「長さ」の単位を紹介したが、**megas** では「重さ」などの単位を紹介しよう。これらは最後にまとめた。**macros** = μ α κ ρ ο ς [マクロス] も「長い・大きい」だが、こちらはあまり英語に用例がな。see⇒**mikros**

**mag 関係** **magician** (「魔法使い」には「魔力」があった。see⇒**voro** ) / **Magi** (「マギー・博士」・英語式に読めば [メイジャイ] となる。誕生したばかりの幼子「イエス」を訪れた「東方の三博士」のことだ。「3 人いたであろう・・・」という類推から **Magi** と複数形になっている。単数形は **Magus** [マグス] だ。**magician** 「魔法使い」の語源にもなった。see⇒**voro** ) / **magnetic** (「磁石の」・「磁力」だ。) / **magnitude** (「大きさ・規模」・地震で言う「マグニチュード」は地震のエネルギーの大きさ。「震度」と区別すること。こちらはその土地土地での「揺れ具合」だ。光で言えば「光度」と「照度」の関係と同じだ。**magni** は **magnus** の「属格 (所有格)」だ。) / **magnificent** (「壮大な・荘厳な」・「大きく作られた」が原義。see⇒**facio** ) / **magnificence** (「壮大さ」 see⇒**ans** ) / **Magna Carta** (「マグナ・カルタ (大憲章) <1215>」・**Magna Charta** と綴る。**charter** は「憲章」の意だ。**the Charter of the United Nations** 「国連憲章 <1945>」などというときの「憲章」である。「チャー

ター便」の「チャーター」もこの charter で、「(飛行機などを) 貸し切る」という意味で使われる。さて「マグナ・カルタ」とは何のことはない。「大きなカード」だ。トランプの「カード」も、医者「カルテ」も、百人一首の「カルタ」も、「ア・ラ・カルト (一品料理・本来はメニューの書かれた紙を指した)」もみーんな親戚の言葉だ。ラテン語の *carta* [カルタ] は「(四角い) 紙」の意。see⇒*carta* やがて紙に書かれた「勅許・許可証」の意味となった。see⇒*video/eo* 「ア・ラ・カルト入試」とくれば、「英語が得意なら受験する科目は英語だけでもいいですよ・・・」などといった形式の入試だ。「英語」という「一品料理」だけ注文するわけである。本来であれば「フル・コース」を受験すべきところを・・・だ。)/ *magnify* (「拡大する」 see⇒*facio*) / *magnifying glass* (「拡大鏡・虫眼鏡」) / *Fossa Magna* (「フォッサ・マグナ」・直訳すれば「大きな溝」。日本列島を真っ二つに分断する大断層のことだ。「地学」を履修した人は学んだはず。「糸魚川―静岡構造線」とも呼ばれる。このラインで東日本と西日本とに (地質学上は) 分かれ、生成年代が異なる。無論西日本の方が古いのは、峻険な山々が少ないことから想像できよう。西日本はユーラシア大陸から、東日本は南の海上から、それぞれ「プレート」に乗って「流れて」きたようだ。「化石 <fossil>」も同語源であることは言うまでもない。 *fodio - fodere - fodi - fossus* [フォデオー・フォデレ・フォーディー・フォッスス]= dig 「掘る」だ。 *fossil fuel* (「化石燃料」・石炭・石油・天然ガスなどがある。)

*maj*) *majesty* (「国王・女王陛下」・この反対は *minister* 「大臣」 see⇒*minus* だ。国王の家臣だからだ。直訳すれば「小<mini>臣」となるのだが・・・。最近の日本ではこちらの呼び名の方がいいかも知れぬ。)/ *major* (「主要な・大きい方の」・上に書いたが *magnus* の「比較級」だ。発音は[メイジャー]。したがって野球でも[メジャー・リーグ]ではなく[メイジャー・リーグ]だ。see⇒*superior* 反対語は *minor*。see⇒*superior/minus*) / *majority* (「多数派」 see⇒*superior*)

*mas*) *master* (「名人・主人・習得する」・ *magister* =  $\mu \alpha \gamma \iota \sigma \tau \epsilon \rho$  [マギステル]「教師」より。)/ *masterpiece* (「傑作」・名人の作品・・・の意味。)/ *mass*① (「質量・かたまり」・もともと「練り合せた大麦のケーキのかたまり」を意味した。 *massa*<糺>から *maza*<希>に遡る、さらには *magna* と同根語だ。物理で学習する  $F = ma$  (力=質量×加速度) の公式に出てくる *m* もこの *mass* だ。また「大衆」という意味も出た。「マスメディア・大衆媒体<mass media>」の *mass* もこれである。)/ *massive* (「巨大な」)

*may* 関係) *may* (「～してもよい」・「力」があるから「してもよい」のだ。)/ *May* (「5月」・「大神ゼウスの月」から来ている。「曜日」がギリシャ神話の神に由来することはご存知だろうが、実は「月」の名前もそれぞれ背後に「神」がいる。)/ *mayor* (「市長」・大人物を選ばなくてはならない。)/ *dismay* (「狼狽させる」・力を見失わせ<dis>る・・・が原義。see⇒*dis*)

*max*) *maxim* (「格言」・これ以上ない最高の言葉・・・の意。「金言」とも言う。これも上で書いたが *magnus* の「最上級」 *maximus* に由来する。)/ *maximum* (「最大限度の」・ *maximus* の中性変化が *maximum* だ。反対語は *minimum*。see⇒*minus*) / *maximize* (「最大化する・極限にまで広げる」 see⇒*ismos*)

*mig*) *might* (「力」) / *mighty* (「強い」・ *The pen is mightier than the sword.* 「ペンは剣よりも強し」というときの *might* だ。因みにこの諺も、ギリシャ語起源だ。)

さて最後は「重さ」の単位だ。10の3乗倍は *kilo* 「キロ」。ギリシャ語の *khilioi* =  $\chi \iota \lambda \iota \omicron \iota$  [キリオイ] で 1000 を表す。「キログラム」だの「キロメートル」、「キロトン」などで使われる。10の6乗倍はすでに紹介した *mega* 「メガ」だ。「メガトン<megaton> (100万トン) see⇒*tuneo*」や「メガリス<megalith> (巨石)」、「メガバイト」、「メガホン<megaphone> (拡声器) see⇒*fabula*」、「メガヘルツ<megahertz> : MHz」、「メガロポリス<megalopolis> (超巨大都市) see⇒*polis*」などがある。10の9乗倍は *giga* 「ギガ」で *gigas* =  $\gamma \iota \gamma \alpha \varsigma$  [ギガス] 「巨人」に由来。「ギガヘルツ」や「ギガバイト」など、コンピューター用語で最近使われるようになったことはご存じの通りだ。10の12乗倍が *tera* 「テラ」で *teras* =  $\tau \epsilon \rho \alpha \varsigma$  [テラス] 「怪物・妖怪」に由来するが、用例もそれほど多くはない。

②) *malus* - *mala* - *malum* [マルス・マラ・マルム] <糺> = bad 「悪い」・日本語の〇はラテン語では×なのだ。またこの最上級は *pessimus* [ペッシムス] (= *worst*) と完全に姿を変える。

*malfunction* (「機能不全」 see⇒*facio*) / *malnutrition* (「栄養失調」 see⇒*nutrio*) / *malevolence* (「悪意」 see⇒*vol*) / *malice* (「悪」) / *malicious* (「悪意ある」 see⇒*osus*) / *malpractice* (「医療ミス」 see⇒*pratto*) / *pessimism* (「悲観論」 see⇒*ismos*) / *pessimistic* (「悲観的な」) / *pessimist* (「悲観論者・厭世家」) / *dismal* (「陰気な・憂鬱」 see⇒*dies*)

③) *mando* - *mandare* - *mandavi* - *mandatus* [マンドー・マンダーレ・マンダーウィー・マンダートウス] <糺> = order 「命令する」・またこの単語をさらに遡ると *manus* 「手」に行き着く。「命令」することは権力を「手中」にすることだからだ。 *mand* は *mend* にも変化する。see⇒*manus*

*demand* (「要求する」・ *de* は「強調」 see⇒*de*) / *recommend* (「推薦する」・「推薦」といっても実際は「命令」であることがしばしばある。 *re* は「何度も」の意。see⇒*re*) / *recommendation* (「推薦」) / *mandate* (「委任統治」・聞きなれない言葉なので若干の補足説明を加える。第1次世界大戦の結果、戦勝国 (イギリスや日本など) が敗戦国 (ドイツなど) から植民地を手に入れた。彼ら (我ら?) の支配領域が拡大することを歓迎しなかった第28代・アメリカ合衆国大統領「ウィルソン」によって提唱された制度だ。「国際連盟」の設立を提唱したあの「ウッドロー・ウィルソン」である。国際連盟に委託 (任される) という形で、ある地域をイギリス・フランス・日本などに支配させる・・・というシステムだ。国連委託であるからそれまでの植民地のような収奪は許されない。日本は赤道以北の西太平洋 (マリアナ諸島・カロリン諸島・マーシャル諸島など) をこのとき領有することになる。日本はこれらの地域で「善政」を敷いたため、今でも対日感情は良好だ。現在は「国際連合」のもとで「信託統治制度」として存続している。)/ *mandatory* (「強制的な」) / *command* (「命令する」・「共に<co>命ずる」の意。「強調」でもいいような気がするが・・・。see⇒*cum*) / *commandment* (「戒律」・ *Ten Commandments* はモーゼの「十戒」だ。シナ

イ山上ったモーゼの前に「ヤハウェ (エホバ)」の神が現れ、イスラエルの民に 10 箇条の戒めを、石板に刻んで与えた・・・というもので、「汝殺すなかれ」・・・などといったものだ。詳しくは故「チャールトン・ヘストン」氏主演の映画「十戒」を見てほしいが、ここで問題がある。「戦争で自分の国を守るために戦うのは禁じられているのか？」という問いだ。あるいは「家族を守るために強盗を殺してしまった。これは罪なのか？」という問いかけでもいい。答は「OK」なのだ。なぜならここで言う「殺す」は kill ではなく **murder**[マダー]あるいは **slaughter**[スローター]の意味だからだ。kill は一般的な「殺す」であり、kill time 「時間を潰す」という比喩表現でも使われるが、murder は「故意・意図的な殺人」を意味する。一方 slaughter は受験ではあまり登場しないが、「家畜などを食用に屠殺 (とさつ) する」という意味で使われる。これを人間に使ったら「(戦争などでの大量な) 虐殺」となる。つまり「汝殺すなかれ」とは「楽しんで人を殺してはいけない」ということなのだ。良心的なクリスチャンがこの「モーゼの十戒」を根拠に「兵役拒否」する例もあると聞くが、それはちょっと聖書の誤読であろう。また **manslaughter** を「人をあざ笑う・・・だから殺人だ！」と、アメリカの大学に留学中だった友人が昔話していた。laughter 「笑い」との関係を改めて調べてみたが、どうもそんな裏付けは取れない。まあ暗記の一助にはなるか・・・とも思い、ここに載せた。

**manslaughter** の英英辞典の定義は「違法だが意図的でない殺人」とある。)

(4) **manus**・**manus**・**manui**・**manum**・**manu** [マヌス・マヌース・マヌイー・マヌム・マヌー] <綴>= hand 「手」・**manui** ⇒ mani や **man** ⇒ main の形も見られる。

**mana**・**mani**) **manage** (「管理・運営する」・発音・アクセントは[マニッジ]) / **management** (「運営・管理」) / **manager** (「経営者」) / **manipulate** (「操作する・操る」 see⇒ **plenus**) / **manipulation** (「操作」) / **manifest** (「明らかな」・「手で触れることのできる」 ⇒ 「明らかな・・・」) となった。see⇒ **fendo** またアメリカ史に **manifest destiny**[マニフェストゥ・デスティニー]「明白なる天命」というのがでてくる。「神が我々に与えてくれた使命」・・・との意味で、「この大地は神が白人に与えてくれたものだから、インディアン (ネイティブ・アメリカン) もバッファローも皆殺しにしてもいいんだ！それが神の命令なんだ！」という思想だ。とんでもない連中である。聖書の曲解ここに極まり・・・であろう。無論聖書には、そんなことは一言半句も書かれていない。) / **manifesto** (「政策・宣言・選挙公約」[マニフェストウ]・ももとは **manifest** と綴つたらしい。) / **manifestation** (「明らかにすること・(神の) 出現」) / **manicure** (「マニキュア」・手のお手入れ <cure = care>・・・ほどの意か？ see⇒ **curo**)

**mann**) **manner** (「手段・方法」= way この単語には日本語の「マナー」の意味はないから注意！) / **manners** (「礼儀作法」・これが日本語で言う「マナー」にあたる。食事の際の手の使い方など・・・だ。) / **mannerism** (「マンネリ・型にはまった手法」・「手垢のついた・・・」という解釈でもいいかも知れない。see⇒ **ismos**)

**manu**) **manual** (「手を使った・手引書」・所謂「マニュアル」だ。) / **manuscript** (「写本」・無論古代はすべて「手書き」だ・・・ see⇒ **scribo**) / **manufacture** (「製造する」 see⇒ **facio**・また **man** 「男・人間」の語源をこの **manus** に求める人もいる。「手を使えるのは人間だけ」ということか。see⇒ **mens**)

その他) **maneuver** (「策略」[マニューヴァー] see⇒ **opus**) / **maintain** (「維持・管理する」 see⇒ **teneo**) / **maintenance** (「維持・管理」・所謂「メンテナンス」だが、発音は飽くまで[メインテナンス]だ。) / **emancipate** (「(奴隷状態などから) 解放する」 see⇒ **capio** / **ex**) / **emancipation** (「解放」 see⇒ **capio**)

(5) **mare**・**maris** [マレ・マリズ] <綴>= sea 「海」

**maritime** (「海の」) / **mermaid** (「人魚」・直訳すれば「海の娘」だ。) / **Bellmare** (「ベル・マーレ平塚」・言わずと知れた「世界のナカータ!!!」がイタリアに行く前にプレイしていたクラブ・チームだ。直訳すれば「美しい海」となる。see⇒ **bellum**) / **mariner** (「水夫」・こちらは「世界のイチロー!!!」だ。「シアトル・マリナーズ」はシアトルが港町だったことに由来する。) / **marine** (「海の」・「マリン・スポーツ」の「マリン」だ。また古代ローマ人が **mare nostrum** [マレ・ノストゥルム]「我らの海」と呼んだのは **the Mediterranean Sea** [メデイトレイニアン]「地中海」のことだ。see⇒ **terra**) / **submarine** (「潜水艦」 see⇒ **sub**)

(6) **mater**・**matris** [マテル・マトリス] <綴>= mother 「母」・「銀河鉄道 999」に登場する美女「メーテル<Mater>」は「母親」の意味だ。ギリシャ語では **meter** =  $\mu \eta \tau \epsilon \rho$  [メーテール]で、さらに「メーテル」の音に近くなる。またこの「マ」が中国語では「モー」となり、「母」という漢字となったという説もある。確かに「西郷頼母 (たのも)」などといった武士も幕末に登場する。母は「ぼ」だけでなく「も」とも読むのだ。

**maternity** (「母親らしさ」・「マタニティー・ドレス」の「マタニティー」がこれだ。) / **maternity nurse** (「助産婦」) / **matrimony** (「結婚生活」・母親になること・・・だ。) / **metropolis** (「母なる都市」 ⇒ 「大都市・首都」。「東京メトロ」では「東京だよ、おっかさん」になってしまう。これでは「島倉千代子」ではないか。もっともフランスの地下鉄はメトロと言うらしいが・・・発音は[メトゥロウボリス] see⇒ **polis**) / **metropolitan** (「首都の・大都市の」) / **maternal** (「母の」・因みにラテン語では「父」は **pater** [パテル]、「兄」は **frater** [フラテル]と言う。[フラテル] ⇒ [ブラテル] ⇒ [ブラザー]となった。いわゆる「グリムの法則」だ。see⇒ **pater**) / **matrix** (「母体・<数>行列」・映画「マトリックス」もこれだ。) / **matter** (「物質」・また「問題となる・重要である」という動詞もある。It doesn't matter whether S + V. 「S+V だろうとなかろうと、大した問題ではない。」などと使う。また天文学で言う「ダーク・マター (暗黒物質)」もこの **matter** だ。我々の太陽系を含む銀河はものすごい速度 (秒速 220・240km 程度とか・・・) で回転している。それでも我々が太陽系の場所一周 2 億年ちょっとかかる。しかし回転していれば「遠心力」が働く。どうして個々の星々は外宇宙に飛び散っていかないのか？太陽系ならば話は簡単だ。「太陽の引力」、すなわち「質量」が周囲の惑星をつなぎとめているからだ。しかし銀河には、確かに星々が密集しているものの、中心となるものは

何もない。「これはおかしい」と天文学者たちは考えた。「何か目に見えない、質量を持つ物が存在するはずだ。」というわけだ。この膨大な質量を持つ目に見えない物質を「ダーク・マター」と呼んでおり、全宇宙の質量の25%にも及ぶと言う。もっともこれは「エーテル理論（空間はそれ自身が物質である）」を導入すれば簡単に解けると思うのだが・・・一方「ダーク・マター」に対して「ダーク・エネルギー」というものもある。「宇宙は膨張している<Big Bang>」と「考えられて」いるが、この膨張エネルギーは一体どこからくるのか？という問いに答えたのがこの「ダーク・エネルギー」だ。もっとも筆者は「宇宙は膨張などしていない」という考えであることは、どこかで書いた。「宇宙の大規模構造<large-scale structure of the cosmos>」が存在するからだ。)/ **materal**（「物質的な・原料」・「マテリアル・ガール」という「マドンナ」の曲もあった。)/ **materialism**（「唯物主義・唯物論」・目に見えるものしか信じないこと・・・だ。かつての「共産主義」がこれだった。「これまで人間は神などというわけのわからないものを信じてきた。だから愚かな殺し合い（宗教戦争）がなくならなかったのだ。これからは人類は神と決別して生きるのだ。」という考えだ。その「愚かな試み」の結果は歴史が示す通りである。「共産主義ソ連」はわずか70年で崩壊したのだ。see⇒**ismos**）

(7) **medico**・**medicare**・**medicari**・**medicatus** [メディコー・メディカーレ・メディカーリー・メディカトウス] <羅> = cure 「癒す」

**meditation**（「瞑想」・心の治療だ。)/ **transcendent meditation**（「超越瞑想」 see⇒**trans / scando** ) / **meditate**（「瞑想する」) / **medical**（「医学の」) / **medicine**（「薬・医学」・学問名としては「薬学」ではないので注意。「薬学」は **pharmacy** [ファーマシー] だ。ギリシャ語の **pharmakon** = φ α ρ μ α κ ο ν [ファルマコン] 「薬・毒」に由来する。「毒」と「薬」は紙一重・・・だ。/ **toxic**（「有毒の」・ギリシャ語の **toxon** = τ ο ξ ο ν [トクソン] = arrow 「矢」に起源を持つ。ギリシャ語学習者が「中性名詞」を学習する際に、この **toxon** で「曲用（格変化）」を学ぶ。非常にポピュラーな単語だ。その形容詞 **toxikon** [トクスイコン] を使って **toxikon pharmakon** = τ ο ξ ι κ ο ν φ α ρ μ α κ ο ν [トクスイコン・ファルマコン] 「矢の薬」とすれば「矢じりの先端に塗る毒」との意味になる。やがて「ファルマコン（薬・毒）」が取れて、「矢」自体が「毒」の意味だと解されることとなった。**pharmakon** は「薬」と同時に「毒薬」の意味もある。**pharmacy** 「薬局・薬学」もここから来ているわけだ。今流行りの「毒親（子供を自分の所有物として扱う親）」は **toxic parent** と言うらしい。)/ **remedy**（「治療」・re は「強調」 see⇒**re**）

(8) **medius**・**media**・**medium** [メディウス・メディア・メディウム] <羅> = middle / center 「真ん中」・中学の数学で登場する「ミーン（平均）」や「メジアン（中央値）」がこれだ。「真ん中・間」をイメージすれば間違いない。また **medianus** [メディアエヌス] 「真ん中の」 ⇒ **mean** となったのではないかとされている。

**means**（「手段・方法」・「仲介人」でもイメージすればいいだろう。sをつけるのを忘れないこと。ただし「単複同形」。単数でも複数でも **means** だ。以下 **mean** 関係がたくさん登場するので混同しないこと。)/ **mean**①（「意味する」・これだけは語源的に「赤の他人」らしい。ドイツ語起源で「重要なことを伝える」の意味のようだ。話の流れ上、この項に入れた。名詞は **meaning** 「意味」となる。)/ **mean**②（「卑劣な・平凡な」・「真ん中くらい・良くも悪くもない・・・」ということからマイナス面が増幅されてゆき、結果こんな意味にも使われるようになった。)/ **medieval**（「中世の」・**medium** + **aevum** <= age> / **aevum** ⇒ **evum** ⇒ **eva** となったようだ。ae ⇒ e は **prae** ⇒ **pre** で説明した通りだ。)/ **Mediterranean**（「地中海・地中海の」・「地球<terra>」の「真ん中<med = middle>」の海だ。無論アジアなど彼らの眼中にはない。see⇒**terra / mare** ) / **meanwhile**（「その間に」・直訳すれば「真ん中の時間」だ。while は「～の間」だが「時間」の意味もある。お疑問の方は手元の英和辞典をお調べ願いたい。It is worthwhile to do. 「doする価値がある」という表現があるが、**worthwhile** 「価値がある」とはもともと「時間<while>をかけるに値する<worth>」からきている。まさに「時は金なり」だ。)/ **meantime** (= **meanwhile**) / **immediately**（「すぐに」・間<medi>がない<im = in>から「即座に・・・」だ。日本語でも「間髪いれずに・・・」と言うではないか。see⇒**in**②) / **immediate**（「即座の・すぐの」) / **a.m.**（「午前」・a は **ante** 「前」。m は **meridiem** [メリディエム] = **midday** 「正午」。**diem = dies** = **day** だ。see⇒**ante / dies** ) / **p.m.**（「午後」・**post meridiem** の略。詳しくは see⇒**ante / post / dies** ) / **mediocre**（「並の・二流の・劣った」発音は[メディアオウカー]。ちょっと変わった読み方だが、re は er に置き換えて読めばいい。theater 「劇場」が **theatre**、**center** 「中央」が **centre** となっている表記がしばしば見られるが、これはイギリス方式だ。詳しい話は省略するが、要するにラテン語の「曲用（格変化）」の名残りと考えてくれればいい。)/ **media**・**medium**（「媒体」・「マス・メディア（大衆媒体）」という時の「メディア」だ。間に入って情報を伝えるもの。前者が「複数形<plural>」。後者が「単数形<singular>」だ。**medium** [ミディアム] はステーキを食う時も使う。**rare** [レア] は「生の」で **well-done** 「ウェルダン」は「よく焼けた」だ。**Well done!** 「よくやった！お見事！」などとも使う。**media** の発音は[ミーディア]となる。)/ **intermediate**（「中間の・中級の」・イギリスの語学学校などでは、試験でクラス分けを行う。「インター・ミディエイト」と言われたら「中級クラス」だ。see⇒**inter** 「上級クラス」は **advanced** となる。see⇒**ab / ante**）

(9) **menda**・**mendae** [メンダ・メンダエ] <羅> = fault 「落ち度・欠点」

**amend**（「修正する」・この a は **ex** 「～から外へ」の意味。これがついて「否定」しているから「欠けている状態から外へ」で「訂正・修正」となる。see⇒**ex** ) / **mend**（「修理・修繕する」・これは **amend** の a が欠落したものだ。**repair** と異なり「小さい物」や「布製品」などの「修理」に用いる。昔は「メンディング・テープ」なるものがあつた。セロハン・テープだとコピーしたとき後が残るので、このテープで誤植などを修正したものだ。)

(10) **mens**・**mentis** [メンズ・メンティス] <羅> = thought / mind 「考え・思考」・ここから「測定する」など様々な意味がでた。また **mens** が **mons** にも変化。① **metron** = μ ε τ ρ ο ν [メトルオン] <希> 「測定」② **mousike** = μ ο υ σ ι κ η [ムーシケー] 「音楽・詩作」③ **memoria**・**memoriae** [メモリア・メモリアエ] 「記憶」や **memini** [メミニー] 「記憶する」など、**mens** はさまざまな単語を同族語に持つが、一括してこ

ここにまとめた **mens** 以外は①②③と付記してある。

**a-c) amuse** (「楽しませる②」・「芸術や音楽で楽しませる」の *a* = *ad* / *see* ⇒ **ad**) / **amusement** (「楽しみ・娯楽②」) / **amusement park** (「遊園地②」) / **amnesia** (「健忘症・記憶喪失」・ **mneme** =  $\mu \nu \eta \mu \eta$  [ムネーメー] <希> は「記憶」。*a* がついてその反対語だ。 *see* ⇒ **a**) / **amnesty** (「アムネスティー・恩赦・罪を忘れてやること」・「アムネスティー・インターナショナル」などという人権保護団体の名前を耳にしたことがあるだろう。*a* は繰り返しになるがギリシャ語の「否定」。 *atom* の *a* だ。 *see* ⇒ **a**) / **commemorate** (「記念する③」・ *co* は「強調」とも「共に」とも。 *see* ⇒ **cum**)

**d) demonstration** (「示威行為」・人前で力を示す(思い出させる)ことだ。「アベやめろー!!!」という「デモ」がこの **demonstration** だ。 *de* は「強意」。 *see* ⇒ **de** 「デモクラシー(民主制) <**democracy**>」 *see* ⇒ **autos / demos / kratia** の「デモ」ではないので念のため。) / **demonstrate** (「論証する・デモをする」・アクセントは[デモンストレイトゥ]だ。また「証明終了」という意味で、数学では **Q.E.D.** という略語を使う。 *see* ⇒ **ge** これもラテン語で **quod erat demonstrandum** [クオッドウ・エラトゥ・デモンストランドウム] の頭文字である。英語に置き換えれば、..., which was to be demonstrated つまり「以上が証明されるべきことであった。」となる。この **which** は前の文全体を先行詞として受ける「関係代名詞」であり、**demonstrandum** はラテン語の **gerundivum** [ゲルンディーウム] 「動形容詞(受動態未来分詞)」と言われるもので、「(これから) ~されるべき」= **should be demonstrated** に相当するものだ。もっとポピュラーなのは **memorandum** [メモランドウム] 「備忘録・覚え書き・メモランドム」だろう。もともとは「記憶されるべき」という意味だ。) / **dimension** (「次元・縦・横・高さなどの」寸法・規模)・3D(三次元)などという **D** がこの **dimension** だ。 *di* は「強調」だとも「計り分ける <**di**>」だとも。とりあえず「分離 <**di**=**dis**>」に分類した。 *see* ⇒ **dis**)

**g) geometry** (「幾何学①」・地面(土地) <**geo**> を計る <**metr**=**meter**> ことから「幾何学」は始まった。早い話が「測量」だ。 *see* ⇒ **ge**)

**i) immense** (「測定できない」で「途方もない」 *im*=*in* で反対語。 *see* ⇒ **in**②) / **Mens sana in corpore sano.** ([メンス・サナ・イン・コルポレ・サノ] 「健全な精神は健全な肉体に宿る <Sound Mind in Sound Body・直訳>」という有名な言葉だが、これは誤訳である。これでは体の不自由な人が怒りだす。正確にはその前に文があり、**Orandum est ut sit Mens sana in corpore sano.** [オーランドウム・エストウ・ウトウ・スイットウ~] となる。「健全な精神が健全な肉体に宿ることこそ、願われるべきである」が直訳。 / *ut* = *that* 「~ということ」 / *sit* = *be* 動詞 / **orandum** は **oro-orare** 「祈る」の **gerundivum** [ゲルンディーウム] 「動形容詞(～されるべき) = **should be wished**」 / *est* = *be* 動詞である。 *see* ⇒ **oro** 英語に置き換えると **It is desired that a healthy mind (should) be in a healthy body.** とでもなるか...。英語で言う「仮定法現在」だ。古代ローマの詩人「ユウェナリス」という人の、「風刺詩集」の中に出てくる言葉らしい。ご存じのように **that** 以下を指す仮主語 *it* で英語は始まるが、ラテン語ではこういった際 *it* は省略される。「ラテン語に主語はない」と言われる所以(ゆえん)だ。分不相応な願いを神に求める人々が多くなってきたために、「心身ともに健康であること以外、一体何を望むというのであろうか?」という意味だ。因みに **sana / sano** は **sane** 「正気の」 *see* ⇒ **sacer** や **insane** 「狂気の」 *see* ⇒ **sacer / in**② に、**corpore** は **corpse** [コープス] 「死体」になって英語の中に生き延びている。また **corps** という紛らわしい単語も別に存在する。「軍団」という意味で「単複同形」。発音は[コー(単)・コーズ(複)] となるから *p* は **silent** 「黙字」だ。生きているうちは「軍団」だが、死ねば「死体」ということだ。 **corporate** 「法人の・組織の」や **corporation** 「会社・法人」も同語源だ。因みに「法人」とは「法律上の人」という意味で、早い話が「会社」のことだ。) / **incorporate** (「合併する」・体(会社)の内部 <**in**> に取り込むこと。会社名の最後によく **Inc.** などと書いてあるのを見かけたことがあるだろう。これが **Incorporated company** の略なのだ。「株式会社」・「法人組織の」という意味だ。 *see* ⇒ **in**④)

**ma) man** (「男・人間」の語源は **manus** 「手」から来たとも、この **mens** 「考える」から来たとも言われている。正直どちらの説も捨て難い。天才数学者「ブレイス・パスカル」の言葉「人間は考える葦である」を俟(ま)つまでもなく、「考える」のは人間だけだからだ。無論「手」を使うのも人間だけだが...。 *see* ⇒ **manus**) / **mathematics** (「数学」・頭を使うから。もともとは **mathematika** =  $\mu \alpha \theta \eta \mu \alpha \tau \iota \kappa \alpha$  [マテーマテカ] で「学問」という意味だった。)

**me-mi) measure** (「測定する」・ラテン語の **mensura** [メンスラ] 「測定」より。) / **mental** (「精神的な」...といっても「heart(心)」でなく「brain(脳みそ)」の方だ。) / **memorize** (「暗記する③」 *see* ⇒ **ismos**) / **memory** (「記憶③」) / **mentor** (「教師」・読み方は[メンター]) / **mention** (「言及する・述べる」) / **mentality** (「考え方・思考様式」・かつて「考え方」の英訳を **the way of thinking** とやっ、イギリス人の先生に **mentality** と訂正されたことがあった。結構使う機会の多い単語だ。) / **meter** (「メーター・測定する①」) / **mind** (「心・精神」・といっても首から上。つまり「おつむ」の方だと考えた方がいい。この単語はゲルマン語系だが、**mens** と同語源である。)

**mo) moon** (古代は「月」で暦を測った。所謂「太陰暦」だ。 *see* ⇒ **sido**) / **month** (「月」・こちらは天体ではなく暦の方だ。) / **monster** (「怪物」は「神の力を思い出させるもの」という意味だ。怪物は人間に忠告するために遣わされるのだから、「神様とゴジラ。どっちが強い?」などと馬鹿なことを考えてはならない。ゴジラも神の僕(しもべ)なのだ。) / **monument** (「記念碑」) / **monitor** (「監視する」) / **mourn** (「嘆く」・「悲しいことを思い出す」が原義。) / **mourning** (「喪服・モーニング」・「モーニングを着る」などと聞いて、「朝を着るのか?」などと悩まれた方も多かろう。 **morning** ではないので念のため。「故人を思い出して涙するために着る服」だ。) / **money** (「お金」・ **Juno Moneta** 「ユノー・モネタ」というギリシャの神がいた。最高神「ゼウス」の正妻の「ユノー」のことだ。正確にはローマ神話の神だからゼウスではなく「ジュピター(ユピテル)」の妻ということになるのだが...。「警告者(神の警告を思い出させる者)・助言者」としての神とされる。 **June** 「6月」とか **June Bride** 「6月の花嫁」とかはこのユノーに因んだものだ。 *see* ⇒ **augeo** 彼女を祭る神殿には同時に「造幣局(貨幣製造所)」があり、これが **money** へとつながった。)

mu) **music** (「音楽②」・「音楽・学芸の女神 **Musa** = **Μοῦσα** (ムーサ)) たちが瞑想して考えついたのが音楽だ。また **museum** 「博物館②」も派生語。ギリシャ語では **μῦσείον** = **μουσειον** [ムーセイオン]。もともとムーサら 9 神の神を祭る神殿であった。「学芸」から「博物館」となった。)

r) **reminiscence** (「回想③」・**memini** [メミニ]「記憶する」から **me** が取れて **mini** となった。see⇒**re** この **memini** の「命令形」が **memento** [メメント]「記憶せよ」となる。**Memento mori** 「メメント・モリ (常に死を思え)」の「メメント」だ。see⇒**mors**) / **remind** (「思いださせる」・**re** + **mind** より。see⇒**re**) / **reminder** (「思い出させる物 (人)」)

s-t) **summon** (「召集する・呼びつける」・下<**sum** = **sub**>からそつと手招きして呼び寄せる・・・が原義。手招きすることで、それとなく相手に気付かせること・・・だ。具体的には裁判所などへの「出頭命令」を意味した。) / **semester** (「学期」・**quarter** は年 4 学期 (**quattuor** [クアットウロ] = 4) であるのに対し、**semester** は年 2 学期。つまり「半年」を表す。se + **mester** = six + months ラテン語では six は **sex** で、ここの se はこの sex の se だ。「性別」の sex とは無関係。こちらはラテン語では **sexus** という。森鷗外の「ウィタ (キタ)・セクスアリス<**Vita Sexualis**>」という小説があったが、これはズバリ「性生活」という意味だ。see⇒**vivo** また sex / gender の区別もしっかり。**sex** は「生物学的」な区別であり see⇒**seco**、**gender** は「社会的」なそれで使われる。だから「男女差別撤廃」は、「ジェンダー・フリー」となるわけだ。) / **symmetry** (「対称①」 see⇒**sim**) / **tullimonstrum gregarium** (「タリモンストラム・グレガリウム」・「ネッシーの正体では・・・？」とされている。see⇒**grex**)

**meter 関係**) 最後に順不同となるが meter の派生語をまとめた。上にも書いたがギリシャ語の「①**metron**」が起源である。アクセントは繰り返しになるが meter の「直前」にある。**barometer** (「気圧計・指標」・**baros** = **βαρος** [バロス] は「重さ」だ。大気の重さを測るからだ。) / **chronometer** (「経線儀・クロノメーター」 see⇒**khronos**) / **diameter** (「直径」 see⇒**dia** / **radix**) / **parameter** (「パラメーター・媒介変数」 see⇒**para**) / **perimeter** (「周囲・円周」・円周率  $\pi$  の語源となった単語だ。see⇒**peri**) / **speedometer** (「スピード・メーター」) / **tachometer** (「タコメーター」・回転速度計。バイクでエンジンをふかすとガーッと針が振れるやつだ。ギリシャ語の **taxos** = **ταχος** [タコス] 「速度」に由来する。) / **thermometer** (「温度計」 see⇒**thermos**)

最後に meter 関係の「神様」を 2 人 (2 柱?) 紹介しよう。**Prometheus** = **Προμηθεΰς** [プロメテウス] 「プロメテウス」 see⇒**pro** と **Epimetheus** = **Επιμηθεΰς** [エピメテウス] 「エピメテウス」 see⇒**epi** の兄弟だ。ギリシャ神話では、兄は大神「ゼウス」の命に逆らって、人類に「火」を伝えた神として有名であり、いくつかの文学作品にも登場する。怒ったゼウスはプロメテウスを岩に縛り付け、その内臓を鷲のついでに任せた。神々は「不死」であるからいくら苦しくても死ねない。永遠に苦しみが続くことになる。これを助けたのが「ヘラクレス」だったとされている。「プロメテウス」の「プロ<pro>」は「前に」だから、「前もって考える・知る」で、「先見の明がある」の意味となる。一方弟の「エピメテウス」は「ゼウス」の策略に負けて大失態を演じている。「火」を手に入れた人類に災厄をもたらさんと、ゼウスは美女「パンドラ」をエピメテウスに与える。彼女の持参した「壺 (箱・・・とも言われる)」には「この世のあらゆる災厄」が詰まっていた。これをパンドラは開けてしまい、人類は際限のない災厄に苦しむこととなったというのだ。所謂「パンドラの箱」である。「しかし箱の底に唯一『希望』だけが残されていた・・・」というのだが・・・。「だったら『希望』も解き放ってやればよかったのに・・・」と思うのは筆者だけか・・・。この神話はちょっとおかしい。「エピメテウス」の「エピ<epi>」は「後で・・・」の意味もあるから、「あの時こうしていれば・・・」という「後知恵」の意味となる。「兄は賢者」で「弟は愚者」・・・という設定である。一方兄の方は「ハニー・トラップ」にはひっかからなかったようだ。因みにこの兄弟は「タイタン族<**Titan** = **Τιτάνες**> [ティターン]」に属し、ゼウスとは敵対する関係であった。see⇒**cosmos** ところでこれもどこかで書いたが、昔は「巨人族」なるものが実在したようだ。骨も世界中で発掘されているし、巨人伝説も各地に残る。旧約聖書で「ダビデ」が倒した「ゴリアテ<**Goliath**>」、英語では **Goliath** [ゴライアス] が巨人としては有名だ。今話題の「進撃の巨人」も、こうした考古学的発掘結果に触発されて書かれたものである。無論「アカデミズム (学界)」は、「黙殺」の構えだが・・・。「タイタン」は土星の衛星にも、そして映画にもなった「タイタニック号」にも、さらには「チタン<**titanium**> (原子番号 22)」という元素名にもその名を留める。

(11) **Mercurius** [メルクリウス] 「メルクリウス (神の名)」 / **meritus** [メリトゥス] <羅> = worth 「価値がある」 「メルクリウス (商業の神)」だが、「商業」という単語から「商業を司る神」が生まれたのだ。このへんは他の神様の名前でも同様なので、ここで確認しておきたい。また **merco - mercari - mercatus sum** [メルコー・メルカーリー・メルカートゥス スム] は **trade** 「売り買いする」の意。いま流行りの「メルカリ」は、この **merco** の原形で「売り買いすること」だ。

**Mercury** (「マーキュリー(メルクリウス)」・ローマ神話の神の名。「商業・科学・錬金術」などを司った。see⇒**cosmos** ギリシャ神話にまで遡ると「ヘルメース<**Ερμης** = **Hermes**>」となる。やがてヘレニズム時代にはトキの顔に人の体を持つエジプトの神「トート」と同一視されて「ヘルメース信仰」はさらに過熱した。曰く「アダムの孫でピラミッドを造った」。また曰く「賢者の石を手に入れ錬金術を能くした」。さらに曰く「ピタゴラスの師で医学・数学の祖」云々・・・と。「3 倍<**tri**>偉大なヘルメース」という意味で「ヘルメース・トリスメギストス<**Trismegistos** = **Τριμεγιστος**>」という呼び名までである。古代エジプトに関する本を読んでいると、必ず登場する人物だ。「信仰が過熱」というのは「ヘルメース文書を発見すれば、錬金術が可能になる」という意味で・・・だ。「メギストス」は「メガス (大きな)」の「最上級」だ。see⇒**magnus** また女性陣お気に入り(?) の「エルメス」もこの「ヘルメース」だが、こちらは創業者の名前 (苗字) で、神話とは直接関係はないようだ。天体では「水星」という意味もある。太陽に一番近く、公転速度も速いからだ。商売にはスピードが大切だ。) / **mercury** (「水銀」・錬金術に由来することは言うまでもない。一方化学で習う元素記号で「水銀」には **Hg** の文字が与えられているが、こ

れは *hydrargyros* [ヒュドラギュロス] から来ている。 *Hydor* [ヒュドール] 「水」 + *argyros* [アルギュロス] 「銀」だ。 see⇒ *Hydra* 「銀」はラテン語では *argentum* [アルゲントウム] となり、元素記号の *Ag* となっていることは既にも書いた。「アルゼンチン (国名)」の語源となったことも・・。 see⇒ *capio* ) / *argue* (「議論する・主張する」・ *argentum* 「銀」つながりでここに載せた。「銀」は「白い」から「(議論して) 白黒つける」から来ているという、ウソのようなホントの話だ。また「白い」から「(議論して) 明らかにする」に由来する・・とも。 see⇒ *capio* ) / *argument* (「議論」) / *savage* (「野蛮人」・「銀」つながりでじゃあ *silver* はどうなんだ? と疑問を持たれた方のためにこちらも説明しておく。 *silver* はゲルマン語系列の単語で、残念ながら英語には他に親戚は残っていないようだ。一方ラテン語系にも「シルバ」という単語が存在するが、こちらは「銀」とは無関係。「他人の空似」だ。ラテン語の *silvaticus* [シルヴァティクス] に由来。 *silva* は「森」の意味だ。「森に住む人々」⇒「野蛮人」となった。「シルビア」という名前も無論ここから来ているのだが、もともとはギリシャ神話に登場する清楚な乙女の名前だ。「エマニュエル夫人」の「シルビア・クリステル」という女優もいたし、「ヴァンダレイ・シウバ」という総合格闘家もいた。確かに「野蛮」そうな奴だった。発音は[サヴィッジ]だ。) / *merchant* (「商人」・シェイクスピアの「ベニス商人」は *Merchant of Venice* となる。) / *merchandise* (「商品」) / *merci* (「ありがとう」・フランス語の「メルシー!」だ。) / *merit* (「長所・美德」・ *merior* は *meritus* 「価値がある・値する<deserve>」の「比較級」だ。 *merit* には「利点」つまり「(お金などが絡んだ) 利益」という意味はない。日本語で言う「メリット<merit>」・「デメリット<demerit>」は *advantage* / see⇒ *ab/ante* や *disadvantage* / see⇒ *dis* を使っておいた方が無難だ。) / *demerit* (「欠点」 see⇒ *de* ) / *meritocracy* (「英才教育」・「長所をさらに伸ばそう」ということだ。 see⇒ *kratia* ) / *mercy* (「慈悲」・「交易」⇒「他人に与えるもの」⇒「慈悲」となった。さらに遡れば、罪人が他人に施しを与えたとき、神から与えられる施し・報酬<reward>のことだ。) / *merciful* (「慈悲深い」) / *commerce* (「商業」・ *みんな<co>* で集まって、互いに商品を取引すること。 *mercy* を参照して欲しい。 see⇒ *cum* ) / *commercial* (「コマーシャル・宣伝」)

(12) *mergo*・*mergere*・*merci*・*mersus* [メルゴー・メルグレ・メルキー・メルスス] <羅> = sink / dip 「水などに浸す」。

*immerse* (「液体に浸す」) / *immersion* (「液体に浸すこと」・かつて勤務していた予備校で、「英語イマージョン・クラス」というコースが設けられていた。「英語漬けにしよう」という試みだ。 *im* = *in* 「中に」 see⇒ *in* ①) / *emerge* (「現れる」・もともとは水から *e* = *ex* 「外へ」出てくることだ。 see⇒ *ex* ) / *emergence* (「出現」 see⇒ *ans* ) / *emergency* (「緊急事態」とは急に「現れる」もの。) / *merger* (「合併」・ひとつに「解け合う」こと。) / *merge* (「合併する」) / *submerge* (「潜水する・水浸しにする」・ see⇒ *sub* )

(13) *meta* =  $\mu \epsilon \tau \alpha$  [メタ] <希> ①「～の後ろに」 ②「～に混じって・連れだって」 ③「上位の・超～・越えて」 ④「変化する」・これもよく分からない接頭辞だ。ギリシャ語起源だが、ギリシャ語では①②の意味くらいしか登場しない。しかし現代英語の用例では、③④が圧倒的に多いのだ。古代ギリシャ語辞典を繙くと、確かに③④の意味はあるが最後に小さく載っているだけだ。そこで「ギリシャ語四週間」の巻末付録に図解で掲載された *meta* のイメージをもとに説明してみる。これからは筆者の「想像」である。羊の群れがいる。一頭だけ黒であるとは白い羊だ。黒い羊は群れに「混じって②」移動する。やがて群れに遅れてあわてて「後ろ①」から追ってゆく。群れは丘を越え、川を「越えて③」移動する。徐々に場所が「変化して④」ゆく・・となるわけだ。

*metaphysical* (「形而上学的な」・ see⇒ *physikos* 難解な日本語だが、「物理<*physics*>を超越した<*meta*>ところにある物」で、早い話が「哲学」などの「精神世界の学問」のこと。 see⇒ *ge/polis/physikos* 反対語が「形而下学」で、これが「物理」・「化学」などの自然科学、すなわち「物質世界の学問」のことだ。古代ギリシャ最大の哲学者とされるアリストテレスの著作にその語源がある。 *physical* の語源 *physika* =  $\phi \upsilon \sigma \iota \kappa \alpha$  [フュシカー] see⇒ *physikos* は「自然科学」のことで、その著作の「後」に哲学的考察が配置されたことからこの名がある。「自然科学の後に<*meta*①>配置された著作」⇒「自然科学を超えた<*meta*③>物」⇒「物質世界よりワンランク上の学問」となったわけだ。従ってアリストテレス自身は学問に優劣をつけていたわけではないので誤解なきよう・・。) / *metaphor* (「隠喩 (いんゆ)」・「越えて<*meta*③>運ぶ<*phor* = *fero*>」が原義。「譬え」とは、相手の知っているものをもってきて<*fero*>引き合いに出すことだ。「隠喩」とは読んで字のごとく「隠れた譬え」すなわち「一見したところ譬えだと分からないもの」だ。反対語は「直喩」で、こちらは「ストレート (直球勝負) な譬え」。「*sim*」の項に例を挙げた。 see⇒ *sim* 「直喩」は英語で *simile* [シミリ (-)] と言う。言うまでもなく *similar* 「類似の」と同語源の単語だ。 see⇒ *sim* ) / *metabolism* (「代謝」・「食物などを体内に取り込んで、エネルギーなどに変換すること」だ。「太りすぎ」などと覚えないうように。 see⇒ *ismos/ballo* 世にいう「メタボ」は *metabolic syndrome* [メタボリック・シンドローム] で、直訳すれば「代謝症候群」となる。 see⇒ *sim* 「食物を十分エネルギーに変えられない状態」だ。 *bol* = *ballo* =  $\beta \alpha \lambda \lambda \omega$  [パッロー] 「投げる」だから「越えて投げる」、もしくは「変えて<*meta*④>投げる」だ。なるほど食物をエネルギーに「変えて」いる。 see⇒ *ballo* ) / *metamorphosis* (「変態」・べつに「エッチなおじさん」のことではない。生物が成長に従って形を完全に変えることだ。「おたまじゃくし」⇒「カエル」の例がよく知られている。 *morphe* =  $\mu \omicron \rho \phi \eta$  [モルフエー] 「形」だから「形を変える<*meta*④>」が原義。) / *meteor* (「流れ星・隕石」 [ミーティア]・「真ん中<*meta*②>」に上げられた<*airo*>もの」の意。 *airo* =  $\alpha \iota \rho \omega$  [アイロー] 「上げる」・真ん中とは「天と地上の間<between>」・・ということだ。) / *meteorological* (「気象の」) / *meteorology* (「気象学」・天体も気象も当時の人間 (ギリシャ人) は区別していなかったころの名残だ。 see⇒ *logos* ) / *meteorite* (「隕石」・ *meteor* は空中にある時。地上に落ちると *meteorite* となる。) / *method* (「方法」・「(答にたどりつくまでの) 間<*meta*②>にある道<*hodos*>」の意。 see⇒ *hodos* )

(14) *mid* ①「真ん中」

*midnight* (「真夜中」) / *midsummer* (「真夏」・「真夏の世の夢」などといったシェイクスピアの作品もあった。) / *midday* (「真昼」) / *midland* (「内陸」) / *Midway* (「ミッド・ウェイ」・言うまでもなく日米海戦のあった場所だ。この決戦に敗れてから日本軍はズルズルと後退を始め

ることとなる。「アメリカとアジアの途中（中間）」という意味だ。）

(15) **migro**・**migrare**・**migravi**・**migratus** [ミグロー・ミグラーレ・ミグラーウィ・ミグラートゥス] <羅> = wander / move / transport 「放浪する・移動する」

**migrate**（「移住する」） / **migration**（「移住」） / **migrant**（「移住者」） / **migratory**（「移住性の」） / **immigrate**（「外国から」移住してくる） / **immigration**（「外国からの」移住）・この im は反対語ではなく in つまり「中へ・・・」の意。see⇒**in** / **opus**） / **immigrant**（「移民」 see⇒**ans**） / **emigrate**（「外国への」移住してゆく e = ex「外へ」） / **emigration**（「外国への」移住 see⇒**ex**）

(16) **mikros**・**mikra**・**mikron** = **μικρος**・**μικρα**・**μικρον** [ミクロス・ミクラー・ミクロン] <希> = small 「小さい」 / short 「短い」・マイクロというと「小さい」をイメージするが、もともと「短い」の意味だ。反対語は **makros** = **μακρος** [マクロス] で long 「長い」だが「大きい」の意味で現在は使われている。「マクロ経済学」だの「マクロファージ<Macrophage>」 see⇒**historia** などで登場する。用例はあまり多くはないが・・・。

**microscope**（「顕微鏡」・小さい物が見られる。see⇒**skopo**） / **microbe**（「微生物」 see⇒**bios**） / **micron**（「ミクロン」・長さの単位。ここでましても余談になるが「長さ」の話をしておこう。「長さ」の話だからちょっと「長く」なるが（?）、何かのときに助けになるかも知れないのでお付き合い願いたい。

長さの単位は1メートルを基準とし、1000倍単位で上下する。何故1メートルだけ特別扱いかと言うと、地球の北極点から赤道までの子午線（北極点と南極点を結ぶ縦の線 = 経線）の長さを1000万等分して1メートルという長さを決めたからだ。したがって地球一周はきっかり40000キロメートルとなる。当然昔は「メートル」という単位はなかったことになる。メートル法が定着したのはちょうどフランス革命のころ。18世紀も末の話だ。それまでは「マイル<mile>」や「フィート<feet>」、「インチ<inch>」などを使っていた。「マイル<mile>」は「ミッレ<mille>」でラテン語の「1000」を表す。see⇒**centum** 覆面レスラーの「ミル・マスカラス」は別名「千の顔を持つ男」だ。さて古代ローマ兵の歩幅1000歩分に由来する単位だが、これだと一歩が1m50cmになってしまう（現代の1マイルは1.6kmだが古代ローマン・マイルは1.5km）。いくら何でもでかすぎる・・・がご安心を。当時の1歩は左右セットで測ったものだ。日本語の単位は10000倍ごとに「万」・「億」・「兆」・「京」・・・と変化するが、英語の単位は1000倍ごとに変化することはご存知だろう。だから1,000,000,000,000と英語で読みやすいようにカンマがふられているのだ。日本語の単位と英語の単位は10倍ずつずれてゆくから、英語の単位は「1000<thousand>」⇒「100万<million>」⇒「10億<billion>」⇒「1兆<trillion>」と変化してゆく。それを知っていればこの数字は「1兆」だと瞬時にわかるわけだ。10の8乗が「億」。10の12乗が「兆」ということも覚えておくと便利だ。

さて今度は小さい単位だが、「1メートル」⇒「1ミリ・メートル」⇒「1ミクロン」⇒「1ナノ・メートル」となる。「ナノ・テクノロジー」や「ナノ・プローブ<probe> see⇒**probo**」などという言葉聞いたことがあるだろう。「ナノ」はギリシャ語の **nanos** = **ν α ν ο ς** [ナノス]「小人」に由来する。さてこの「ナノ・メートル」の（なぜかここだけは）10分の1が「オングストローム（Å）」となる。物理などで使う単位で「10のマイナス10乗メートル」だ。もっとも10のマイナス12乗を表す単位がないこともない。それがpico「ピコ」だ。**picus** [ピクス]「少量」というラテン語に由来する。ただ「長さ」の単位として耳にすることはない。諸君らが聞いたことがあるとすれば、おそらく「ピコ秒」などという時間の単位だろう。光は1ピコ秒で0.3mm進むらしい。話をもどす。

「ミッレ」はラテン語で「1000」を表すことはすでに述べた。「ミリ」は逆に1000分の1を表す。だから「ミリ・メートル」は文字通り「1000分の1メートル」ということになる。一方cent「セント」は100で **centi**「センチ」は100分の1だ。だから「センチ・メートル」は「100分の1メートル」ということになる。**deca**「デカ」は10で **deci**「デシ」は10分の1だから、「1デシ・リットル」は「10分の1リットル」という意味だ。see⇒**decem** / 最後にhecto「ヘクト」だ。ギリシャ語の **hecton** = **ε κ α τ ο ν** [ヘカトン]に由来し、100を表す。だから「1ヘクター<1ha> (=100m 四方)」は「100アール<100a> (=10m 四方)」となり、「1ヘクトパスカル<1hPa>」は「100パスカル<100Pa>」となるわけだ。「ヘクトパスカル」は昔は「ミリ・バール」といった。1気圧はおおよそ1013hPaに当たる。「人間は考える葦である」や「クレオパトラの鼻がもう少し低かったら、大地の全表面は変わっていただろう」などの名言をその著書「パンセ」に残し、天才的数学者であり哲学者・物理学者でもあったフランスの「ブレイズ・パスカル」に由来することは言うまでもない。また数学では「パスカルの三角形」や「確率論」などで、諸君らを悩ませて（?）いる。

さてこれで、小学校で学んだ「度量衡」の意味がすべて解けることとなる。繰り返しになるが、諸君が初めて触れた欧米の言語は英語ではなくラテン語なのだ。尚、**millennium**（「1000年」） / **century**（「100年」 see⇒**centum**） / **decade**（「10年」 **δεκα** [デケイドウ] see⇒**decem**）も、すべてこれで覚えられる。） / **Micronesia**（「ミクロネシア」・太平洋の北西4分の1の範囲に点在する島々を指す。**nesos** = **ν ε σ ο ς** [ネソス]もギリシャ語で、意味はisland「島」。文字通り「小さい島」という意味だ。グアムやサイパンなどがこれに属する。一方南西4分の1の区域を「メラネシア<Melanesia>」 see⇒**oid**、東半分を「ポリネシア<Polyneisa>」と呼ぶ。「メラ」は「メラニン色素」などから **melan** = **μ ε λ α ν** [メラニ] = black を意味するとわかる。**melancholy** [メラコリー]「憂鬱」もこの派生語だ。気分が「暗く」なるからだ。かつては「黒い体液がたまる」と考えられていた。また「ポリ」は「ポリエチレン・ポリエステル・ポリメラーゼ・・・」などから、化学を学んだ人なら「many」を意味するとすぐにわかる。ギリシャ語の **polys** = **π ο λ υ ς** [ポリュス] = many に由来する。「黒い人々が住む島」から「メラネシア」、「多くの島」が点在するから「ポリネシア」だ。「タヒチ」などの「フレンチ・ポリネシア」や「ハワイ」、「モアイ像」で有名な「イースター島」などは、この「ポリネシア」に属する。） / **microphone**（「マイクロフォン」・小さな音を拾う。see⇒**fabula**） / **microwave**（「マイクロ・ウエーブ」・極超短波。また「電子レンジ」もこのmicrowaveで通じる。）

(17) **mineo**・**minere** [ミネオー・ミネレー] 「突出する・そびえる」・鉱脈が突き出していたことから。採掘のプロに言わせると、石油の有無は地表からは判別できないが、石炭は地表に露出しているから空からでもわかるそうだ。そういえば日本語でも「峰(みね)」は「突き出して」いるが、偶然か? **minera** [ミネラ] <羅>で「鉱山」となる。

**mine** (「①鉱山 ②採掘する ③地雷・機雷」・「地雷」は地中に埋められたもので、「機雷」は水中に浮かべられたもの。特に「地雷」ということを明確にしたければ **landmine** という言い方もある。③の意味も「クラウン」に掲載されているので載せた。「宇宙戦艦ヤマト」にも「宇宙機雷」なるものが登場してヤマトの行く手を阻む。これをヤマトは何と「手で」取り除き、イスカンダルへの血路を拓いてゆくのだ。) / **demine** (「地雷を除去する」 see⇒**de**) / **miner** (「鉱夫」) / **undermine** (「徐々に蝕む」・土台を掘り返されたシロアリ状態を想像すればいい。) / **mineral** (「鉱物」) / **gold mine** (「金鉱」) / **coal mine** (「炭鉱」) / **prominence** (「突出・プロミネンス」・「プロミネンス」とは太陽表面の爆発で吹き上がった炎のことだ。「前に<pro>突き出たもの」が原義。see⇒**ans/pro** これも「宇宙戦艦ヤマト」のワン・シーンで、「オリオン座」の三ツ星の一つ、「ベーター星(リゲル)」のプロミネンスをヤマトが波動砲で粉碎し、血路を拓くという場面があった。ドラマの中では「コロナ」となっていたが、これは「プロミネンス」あるいは「太陽フレア」の間違いであろう。) / **corona** 「コロナ・光冠」と **crown** 「クラウン・王冠」は兄弟の単語。ラテン語の **corona** [コローナ] 「花冠」から来ている。「コロナ・ウィルス」の「コロナ」も、ウィルス表面の形状が「太陽コロナ」を想起させることからの命名である。**crown** は英語の教科書の名前にもなっているあの「クラウン」だ。また昔「コロナ」という名の車もあった。) / **prominent** (「突出した」) / **eminent** (「優れた・抜きん出た」・e = ex / see⇒**ex**) / **eminence** (「高名・卓越」 see⇒**ans**) / **imminent** (「差し迫った」・im = in = on だ。「頭上」に突き出ている」の意。戦場で槍を眼前に突きつけられた状態を想像すればいい。日本語でも「焦眉(しょうび)の急」と言う。「眉が焦げそうな(待たなしの)・・・」という意味だ。古代に on はまだなく、in が on を兼任していたことはすでに述べた。see⇒**in**) / **imminence** (「切迫」 see⇒**ans**) / **mountain** (「山」・ラテン語の **mons・montis** [モンズ・モンティス] 「山」に由来するが、さらに遡れば「突き出る」にたどり着く。アメリカの「モンタナ州」や、明石家さんまのCMで有名になった「ネスカフェ・モンテアルバン」などの「モンティス」だ。see⇒**albus**) / **mount** (「登る」) / **amount** (「(金額などが) ~に<ad>達する」 see⇒**ad**)

(18) **minus** [ミヌス] <羅>= less「より～ない」・これは「中性変化」で、「男性・女性変化」は **minor** [ミノール] となる。言うまでもなく **minor** [マイナー] となった単語だ。また **mini** は **minus** の属格(所有格)である。

**diminish** (「減らす」 di = de で「強調」とも、また di = dis で「ばらばらにして・・・」とも言われる。とりあえず dis に分類した see⇒**dis**) / **minister** (「大臣」・直訳すれば「大臣」ではなく「小臣」だ・・・とはすでに書いた。see⇒**magnus** / prime minister は、その中でのボス、つまり「総理大臣」であり、反対語は **majesty** 「国王陛下」だ。His Majesty! とか Her Majesty! など、「呼びかけ」の際に用いる。無論 **major** から来ている。see⇒**magus**) / **ministry** (「省」・防衛省とか文科省・財務省というときの「省」だ。「省庁」は「大臣(?)」が統括する。) / **minimum** (「最小・最低限度の」 see⇒**magnus**) / **minimal** (「最小・最低の」・minimum と minimal は区別が難しい。minimum は「許された範囲内の最低ギリギリ・・・」という意味であり、minimal はそのラインが存在しない場合に使う。「法律で許された範囲での最低賃金」なら **minimum wage** だが、「どんな給料でも働きます!」と言うのなら **minimal wage** だ。) / **minute** (「①分 ②「微小な」・②は「形容詞」だが発音・アクセント注意! [マイニユートツ/ マイヌートツ] だ。時計が発明され、人々は時間に追われる生活を余儀なくされるようになった。そこで「小さな時間の単位」ということでこの単語が作られた。しかしさらに時間は細分化され、もっと細かい時間の単位が求められたため、「2番目に作られた小さな時間の単位」ということで **second** 「秒」が誕生した。see⇒**sequor** 何といい加減な命名法であろう。これでは「そのまんま東」ではないか。) / **minus** (「マイナス・負の」) / **minority** (「少数派」 see⇒**superior**) / **minor** (「より小さい方の」・**minor** [ミノール] は **parvus** [パルウス] の「比較級」。形がまったく変わってしまっているが、ラテン語・ギリシャ語ではよくある。まったく「赤の他人」を引っ張ってくる・・・というケースだ。英語でも **good・better・best** だの、**go・went・gone** がある。**parvus** は「ちっちゃな・かわいい」ほどの意味で、子供を形容する際に旧約聖書の創世記ではよく使われる。一方 **paulus** [パウルス] <羅> も **little** 意味で、ギリシャ語の **paulos** = π α υ λ ο ς [パウロス] に由来する。「パウロ」は「復活した後のイエス」にダマスコ街道で出遭って目覚め、それまでの「サウロ」という名を「小さき者」という意味の「パウロ」に変えた。有名な話だ。また **major** は **magnus** の、それぞれ比較級だ。see⇒**superior** / **magnus**) / **administration** (「行政・管理」・see⇒**ad** 行政は **minister** 「大臣」の役目だ。) / **miniature** (「ミニチュア」)

(19) **miror**・**mirari**・**miratus sum** [ミロール・ミラーリー・ミラートゥス スム] <羅>= watch and be surprised「見て驚くこと」・**mir** は **mar** にもなる。

**mirror** (「鏡」・水面に写った自分の姿を見てびっくり。イソップ童話にそんな話があった。) / **miracle** (「奇跡」・確かに見た人はびっくり・・・だ。) / **miraculous** (「奇跡的な」 see⇒**osus**) / **mirage** (「蜃気楼」・「ミラージュ」などという名の車も昔あった。) / **marvelous** (「驚くべき」・「マーベラス・マービン・ハグラー」などというミドル級ボクサーもいた。動きが本当に美しかったので見とれてしまった。see⇒**osus**) / **marvel** (「驚く」・この動詞も要注意! 「驚く」は **be surprised** / **be astonished** など、ほとんどが「驚かせる」という「他動詞」で、従って「驚かされる⇒驚く」と「受動態(ギリシャ語で言う中間態)」にして使うが、この **marvel** だけは「驚く」という「自動詞」。したがってそのままの形で使えばいい。文法問題で時々突かれる。) / **admire** (「賞賛する」・~に対して<ad>驚くこと。see⇒**ad**) / **admirable** (「驚くべき・賞賛すべき」・アクセントに注意。[アドゥミラブル] だ。)

(20) **mis** ①「誤った・悪い」・これは夥しい数、日本語になっている。すべては列挙しきれない。

**misfortune** (「不幸・不運」 see⇒**fero**) / **misbehave** (「無作法に振る舞う」 see⇒**habeo**) / **misunderstanding** (「誤解」) / **misjudge** (「判

断を誤る) / **mislead** (「誤った方向に導く」) / **mismatch** (「不適当な組み合わせ」) / **misprint** (「誤植」・いわゆる「ミスプリ」だ。) / **miscast** (「不適当な役を割り当てる」 see⇒**fore**) / **mischievous** (「いたずら」 see⇒**capio**)

(21) **mitto** - **mittere** - **missi** - **missus** [ミッター・ミッテレ・ミースイー・ミッスス] <羅> = send 「送る」・また **mis** は **mes** や **mas** にもなる。

a) **admit** (「①(罪などを)認める ②(入場・入学などを)許可する」・「～の方<ad>へ送る」が原義。①なら「警察に自首する」光景を思い描けばいいだろう。自分の身柄を「輸送する」のだ。②なら「受験生に大学の門をくぐらせる」でイメージできる。see⇒**ad** / また同じ「許可する」でも **allow** とはちょっと異なる。see⇒**laudo** allow O to do 「Oさんがdoするのを許可する・認める」と使う。また **forgive** / **excuse** は「罪などを許す(赦免)」という意味だ。同じ「許す・認める」でも3種類あるから注意して使うこと。**forgive** と **excuse** についてはそれぞれ see⇒**for** / **causa** 最後に **admit** は **admit doing** と「動名詞」のみを後ろにとり、「不定詞」を取らない動詞として文法問題頻出だ。) / **admission** (「①告白 ②(入場・入学)許可」・なお **admission fee** で「入場料・入学金」となる。諸君らがお世話になるかもしれないAO入試のAもこの**admission**だ。**AO**はAdmission Office「大学入学管理事務局」の意味である。学力は度外視して事務局が特に認定して入学を許可した・・・というほどの意味か?) / **admittance** (「入場・入学許可」・**admission**との区別が難しいが、迷ったら**admission**を使っておけばいい。**admittance**には**admission**①の「告白」の意味がないからだ。また②の意味でも「建物に入る」という「物理的」な意味でのみ用いられる・・・との説もある。see⇒**ans**)

c) **commit** (「委託する」。「すべて<com>送る」から「お任せします」が出た。「フーテンの寅さん」風に言えば「持ってけドロボー！」といったところか。また「送り込む」のは「自分自身」であったらどうか?それは「全力投入」だから「犯罪を犯す」、「～に関わる・関係をもつ」や「本気で取り組む」・「責任を持つ」となる。「結果にコミットする・・・」などといったキャッチ・フレーズで一世を風靡したトレーニング・ジムもあったが、「結果に責任持ちますよ」ということだ。実にさまざまな意味があるので、その背後にある「心」を押さえなくては時間がいくらあっても足りない単語だ。また「コミッショナー<commissioner>」などという言葉もよく耳にする。プロ・スポーツ界の委員会の「最高責任者」のことだ。see⇒**cum**) / **commitment** (「関与」) / **committee** (「委員会」・お任せされた人々の集まり。) / **compromise** (「妥協する」 [コンプロマイズ]・事前に<pro>意見を送り<mitto>合って<com>妥協点をさぐる。see⇒**pro** / **cum**)

d-e-i) **dismiss** (「首・解散」は「もう帰っていいよ」ということだ。「ずっと帰ってこなくていいよ!」なら「首(餓)」となる。**Dismissed!**「解散!」などと使う。see⇒**dis**) / **dismissal** (「解散・解雇」) / **emit** (「(光・臭いなどを)発散する」・e=exで「外へ」。see⇒**ex**) / **emission** (「放射・放出・排出」・最近よくで使われるのは「CO2の排出」という文脈で・・・だ。) / **intermission** (「休憩」・昔の長編映画などでは必ず間<inter>にこれが入る<miss>。「風とともに去りぬ」、「モーゼの十戒」、「ベンハー」などの長編映画に見られる。see⇒**inter**)

m) **mission** (「使命・使節団・布教活動」・言うまでもなく「ミッション・インポッシブル」の「ミッション」だ。昔のドラマは「スパイ大作戦」と言った。) / **missionary** (「宣教師」・「フランシスコ・ザビエル」は、万里の波濤を越えて戦国時代の日本にまでやってきた。) / **message** (「メッセージ・伝言」 [メッソージ]・発音・アクセントに注意。また **massage** / **massage** は「マッサージ」のことだ。こちらはアクセントは前でも後ろでもいい。試験中気が動転していると、見間違えることがある。) / **missile** (「ミサイル・飛び道具」・アクセントに注意! [ミッスル]または[ミッサイル]だ。もともとこんな物騒なものは送られても困るが・・・) / **mess** (「ぐちゃぐちゃの状態」・What a mess! 「何だ? この散らかし様は!」などと使う。もともとはテーブルの上に食べ物置かれた(送られた)状態を表した。それが「食い散らかされた状態」という悪い意味となって現在に至る。) / **mass**② (「ミサ」・「キリスト教の儀式」のこと。その後「ワイン」と「パン」がふるまわれる。ワインはイエス・キリストの「血」であり、パンは「肉体」を意味するとされる。「最後の晩餐」の有名なシーンを再現するのだ。もともとはラテン語の **Ite! Missa est!** 「行け!そして神の言葉を述べ伝えよ!」に由来する。つまり **Dismissed!** 「それでは解散!」と似たような意味だ。)

o) **omit** (「省略する」・o=ob=against 「送ることに反対する」の意。see⇒**ob**) / **omission** (「省略・怠慢」)

p) **permit** (「許可する」 see⇒**per**) / **permission** (「許可」は「完全<per>に送られる」が原義。「フリー・パスですよ。通っていいですよ・・・」ほどの意味だ。) / **premise** (「前提」(建物も含めた)土地財産)・もともと前<pre>もって送られたもの・・・の意。これが遺言書「前もって=生前」を意味するものとなり、「遺産」⇒「土地建物」を表すこととなったらしい。see⇒**pre**) / **promise** (「約束する」・前<pro=pre>もって誓約書を送る・・・の意。「前」は時間的なものらしい。see⇒**pro** / **penetro**)

s-t) **submit** (「屈する・提出する」・相手の下<sub>に入る(送られる)ことだ。また宿題を先生に「提出」するときには「上から視線」ではいけない。see⇒**sub**) / **submissive** (「従順な」) / **submission** (「屈服」・これを「関節技」と訳した馬鹿者がかっていた。おそらく格闘技ファンであろう。レスリングで「抑え込み」という意味はあるが、「関節技」という意味は残念ながら・・・ない。意欲は認めるが・・・) / **transmit** (「伝達する」は越え<trans>て運ぶこと。see⇒**trans** 車の **transmission** 「トランスミッション」は「変速機・伝達機関」だ。)

(22) **modus** - **modi** - **modo** - **modum** - **modo** [モドゥス・モディ・モドゥー・モドゥム・モドゥー] <羅> = rule / unit of regulation 「規則・型にはまった様式」・なぜ「東京モード学園」なのか明白にするため、すべての「曲用(格変化)」を書いた。

**mode** (「様式」) / **accommodate** (「宿泊させる」) / **accommodation** (「宿泊施設」・もともとは「いっしょ<com>の型<mod>に<ac = ad>押し込める」から来ている。言われてみればホテルなどは部屋の内装は全部同じだ。添乗員に連れられてぞろぞろホテルに向かう団体さんが目に浮かぶような単語。「ご一行様、ご案内ー!」だ。see⇒**cum** / **ad**) / **model** (「模型・模範」・規則に則った・・・の意。) / **moderate** (「中庸の・適度な」・**model**と同じ理屈。) / **moderation** (「適度・中庸・節制」) / **modern** (「近代的な」・様式というものは現代に近づけば近づくほど「没个性的」で「型にはまったもの」となるのは、縄文式土器と弥生式土器を比べればわかる。) / **modest** (「謙虚な」・羽目(型)をはずさないような。) / **modesty** (「謙虚さ」) / **modify** (「修正する・修飾する」・はみ出したものを、差し障りのない形にもどすこと。-fy = **facio**)

/ see⇒**facio** ) / **modification** (「修正」) / **mood** (「気分」・心の様式・有り様だ。「仮定法」は subjunctive mood[サブジャンクティブ・モードウ]、「直説法」は indicative mood[インディカティブ・モードウ]で、いずれも mood「気分」がつく。要するに「話者がどんな気分分で話しているのか?」を示すものだ。「事実だ!」と思って話していれば「直説法」だし、「事実かどうかは知らないよ!これは私の独り言だからね!あとであれこれ言われても困るわよ!」というのが「仮定法」だ。「可能性が高い低い」は無関係。ちなみにラテン語・ギリシャ語では「接続法」というのが英語の「仮定法」に当たる。) / **commodity** (「日用品」・毎日使う「型にはまったもの」だ。日用品はみな「同じ<com = cum>様式」だ。see⇒**cum** ) / **moody** (「気分屋の・不機嫌な」) / **mold** (「鋳型(いがた)」)

**(23) monos** = μ ο ν ο ς [モノス] <希> = one / only・ラテン語では **unus - una - unum** [ウヌス・ウナ・ウヌム] となる。

**monarch** (「君主」・君主は「1人」でいい。see⇒**archo** ) / **monarchy** (「君主制」・「1人の支配」が原義。see⇒**archo** ) / **Monaco** (「モナコ公国」・「世界で2番目に小さな国」だ。「一番小さな国」は無論ローマ法王の鎮座する「バチカン市国」である。モナコはもともと「一軒家」が原義。その昔、英雄ヘラクレスがこの場所で土地の神々を退散させたことから彼を祭る神殿が一つ建設された。「一軒家」とはこの神殿を指すのだそう。)/ **monk** (「僧侶・修道士」・僧侶は1人で修行するもの。発音は[マンク]だ。一方修道女は **nun**[ナン]という。「オードリー・ヘップバーン」の「尼僧物語<the nun's story>」というのもあった。)/ **monastery** (「修道院」) / **minster** (「大聖堂」・イギリスで国王の戴冠式が行われる **West Minster Abbey**「ウエスト・ミンスター・アビー(ウエストミンスター・大聖堂)」は有名だ。「アイザック・ニュートン」や「チャールズ・ダーウィン」をはじめとして、最近亡くなった「スティーブン・ホーキング」博士にいたるまで、多くの著名人がここに眠っており、もはや満杯状態だそう。)/ **Munich**[ミュニッック]「ミュンヘン」・言わずと知れたドイツの首都。「修道僧<monk>の住む所」が原義だそう。)/ **monochrome** (「単色の・モノクロの」**chrome** = χ ρ ο μ α [クローマ] <希> = color「色」また **chromosome**[クロモゾーム]とくれば「染色体」だ。生物でやったはず。**soma** = σ ω μ α [ソーマ]は **body**「体」。「染色体」とはよくぞ名付けたものだ。)/ **monolingual** (「1ヶ国語しかしゃべれない」・**bilingual** see⇒**bi / longus** は「2ヶ国語べらべら」。美人の帰国子女はかつて「バイリンギヤル」などと持てはやされた時代があった。**trilingual** は「3ヶ国語べらべら」。see⇒**bi / longus** 発音は[トライ・リンガル]だ。ではそれ以上となるとどう表現するのだろうか?4か国語は「クアトロ・リンガル(?)」。5か国語は「クイント・リンガル(?)」などとラテン語を使って造語は可能だろうが、「ランダムハウス大英和辞典」にはそれらは載っていない。**trilingual** 以上になると **polyglot**[ポリ・グロット]という単語が用いられる。**poly** は **polys** = π ο λ υ ς [ポリュス] <希> で **many**。**glot** は **glotta** = γ λ ω τ τ α [グローツタ] <希> で「舌・言語」の意。「多国語を話せる」という意味になる。英語でも **mother tongue**[タンク]で「母国語」となるが、**tongue** も「舌」という意味だ。「牛タン」の「タン」でもある。)/ **monorail** (「モノ・レール」・レールが1本。羽田に行くとき乗るやつだ。see⇒**rex** ) / **monotonous** (「単調な」・「一本調子な」と日本語でも言う。see⇒**tono / osus** **tone** は「調子・色調」だ。「いきなりトーン・ダウンしたぜ!」などというときの「トーン」。急に「しどろもどろ」になることだ。see⇒**tono** ) / **monotony** (「単調さ」see⇒**tono** ) / **monopoly** (「独占・独占販売」・「独り占め」。**poly** は **poleo** = π ο λ ε ω [ポレオー] <希> = **sell** だから、「単独で売る」というほどの意味になる。商売敵を全部潰したあと、市場を独占することだ。)/ **monopolize** (「独占する・独占販売する」see⇒**ismos** ) / **monolith** (「一枚岩」・「2001年宇宙の旅」という映画ででてきたやつだ。古代文明でしばしば驚異の対象として語られる。無論運搬が極度に難しくなるからだ。世界最大の一枚岩はレバノンの「バールベック」にある通称「南方の石」で、その重量たるや推定1100トンと言われる。何と乗用車1100台分である。それはもう「岩」などというなまやさしい代物ではない。まるで「マンション」である。いったいどうやって運んだのか?この「南方の石」を、筆者も一目見たいと四方八方駆け回ったが、当時の中東情勢がそれを許さなかった。**lithos** [リソス]はギリシャ語の **rock**。see⇒**lithos** **megalith** は「巨石」。see⇒**magnus / lithos** **lithosphere**[リソスフィア]は「岩石圏・地殻」see⇒**sphaira / lithos**。 **lithograph**「リトグラフ」は「石版画」だ。see⇒**grapho / lithos** ) / **monologue** (「独白」[モノローグ]・「独り言」のこと。see⇒**logos** )

**(24) mors - mortis** [モルス・モルティス] <羅> = death「死」

**mortal** (「死すべき運命の」) / **mortality** (「死ぬ運命・死亡率・死亡数」) / **immortal** (「不死の」・**im**は反対語。see⇒**in**Ⓜ) / **immortality** (「不死」) / 古代ローマの諺に「メメント・モリ<**Memento Mori**>」というのがある。see⇒**mens** また同じタイトルの「藤原新也」氏の本も昔あった。ラテン語だが「常に死を思え」、「常在戦場」という意味だ。/ まず **memento** は **memorize**「記憶する」と親戚の単語だと、ラテン語を知らなくとも想像できる。**mori** は **morior** [モリオール] = **die**「死ぬ」の「不定詞・名詞的用法」で「死ぬこと」だから、上記のような意味となる。ただし当時はあまり使われず、使われたとしても全く別の意味で使われていたようだ。「明日は死ぬかも知れない。だから今日を楽しめ!」という意味で、後半に力点が置かれていたわけだ。しかし中世になって、今のような文脈での使用となった。「黒死病(ペスト)」でヨーロッパの人口の3分の1が死んだといわれる凄まじい時代である。有名な言葉だから覚えておいて損はない。ただし「ペスト」はドイツ語である。英語では **plague**[プレイグ]「疫病・ペスト」see⇒**placeo / cado**あるいはもろに **Black Death** と言う。英語で **pest** と言ってしまうと「害虫・厄介者」の意味になるので注意。see⇒**placeo / cado** **pesticide** で「殺虫剤」となる。see⇒**cado** また **Et in Arcadia ego**.[エトウ・イン・アルカディア・エゴ]「アルカディアにも我ありき」も同じ意味だ(**et**=too / **ego**=I)。英語式に並べれば、Too, in Arcadia I (am). となる。「アルカディア」というのは古代ギリシャ人にとって楽園とされた土地だ。そこにすら「我はいる」、というのだ。ここでの「我」は「死」である。つまりどんな楽園にいようと、死は人間を見逃さない・・・という脅し文句だ。「松本零士」氏の漫画「わが青春のアルカディア」や「宇宙海賊キャプテン・ハーロック」の「アルカディア号」などでお馴染みの、ギリシャ北西部に実在する地名である。

**(25) moveo - movere - movi - motus** [モベオー・モペーレ・モウィー・モートゥス] <羅>「動かす」・また **v** が **b** に入れ替わった例も見られる。

**move** (「心を動かす・感動させる」・be moved と「受動態」で「感動させられる」⇒「感動する」となる。**touch** も同じ理屈だ。see⇒**tango**

「心に触れる」で「感動させる」となる。日本語でも「琴線(きんせん)に触れる」と言うのではないか。琴の弦を弾くように感動させられる・・・ということだ。因みに「気分を害する」という意味はない。) / **movement** (「動き・運動」) / **emotion** (「感情・感動」は人を動かすもの。内側(=心)から外<e=ex>に出てくるもの・・・の意。see⇒**ex**) / **emotional** (「感情的な」) / **locomotion** (「運動・移動」see⇒**locus**) / **locomotive** (「機関車」・「場所<loco>を動かす」が原義。see⇒**locus**) / **mobile** (「動きやすい・移動可能な」[モビル / モバイル]・mobile phone「携帯電話」ですっかり有名。bile = able だ。) / **mobility** (「可動性・動きやすさ」・「モビリティが高い・・・」などと使う。) / **automobile** (「自動車」・「自分で動く・・・」の意。see⇒**autos**) / **remove** (「除去する」・再び<re>動かすことは、どかすこと。see⇒**re**) / **removal** (「除去」) / **promote** (「昇進させる・販売促進する」・出世の階段を **pro**「先へ」行かせること。「プロモーション・ビデオ」の「プロモート」だ。see⇒**pro**) / **promotion** (「昇進・販売促進」) / **motivation** (「動機づけ・刺激」・また incentive も同じ意味だが、実際にはある意味「対立概念」。**incentive**[インセンティブ]は「外的刺激」。早い話が「お金」など。see⇒**canto** / **in**① 一方 motivation「モチベーション」は「内的要因」。「向上意欲・何かに愛着などがわくこと」などだ。「モチベーションが湧かない・・・」などと、勉強やりたくない奴がよく口にする。) / **motive** (「動機」) / **motivate** (「刺激する・やる気にさせる」) / **remote** (「離れた」・後ろに<re>移動させられた・・・の意。「リモコン」の remote だ。see⇒**re**) / **mob** (「暴徒」・暴動を起こすから。) / **motor** (「モーター」)

(26) **mutus**・**multa**・**multum** [ムルトウス・ムルタ・ムルトウム] <羅> = many / much・「マルチ」の語源となった。「マルチ・タレント」とか「マルチで働ける奴」とかの「マルチ」だ。「マルチ<multi>」は **mutus**の「属格形(所有格)」である。この「比較級」が **plus**[プラス]となる。「プラス・マイナス」の「プラス」だ。まったく異なる由来の単語を引っ張ってくる、英語にもよく見られるパターンだ。こちらは **plenus**[プレヌス]「いっぱい」に由来。see⇒**plenus** / **surgo**

**multitude** (「多数」) / **multiple** (「多様な」) / **multicolored** (「多色の」) / **multiply** (「増やす・掛け算する」see⇒**plico**) / 「掛け算」が出たついでに、「足し算」・「引き算」・「割り算」もおさえておこう。**addition** (「足し算」 see⇒**do** from add) / **subtraction** (「引き算」 see⇒**traho** from subtract) / **division** (「割り算」 from **divide** / see⇒**divido**) だ。 / **multiplex** (「多様な・多重送信の」see⇒**plico**)

(27) **mutō**・**mutare**・**mutavi**・**mutatus** [ムートー・ムターレ・ムターウィー・ムタートゥス] <羅> = change「変わる」 / **alternate**「交代する」 / **transform**「形を変える」・また **mun**の形も登場するが、これは **munus**・**muneris** [ムヌス・ムネリス] = tax / duty「税金・義務」が起源。「犠牲」を払うことと「引き換え」に「神の加護」を得たことから、**mutō**「交換」の意味が生まれた。筆者にはかつて武藤くんという友人がいた。言ってるのがころころ変わるので有名な奴だったが、ここから「ムトー」=「変化する」で覚えた。**mutant**[ミュータント]といえば「突然変異児」。「ミュータント・サブ」などという故「石森章太郎」氏の漫画も昔あった。

**mutant** (「突然変異の・変異体」see⇒**ans**) / **mutate** (「変化する・突然変異する」) / **mutation** (「突然変異」) / **mutual** (「相互の」・なぜ「変わる」が「お互いの」になったかといえば、「順番を相互に変える=替える」からきている。change よりむしろ alternate を思い浮かべた方がいいだろう。) / **mutually** (「お互いに・相互に」) / **commute** (「通勤する」・職場と家を行ったり来たり・・・だ。常に居場所が変わる。また電車にはさまざまな人が乗ったり降りたりするから・・・という説もある。com は「強調」see⇒**cum** **commuter train**で「通勤電車」となる。) / **immune** (「免疫のある」see⇒**in**② **AIDS**は **Acquired Immunodeficiency Syndrome**「後天的免疫不全症候群」の略だ。「免疫」とは外部から異物(細菌など)が侵入しても、それを撃退する機能のこと。im = in (反対語)「変化しない」⇒「細菌に対して動じない」⇒「免疫性の」ということだ。**acquire**は see⇒**qui** / **ad**、**deficiency**は see⇒**facio**、**syndrome**は see⇒**sim** / **meta** となれば **HIV**はもうおわかりだろう。**Human Immunodeficiency Virus**「ヒト免疫不全ウイルス」だ。) / **immunity** (「免疫」) / **community** (「地域社会・共同体」・お互いに助け合うからだ。) / **common** (「共通の」・mun が mon に転訛した。) / **communicate** (「伝達する」・みんな<com>が意見を交換し合うこと。see⇒**cum**) / **communication** (「伝達・意思疎通」) / **municipal** (「市の」・古代ローマの自治都市を意味した。兵を出すことと引き換えに自治権を獲得<cipi = catch>したことに由来する。see⇒**capio**) / **communism** (「共産主義」see⇒**ismos**) / **permutation** (「順列・入れ替え」・数学の「場合の数」という単元で「順列」「組み合わせ」というのがある。そこで登場する「P」がこの permutation[パーミュテーション]だ。徹底的に<per>入れ替える<mutō>という意味だ。see⇒**per** abc の 3 文字の順番を徹底的に入れ替えると abc / acb / bac / bca / cab / cba の 6 通りとなる。漏れがあってはならない。一方「C」が「組合せ<combination>」であることは、すぐに気づかれたことだろう。) / **combine** (「結合する」・「組み合わせ」が出たついでにこの単語も載せた。農業で言う「(オート)コンバイン」もこれだ。刈り取りと同時に脱穀も行う優れたものの機械のこと。2つの機能を結合した・・・というほどの意味とか・・・。see⇒**bi** / **cum**)

## N

(1) **nascor**・**nasci**・**natus sum** [ナスコール・ナスキー・ナートゥススム] <羅> = be born・「生まれる」ギリシャ語では **gignomai**= γ γ ν ο μ α ι [ギグノマイ]となる。

**native** (「その土地生まれの」・ネイティブ・スピーカー)の「ネイティブ」だ。see⇒**sto**) / **nature** (「自然」) / **natural** (「自然な」) / **nation** (「国家・国民」see⇒**sto**) / **national** (「国家・国民の」) / **international** (「国際的な」see⇒**inter**) / **nationalism** (「国家主義・民族主義」see⇒**ismos**) / **nationality** (「国籍」) / **nationalist** (「国家主義者・民族主義者」) / **innate** (「生まれつきの」・生まれつき内側<in>に持っていること。see⇒**in**①) / **aCn** (**ante Christum natus** [アンテ・クリストゥム・ナートゥス]「キリスト生誕以前」・ラテン語で「紀元前」のことだ。因みに「紀元後」は **pCn** と言う。無論 p は post だ。英語では BC / AD を使うが、無論ドイツ語、フランス語、イタリア語で表現は異なるし、非キリスト教圏は言うまでもない。**B.C.** <Before Christ>は確かに英語だが、**A.D.** <Anno Dmini> はラテン語なのだから、せめ

てキリスト教圏内で統一してもいいと思うのだが・・・因みになぜ後者だけラテン語なのか、理由ははっきりしないようだ。see⇒**annus**) / **pregnant** (「妊娠した」・生まれる前<pre>だ。**gignomai**の後代形は**ginomai**という。このgが残ったものだ。see⇒**pre**) / **pregnancy** (「妊娠」) / **naïve** (「ナイーブな・馬鹿な」・「あたしナイーブだから・・・」などと言ってはいけない。ナイーブは「馬鹿」という意味だ。ここで言う「馬鹿」とは「赤ん坊のときから成長していないこと」だ。) / **renaissance** (「ルネッサンス・再生」・再び<re>生まれること。see⇒**re**)

(2) **nauticus** [ナウティクス] <羅> = sailor 「船乗り」

**astronaut** (「宇宙飛行士」・宇宙の船乗り・・・だ。see⇒**astron**) / **NASA** (National Aeronautics and Space Administration 「アメリカ航空宇宙局」・アポロやスペース・シャトルを飛ばした所だ。しかしれっきとした「軍事研究所」でもある。see⇒**curo**) / **nautical mile** (「海里」 [ノーティカル・マイル]・1海里は1852mだ。陸上の1マイル(1.6km)より若干長い。12海里までが「領海」。200海里までは**EEZ**。いわゆる「排他的経済水域<Exclusive Economic Zone>」だ。**exclusive**についてはsee⇒**claudo/ex**)

(3) **navis**・**navis** [ナヴィス・ナヴィス] <羅> = ship 「船」・尚、ビスケットで有名な「ナビスコ」は「ナショナル・ビスケット・カンパニー」の略で「海」とは無関係のようだ。

**navigation** (「航海・航海術」) / **navigator** (「ナビゲーター」・ももとは「航海士」の意味だ。「カーナビ」の「ナビ」でもある。) / **navigate** (「操縦する・運転する・道案内する」) / **navy** (「海軍」・「ネイビー・ブルー」や「ネイビー・ジャケット」の「ネイビー」だ。ネイビー・ブルーはイギリス海軍の制服の色に由来し、濃紺を指す。) / **naval** (「海軍の」) / **aviation** (「飛行」 [エイヴィエーション]・無関係な単語だが、「海」が登場したついでに「空」も載せた。**navis**と**avis**で音も似通っているから覚えやすいだろうと判断したからだ。ラテン語の**avis** [アヴィス]「鳥」に由来する。) / **aviator** (「飛行士」) / **aviate** (「飛行する」) / **avian** (「鳥の」・ミネラル・ウォーターの「エビアン<Evia>」は無関係のようだ。こちらはフランス・スイス国境にある、水源地の地名らしい。) / **avian influenza** (「鳥インフルエンザ」) などがある。 / **inauguration** (「就任式」・昔は「鳥占い」というのがあった。綱を張って区切られた場所で空を見上げ、鳥の動きで吉凶を占うのだ。**augur** [アウグル]は「ト(うらない)官」のこと。この鳥占いに由来する言葉である。inは「～の中で」。「～の中で宗教儀式を行う」が原義。see⇒**in**④) また**Capitol Hill**で行われる合衆国大統領の就任式は、諸君らも見覚えがあらう。see⇒**capio**)

(4) **negō**・**negare**・**negavi**・**negatus** [ネゴ・ネガレ・ネガウィー・ネガトウス] <羅> = deny 「否定する」・「ネゴ」と「ゴネる」は音も似ているが、これも無関係だろうか？ またラテン語の**ne** [ネ]やギリシャ語の**νη** [ネー]は否定のとき使われる。

**negotiate** (「交渉する」・**oti** = **otium** (=leisure)・「余暇を否定して仕事に精を出す・・・」から来ているらしい。「ニゴシエイター(交渉人・真下正義)・・・」のほうじゃ覚えやすいか。) / **negotiation** (「交渉」) / **negative** (「否定の」) / **neglect** (「無視する」・無視は無視でも「職務怠慢」だ。分かっていてやらないこと。これに対して**ignore**は**gno** = **know**だから「あら気づかなかったわ。御免なさい。」だ。「育児放棄」は無論前者だ。「ニグレクト」でもう日本語。see⇒**cogito/lego**②) / **negligence** (「怠慢」 see⇒**ans**) / **negligent** (「怠慢な」) / **deny** (「否定する」 de + **negare**・deは「強調」。see⇒**de**) / **denial** (「否定」)

(5) **nomen**・**nominis** [ノメン・ノミニス] <羅>・またギリシャ語に遡ると **onym** = ο ν υ μ [オニユム] となる。

**nominate** (「指名する・推薦する」・「(大会などに)ノミネートされた」・「などと言う」) / **nominal** (「名目上の」) / **synonym** (「同義語」もろに **onym** が出てきている。see⇒**sim** 反対語は **antonym** 「反対語」だ。別に駄洒落ではない。) / **antonym** (「反意語」 see⇒**anti**) / **anonymous** (「匿名の」・**an** = **un** 「否定」だ。「アノニマス」などという薄気味悪い仮面をかぶった連中の組織は記憶に新しい。see⇒**a/in**②) / **Hieronymus** (「ヒエロニムス」・聖書の翻訳者。詳しくはsee⇒**vulgatus**)

(6) **nomos** = ν ο μ ο ς [ノモス] <希> = manage 「管理する」・law 「掟」・custom 「慣習」・古代エジプト史で「ノモス」という用語を学習する。「メネス王」のエジプト統一以前に存在した小国家の呼称だ。また古代ギリシャ史でも「ノモス」が登場する。何故か？結論から言えば、「ノモス」は「オス<os>」で終わっているからギリシャ語だ。それが古代ギリシャよりさらに倍も古い古代エジプトの歴史に登場するのとか言えば、「アレクサンドロス大王」が後年エジプトを支配化に置いたからだ。そこから古代エジプトの行政単位だったものが、「ノモス」とギリシャ語で呼ばれることとなった。「ノモス」は**share** 「分け前」が原義。そこから「物を分配する為の」規則・慣習・掟」という意味になった。・**nomy** ときたらすべてこの「ノモス」由来だ。またラテン語の **numero** [ヌメロー] 「数える」もこの派生語。**number** の語源になった。

**astronomy** (「天文学」・「星を管理すること」が原義。see⇒**astron**) / **economy** (「経済」・「家を管理すること」が原義。see⇒**oikos**) / **autonomy** (「自治」・「自分で自分を管理すること」が原義。see⇒**autos**) / **nomad** (「遊牧民・放浪者」・「ノマド」として最近では日本語にもなっているが、正確な発音は[ノウマッド]だ。「慣習」⇒「慣習によって分け与えられた土地」⇒「土地を求めて放浪する者」の意味が生まれた。) / **numerous** (「たくさんの」・「分配された土地の数」から来た。こうなると「何でもあり」だが・・・。see⇒**osus**) / **numeral** (「数字・数詞」) / **number** (「数」) / **innumerable** (「数えきれない」 see⇒**in**②)

(7) **norma**・**normae** [ノルマ・ノルマエ] <羅> = standard 「基準」・ももとは **gno** = **know** 「知る」から派生した。「基準を知る物(大工の曲尺のこと)」⇒「基準」となった。see⇒**cogito**

**normal** (「正常な」) / **abnormal** (「異常な」・**ab**は反対語。see⇒**ab**) / **norm** (「ノルマ・基準・標準労働量」・これだけは最低でもやれよ!・・・ということ。) / **enormous** (「途方もない」・**e** = **ex** だ。see⇒**ex**)

(8) **noto**・**notare**・**notavi**・**notatus** [ノト・ノターレ・ノターウィー・ノタートウス] <羅> = notice 「気づく」・**nota**・**notae** [ノタ・ノタエ] <羅> = sign / mark 「印」・「気づいて<cogito>印をつける」が原義。see⇒**cogito**

**notable** (「有名な」) / **notice** (「気づく・通知」・at short notice は「いきなり」だ。「通知が不足<short>している」のだ。see⇒**cogito**) / **noticeable** (「目立った・注目すべき」 see⇒**cogito**) / **note** (「メモ」 see⇒**cogito** 一方日本語で言う「ノート」は **notebook** だ。see⇒**cogito**) / **notify** (「通告する」 see⇒**facio**) / **notorious** (「悪名高い」 see⇒**osus**) / **denote** (「意味する・示す・象徴する」 de は「強調」 see⇒**de**) / **notion** (「考え・概念」)

(9) **nova**・**novus**・**novum** [ノヴァ・ノウス・ノウム] <羅> = new 「新しい」・先日倒産した某英会話学校のことではない。また天文学で「超新星」を「スーパー・ノバ」と言う。ギリシャ語ではこれが **neos** = ν ε ο ς [ネオス] となる。「ネオナチ」のネオだ。化学でお馴染みの **neon** 「ネオン(Ne)」もこれだ。「ネオス」の中性的詞形が「ネオン」。「新しいもの」として名付けられた。また **Neapolis** = Ν ε α π ο λ ι ς [ネア・ポリス] 「新しい都市」がイタリアの「ナポリ」となった。こちらは世界史で出題があったと記憶している。もともとはギリシャ人の植民都市である。「ナポリを見て死ね」などという言葉もある。確かにボンゴレはめっちゃめっちゃ美味かったが、町は汚かったのを覚えている。

**novel** (「小説」・文字通り「目新しいもの」の意。ヨーロッパでの小説の登場は、「ジョナサン・スイフト」の「ガリバー旅行記」など 18 世紀になってからのことだ。一方日本の小説の歴史は古い。「源氏物語」は今から 1000 年も前にできたもので、「世界最古」の長編小説だ。また「世界最長」の長編小説は「山岡荘八」氏の「徳川家康・全 28 巻」だ。また「ノーベル賞<Nobel Prize>」の「ノーベル」は **Nobel** だから無関係。ダイナマイトの発明者「アルフレッド・ノーベル」に因んだものであることは、小学生でも知っている。) / **novelty** (「目新しさ」) / **innovation** (「刷新」・新しさを導入<in>すること。see⇒**in**①) / **innovate** (「刷新する」) / **innovative** (「革新的な」) / **renovate** (「刷新・修復する」・再び<re>新しくすること。see⇒**re**) / **neolithic** (「新石器時代の」 see⇒**monos** / **lithos**) / **Nihil novum sub sole**. (「日のもとに新しきものなし」 see⇒**sol** / **sub**)

(10) **nox**・**nocis** [ノクス・ノキス] <羅> = night 「夜」・ギリシャ語の **Nyx** = Ν υ ξ [ニュクス] 「夜の神」に由来。ラテン語では **nox** [ノックス] は night 「夜」、**nex** [ネックス] は death 「死」の意味だ。また **noceo**・**nocere** [ノクオー・ノケレ] <羅> で「害をなす」と動詞となる。「夜」は「殺人」にはうってつけだからだ。これらはすべて同根の語ではないかと筆者は睨んでいるが確証はない。因みに **NEX** という列車があった。上野駅から成田空港への直行列車だ。「成田エクスプレス」の略称だろうが、これから飛行機に乗ろうというのに何というネーミングか!

**innocent** (「無実の・無邪気な」・「害がない<in>」が原義。また「イノセント 3 世」などというローマ教皇も世界史に登場する。「イギリス王・ジョンの破門」やら、「教皇は太陽・皇帝は月」といった名言(?) など有名な、教皇権絶頂期の人物だ。最近では原語主義で「イノケンティウス<us>」となっているが・・・。see⇒**ans** / **in**②) / **innocence** (「無実・無邪気」) / **nuisance** (「厄介な物」[ニュースンス]・スベルが変わり果てているのは、やはりフランス語経由だからだ。こらえて欲しい。see⇒**ans**) / **nocturnal** (「夜行性の」) / **nocturne** (「夜想曲」) / **equinox** (「春分点・秋分点」・「夜の長さが(昼と)等しい<equal>・・・」が原義。see⇒**aequalis**) / **nectar** (「ネクター・新酒・果汁」・「死<nex>に打ち勝つ効用」の意。古代ギリシャの神々は、この「ネクター」を飲んで不死を保ったと言われる。「不二家ネクター」の「ネクター」だ。ちょっと古いが・・・。see⇒**zoion**)

(11) **nuntio**・**nuntiare**・**nuntiavi**・**nuntiatum** [ヌンティオー・ヌンティアレ・ヌンティアウィー・ヌンティアトゥム] <羅> = announce / declare 「発表・宣伝・報告する」

**pronounce** (「発音する」・前に<pro>向かって大声で・・・。see⇒**pro**) / **pronunciation** (「発音」・もろに **nun**[ヌン]が出てきている。o が取れることに注意。昔どこかの模試で出題があったやに記憶している。) / **announce** (「発表する」[アナウンス]「～に向けて<an=ad>発表する」の意。see⇒**ad**) / **renounce** (「断念する・(権利を)放棄する」・「後ろへ権利を投げ返す<re>」こと。see⇒**re**)

(12) **nutrio**・**nutrire**・**nutrivi**・**nutritus** [ヌートウリオー・ヌートウリーレ・ヌートウリーウィー・ヌートウリートゥム] <羅> = bring up / raise 「育てる」。また **nutr** は **nurt** にもなった。t と r が入れ替わったわけだ。また **nu** ⇒ **nou** の形も見られる。

**nurture**① / **nourish**② (「育てる」・①はちゃんと育てるように心を配る<take care of>ことで、②はそれに必要な物資などを供給する<provide>ことだ。) / **nourishment** (「養育・滋養・栄養を与えること。発音は[ナリッシュメント]) / **nutrition** (「栄養」) / **nutritious** (「栄養のある」 see⇒**osus**) / **nutrient** (「栄養になる・栄養になる物」 see⇒**ans**) / **malnutrition** (「栄養失調」 see⇒**malus**) / **nurse** (「看護婦」) / **nursery** (「育児室」) / **nursery rhyme**[ナーサリー・ライム] (「童謡・子守唄」)

## O

(1) **ob** 意味があまりに多いので、思い切ってまとめた。o / oc / of / op にも変化する。①「(一方が他方に) に対して<toward>」②「～に反対して・対立<confrontation>」③「圧迫・下へ<oppression>」。

**obe-obj-obl** **obey** (「従う」・**ob** [オブ] + **audire** [アウディーレ]「～に対して耳を傾ける」が原義。これが **obedire** [オバーディーレ] となり **obey**[オベイ] となった。これは流石の筆者も「初耳」だった。随分ラテン語も読んできたつもりだったが・・・。see⇒**audio**) / **object** (「反対する・物体」・「～に対して<ob>物を投げる<ject>」より。また物を投げられた「対象(物体)」をも指すこととなった。see⇒**jacio** / **pono**) /

**oblong** (「長方形」・「一方の辺が他方の辺に対して長い<long>」が原義。see⇒**longus**)

**obs-obt-obv** **obsessed** (「(ある考えに) 憑りつかれている」 see⇒**sido**) / **obstacle** (「障害」・「～に反対して立つ<sta>」の意。see⇒**sto** / **culum**) / **observe** (「①観察・観測する ②遵守(じゅんしゅ)する」・もともと「～に対して注意深く目を向ける<serve>」の意。また法律に目を向ければ「法律を守る」となる。see⇒**servo**) / **obtain** (「手に入れる」・「～に対して(手を伸ばして<tain = teneo>) つかむ」が原義。see⇒**teneo**) / **obvious** (「明らかな」 see⇒**via** / **osus**)

**oc-of-om)** **Occident** (「西洋」 see⇒**cado / ob**) / **occasion** (「機会・場合」 see⇒**cado**) / **occult** (「秘密の・神秘的な」 see⇒**celo / colo**) / **occupy** (「占領する」・「〜に対抗して<oc = ob>場所を取る<cupy = catch>」 ⇒ 「占領する」となった。 see⇒**capio**) / **occur** (「起こる」・「〜に対して走る」の意。「事件とは走って<cur>やって来るもの・・・」とはすでに書いた。 see⇒**curro**) / **offend** (「気分を悪くさせる」 see⇒**fendo**) / **offer** (「提供する」 see⇒**fero**) / **omit** (「省略する」 see⇒**mitto**)

**op)** **oppose** (「反対する」・「〜に反対して置く<pose>」がもとの意味。自分自身を相手とは**反対の立場に置く**ことだ。 see⇒**pono**) / **oppression** (「抑圧する」 see⇒**premo**) / **opportunity** (「機会・チャンス」 see⇒**porto**)

### (2) **off** ①「離れて」

**offshore** (「沖合へ」・文字通り「岸<shore>を離れて」だ。) / **offset** (「相殺する・埋め合わせる」・「カーボン・オフセット」などというシステムも最近耳にする。「CO2を排出しても、その分金を払えばチャラ<set off>にしてもらえるよ」という制度のことだ。無論その金はCO2を吸収する活動にまわされるわけだ。例えば「金出すから植林事業に使ってよ」などが挙げられる。排出した量を**ゼロ<off>**にもどしてくれることである。) / **off-season** (「シーズン・オフの」) / **offspring** (「子孫」・「〜から**離れ<off>**て飛び出て<spring>来た者」の意。何から出てきたかといえば、「祖先」から・・・だ。) / **off-road** (「オフロードの」・「道路から**離れて**・・・」の意。オフロード・バイクとは泥道や山道を通り回れるバイクのことだ。) / **offside** (「オフサイドの」・サッカー用語で有名になったが、もともとは「自陣<side>から**離れて<off>**敵陣に呼びこませたスパイ」ほどの意味らしい。) / **off guard** (「油断して・・・」・「ガードが下がっている状態で・・・」の意。on guardだと逆に「ガードを固めて・警戒して・・・」となる。)

### (3) **-oid** = -ο ι δ [オイドウ] <希> 「〜に似た物」・**oida** = ο ι δ α [オイダ] 「見る」に由来する。「似たように見えるもの」の意味だ。

**android** (「アンドロイド」 see⇒**aner / astron**) / **anthropoid** (「類人猿の」 see⇒**anthropos**) / **asteroid** (「小惑星」 see⇒**astron / aner**) / **cardioid** (「カーディオイド (ハート形曲線)」 see⇒**cor**=heart) / **humanoid** (「人型の・ヒューマノイド」 see⇒**humus**) / **tabloid** (「タブロイド紙」・イギリスで言えば the Sun などの、ゴシップやスキャンダルを専門に扱う新聞だ。日本のスポーツ新聞のようなもの。もともとは **tablet** 「錠剤」の商品名だったらしく、「薬の粉末をコンパクトに固めたもの」という意味だった。それを新聞にも応用して、「今もつとむ旬な話題だけコンパクトにして伝える新聞」となったようだ。tablet に関しては see⇒**sto / culum**) / 最後に人種を三種類まとめた。**Mongoloid** (「モンゴロイド・黄色人種」) / **Caucasoid** (「コーカソイド・白人」・「コーカサス (カフカス) 地方」から世界中に広がっていった民族 (インド・ヨーロッパ語族) に由来することは、「序章：インド・ヨーロッパ語族の話」のところで書いた。) / **Negroid** (「ニグロイド・黒人」・ラテン語の **niger** [ニゲル] 「黒い」に由来する。一方ギリシャ語では「黒い」は **melan** [メラン] と言うことは「メラネシア <Melanesia>」のところで書いた。 see⇒**mikros**)

### (4) **oikos** = ο ι κ ο ς [オイコス] <希> = home 「家・家庭」・「オイコス」 ⇒ 「エイコス」 ⇒ 「エコ」となった。

**economy** (「経済」・**nomy** = **nomos** = manage 「管理する」の意味。 see⇒**nomos** 「経済」とは「家計」をしっかりと「管理」することだ。また **economy / economical / economics** は、意味とアクセントに注意。) / **economic** (「経済の」・日本人はその昔、**economic animal** 「エコノミック・アニマル」と呼ばれた。「金儲けばかりに血道 (ちみち) をあげる奴」という意味だ。) / **economical** (「経済的な・安上がりの」) / **economics** (「経済学」・s で終わっているからギリシャ語起源の学問名だとわかる。 see⇒**polis**) / **ecology** (「生態学」・今はやりの「地球に優しい学問」。「世界は一家・人類みな兄弟」ということだ。 see⇒**logos**) / **ecological** (「生態学の・環境にやさしい」・いわゆる「エコ」である。) / **perioikoi** (「ペリオコイ・周辺の民」・世界史で登場する。詳しくは see⇒**peri**)

### (5) **omnis**・**omne** [オムニス・オムネ] <羅> = all 「すべて」

**omnibus** (「乗り合いバス」・この「オムニ」も覚えておくと面白い単語だ。**omnis** の「複数・奪格 (前置詞を飲み込んだ目的格)」がこの **omnibus** [オムニバス] だ。英語にすれば with all 「皆さんと一緒に・・・」だが、それが「みんな一緒に乗る車 (バス)」の意味に使われるようになった。さらに「オムニ」が取れて「バス」が残ったというわけだ。「オムニバス映画」もこの「オムニバス」だ。複数の短編一つの映画にまとめたものだ。タモリの「世にも奇妙な物語」の劇場版と考えていいだろう。) / **omnipresent** (「偏在する」・神はあらゆる場所に同時に**存在<present>**できる。[オムニ・プレズントウ]・present については see⇒**pre / est**) / **omnipotent** (「全能の」[オムニ・ポウエントウ]・神は何でもできる<potential>。) / **omniscient** (「全知の」・神様は何でも知っている。 see⇒**scio** = know [オムニ・スキエントウ]) / **omnivore** (「雑食の」[オムニボー]・直訳すれば「すべて食べる」とでもなるか・・・。 see⇒**voro** = eat eagerly 「がつつ食う」) / **Bellum omnium contra omnes** ([ベッラム・オムニウム・コントラ・オムネース] 「万人の万人に対する<contra>戦い<bellum>」・「トマス・ホプス」の「リヴァイアサン」の名文句だ。「世界史」か「倫社」の時間にやったはず。「この世は弱肉強食だ。だから人民を守るために国家が必要だ・・・」というのが彼の論旨だ。**bellum / contra** については see⇒**bellum / contra** 尚この「リヴァイアサン」だが、もともとは旧約聖書に登場する「海の怪獣」だ。これを「国家」に例えている。一方これでは区別がつかなくなってしまうので、旧約に登場する怪獣は「レヴィアタン」と記述する。「海の怪獣」に対して旧約聖書の「ヨブ記」には「陸の怪獣」も登場する。「ベヘモス (ベヒモス)」だ。神はこれを「見よ！これは私の作った最高傑作だ・・・」と預言者「ヨブ」に自慢するのだ。「巨大な獣」とあるから象か？カバか？・・・と思いきや、「レバノン杉のような尾を持つ・・・」とある。つまり象でもカバでもない。「では巨大なワニか？」と思えばさにあらず。「草を食 (は) む・・・」とあるのだ。